

厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業

計画相談支援等におけるモニタリング実施標準

期間の改定に伴う効果検証についての研究

令和 2 年度総合研究報告書

研究代表者 石山 麗子

令和 3 (2021) 年 3 月

令和2年度厚生労働科学研究費補助金
障害者政策総合研究事業 総合研究報告書

計画相談支援等におけるモニタリング実施標準期間の改定に伴う
効果検証についての研究

研究代表者 石山 麗子 (国際医療福祉大学大学院 教授)
共同研究者 田村 和宏 (立命館大学 教授)
曾根 直樹 (日本社会事業大学 准教授)
高木 憲司 (和洋女子大学 准教授)
酒井 恵美子 (国際医療福祉大学大学院 助教) ※2020年度
坂田 佳美 (国際医療福祉大学大学院 助教) ※2019年度

研究要旨：

モニタリング実施標準期間の改定によるモニタリング実施頻度の高まりによる効果を検証し、次期報酬改定の参考データとして、計画相談支援の質の向上に資する重点的にモニタリングを行う例及び、モニタリング実施項目の提案を行うことである。本研究は1年目の研究結果を踏まえ、2年目に仮説と目的を変更した。当初は決められた期間を短縮化してモニタリング実施することが計画相談支援の質の向上に資するとの仮説であったため、標準的に行うモニタリングの実施頻度の提案を行うことを目的とした。しかし、2019年度の質的研究では、実施頻度の高まりが利用者との信頼関係の構築、サービス事業所等連携先との連携強化、ひいては利用者や連携先から求められて「随時モニタリング」へと繋がっている実態が浮彫りになった。ゆえに本研究の仮説と目的を上記のとおり変更した。

2019年度の研究は、研究1において、計画相談支援等（ケアマネジメント）の質に関する文献レビュー、研究2では本研究の基盤となる計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価指標の生成（暫定版）を目的にフォーカス・グループ・インタビューを実施し、研究3では、報酬改定後のモニタリング実践の実態把握を目的とした半構造化インタビューを3職種（相談支援専門員、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者）16人に対して実施した。

2020年度の研究は、重点的に行うモニタリング例、実施すべきモニタリング項目の提案を行うために、研究1.では質問紙票による横断的研究で、全国3,330か所の計画相談支援事業所を系統抽出法にて抽出し、郵送法により、1,111カ所、相談支援専門員2,212人、利用者情報票4,927から回答を得た（回収率33.4%）。研究2.は研究1の結果、2019年度研究の質的研究の結果と、委員会の意見を踏まえ、相談支援専門員が重点的にモニタリングを行う例を作成した。研究3は、研究1,研究2.の結果と委員会の意見を踏まえ、相談支援専門員が実施すべきモニタリング項目を整理した。

2019年度研究の結果は、研究2の計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価指標（暫定版）として生成されたコアカテゴリーは「計画相談支援の基盤を成すもの」（7項目）、「一連の過程を通じた支援」（4項目）、「質の指標と関連事項」（7項目）、研究3の半構造化インタビューでは、利用者、事業所との信頼関係の構築を礎にした計画相談支援は、従前の事後報告の受領から将来予測に基づく予防的関与を行っていること、随時モニタリングのほか、必要に迫られ支給決定対象外で行う随時モニタリングの実態が明らかになった。サービス事業所からみた相談支援専門員が行う質の高いモニタリングとは、利用者の個別性と状況に応じた柔軟かつ機動的な対応であり、これを求めている。

研究4ではこれらの結果を踏まえ、質問紙票（①事業所票、②相談支援専門員票、③利用者情報票）を作成した。

2020年度研究の研究1の結果（速報）は、2021（令和3）年度報酬改定の議論の参考に資するよう、2020年10月5日に、厚生労働省に提出した。2018年、2019年のモニタリング実施回数、自治体が支給決定した回数、理想だと思う回数は、いずれも有意に増回した。報酬改定の影響として「そう思う」と回答した上位項目には「本人が相談支援専門員の顔を覚えてくれた」、「親近感を持ってもらえるようになった」があり、利用者への関わり期間は1～3年（5割）であることから、計画相談支援の作成の礎である利用者の相談支援専門員の役割理解、信頼構築の機能が果たされていた。その他、サービスの評価も行われていた。モニタリングには、利用者が求める、連携先が求める、相談支援専門員が必要だと判断する3種類があった。また、年齢別の効果の相違もあったため今後の検討の一助となる。相談支援専門員は計画作成で社会資源に「つなぐ」、モニタリングで「深める」機能を果たしていた。そこでは利用者や連携先と高い連絡調整能力が問われ、同時にその能力を期待される。研究2では「重点的にモニタリングを行う例」に【モニタリング頻度増が必要な利用者】、【社会生活不適應】、【生活環境要因】、【家庭環境要因】、【パーソナリティの傾向】、【介護保険への意向】、【学校/保育所との連携】が、研究3では、実施すべきモニタリング項目に【意思決定支援】を含めた6つの領域が示された。

計画相談支援における相談支援専門員のモニタリングには、2018（平成30）年報酬改定の定期的、標準的に行うものと、利用者や連携先の求めに応じて重点的に行うモニタリングがあり、利用者や連携先は、それを求めていることがわかった。計画相談支援におけるモニタリングの質の向上には、両方のモニタリングに対応することと、高度な連絡調整力の必要性が示唆された。

【2019 年度研究】

研究目的

(1) 背景

ケアマネジメントは、ソーシャルワークの一つとして、1970年代から使われてきた技法である。ケアマネジメントが注目されることになった一例に、アメリカにおける精神障害者の「脱施設課」がある。施設の中では個人が必要な医療、食事、住居、整容などのケアがトータルに提供されるが、施設を出て地域での生活を始めると、それらのケアを手配し、適切に提供されるようにする必要があった。そこで、地域での自立生活を支援するために、複雑なサービスの調整

を継続的に行う必要性が高まり、ケアマネジメントが活用されることとなった。

日本においては、2000（平成12）年に施行された介護保険制度のもと、要介護状態にある高齢者の在宅生活を支援するために、介護サービスの調整及び給付管理の方法としてケアマネジメントが導入された。

そして、障害者の地域生活への支援についても、サービス提供事業者を利用者自らが選択できる障害者支援費制度の導入にあたり、2002（平成14）年に厚生労働省により示された障害者ケアガイドラインにおいて、障害当事者主体のケアマネジメントの必要性が明確にされた。その後2006（平成18）年に施行した障害者自立支援法において、障害者への相談支援事業は法律に規定され、サービス利用計画作成費という個別給付によるケアマネジメントの提供が制度化された。サービス利用計画作成費は、障害福祉サービスを利用する者の中で特に支援が必要な状況にある限られたものを対象としていたため、希望するすべての者へケアマネジメントを提供するために、2010（平成22）年の障害者自立支援法の改正

により計画相談支援及び障害児相談支援（以下「計画相談支援等」という。）が創設され、2015（平成27）年4月からすべての障害福祉サービス利用者へ適用されることとなった。それ以降、各市町村や計画相談支援等を担う事業者の努力により、2019（平成31）年3月までには計画相談支援等はケアマネジメントを希望するほぼ全ての障害者等に提供される状況となった。

各市町村において計画相談支援等の体制整備への取組が進む中、2016（平成28）年3月から7月にかけて、厚生労働省において「相談支援の質の向上に向けた検討会」が実施された。この検討会では、障害者への相談支援の質を向上させるために、相談支援専門員の資質向上と相談支援体制の整備の方向性について議論され、その内容がとりまとめられた。とりまとめにおいて、計画相談支援等（ケアマネジメント）の質を高める上で、利用者との信頼関係を醸成し、新たなニーズや状況の変化に応じたニーズを見出すためには、モニタリングが継続的かつ定期的実施されることが重要であることが示された。

本来、ケアマネジメントにおけるモニタリングは、利用者の状況に応じてケアマネジメントを実施する者による必要に応じた判断、もしくは利用者の求めにより実施されるものである。介護保険制度による居宅介護支援においては、要介護高齢者の体調の変化の起こりやすさを考慮して、モニタリング頻度は一律で、少なくとも1月に1回実施することと運営基準にて示されている。一方で計画相談支援等においては、利用している障害福祉サービス種別や支援の必要度によって規則により定められたモニタリング実施頻度の標準期間を勘案し、市町村により個別の利用者に応じたモニタリング頻度が決められる仕組みと

なっている。

計画相談支援等においてモニタリングの重要性は以前から指摘されており、平成 27 年 3 月に開催された障害保健福祉主幹課長会議資料においては、きめ細かいモニタリングを実施する対象例が示されたが、その後も多くの市町村はモニタリング実施標準期間を客観的指標として、それに準じた頻度設定としていた。そのため、計画相談支援等におけるモニタリングの平均は年に 2 回程度と低調であり、利用者との関係性の醸成、アセスメントの深化による適切なニーズの把握と支援の調整等、ケアマネジメントに期待される効果が十分に発揮されていない状況にあった。モニタリングは「継続的アセスメント」と称され、計画相談支援の全過程（ケアマネジメント・プロセス）に影響を与える。なぜならそれは提供された障害福祉サービス等の効果の検証、心身状態及び生活の質の悪化防止等予防的観点、新たな課題の出現の発見・ニーズ分析等を行うが、利用者や家族との信頼関係に基づく面接を基盤として継続的な情報収集・分析を行うのである。適切なモニタリングは 2 回目以降に作成されるサービス等計画の精度を一層高め、適切なサービスは利用者の自立支援・生活の質の向上に資するものとなり、結果として制度が本来目指す適切な給付に繋がる。一方でモニタリングが不適切であれば計画相談支援全体の質は低下する。

こうした議論と状況を受けて、平成 30 年度障害福祉サービス等報酬改定（以下、「報酬改定」という）において、計画相談支援等についてもさまざまな改定が行われた。改定事項は多岐にわたるが、市町村が利用者それぞれに対するモニタリング期間の設定時に勘案するモニタリング実施標準期間が改定され、一部のサービス利用者のモニタリング頻度が高められた。一部のサービスとは、利用頻度や

日時等が変更しやすいホームヘルプなどのサービス、期間を限って一般就労や一人暮らしへの移行に取り組む就労移行支援、生活訓練、地域移行の促進が期待される施設入所支援等である。

今般の報酬改定では計画相談支援におけるモニタリング機能の重要性を鑑み、計画相談支援の質の向上に資するモニタリング標準実施期間の見直しがなされたものといえる。

計画相談支援等は障害福祉サービス等が効果的にまた適正に利用されるための中核的役割を担っており、今後更なる計画相談支援等の質の向上が求められている。

（2）目的

本研究は計画相談支援におけるモニタリング実施標準期間の改定に伴う効果を検証し、次期報酬改定に向けた見直しの検討を行う際のエビデンスの蓄積を行うことを 2 年の研究期間における研究全体の目的としている。

1 年目である 2019 年度の研究の目的は、①研究題目中の計画相談支援におけるモニタリングの“効果”を検証するにあたり、その前提として不可欠な計画相談支援の質の評価指標を生成すること、その整理をベースとしながら、②モニタリング実施状況の実態を明らかにし効果や課題を見出すこと、③①及び②から得られた知見をもとに、研究 2 年目である 2020 年度に実施予定の量的研究（全国の事業所に対する質問紙による横断研究）の質問紙票を作成することである。

B. 研究の方法

1. 2019 年度の研究のデザイン

構成は下記の研究 1 から研究 5 とする。研究は研究番号の若い研究で得られた知見を活かし、次の研究に進む段階的な内容であり、

複数の研究者が同時並行に進めることができないため、分担は行わず一括研究として行う。

研究 1. 先行文献レビュー
研究 2. 計画相談支援等(ケアマネジメント)の質の評価指標・項目の生成
研究 3. モニタリングの実態調査
研究 4. 2020 年度研究 モニタリング実施の実態と影響に関する質問紙票作成

(1) 研究の厳密性の検討のための体制

本研究は、各団体の代表から成る委員会を設置し、研究期間中3回開催（その他メールでの確認等を含む）し、年齢階級や多岐にわたる障害種別におけるモニタリングに関する効果を適切に検証するよう、複眼的に意見集約、研究行程を確認する体制をとった。要すれば質的研究において担保することが容易ではない一貫性、研究結果の歪みを防止するための確証性の担保である。具体的には、研究協力者の推薦要件、分析方法、研究の時期、インタビューガイドの妥当性等の研究計画に関することのほか、調査実施後の研究の進捗・解釈・分析内容等の確認を委員会において行い、委員、研究者を含むメンバーにおいて実施した。

B1. 研究 1. 先行研究レビュー

(1) 研究の考え方

本研究における研究 1. 文献レビューの視点は、研究 2 から研究 4 の研究全体に関する先行研究レビューとして、本研究のテーマにかかわる理論的文献、実証的な先行研究という観点を意識した。

また特に留意したことは、研究 2 は、研究 3 以降の土台を形成する概念となることから、研究 2 の研究を行う前段階において適切に過去の文献を確認することである。すなわち本研究は、研究 2 の計画相談支援等の質の評価指標・項目（暫定版）の生成があつてこそ、研究 3 の半構造化面接、研究 4 の 2020 年度の質問紙票によるモニタリングの実施実態及び影響の調査に一貫性が保たれる研究の構造であることを認識し、文献レビューを行う必要がある。

(2) 文献レビューの期間・方法

文献レビューの期間は、2019 年 6 月 1 日から 6 月 14 日、実施者は研究代表者及び共同研究者において行い、検索結果を共有した。検索方法は、次の複数の方法を組み合わせた。

一つは、電子ジャーナルを使用した文献レビューである。CiNii Articles によるキーワード検索で、キーワードは、モニタリング、計画相談支援、ケアマネジメントと質、指標、専門性、技術、効果の語についてそれぞれ AND 検索である。

二つ目は、行政の助成事業や研究機関が行う調査結果の報告書である。

三つめは、本研究が次期障害福祉サービス等報酬改定に向けたエビデンスの蓄積を目的としていることから、厚生労働省の社会保障審議会等、政府の公表会議の資料も対象とした。

四つめに関連する著書も対象とした。

(3) 倫理的配慮

検索対象の文献は既に公表されたものであることから、倫理審査申請は不要と判断した。

が、研究実施の過程においては、次の配慮が必要であると判断した。

ダウンロードの方法や、本研究に文献の一部を引用する際には、検索サイトの規定に抵触しないこと、また引用元を明示し、直接の引用文は最小限とすること引用箇所と引用文献の関連を明示すること、である、

B2. 研究2. 計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価指標・項目の生成

（1）研究方法の選択、研究協力者の選択基準及

研究2では、計画相談支援等の質（ケアマネジメントの質）の評価指標となり得る項目を質的記述的研究法によって生成した。先行研究から障害福祉領域における計画相談支援の質の評価指標に関連する原著論文は見当たらなかった。加えて厚生労働省の事業の報告書、参考となる著書は存在したものの、計画相談支援等（ケアマネジメント）の質そのものについて研究された先行文献は確認できなかった。これらを踏まえ、計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価指標となり得る項目の暫定的な生成にむけた探索的な研究とする。

加えて研究2を行うにあたって留意すべきことは、対象が児童から成人・高齢、また多岐にわたる障害種別に配慮した計画相談支援の質の評価指標を生成するためには、幅広い経験や知見が求められることである。

そこで質的記述的研究法のデータ産出方法としてフォーカス・グループ・インタビュー（以下、「FGI」という）を選択し、調査協力者の数は、FGIにおいて適切とされる人数の範囲で8名とした（当日1名欠席、最終7

名）。委員の選定の基準は、本研究に設置した委員会の各団体の推薦により、推薦の目安を設けた。計画相談支援等（ケアマネジメント）の質は、対象像に左右されることも想定されることにも考慮した。対象者の年齢の視点では児童から成人・高齢、障害種別の観点から多様な障害に関する知見、実践経験と職場での管理経験や地域や組織の活動を積極的に行っている者、あるいはし制度・政策、条例制定、指定事務、支給決定事務等政の立場から知見を有する者とした。行政職員を除く実践経験をベースとした研究協力者の経験年数は15年以上とした^{研2-1)}（表2-1）。

表2-1. 研究協力者の属性

研究協力者 A： 50代，男性．高齢領域（18年）障害領域2年．勤務先は，関東にあるリハビリテーション施設．保有資格無し．
研究協力者 B： 40代，男性，障害領域（19年），勤務先は近畿圏の県庁．保有資格は主任相談支援専門員，社会福祉士，介護福祉士．
研究協力者 C： 50代，男性，児童福祉領域（29年），勤務先は関東の児童発達支援センター．保有資格は公認心理師．
研究協力者 D： 59代，男性，障害領域（26年），勤務先は東海圏の基幹型相談支援センター，保有資格は社会福祉士．
研究協力者 E： 40代，男性，障害領域（28年），勤務先は関東圏の障害者支援施設，保有資格は社会福祉士，相談支援専門員．
研究協力者 A： 50代男性，高齢・障害領域（22年），所属先は職能団体，保有資格は主任介護支援専門員．

研究協力者 G :

40代, 男性, 関東圏に所在する市町村の障害を所管する部署に勤務(4年), 保有資格は社会福祉士.

インタビュー実施は, 研究代表者が行い, 共同研究者は FGI 実施時に同席し, 確認や研究協力者の意見を促す観点からの発言も行った. 研究者の属性は次のとおりである(表 2-2).

表 2-2. 研究者の属性概要

インタビューを実施した研究者: 研 A 50代, 女性. 障害領域(10年), 高齢領域(15年), 行政(2年), 教育/研究職(2年), 関東圏に所在する大学院に勤務. 博士(医療福祉学), 保有資格は社会福祉士, 主任介護支援専門員), 研究協力者との面識について, A, B, Fとはあるが, それ以外はインタビュー当日が初対面.
共同研究者: 研 B 50代, 男性, 障害領域. 研究/教育職
共同研究者: 研 C: 50代, 男性, 障害領域. 教育/研究職
共同研究者: 研 D 50代, 男性, 障害領域. 教育/研究職
共同研究者: 研 E: 30代, 女性, 高齢領域, 教育/研究職

(2) インタビューガイド

インタビューガイドは, 次のとおりである.

○計画相談支援(障害者のケアマネジメント)の質とは何だと思いませんか.

○これまでの現場経験で, 利用者が喜びや達成感を感じたエピソードを教えてください.

(3) 研究 2 を開始するにあたって事前に行った関係者間の共通認識

研究 2 を開始するにあたり, 本研究全体における研究 2 の位置づけについて, 研究協力者, 研究者, 委員会の委員と共通認識をもった.

計画相談支援等の質の評価指標となる項目を生成することは, 本研究全体を進めるにあたっての前提及び共通認識をつくることである. 計画相談支援等の質の評価指標・項目を生成しないまま次の研究に進むことはできない. 一方で先行研究のリファレンスと研究 2 のみをもって計画相談支援の質の指標となる項目を確定することは拙速であり, 更なる実証研究が必要である. そこで研究 2 においては, 限られた時間のなかで可能な限り計画相談支援の質の評価指標となる項目の生成を試みることを目指す必要があると考え, 研究 2 において得られた成果物, 計画相談支援等(ケアマネジメント)等の質の指標の項目は, 一般化できるものではなく. 本研究ないにおける暫定的もの, 「計画相談支援等(ケアマネジメント)等の質の指標となり得る項目」の位置づけにとどめることとした(以下「計画相談支援(ケアマネジメント)等の質の評価指標・項目(暫定版)」という).

(6) 実施時期・場所

2019年9月2日(月)

19時30分~20時30分(全60分)

場所は研究者が所属する都内の大学校内で, インタビューに集中, 情報が外部にもれないよう会議室にて実施した.

(7) 分析の方法

逐語録はすべての研究協力者の同意を得て、ICレコーダーにて録音し、逐語録を作成した。産出したFGIのデータは解釈主義に依拠し、分析を意識せず繰り返し逐語録を読み全体像を把握した。

FIGは、計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価指標・項目の生成（暫定版）を目的としている。計画相談支援等相談領域における相談に関する整理を行いながら、FGIのデータは、障害福祉サービスの相談機能全般にわたり語られていることから、一次分析において全体的な分析、二次分析において計画相談支援の質の評価指標・項目（暫定版）を抽出していく。

分析は、データより意味のある新たな知見を抽出することから、カテゴリー分析とした。一文ずつ、または文脈のまとまりごとに区切り、セグメントに対して研究者の洞察を加えつつ、コードを割りあてた。カテゴリー形成の段階では、抽象度を高め、現象の類似点と相違点に関する比較及び各特性をまとめた。分析は、テキストの読み込み、脱文脈化、再文脈化の過程を繰り返して行った。これらの過程を繰り返した。一次分析は、計画相談支援にまつわる相談体制や、その相違等を整理しながら質に関連するコアカテゴリーを浮彫りにしていく。二次分析は、一次分析のうち関連するコアカテゴリーに関連するカテゴリーを抜き出し、さらに質に関するコアカテゴリーから質の指標の生成を目的に抽象度を高め、質の指標の構成要素となり得る項目が出るところまで行った。

分析にあたっては確証性を担保する観点から、研究協力者へのメンバーチェック、委員会の委員及び研究共同者に対し、逐語録の段階、予備的解釈の段階、最終報告の段階において確認を行った。

(8) 倫理的配慮

国際医療福祉大学倫理審査委員会に倫理審査を申請し、承認を得た（承認日2019年8月8日、承認番号：19-Ig-86）。データの取得及び管理については、倫理審査申請書の申請内容に基づき匿名化し厳重に保管する等の対応を行った。

B3. 研究3. 相談支援専門員、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者からみたモニタリング実施の実態

(1) 研究法の検討

研究2より得られた知見をもとに研究3を行った。

改定後段階的に施行されたモニタリング事項は、施行から間もないことから、量的に実態が反映されるまでには一定の期間を要すると考え、まずは実践者に対して直接インタビューすることにより実態を把握することとした。予備的調査の要素は一部にあるが、むしろ量的に把握できないモニタリングの実態、モニタリングについての考え、利点、葛藤についての新しい洞察を得ることを目的に行う。

(2) 研究協力者の選定基準

またモニタリングを多角的に見る観点から、計画相談支援のモニタリングを主として行う相談支援専門員（8名）に加え、サービス事業所の立場からも確認する。インタビューの対象となる職種は、相談支援専門員のモニタリングの実態の変化についてはサービス管理責任者（6名）及び児童発達支援管理責任者（2名）とし、半構造化インタビューの協力を得た。研究協力者の選定にあたっては、国際医療福祉大学倫理審査委員会の助言

をうけ公正なインタビュー協力者の構成となるよう、次の要件を設定し各団体からの推薦を受けた。①現に2018年度改定に関連する利用者の担当でありモニタリングを実施している（相談支援専門員と連携しながら行っている）こと、②個別の支援のみならず地域活動も行っていること、③①及び②の活動状況を各団体が確認し推薦できる者であることである。インタビュー協力者は一覧のとおりである（表3-1）。

表3-1. 研究協力者の属性

逐語録記号	性別	年齢	職種	経験年	主な基礎資格
1	男	60代	相談支援専門員	13	社会福祉主事
2	男	50代	相談支援専門員	14	介護福祉士
3	男	30代	相談支援専門員	6	精神保健福祉士
4	男	40代	相談支援専門員	10	社会福祉士
5	女	40代	相談支援専門員	11	社会福祉士
6	男	40代	相談支援専門員	14	社会福祉士
7	男	30代	相談支援専門員	7	介護福祉士
8	男	40代	相談支援専門員	3	精神保健福祉士
平均				10	
1	女	50代	サービス管理責任者	19	介護福祉士
2	女	40代	サービス管理責任者	2	介護福祉士
3	女	50代	サービス提供責任者	7	介護福祉士
4	男	-	サービス管理責任者	-	-
5	女	30代	サービス管理責任者	7	保育士
6	男	30代	サービス管理責任者	7	社会福祉士
1	男	40代	児童発達支援管理者	6	介護支援専門員
2	女	30代	児童発達支援管理者	7	社会福祉士

(3) 研究実施者の属性概要

インタビューを実施した研究者は下記のとおりであった（表3-2）。

表3-2. 研究者一覧

<p>インタビューを実施した研究者：研A 50代，女性，障害領域（10年），高齢領域（15年），行政（2年），教育/研究職（2年），関東圏に所在する大学院に勤務。博士（医療福祉学），保有資格は社会福祉士，主任介護支援専門員），研究協力者との面識にない。</p>
<p>共同研究者：研B 50代，男性，障害領域 教育/研究職</p>
<p>共同研究者：研C： 50代，男性，障害領域。教育/研究職</p>

共同研究者：研D

50代，男性，障害領域。教育/研究職

委員：F

40代，男性，障害領域，行政職

(4) インタビューガイド

■相談支援専門員向け：

- ① 計画相談支援において大事にしていることはなんですか。
- ② あなたが考える質の高いモニタリングとは何ですか。
- ③ モニタリング実施標準期間の改定やサービス提供時モニタリング加算で何か変わりましたか。
- ④ モニタリングにおけるサービス事業所（相談支援専門員）との関係や連携に変化はありましたか。

■サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者向け：

- ① あなたが利用者の支援を行う際に大事にしていることはなんですか。
- ② あなたが考える質の高いモニタリングとは何ですか。
- ③ モニタリング実施標準期間の改定やサービス提供時モニタリング加算で相談支援専門員の動きに何か変化はありましたか。
- ④ モニタリングの改定後，相談支援専門員との関係や連携に変化はありましたか。
- ⑤ モニタリング実施頻度が改定されたことで，サビ管・児発管として事業所内での仕事の仕方に変化はありましたか。

(5) 分析の方法

本研究は解釈主義パラダイムに依拠し，インタビューで産出されたデータから逐語録を

作成し、相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者に分けて行った。語りの文脈のまとまりごとに切片化、解釈、カテゴリー、上位カテゴリーを生成した。

分析に際しては、最初から分析を意識するのではなく、逐語録を読んで全体像を把握した。カテゴリー化になじまない、しかし本研究の目的にある次期報酬改定に役立つ語りを抜きだし、要約を付し表にして結果に記した。

逐語録、予備解釈、最終報告の各時点においてメンバーチェックを行うことで厳密性、確実性の担保を図った。

(6) 倫理的配慮

国際医療福祉大学倫理審査委員会に倫理審査を申請し、承認を得た（承認日：2019年11月13日、承認番号：19-Ig-107）。データの取得及び管理については、倫理審査申請書の申請内容に基づき匿名化し厳重に保管する等の対応を行った。

B4. 研究4. 2020年度研究 質問紙票作成

(1) 研究の考え方と方法の概略

本研究は2019年度～2年間のうちにケースミックスにおいて、相談支援専門員のモニタリング実施標準期間の改定による効果を検証するものであり、その結果は、次期報酬改定のエビデンスの蓄積という目的がある。

2020年度は報酬改定の議論の年度であり、速報は2020年9月上旬に厚生労働省に報告する行程であることから、2020年4月には質問紙票による全国の相談支援事業所を対象とした横断調査を実施する必要がある。そこで2019年度研究においては、2019年度の研

究から得られた知見をもとに、質問紙票を作成した。質問紙票の確定を含む2020年度研究全般に関する確定を行った。

(2) 倫理的配慮

2020年度研究及び質問紙票に関し、国際医療福祉大学倫理審査委員会に倫理審査を申請し、承認を得た（承認日：2020年3月9日、承認番号：19-Ig-21）。

C. 研究結果

C1. 研究結果 研究1. 先行研究レビュー

先行研究の結果は、次のとおりである

(1) 電子ジャーナルCiNii Articleによるキーワード検索：

電子ジャーナルCiNii Articlesを本報告書B1に示すキーワードでAND検索したところ、障害福祉領域における原著論文で本研究に直接的に関連するものは見当たらなかった。

検索期間を障害福祉サービスにおいてケアプラン策定が導入される前の年次まで検索期間を遡り、かつ検索キーワードを「ケアマネジメント」に絞りこむことで文献はヒットしたが、高齢領域におけるもの、かつ介護保険制度施行当初の時期のものであり、現在に転用できるものではなかった。

(2) 行政の助成事業や研究機関が行う調査結果の報告書：

本研究に関連するものとして、二つの報告書を示す。

1) 日本総合研究所. 平成24年度老人保健推進費等補助金老人保健健康増進等事業.

『ケアマネジメントの質的評価のあり方に関

する調査研究事業』報告書^{研1-1)}について：

本報告書には、ケアマネジメントの質的評価の在り方について、二つの観点からのフレームワークが整理されていた。

一つめのフレームワークは、38頁に示されており、ケアマネジメント実践の目的を、①法の理念・目的、②ケアマネジメントの実践者である介護支援専門員の行動指針にそった行動とし、ドナベディアンモデルにそって3つのスコープに分類されていた。ストラクチャー（構造）、プロセス（過程）、アウトカム（結果）として強調されていたことは次のとおりある。（表. 1-1）

表. 1-1. ケアマネジメントの質的評価を考えるための全体フレームワーク

ストラクチャー（構造）【介護支援専門員】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題分析・予測力・情報リテラシー ・ 関係構築力 ・ チームコーディネート力 ・ 知識/技術を習得し活用する力 ・ 経験を蓄積し効果的に生かす力 ・ 専門職としての基本的姿勢 ・ 倫理観
プロセス（過程）【介護支援専門員】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談受付 ・ 平成11年厚生省令第38号、第13に定めるアセスメント（課題分析）からモニタリング ・ 記録 ・ 相談支援 ・ 退院時カンファレンス ・ サービス担当者会議 ・ 相談支援（地域包括支援センター） ・ 地域ケア会議（個別事例の検討）
アウトカム（結果）【利用者/家族】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能維持・改善

<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅生活の継続 ・ 利用者の満足度（納得度）の向上 ・ 社会参画/エンパワメント ・ 家族の介護負担軽減（身体的/精神的） ・ QOLの維持・向上 ・ 費用負担の適正化

介護保険制度と障害者総合支援法や障害福祉関連法では理念や目的が異なり、実態像ともに異なるところはあるが、ストラクチャー（構造）及びプロセス（過程）に挙げられている項目は、障害福祉領域の計画相談支援にも共通する。加えてアウトカムも障害福祉サービスにおいても満足度や納得度、社会参画/エンパワメント、QOLの維持・向上等も示されていた。費用負担の適正化は、モニタリングが適切に行われることによって、利用者に適合したサービス調整が可能となることから、モニタリングに関連した項目として捉えた。

同報告書における2つめのフレームワークは、介護支援専門員の資質・能力の視点を踏まえたケアマネジメント・プロセスの評価である。その評価の多くの項目は、ストラクチャー（構造）とプロセス（過程）の項目をクロスにした表で示され、評価可能な1枚のシートとなっていた）。これらはモニタリングに特化したものではなく、利用者、所属事業所、介護支援専門員の3者にとってその活動の意義を問うものであり、モニタリングの影響に特化したものではない。

2) 日本介護支援専門員協会. 平成30年度厚生労働省老人保健健康増進等事業、ケアマネジメントの公正中立性を確保するための取組や質に関する指標のあり方に関する調査研究事業報告書^{研1-2)}：

①本報告書の位置づけ

この事業は平成29年12月の社会保障審議会介護給付費分科会第156回、「平成30年度介護報酬改定に関する審議報告答申」に記載されたケアマネジメントの公正中立性及び質の指標に関する言及をもとに行われ、本報告書はその事業のなかで取りまとめられたものである。その後2019年度も継続し類似のテーマによる議論は継続された。

本報告書では、本邦のケアマネジメントについて議論するにあたり、まずはケアマネジメントやケースマネジメントを実施する他国の現状を把握したものである。イギリス、オーストラリア、オランダ、ドイツの4か国にアメリカを参考国として加え、政策や論文などから制度や取組の内容を収集し、指標の有無、観点、実施方法等を分析し、効果が期待できる取組等について、我が国の制度や取組、国民性との比較検証を行い、ケアマネジメントの公正中立の確保をするための取組とケアマネジメントの質の指標の導入に向けた課題や方法を検討している。

②国際比較から得られた知見

本報告書における国際比較から得られた総合的な知見は次のとおりである（表研究1-2）。

表1-2. 国際比較により総合的に得られた知見

- ・いずれの国においてもケアマネジメントを専門に行い、それによって報酬を得る職種は存在しなかった。
- ・上記から直接的に比較検討は難しい。
- ・一方でケアマネジメント・プロセスごとの実施の実態を比較することは一定程度可能。
- ・本邦ではサービス利用に関しケアマネジメントの介入によって利用者に対しサービスの特性や料金等文書で丁寧に説明している

のに対し、諸外国では利用するサービスの選択は利用者によって行われていた。

- ・諸外国では、利用者が自ら能動的に専門職に相談を行っていた。
- ・サービスの質は、市場原理に委ねられていた。
- ・アセスメントやモニタリングはWHOをはじめ海外の先行研究の多くにおいてケアマネジメントの有用性について実証されていた。
- ・ケアマネジメントの質と提供されるサービスの質は一旦評価が必要である。
- ・一方でケアマネジメントは介入如何によりケア全体の質に影響与えていくこと
- ・WHOをはじめ海外の先行研究の多くにおいてケアマネジメントの有用性について実証されており、本邦において質の検討を行うことは今後ますます重要となる。

③サービスの質を担保するための工夫～オランダの取組から～

ケアマネジメントを専門で、かつ有給で実践する専門職はオランダにはいなかった。そのような中でサービスの質の確保のための行われていた工夫を複眼的に確認していく。

i) 2つの公的保険制度

オランダにおいて国民が介護を受ける際の制度には、短期の医療費をカバーする強制加入の公的医療保険（以下「ZVW」という）と、長期の介護に対応する、強制加入の公的介護保険（以下「WLZ」という）がある。

ii) ZVWの査定におけるアセスメント領域

ZVWのサービス、例えば訪問看護や身体介護を希望する場合には、サービスプロバイダである地域看護師が査定し、ケアプラン作成を行う。オランダでは1997年に介護職と看護職の資格制度が一元化された。介護職から看護職へのキャリア形成を可能とするレベル別の資格制度が創設された。レベル1. 2. 3

は介護職，レベル4．5は看護職に該当する。

地域看護師によって行うケアニーズの査定，アセスメントは4領域から構成されていた（表1-3）。

表1-3.ZVWにおけるアセスメント領域

■領域1：身体的ウェルビーイングと健康 移動/身体ケア（着脱，シャワー，口腔ケア，ヘアケア，爪ケア），服薬，失禁，栄養，皮膚（褥瘡），痛み，睡眠
■領域2：住民と生活環境 住宅の衛生，改良，掃除
■領域3：社会参加（Social Contact） アクティビティ，日々の生活，外出，人的ネットワーク，自己効力感
■領域4：精神面の状況（幸福） うつ，恐怖感，混乱，せん妄，行動障害，自己の病気への対応

なお，2018年以降は査定にあたり，研修受講と資格取得が必要となった。

④WLZの特性

WLZは長期の介護費用をカバーする共生介入の公的保険である。回復が不可能な障害者や高齢者を対象としていることから，継続的なモニタリングや24時間のケアを必要とする者の利用に限定される。ケアを提供する主な場所は，施設である。

専門職は，医師，看護師，ソーシャルワーカー，理学療法士等地域ごとに多職種チームが形成されている。ケアプランは担当者によって作成されるが，ケアプラン作成は，サービスプロバイダである地域看護師が行っている。

⑤オランダにおけるケアプラン作成の視点

オランダの公的介護保険制度であるWLZにおけるケアプランに記載される事項は法定であり，下記4点の内容を含んで作成される

（表1-4）。これは，生活の質の確保をベースとしたうえで，これらの内容を含むこととされている。

表1-4．オランダにおけるケアプランに含む項目。

<ul style="list-style-type: none">・身体の健全性（安全，医療サービス，健康増進及び保護，身体ケア，飲食・生死の健全性（敬意，支援，自己認識，宗教，習慣）・生活の環境（住まいは安全で（自身の）家のようなべき。・参加（個人の興味，趣味，社交生活を満たす魅力的な日中プログラムに参加可能となるよう，又は社会とのつながりを持ち続けられるようにすべき。

⑥質の担保と予算をコントロールする仕組み
オランダでは，3つの市場で市場原理を機能させ，サービスの質を担保しながら予算をコントロールしている。3つとは，「被保険者」，「サービスプロバイダ」，「保険会社」である。

被保険者は「保険市場」において保険会社を選択する。保険会社は「事業者市場」において効果的・効率的な給付を行うサービスプロバイダとの契約を望む。サービスプロバイダは，利用者と保険会社に選ばれるよう，効果的・効率的な給付を行うように努める。被保険者は「患者市場」においてサービスプロバイダを自由に選択できるが，悪質なサービスプロバイダと契約している保険会社は保険料が高いため，保険会社ごと乗り換える，という構造である。

⑦専門職の自己規制

専門職の団体では，科学研究に基づく結果及び原理研究のエビデンスに基づいて規則を定めている。

また倫理や説明責任の規定を設け、専門職はこの規定に従わない場合、有資格者リストから除外される可能性がある。こうした科学的知見に基づく判断や、倫理に基づく行動等、専門職としての自己規制がおこなわれている。

(3) 厚生労働省の社会保障審議会等、政府の公開会議の資料の検索結果：

厚生労働省「相談支援の質の向上に向けた検討会（平成28年3月～7月）」における取りまとめ^{研1-3)}について：

本とりまとめ（相談支援の質の向上に向けた検討会、第9回。資料2「相談支援の質の向上に向けた検討会における議論の取りまとめ」平成31年3月28日）は、社会保障審議会障害福祉部会において障害者総合支援法施行3年後の見直しに向けて相談支援の取組について体制整備と相談支援の質の向上が必要であるとの指摘を受け、平成28年に全5回行われた委員会の資料である。そのとりまとめ

（たたき台）の中に相談支援専門員の役割に関し言及されていた。その内容は次のとおりである（表1-5）。

表1-5. 相談支援専門員の役割

ミッション
障害児者の自立の促進と障害者総合支援法の理念である共生社会の実現に向けた支援を実施すること。
役割
<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークの担い手としてそのスキル/知識を高め ・インフォーマルサービスを含めた社会資源の改善及び開発 ・地域のつながりや支援者/住民等との関係構築 ・生きがいや希望を見出す等の支援を行うこ

と
将来への期待
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉に関する専門的知見や援助技術の習得のみならず、幅広い見識や判断能力を有すること（例：社会経済や雇用情勢など） ・地域を基盤としたソーシャルワーカーとして活躍すること

当該検討会のとりまとめには、相談支援専門員が業務を遂行するために必要な専門的能力を明らかにした。特にサービス等利用計画の作成に関することについても示されており、内容は次のとおりである（表1-6）

表1-6. 相談支援専門員が業務を遂行するために必要な能力

サービス等利用計画の作成に関すること
<ul style="list-style-type: none"> ・他職種との連携・調整する力 ・チームアプローチのためのネットワーク形成力 ・利用者の主体性を引き出す力が必要

また、相談支援従事者研修制度改定における標準カリキュラム案の内容について、委員会の委員から示された意見のうち、特筆すべきものを抽出した（表1-7）。

表1-7. 検討委員会が示した主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳の理解 ・障害当事者による自己選択/自己決定 ・意思決定の支援における意思形成と意思表示 ・障害者の権利に関する条約の趣旨 ・ソーシャルワークにおけるエンパワメントの重要性 ・ストレングスモデル ・ニーズの引き出し/把握 ・モニタリングの重要性 ・発達過程にある児童期の支援の重要性

- ・コミュニティワーク/地域マネジメント
- ・ソーシャルアクション
- ・面接技法
- ・障害特性を踏まえた対人援助スキル
- ・家族支援の重要性
- ・相談支援の終結とセルフプランへの移行

(4) 関連する著書：

近藤 隆雄「サービス・マネジメント入門
ものづくりから価値づくりへの視点へ」^{研1-4)}

保健医療福祉領域に原点せず、サービスの質について俯瞰して確認する意図、また計画相談支援は、計画書や有形であるが、ケアマネジメントのプロセスにおける相談支援専門員の利用者や他職種への介入、面談、意思決定支援のプロセス等は、サービスとして行うものの無形で共同作業としての特徴があることから本書を示す。

本書において示されたサービスの特性4点「無形性」, 「同時性」, 「顧客との共同生産」, 「経過と結果」を分類し示す(表1-8)。

表1-8. サービスの特性(4点)

無形性
<ul style="list-style-type: none"> ・サービスは活動であり、モノ製品のような物的形状がないため、顧客に見せたり、具体的に触ってもらったりすることができない。ゆえに説明は難しく、特に顧客の具体的なメリットが伝わりにくい。 ・あわせて活動が行われる時間と場所が特定されるため流通させることも、在庫させることもできない。
同時性
<ul style="list-style-type: none"> ・人を対象とするサービスの場合、サービスは生産される場所で同時に消費されている。 ・サービスは失敗しても戻せない

<ul style="list-style-type: none"> ➤サービスの具可逆性 ・サービスは提供者と顧客が共同して生産する。 ・顧客が生産場所にいるため、サービスの生産過程に対する関心度が高い。
顧客との共同生産
<ul style="list-style-type: none"> ・顧客事態がサービス活動に参加し、サービスの一部となっている。 ・顧客のサービスへの参加の度合いや簡便さ(複雑さ)、メリット、体験の楽しさと顧客の相互作用がサービスを設計する上で重要な変数となる。
経過と結果
<ul style="list-style-type: none"> ・顧客はサービスに当然結果を求めるが、サービスの本質は活動であるため過程の積み重ねが結果となる。 ・サービスでは活動過程を顧客は体験することになり、その体験の積み重ねが最終的な結果を導くのである ・サービスにおいては、結果よりも過程を重視するケースが多くみられる。

C2. 結果

計画相談支援等(ケアマネジメント)の質の評価指標・項目の生成

FGI(全60分)は、半構造化とし、インタビューガイドにそって実施した。

会話(全60分・73の会話)の逐語録を起し、文脈のまとまりごとに切片化、コード化、カテゴリー化した。

(1) 一次分析の結果

73のコードから意味のまとまりのあるものを集め、47サブカテゴリー、46のカテゴリ

一、13のコアカテゴリーが生成された（巻末資料1）。

文中での表記は、コアカテゴリーは【】、カテゴリーは『』、サブカテゴリーは[]とした。

また逐語録から直接引用する場合には、「」としUDデジタル教科書体とした。語りを中略する場合の表記は「・・・」とした。会話であるため、主語や目的語等が省略され、

わかりにくい場合には前後の文脈から研究者によって補足し（ ）と表記した。

一次分析から生成されたコアカテゴリーは13であった（表2-3）。

表2-3. 一次分析で生成されたコアカテゴリー

【領域別のケアマネジメントの目的・特徴】
【計画相談支援とケアマネジメントの関連】
【障害福祉領域における相談の構造・役割・機能】
【相談支援の目的】
【計画相談支援の目的】
【計画相談支援の質の評価の視点】
【計画相談支援の質を左右する要素】
【計画相談支援の課題】
【適切なモニタリング頻度を判断する要件】
【継続的ケアマネジメントの機能を発揮できる条件としての個別性に対応したモニタリング実施期間の判断】
【モニタリング回数に影響する自治体のモニタリングの意義・価値理解】
【計画相談支援を行う専門職のジレンマ】
【人を中心としたケアマネジメントの個と社会、今と未来にわたる可能性】

(2) 二次分析の結果

計画相談支援の質の指標となる項目を生成

する目的でから、一次分析において生成されたカテゴリーのうち、計画相談支援等（ケアマネジメント）の質に関連する【計画相談支援の質の評価の視点】、【計画相談支援の質を左右する要素】とそのカテゴリーを抜き出し、そこから要素を抽出した。分析方法は、カテゴリーをさらに抽象度高め、単語レベルか単語の組み合わせに至るまで繰り返した。

二次分析で使用した表記は、抽象化段階に生成されたものは<>、抽象化を経て生成された計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価指標となる項目は<>>、質の評価項目におけるコアカテゴリーは「」とした。

その結果、一次分析から生成された20のカテゴリーから2段階の抽象化のプロセスを経て、18の計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価項目と、質の評価の3つのカテゴリーが生成された（巻末資料2）。

二次分析で生成された計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価指標・項目（暫定版）は次のとおりであった（表2-4）。

表2-4. 計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価指標・項目（暫定版）

	<<計画相談支援等（ケアマネジメント）の質となり得る項目>>
「支援の基盤を成すもの」	<<倫理>>
	<<面接技術>>
	<<関わり方>>
	<<見極める技術>>
	<<信頼関係>>
	<<一連の過程のかかわり>> <<意思表示・決定支援>>
「二連の過程を通じた支援」	<<チームケア>>
	<<意向を反映した計画作成>>
	<<円滑なサービス利用>>
	<<社会資源の創設>>

「質の指標と関連事項」	《プロセス評価》
	《アウトカム評価》
	《評価で問われる再現性》
	《効率・効果の調和》
	《クリムスキング/情報の非対称性》
	《数値化できない感情》
	《利用者の納得度》

C3. 結果. 研究3. 相談支援専門員, サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者からみたモニタリング実施の実態

インタビューより産出されたデータを次の方法で分析し結果を示した,

(1) カテゴリー分析

相談支援専門員(8名), サービス管理責任者(6名)・児童発達支援管理責任者(2名)それぞれを分析した. それぞれの結果の概要版を示し(表3-3. 3-4. 3-5), 全体版は巻末資料4. 5. 6として示す.

(2) 報酬改定に対する提案や参考となる語りを抜き出し, 分類した.

- 1) 児童発達支援管理責任者の, 相談支援専門員に係る今後のモニタリングに関する提案
- 2) 全体の語りを通じ相談支援専門員のモニタリングに係る報酬改定に関する語りを抜き出し, 分類した.

(3) 職種別のカテゴリー間の比較分析

カテゴリー分析の結果

1) 相談支援専門員の結果

コード(99), サブカテゴリー(74), カテゴリー(33)からコアカテゴリー(3)が生成された. コアカテゴリー【利用者の支援で核

としていること】【相談支援専門員からみた質の高いモニタリング】_【相談支援専門員が捉えた改定後の変化】【サービス事業所との関係・連携の変化】であった(表3-3).

表3-3. 相談支援専門員の結果

コアカテゴリー	『カテゴリー』
【利用者の支援で核としていること】	『利用者の希望・意欲・強みの重視』
	『利用者中心の意思決定支援』
	『利用者との関りの継続』
	『面談の重視』
	『サービス等利用計画の内容・立案方法の工夫』
	『チームでの利用者支援(チームケア)』
質の高いモニタリング【相談支援専門員からみた】	『相談支援専門員としての姿勢・スタンス』
	『頻回なモニタリングの実施』
	『利用者のサービス利用に対する目的意識の明確化』
	『チームケアを意識したモニタリングの実施』
【相談支援専門員が捉えた改定後の変化】	『質の高いモニタリング実施のための事業所体制の構築』
	『利用者との信頼関係の深まり』
	『信頼関係の深まりによる利用者の変化』
	『利用者との継続した関係性の維持』
	『利用者の安心感の向上』
	『家族との信頼関係の深まり』
	『家族の負担増』
	『利用者の生活状況のタイムリーな把握と情報量の増加』
	『利用者の平常時/異常時の相違の把握』

	『利用者の変化・課題の早期発見・対応』
	『施設入所者の情報把握の向上』
	『改定を踏まえたモニタリング実施方法の改善』
	『改定による相談支援事業所の収入増』
	『相談支援専門員の業務量・負担感の増加』
	『事務量と収入を考慮した際の採算性の問題』
	『相談支援専門員の人材確保』
【サービス事業所との関係・連携の変化】	『事業所との信頼関係の深まり』
	『相談支援専門員・事業所間の情報共有の充実』
	『過去の状況確認から予防的・未来志向のアプローチを行うモニタリングへの変化』
	『事業所からの提案に基づく計画の変更・計画の充実化』
	『顔の見えるチームケアへの転換』
	『相談支援専門員との連携に対する事業所の温度差』
	『相談支援専門員に対する事業者・行政の依存的態度の出現』

2) サービス管理責任者の結果

表3-4. サービス管理責任者の結果

サービス管理責任者の結果は、コード(47)、サブカテゴリー(36)、カテゴリー(18)からコアカテゴリー(3)が生成された。コアカテゴリーは【利用者への支援の核としていること】、【サビ管からみた質の高い相談支援専門員のモニタリング】の条件、【サビ管が捉えた改定後の相談支援専門員の変化】であった(表3-4)。

表3-4. サービス管理責任者の結果

コアカテゴリー	カテゴリー
【利用者への支援で核としていること】	『障害特性の重視』
	『利用者の目標・希望の重視』
	『利用者の状態像にあった支援』
	『チームでの利用者支援(チームケア)』
【サビ管からみた質の高いモニタリング】の条件	『チームケアを意識したモニタリングの実施』
	『タイミングに配慮したモニタリングの実施』
【サビ管が捉えた改定後の相談支援専門員の変化】	『利用者の相談支援専門員に対する認識の変化』
	『相談支援専門員が有する利用者情報の充実』
	『相談支援専門員と事業所(サビ管)との接触頻度の増加』
	『改定に対する相談支援専門員(相談支援事業所)の取り組みの温度差』
	『相談支援専門員の業務量・負担感の増加』
	『改定による相談支援事業所の収入増』
	『相談支援専門員との信頼関係の深まり』
	『事業所・相談支援専門員間の情報共有の充実』
	『チームケアの充実』

	『サービス提供の充実』
	『事業所内での情報収集・情報共有の充実』
	『利用者・事業所間の個別調整の円滑化』

3) 児童発達支援管理責任者の結果

語りからコード (28個) , サブカテゴリー (27個) , カテゴリー (15個) , コアカテゴリー (6個) が生成された. コアカテゴリーは, 【利用者へ支援で核としていること】 , 【児発管からみた質の高いモニタリング】 , 【改定後の相談支援専門員の変化】 , 【相談支援専門員との関係・連携の変化】 , 【サビ管・児発管の事業所内での仕事の仕方の変化】 , 【相談支援専門員とともに現に行っている工夫】 であった (表3-5) .

表3-5. 児童発達支援管理責任者の結果

【コアカテゴリー】	『カテゴリー』
【利用者への支援で核としていること】	『利用者の目標・希望の重視』
【児発管からみた質の高いモニタリング】	『チームケアを意識したモニタリングの実施』
【改定後の相談支援専門員の変化】	『相談支援専門員が有する情報の充実』
	『改定に対する相談支援専門員(相談支援事業所)の取り組みの温度差』
	『相談支援専門員の業務量・負担感の増加』

	『相談支援事業所での人員確保』
【相談支援専門員との関係・連携の変化】	『相談支援専門員との信頼関係の深まり』
	『事業所・相談支援専門員間の情報共有の充実』
	『チームケアの充実』
【サビ管・児発管の事業所内での仕事の仕方の変化】	『サービス提供の充実』
	『事業所内での情報収集・情報共有の充実』
	『事業所内での情報収集・情報共有の充実』
	『管理者(児発管)としての負担感の増加』
	『事業所での人材確保』
【相談支援専門員とともに現に行っている工夫】	『家庭や学校との連携について』
	『家庭や学校との連携について』
	『柔軟なモニタリング期間の設定について』

(2) 児童発達支援管理責任者の, 相談支援専門員に係る今後のモニタリングに関する提案

児童発達支援管理責任者から相談支援専門員の, あるいは相談支援専門員と連携した今後のモニタリングのあり方やその評価に関する提案の語りがあった. 語りは, 次の①~③の3つに分類された.

① 柔軟なモニタリング期間の設定に関する語りその要約を表にまとめた (表3-6) . 語りは, UDデジタル教科書体N-R (以下, 同

様)の字体で示した。児童の発達に着眼したライフステージや移行期に配慮した柔軟なモニタリングの必要性の提案であった。

表3-6. 柔軟なモニタリング期間の設定に関する提案

要約	語り
児童のライフステージの移行期(卒業等)に応じた柔軟なモニタリング期間の設定	児童はモニタリング期間の改定がなく、1年だが、卒業を迎える年度は3ヵ月ごとにできるなど、ライフステージの移行期に応じた対応ができるが良い。

② モニタリングの質に着目した評価の在り方

児童発達支援管理責任者からモニタリングの質に着目した語りを抜き出した(表3-7)。

表3-7. 児童発達支援管理責任者からみたモニタリングの質に着目した評価のあり方

要約	語り
質のよいモニタリングは好循環を生む	モニタリングの回数だけでなく、「質」で評価してほしい。質のよいモニタリングは好循環を生む。
モニタリングの質に着目した評価の在り方	質の評価は難しいが実績報告等の内容で評価してはどうか?
モニタリングの質に着目した評価の実施主体	評価単位は小さいほうがよい。

③ 家庭や学校との連携について語られた(表3-8)。

表3-8. 家庭や学校との連携

要約	語り
学校側の連携意識の温度差	児童への支援は学校との連携も重要だが、学校側の対応はまちまちで、消極的(受け身)の学校が多い。
相談支援専門員・事業所の連携による家庭(保護者)への介入・支援	発達障害等の支援緊急度が高い児童への支援は家庭との連携が重要(事業所での支援を家庭にどうつなげるか)。 相談支援専門員・自発管が連携を密にとり家庭に介入・支援するようにしている(=モニタリング頻度増)。

(3) 相談支援専門員のモニタリングの分類
相談支援専門員のモニタリングは[定期モニタリングで実施していること]と[支給決定外の随時モニタリングで実施していること]に分類された。特に数値やエピソードで示された語りを抽出した。[定期モニタリングで実施していること]の語りは、相談支援専門員のみであった。[支給決定以外の随時モニタリングで実施していること]は、相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者の三者から語られた。

1) [定期モニタリングで実施していること]の語り(表3-9)。

表3-9. 相談支援専門員の語り [定期モニタリングで実施していること]

ネグレクトの家庭への訪問：6月に1回ではあからさまに嫌がられたが、3月に1回になり家に入れてもらえるようになった。支給決定ということを前面に出して訪問できることがありがたい。

基本に沿って自宅訪問する。本人が抱えられている困りごとを確認する。確認のうえ、目的別で後日関係者を集めるという方法に変更した。目的別に行う訪問は支給決定以外の訪問になることが多い。

事業所からの報告を聞く

何を優先させて計画に入れればいいのか、計画の優先度を確認している。

2) [支給決定以外の随時モニタリングで実施していること]

①相談支援専門員の語り (表3-10)

表3-10. 支給決定以外の随時モニタリングで実施していること。

表3-10. 支給決定以外の随時モニタリングで実施していること

2月に1回の訪問診療に合わせて同席する。医師から本人が安心していられるように同席を求められるのと、日頃の状況を医師に報告するため。

6月に1回では季節の変化を捉えられない。夏は夏用の生活があって、最近の夏は暑い。エアコンを使ってるのか扇風機なのかとか。特に障害特性で感覚のレベルによって確認しなければならぬ。

冬は、インフルエンザの注射したのかを聞きに行く。

年に1回で1年分の話は聞けない。本人も直近1~2月の事しか覚えていない。少なくとも季節に1回は行くようにしている。

②サービス管理責任者の語り (表3-11)
表3-11. 支給決定以外の随時モニタリングで実施していること。サービス管理責任者表3-11. 随時モニタリングで実施していること。

利用者から連絡が来るときは、絶対状態の悪いとき。それに合わせると状態が悪いときがベースになる。普通の状態がわかれば困ったときの状態と比較できるので支給決定にかかわらず訪問する。

事業者からの提案が増えたため、事業所や利用者宅の訪問をする。その状況をみて判断し、担当者会議も招集している。

行政への手続では、行政が当然のごとく「お願いね。」というスタンスなので、障害の申請に限らず行政への申請書物は、利用者宅を訪問し役所に届けている。

③児童発達支援管理責任者の語り

支給決定以外の随時モニタリングで実施していること。児童発達支援管理責任者 (表3-12)

表3-12. 児発管からみた随時モニタリング

<p>(相談支援専門員は) <u>ご家庭だけでなく、学校、各事業所、リハビリの機関まで回って、それぞれのところでしっかり聞き取りをされ、モニタリングされている。</u></p>
<p>(相談支援専門員に事業所に) <u>来所してもらって実際に自分が子どもさんとかかかわっている場面、療育場面を見てもらう。それはすごく大きい。言葉だけでこういう支援をしているんですじゃなくて、わかってくれるので話がしやすい。</u></p>
<p>(相談支援専門員は) <u>会議、モニタリングで(事業所に)来られて・・・現場の職員にも話す機会は増えた。なかった気づきを逆に頂け、他事業所ではこんなことしてるよっていうのを相談員さんを通してお聞きすることもあるので、それはうちの、自分の事業所でどうやっていこうとか、情報もたくさん現場に返ってくる</u></p>
<p>(相談支援専門員が) <u>モニタリングとかに頻繁に来てくれるってことは、興味をメンバーに対して、支援をするっていう意識が高いとか。そういう方には、こっちも何か、ちょっとした変化でもお伝えしないといけないなってやっぱり思います。</u></p>
<p><u>緊急度があるとか切迫した状況のときは、(サービスの)利用頻度も上げていく。週に1回やったやつを2回3回だったり、すぐに駆けつけるみたいな動き方をする。そういう緊迫した状況のときは相談員と毎日連絡をとる。どんな子が多いかっていうと、不登校傾向の子。</u></p>

(3) 職種別のコアカテゴリー間の比較分析
1) 【利用者支援の核としていること】の3職種間比較

利用者支援の核としていることを相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者で比較した(表3-13)。

生成されたカテゴリーは、相談支援専門員(7個)、サービス管理責任者(4個)、児童発達支援管理責任者(1個)であった。

3職種に共通するカテゴリーは生成されなかったが、2職種間で共通するカテゴリーは生成された(表3-13)。表中に☆印を示した『チームでの利用者支援(チームケア)』は、相談支援専門員とサービス管理責任者に、『利用者の目標・希望の重視』はサービス管理責任者と児童発達支援管理責任者に共通していた。

職種別に特徴的だったのは、相談支援専門員は“面談”“意思決定支援”の語が使用されており、サービス管理責任者には“障害特性”“状態にあった支援”の語が使用されていた。

表3-13. 【利用者の核としていること

相談支援専門員	<ul style="list-style-type: none"> 『利用者の希望・意欲・強味の重視』 『利用者中心の意思決定支援』 『利用者との関わりの継続』 『面談の重視』 『サービス等利用計画の内容・立案方法の工夫』 ○ 『チームでの利用者支援(チームケア)』 『相談支援専門員としての姿勢・スタンス』
サービス管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 『利用者の目標・希望の重視』 ○ 『チームでの利用者支援(チームケア)』 『障害特性の重視』 『利用者の状態像にあった支援』
児童発達支援管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 『利用者の目標・希望の重視』

(2) それぞれの職種からみた質の高いモニタリング

質の高いモニタリングに相談支援専門員では『頻回なモニタリング』であるのに対し、サービス管理責任者は『タイミングに配慮したモニタリングの実施』, 児童発達支援管理責任者は『利用者の個別性に適したタイミングでのモニタリング実施』であった(表3-14)。

表3-14. 各職種からみた質の高いモニタリング

相談支援専門員	
○	『頻回なモニタリングの実施』 『利用者のサービス利用に対する目的意識の明確化』 『チームケアを意識したモニタリングの実施』 『質の高いモニタリング実施のための事業所体制の構築』
サービス管理責任者	
○	『タイミングに配慮したモニタリングの実施』 『チームケアを意識したモニタリングの実施』
児童発達支援管理責任者	
○	<利用者の個別性に適したタイミングでのモニタリング実施> 『チームケアを意識したモニタリングの実施』

C4. 結果

研究1. 研究2. 研究3. で得られた結果をもとに, 2020年度に実施予定の量的研究, 全国の相談支援事業所に対する横断調査において使用する質問紙票を作成した。

1) 質問紙票の種類

質問紙票は, 次の3種類である。

表4-1. 2020年度調査. 質問紙票の種類

調査票名	記入者
事業所票	管理者
相談支援専門員票	相談支援専門員
利用者情報票	相談支援専門員

2) 調査対象の抽出

2020年3月に厚生労働省に対し, 障害福祉サービス等情報公表データ提供の依頼を申請し, 46都道府県7341事業所のデータの提供を受けた。開示を受けられなかった1県のデータは, 当該県のホームページにアクセスし, 公表されている事業所のデータを確認し追加し全国8107事業所であることを確認した。回収数1000事業所分を見込み, 系統無作為抽出にて3330事業所を抽出した。

3) 調査票

巻末資料7

※2019年度における研究4の目的は, 調査票作成で研究ではないため, D考察及びE結果は記述しない。

D. 考察

D1. 考察

研究1. 先行研究レビュー

本研究の目的について先行研究から3つのA視点に分類して整理した。A

1) ケアマネジメント実践者の資質/ケアマネジメント実践者のあるべき姿の共有と方策について：

先行研究において老健事業の報告書^{研1-1)}と「相談支援の質の向上に向けた検討会における議論の取りまとめ（以下「質向上検討会のまとめ」という）^{研究1-3)}に共通することは、ケアマネジメント実践者のミッションや、介入する際に備えるべき専門職としての知識や技術が示されたことである。前者は、ドナベディアンモデル及びケアマネジメント・プロセスという二つのフレームワークにそって整理されており、一種の理論的整理が試みられたものと考えられる。後者は、実証的な先行研究とはいえないが、少なくとも委員会の構成員のこれまでの実践知に基づき整理されたものと考えられる。

本邦において制度にケアマネジメント専門の専門職が配置され、ケアマネジメント手法に基づく実践が導入されたのは、介護保険制度（2000年）の介護支援専門員、障害者自立支援法（2005年）の相談支援専門員である。

プロフェッショナルの比較と法の歴史の観点から他職種と比較すると、医師は旧医師法（1906年）で100年以上、看護師等は看護師助産師法（1948年）^{研1-5)}で70年以上が経過している。制度の枠組みがあってその資格の位置づけが安定する。そこから専門性の発展、資質の向上や技能の平準化を行うまでに

は一定の時間を必要とする。また研究という観点からみれば、ケアマネジメントの専門職による実証研究の報告は今後期待される課題であることが明らかになった。

これらからケアマネジメント実践者としてのプロフェッショナリズムとしての共通の志向性やロールモデルの存在、科学的な知に基づく理論の形成・構築等の必要性が明らかになった。宮脇^{研1-6)}は、より良い実践を行うためには専門職として自分が斯くありたい姿を持つこと、それを実現するには倫理観・道徳観をもち、考え、その感受性を高めることとしている。法令上定められた回数を実施することは当然必要ではあるが、回数が多ければすなわち質の向上とはならない。専門職には共通の志向があり、更に個々の専門職が斯くありたいと願い自らを磨き上げていくプロセスに価値があると考えられる。

また奥川^{研1-7)}は、職業的な《私》をつくりあげるために、自己を検証することを挙げている。自己検証を行う際の第一条件となることさらに奥川は、その専門職が共通して備えるべき資質を理解する必要性があるとしている。これを先行研究に置き換えれば示された二つのフレームワークに該当し、本研究に置き換えれば、自らの専門職が主として用いる手法の質の概念（ケアマネジメントの概念）、すなわち支援の方向性、志向の共通認識として置き換えられると考える。しかしこれに置き換えられる先行研究は見当たらなかったことから、計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価指標となり得る項目の整理、生成の必要性があることが示唆された。

自己検証を行うために必要な二つめの事項として奥川は、その専門職が平均以上の水準

で遂行するために必要とされる知識と技術、そのレベル（段階）が示されている必要がある、と述べている。先行研究に置き換えれば、質向上の検討会まとめに示された技術といえる。しかし質向上の検討会のまとめでは、相談支援専門員のラダーや、各技術別のレベルは示されていない。実証研究を積み重ね、段階別の技術や教育体制を整備することは、今後の課題であると考え。

ケアマネジメントを専門に行う相談支援専門員が法律上配置され、計画相談支援を実施するようになって15年が経過する今、実践知が集約され、質検討会のまとめが作成することができた。歴史の若い資格ながら、進めてきた歩みの足跡から備えるべき技術の項目は示された。一方で技術だけでは専門職の専門性は示せない。相談支援専門員が行う計画相談支援は、今まさに共通の志向性や概念形成を明確にし、実践の深みと発展、今後の研究に繋げる基盤を形成する時期にある資格といえる。

これらから本研究において「計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価指標となり得る項目」を共有化し、暫定的な定義を行う必要性が示唆されたと考え。

2) 国内比較、国際比較から得られた知見

ケアマネジメントの質に関する国際比較に関する文献^{研1-2)}では、2018年度時点におけるケアマネジメントの担い手、機能、実施状況や評価に関する情報と、それらをもとにした本邦の状況との比較が述べられていた。以下、2つの観点から整理する。

①本邦の高齢障害者の制度移行期における連携支援の着眼点

本邦においてアマネジメントが導入されている社会保障制度は、介護保険制度と障害者総合支援法の二つである。そのため制度内の単独か、制度をまたぐ比較となれば両制度・二者間の比較が大半を占めてきた。

近年高齢障害者の増加に伴い二者間の連携や教育に焦点化され、それぞれのケアマネジメントの概念の整理等、基盤となる根源的な議論がないまま技術的側面の議論や研修受講の環境整備がすすめられている。

2) 領域を超えた継続的ケアマネジメントの実現に必要な前提

近年は、高齢障害者の増加により^{研1-8)}、比較対象の視座を国内から海外へと移し、諸外国の移行期における継続支援、障害分野と介護保険分野の連携に関する現状・課題把握を目的とする調査研究^{研1-9)}等が行われている。その報告書は、連携開始の相談先、連携のしやすさ等技術論の入り口に関する内容は把握されているが、両者がそれぞれに捉えるケアマネジメントの質に関して確認し深める内容はみあたらなかった。本報告書に書かれている高齢障害者の制度移行期における“継続支援”を実現するなら、相談支援専門員と介護支援専門員がそれぞれ支援の中心に据える目的や志向を顕在化、明確化し、相互に理解することが連携の基盤となるのではないだろうか。こうした理念や概念は容易に明らかにできるものではないが、利用者にとって“継続的支援”を受けていると実感される技術が平準化されるには、理念や概念の共有化は避けて通れないものであると考え。

②有給かつ専従のケアマネジメント実践者の

存在意義

ケアマネジメントの質に関する国際比較の文献^{研1-2)}がとりあげた諸外国では、2018年度時点におけるケアマネジメント専門の担い手であって、ケアマネジメントを実践することによって報酬を得る存在はみあたらなかった。一方でなぜ日本ではケアマネジメント機能を有するが制度設計にしたのか、更には他国と異なりケアマネジメント専門の実践者までも配置したのか。上記①に既述のとおり、いつ、何を、どうする、よりもむしろ、なぜ存在するのか、に目を向け、考える必要がありそうである。この根源的な間について考え、摸索し丁寧に形作るプロセスを積み重ねる必要性を報告書は投げかけたといえる。

3) 公正性を担保する仕組み

日本では、多様なサービスプロバイダへの市場への参入を可としているが、オランダにおいても同様であった^{研1-2)}。オランダでは、日本におけるケアマネジャーのような全体をマネジメントする職種は存在しない。オランダでケアプランとは、サービスプロバイダで作成される個別サービス計画であり、サービスの選択における「公正・中立の確保」の課題自体が存在しない。こうしたサービスの利用は、家族だけでなくボランティアも含めた支援が難しければ利用するものであり、利用の可否も予算制約のもと自治体が決定する。給付管理業務が存在しない。

すなわち、日本における介護保険のケアマネジャーはサービスの選択だけでなく、給付の流れをも管理、左右するが、オランダではそれは行わない。日本の障害福祉サービスでは、サービス等利用計画はサービス利用に関

する全体をみているが、給付の管理は行わず、いわばオランダの方策と日本の介護保険のケアマネジメントの間に位置している。障害福祉サービスにおけるケアマネジメントの仕組みは、サービスの全体性を見ながらも、支給決定は市町村が行う仕組みとおり、市町村の判断が正しいという前提のもとであれば、公正性が保たれる制度設計となっているものと考えられる。

D2. 考察 研究2. 計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価指標となる項目の生成

1) 質の議論に影響を与えるケアマネジメントの定義の共通点と相違点

先行文献レビューからケアプラン作成をはじめ一連のケアマネジメント実践を専門に有給で活動する資格や機能が制度に位置付けられている国は少ない^{研1-2)}。本邦には、ケアマネジメントの手法を用いて支援し、支援する側にケアマネジメント専門の資格も併せて法文化されている制度は介護保法、障害者総合支援法である。本邦では制度に保障されたケアマネジメントであるが、この方法がなぜ制度に導入されたのか、ケアマネジメント実践者は、あらためてその価値と意義を熟考する必要があると考えられる。

また本研究におけるFGIでは【領域別のケアマネジメントの目的・特徴】について語られた。例えば『加齢とともに疾病に伴う体調変化の予後予想を踏まえた対応を行う高齢領域のケアマネジメント』、『児童の発達の視点から獲得のプロセスを支援するのが児童の

ケアマネジメント』、『発達最近接領域を適切に捉え支援することが発達領域の支援の方法』等、個人の尊厳の保持を旨とすること、その実現のための手段としてケアマネジメントを導入しているということ共通していた。一方で支援の対象により目的や特徴は異なることが上述の語りから明白となった。更に相違点はあるのだろうか。

両制度における相違点を比較するにあたり、いったん他国に視野を広げる。ケースマネジメントの発祥地のアメリカ、ケアマネジメントを先んじて制度に組み込んだイギリスのケアマネジメントの代表的な組織が示すケアマネジメントの定義を確認すると、共通することは、ニーズと社会資源を結び付け、チームアプローチで解決に導くこと、そして“効率的”や“効果”“成果を得る”と書かれている^{研2-3)}。ケアマネジメントの特性には、当然個人のニーズと社会資源を結び付けて課題解決を図りつつ、これを成果や結果として評価の対象とすることや、社会資源の全体の需給バランスをとり、地域の社会震源の総体としてみた場合の利用バランスをとるという効果も含まれるものとする。本研究結果における一次分析の【人を中心としたケアマネジメントの個と社会、今と未来にわたる可能性】に該当し、『「人」を中心としたケアマネジメントの可能性を高める適切なモニタリング回数は、本人・専門員・チームの連携機能に十分な頻度、それが適切なら本人の今～今後の生活も、延いては社会の今と将来にさえ寄与する可能性を有する』とあるように、個のケアマネジメント（マイクロ）は、人的・物的・財政的観点の社会資源全体（マクロ）のバランスに直結する視点である。ケア

マネジメントの機能には本来このような期待も負っていると考える。介護保険制度におけるケアマネジメントの質のアウトカム評価に関し、個別のアウトカム評価もさることながら、地域のアウトカムという概念が老健事業^{研1-2p172}で示された。今後障害領域において質を議論するにあたっては、マイクロ焦点化するだけでなく、今後はケアマネジメント本来の機能によるところの地域全体での効果というマクロの視点を取り入れることも一考である。

2) ケアマネジメントにおける効率・効果と成果の考え方とその影響について

ケアマネジメントの定義や上述の本研究のコアカテゴリーにみるように、ケアマネジメントでは本来、効率化及びその成果は質に関連する事項である。そこでこの二つの単語をケアマネジメントの手法を導入している介護保険制度と障害者総合支援法にあてはめ、語彙検索し出現頻度を比較した。介護保険法に“効果”は35回、“効率”は7回使用されていた^{研2-4)}。一方で障害者総合支援法では、“効果”及び“効率”は全く使用されていなかった^{研2-5)}。

これらから障害福祉サービスにおけるケアマネジメントとは、社会資源に結び付け、チームアプローチにより地域生活を支援するという観点はあるが、効率・効果および成果を問う視点はなく、介護保険制度と同様にケアマネジメントの手法を活用しているとはいえず、極めて大きな差異があると考えられる。

この差は、現在さまざま課題となっている高齢障害者の障害福祉サービスから介護保険への移行期に生じるサービス利用の価値や納

得感への影響，併せてケアマネジメントを引き継ぐ相談支援専門員と介護支援専門員の連携時に生じる価値の摩擦等に影響する要因となっているものと考える．単に両制度の表在的な相違を知識として研修し，顔の見える関係を作ればよいのではなく，ケアマネジメントを行う専門職として，制度が求めるケアマネジメントの目的や成果の相違を明瞭に示すことが現在生じている課題への解決の一方策へとつながると考える．

今後はケアマネジメントが活用されていても，その根本的な目的や価値は異なることを理解した施策や教育過程を組み込む必要がある．本研究において，効率性，効果性を含むか否かは，ケアマネジメントの質の指標を生成する観点から，きわめて重要な視点となると考える．

3) 計画相談支援とケアマネジメントの関連について

フォーカス・グループ・インタビューでは，計画相談支援はケアマネジメントと同義であるかという問題提起がなされ，【計画相談支援とケアマネジメントの関連】のコアカテゴリーには，それぞれ両論が紐づいた．一つは計画作成にまつわるサービス調整業務を主とし，その調整過程で生じる“よろず相談的な相談内容”は計画相談支援の対象外であるという考えである．もう一方は，計画相談支援は単にサービス手配に終始するブローカー型相談支援にとどまらず，さまざまな生活困難を抱える長い支援プロセスを共に歩む存在であると考え，計画相談支援はケアマネジメントであるとの考えである．障害領域におけるケアマネジメントの意義について今後

は，直接援助に価値を見出し，報酬上の評価を求める動きも起きている^{研2-2)}．ケアマネジメントにおける直接援助の価値をさらに報酬で評価することは，単に障害領域の一報酬というだけでなく，世界的にみても珍しいことであり，相談そのものの専門性と価値を示すことになると思う．

4) 障害領域における相談機能の役割分担と現実的解の求め方

障害福祉領域の相談機能は制度上『三層構造の障害福祉領域の相談の一層目はケアマネジメントでサービス利用に関して整理し，それ以外のことは二層目で担当するという整理でH30年度報酬改定が行われた』が，考察2)の議論にみるように，相談支援と計画相談支援の実践上の境界は未分化との見方もできる．一方で完全に分化することは可能なのか．

語りとカテゴリーからその目的を確認する．『相談支援の目的は本人の安心した地域生活の継続で，コミュニケーションを通じ，利用者への理解，課題が解決することを利用者が実感できること』である．一方で【計画相談支援の目的】は，『①本人の安心した地域での暮らしの実現，②適切なサービス利用に繋ぐ…』ものである．ここまでの議論を整理すれば計画相談支援の目的は，単に計画作成し，サービスの手配をすることではなく，(利用者の)安心した地域での暮らしを実現すること，である．相談支援も，計画相談支援も第一の目的は共通している．もし計画相談支援はサービス調整に特化し，サービスの調整の遡上で生じるサービス調整以外の課題をすべて基幹型相談支援センターに依頼するならば，支援を受ける利用者側の立場にたつたときにどうだろうか．相談窓口が複数化

し、何度も同じ話をしなければならず負担感が増し、現実的ではない。何よりも相談のワンストップ機能は、ケースマネジメントの起源にさかのぼるもの^{研2-3)}であり、一人の利用者に対する相談窓口を複数設けることは、ケアマネジメントの機能から乖離する方法を政策的に、あるいは相談支援専門員自身が選択することに他ならない。これらから相談支援と計画相談支援の役割の分化は、サービス調整とそれ以外といった機械的な振り分けではなく、実践をつみ重ねるなかで、個別ケースごとに最適解を求め、若干の年月をかけつつ平準化していくプロセスをたどるのが現実的であるとする。その最適解を求める際に忘れてならないことは、いかなるときも利用者の立場にたった最適解を考える視点であることはいままでのない。

障害福祉領域における相談機能の分化が実践の積み重ねとともに実証研究において、計画相談支援における質とは何かを追求し続けることは肝要であるとする。

5) 計画相談支援の基盤を成すものを支える継続的ケアマネジメントとモニタリング機能について

[文言が綺麗に整ったケアプランが質の高いケアマネジメントかということそうではない。]とは確かである。一方で着目すべきは『利用者の意向を反映することが計画相談支援の質でありながら、その技術に欠けることが課題』であることだ。では「意向を反映した計画作成」のために計画相談支援において備えるべき姿勢や技能として何が求められるのだろうか。

「利用者の意向を反映した計画作成」とは、ただ利用者の言葉をそのまま計画書に書き写すことではない。利用者が語る〔主訴

は、サービス利用とは限らないし、明確であるとも限らない。むしろ整理されず入り混じっている〕ものである。利用者の語りの背景には、語られない、語りたくない、伝えきれない等さまざまな理由により表現されなかった物語や背景が広がっている、という仮説をもちながら聴き取る必要があると考える。いかにすれば利用者との相互交流は可能となるのか。

専門的な相談とは「倫理」を礎に「面接技術」を用いることで個々の利用者の、状況に応じた「関わり方」を可能とする。適切な「関わり方」は、利用者からの「信頼」となる。専門職は利用者からの「信頼」を得ることで、それを基盤とし、ケアマネジメントの「一連の過程のかかわり」へとつなげることができる。ケアマネジメントの「一連の過程のかかわり」を通じ、利用者の「意思表示・意思決定支援」を行うが、専門職は意思決定を支援するために利用者の意向、状況理解を踏まえ、専門職として具体策を提示する。その提示にあたり求められるのは、多角的な観点からの予測、効果やリスク等を「見極める技術」である。これらは計画相談支援の質の評価指標となり得る項目であり、「計画相談支援の基盤を成すもの」のコアカテゴリーに包含されるものとする。

6) モニタリングにおける市町村の支給決定の考えに影響される継続的支援と、モニタリング実践者の葛藤

計画相談支援の「一連の過程の関わり」において、実際にコミュニケーションの頻度を左右するは、市町村が行うモニタリング実施頻度の支給決定である。市町村は、支給決定の判断を行う際の判断基準とはなにか。

[利用者の個別性に合わせて判断されるべ

きモニタリング実施期間を市町村では多くのケースに関し国が示す標準期間に沿って決定している]、[自治体の方針として個別支援と地域支援を行うなかで本人との関係性を重視したモニタリング回数を判断し先行実施している]等、自治体により支給決定の判断に関する基本的な考え方のばらつきがあるように見受けられる。利用者とは計画相談支援を行う立場からみれば【モニタリング回数に影響する自治体のモニタリングの意義・価値理解】如何は、利用者にとって将来的な生活も含めたQOLに直結する。

市町村は【継続的ケアマネジメントの機能を発揮できる条件としての個別性に対応したモニタリング実施期間の判断】を適切に行うべきであることは言うまでもない。一方で実際には市町村職員の数や専門性という観点からの人員体制、個別の利用者にすべて面会し生活実態を知ることの難しさ等、複数の課題があることは想像に難くないが、利用者にとってそれは許容される範囲ではないと考える。

こうした背景を踏まえれば、市町村ごと、利用者ごとの判断のバラつき等解消するために平成30年度障害福祉サービス等報酬改定に行われたモニタリング実施標準期間の改定は有効性の高いものであり、計画相談支援の質に影響した可能性が考えられる。

相談支援専門員に視点を移すと【計画相談支援を行う専門員のジレンマ】があった。

『①丁寧な相談支援と手間費用とのジレンマ』では、事業経営の観点からみた計画相談支援の回数と専門職が抱く理想のモニタリング回数との乖離について生じる葛藤という一面と考えられる。

『②計画屋ではなくソーシャルワーカーだという自負』では、計画相談支援を単なるサ

ービス送致の機能にとらえている場合や、サービスに適切につなげる相談に価値を見出していない場合に感じる葛藤であること、また計画相談支援の枠を超えたよらず相談もすべて含め生活を支えたいという思いを持つ場合に生じる葛藤であると推察される。

市町村の立場に視座を移すと、改定されたモニタリング実施標準期間を先行して実施した自治体があった。そこでは[相談員は自分の業務が大変になったというが、政策的にはご本人を中心におき、地域で安心して暮らせること、そのための相談体制の整備を行う政策としてモニタリング実施頻度を設定した]という報告があり、《一連の過程の関わり》をはじめとする「計画相談支援の基盤を成すもの」を市町村が率先して保障し、計画相談支援の質の向上に資する環境をつくったと考えられる。

7) 計画相談支援の質の指標となり得る項目(二次分析)を通じて計画相談支援の質の指標・項目(暫定版)を生成した(表10. 巻末資料2)

下記は計画相談支援等(ケアマネジメント)における質の評価指標・項目(暫定版)の関連図である(図1. 巻末資料3)

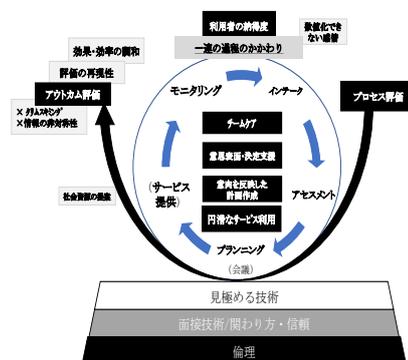


図1. 計画相談支援等(ケアマネジメント)の質の評価指標・項目(暫定版)の関連図

コアカテゴリー「計画相談支援の基盤を成すもの」には、《倫理》を礎にした《面接技術》は利用者の場と状況に応じた《かかわり方》が利用者の《信頼》を育み、相互交流を通じて収集し得られた情報と、《意思表示・決定支援》、利用者のサービス選択に資する将来予測、効果・リスク等を《見極める》技術が求められる。これらを土台としつつ《一連の過程のかかわり》が展開可能となると考える。

次の段階のコアカテゴリー「一連の過程を通じた支援」では、《チームケア》を用いたアプローチが展開され、チーム全体をマネジメントする力や《チームケアの質》そのものが問われる。相談支援専門員から得る情報だけではなく、チームケアを通じた幅広い最新の情報、多職種も含めて判断した将来予測や提案を踏まえ、利用者が選択した《意向を反映した計画作成》が可能となり、より円滑なサービス利用へと進展する。仮に利用者の生活課題を解決するに足る社会資源が存在しない場合には《社会資源の創出の提案》により、利用者の生活課題への地域社会の対応度を高めるはたらきに寄与する。

3つ目のコアカテゴリー「質の指標と関連事項」では、具体的な評価の段階へと踏み込む。ドナベディアンモデルにみる《プロセス評価》を中心とし、ケアマネジメントで求められる成果としての《アウトカム評価》、政策としての評価は報酬にも直結することから、《評価で問われる再現性》があること、《アウトカム評価》の場合には特に《効率・効果の調和》が求められるが、専門職側からみて評価に有利な結果が出やすい利用者を選択する《クリムスキミング/情報の非対称性》を悪用した意思決定の誘導等が行われてはならない。「一連の過程を通じた支援」の結

果は《利用者の納得度》でもある。そのような納得度は例えば、日ごろの対話のなかで、利用者や家族からあなたが担当でよかったという《数値化できない感情》が表出されることもある。客観性や再現性がないことのみをもって、軽んじられてはならない質の評価の一つといえると考えられる。

D 3. 考察

研究3. 相談支援専門員、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者からみたモニタリング実施の実態

(1) 計画期間変更の影響

1) インタビュー対象者が捉えた期間変更の影響

相談支援専門員が捉えた改定後の変化を見ると、利用者や家族との『信頼関係の深まり』、『生活状況のタイムリーな把握と情報量の増加』があげられた。

一方、サービス管理責任者や児童発達管理責任者から相談支援専門員の変化を見ると、『利用者情報量の増』『信頼関係の高まり』『チームケア』といったポジティブなキーワードがみられる一方、『負担感増』『温度差』といったネガティブなキーワードも見られた。

こうした変化の影響に対する認識の違いは、計画相談支援員とサビ管あるいは児発管との置かれている立場や利用者との関わりにおいて重視している視点の違いに起因すると考えられる。

そこで次に、各職種において【支援の核としていること】および【質の高いモニタリング】の捉え方について考察を加える。

(1) 3職種間での支援やモニタリングで重視している点

1) 【利用者の支援で核とすること】における3職種間の比較

3職種に共通するカテゴリーはなかった^{表3-13)}。組織の業務や多職種の連携では、その役割が重ならないように設計される^{研3-1)}ため重複は生じない。本研究における相談支援専門員の結果には“面談”や“計画”という語が含まれ、相談援助職であってサービス等利用計画を立案する間接援助の職種の特徴が示された。加えてマネジメントと計画作成に重心を置いた計画相談支援の特徴といえる。

一方でサービス管理責任者には“障害特性”，”状態像にあった支援“等，利用者に直接介護を提供する直接援助の職種の特徴がみてとれた。これらは職種ごとの特性によるものと考えられる。

2職種間で共通する項目があった。①『チームでの利用者支援（チームケア）』は相談支援専門員とサービス管理責任者で共通し、児童発達支援管理責任者では生成されなかった。②『利用者の目標・希望の重視』はサービス管理責任者と児童発達支援管理責任者には共通したが、相談支援専門員にはなかった。

相談支援専門員に類似のカテゴリーはあったが，“意欲”“強味”“意思決定”といったストレングスに着目するもので，“目的”はなかった。計画作成はいわば“目標”設定と対応を適切に設定するものであり、ケアマネジメントは、その実現のために“チーム”に働きかける機能を担う。計画相談支援における相談支援専門員の役割と機能とはなにか、ケアマネジメントなのか・計画作成とサービス送致を目的とするのか【利用者の支援で核とすること】を通じ生成されたカテゴリ

一とそれを構成する語から、あらためて問われると考える。

“チームワーク”は極めて多因子的な活動^{研3-1)}である。敢えて違いのある者同士が集まり、互いの特徴を理解するよう努め、共通の“目標”を持つことでチームの恒常性を保ってミッションを完遂する原動力を持つ。そこには“目標”を掲げるマネジャーの存在が不可欠である。“チームケア”と“目標”は不可分であるという考え方にたてば、①『チームでの利用者支援（チームケア）』及び②『利用者の目標・希望の重視』は3職種に共通のカテゴリーとして生成されることも想定されるが本研究ではそのような結果ではなかった。

計画相談支援（ケアマネジメント）の質の向上に寄与するモニタリングを検討するにあたり、モニタリングにも連携や協働性が求められる側面があること、またモニタリングは一連のプロセスの最後に位置しすべての介入の効果を確認する機能を持つものである。相談支援専門員だけ、あるいはモニタリングの方法論だけを論じても質の向上は実際のところ難しい。例えば多職種連携教育（IPE Inter-professional Education）等を導入しかかわるすべての職種が共通の概念や方法論、留意点を習得する機会を得ることで、多職種連携のダイナミクスを活用した支援や“意思決定支援”の有効性が増すものと考えられる。

2) モニタリング実施標準期間変更による相談支援専門員の置かれた状況と効果

モニタリングで重視している点について、相談支援専門員の語りを見ると「頻度」を挙げた割合が大きい。これは平成30年度障害福祉サービス等報酬改定の影響を直接的に受けた故と考えられる。語りの記録を見ると、

これは過渡期にあると捉えられ、モニタリング実施頻度の高まりによる実践経験から得られたものと考えられる。柔軟なモニタリングが定着することで今後更に各職種間の役割分担も進むことが期待される。そこで次に、今回の半構造化インタビューから描かれるあるべき役割分担とモニタリングの姿を考察する。

① 頻度を重視する相談支援専門員とタイミングを重視するサービス担当者

それぞれの職種からみた【質の高いモニタリング】では、相談支援専門員は、『頻回なモニタリング実施』であるのに対し、サービス管理責任者は『タイミングに配慮したモニタリングの実施』，児童発達支援管理責任者は<利用者の個別性に適したタイミング>を挙げている^{表3-14}。サービス側は、頻度を高くすることだけでなく、利用者の状態と環境や状況を含めた判断に基づく柔軟なモニタリングを求めている。柔軟に対応するには頻度も必要であり、今後は状況に応じ専門職の判断に基づく実行権限も必要となると考える。

②頻度の高まりがもたらしたモニタリングの効果

なぜ職種による相違があるのか、3職種のより具体的な視点を確認する目的から、サブカテゴリーベースで確認した。

利用者の相談支援専門員への認識は、[相談できる相手へと変化]，[生じたはじめた利用者・家族が自ら発信する相談支援専門員に対する相談]，[過去事案から現在事案へ時間軸が変化したサービス事業所との利用者に関する連絡内容]，[課題解決のために知恵を絞るモニタリング実施方法と実施方法の変化]，[事後確認だったモニタリングから予測

と予防的なアプローチへ展開したモニタリング]へと変化していた。相談支援専門員にとってこのような変化は、報酬改定の影響を受けながらモニタリング実施頻度を高めてきた過程において実感した成果である。すなわち相談支援専門員にとってこれらの成果を得るためには、一定以上の“頻度”が必要であることを実感しているものとする。

頻度の高まりにより相談支援専門員がモニタリングを実施することへの認知が高まったサービス管理責任者や児童発達支援管理責任者の立場にたてば、一定の決められた時期よりもむしろ利用者の必要時に合わせたモニタリングを期待したものとする。

すなわちこれらのデータから平成30年度障害福祉サービス等報酬改定におけるモニタリング実施頻度の高まりは、関係者相互の信頼と目的的なコミュニケーションの強化、モニタリングの対象とする時間軸は、過去の確認からタイムリーな確認と将来予測・予防へと立体化していた。

このような基盤形成は次のフェーズである『タイミングに配慮したモニタリングの実施』，<利用者の個別性に適したタイミング>という視点を惹起させているものと考え、次期報酬改定における今後のモニタリングのあり方については、利用者の個別性や状況に応じた柔軟なモニタリングの判断について提言し、検討すべきと考える。

(3) 各職種の役割分担とあるべきモニタリングの姿

今回の研究範囲に基づく考察に過ぎないため限定的だが、あるべき構造を考察する。

柔軟なモニタリングの姿とは、支給決定で定められた期間に限定せず、利用者の状況に

応じて行うもので、相談支援専門員の活動の中に見出すことができた。

本研究の目的の一つには、量的調査のための調査票作成があり、反構造化インタビューからモニタリング期間変更による効果を導き出した。ただし、これは今回の研究でインタビュー対象とした方々の考える「あるべき姿」を念頭に置いた効果であり、これは本研究の限界でもある。本項で整理した「あるべき姿」は、今後、継続して実施する定量調査の結果を解釈する際に、これを「前提」として再度参照しつつ検証・考察を重ねる。

① 随時モニタリング（柔軟性のあるモニタリング）の必要性

研究3のデータを通じて相談支援専門員は、支給決定のタイミングで実施する[定期モニタリングで実施していること]^{表3-10)}と、支給決定以外のタイミングで必要に迫られて任意に行っている[支給決定以外の随時モニタリングで実施していること]^{表3-11)}の実態が明らかになった。後者は、(2)で明らかになった『タイミングに配慮したモニタリングの実施』、<利用者の個別性に適したタイミング>と重複する点もあると類推される。

このような柔軟性のあるモニタリング活動は、サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者等から見て、緊急時に共に考えてくれる存在であるばかりか、サービス事業所の職員全体へも影響していた。表3-11)の随時対応のモニタリングに見られた活動は、定期モニタリングだけは到底成し得ないものである。また一定期間集中して介入することによってその効果性を得ている実態もあった。

② 随時モニタリング（柔軟性のあるモニタ

リング）の必要性の判断

柔軟性のあるモニタリングは、熱心で質の高い相談支援専門員だけに多く行われる偏った活動であってはならない。利用者にとっての必要性を鑑み、適切に判断され、担当の相談支援専門員の誰であっても適切に行われる必要がある。

随時モニタリングの必要性の判断は、相談支援専門員に加え、医師や関係する多職種が共に判断する方法が想定される。

③ モニタリング頻度とタイミングの考え方

適切なモニタリングのタイミングや頻度を考えるにあたり、何をエビデンスに判断していくか政策的な検討が必要となる。相談支援専門員の語りから特徴的であったことは、本来の計画相談支援以外のこと、例えば役所の障害福祉課以外の部署の書類まで、作成支援や代理提出まで当然のごとく役所の職員から期待されている実態があった。このような実態も含め本研究結果において考えるモニタリングが必要なタイミングは次のとおりである。

- ・利用者・家族と相談支援専門員が前回の訪問時の会話や状況を記憶していただける期間
- ・医療機関の受診において付き添い、本人に代わって日頃の状況を意思に報告する場合の受診の期間
- ・少なくとも季節ごとの体調変化や季節の変わり目の体調を崩しやすい時期に確認できるタイミング
- ・本人の心身状態が不安定な時期の柔軟な対応
- ・行政機関等への申請書類の処理が必要な時期

- ・児童のライフステージの移行期（卒業等）、休暇の前後、また親が不安を感じる時等
- ・その他緊急性のある場合や予防的な関与が効果的であると判断される場合

④ 定期モニタリングの頻度を適切に判断する市町村の役割

モニタリング訪問を拒絶されるケースで相談支援専門員は、定期モニタリングは、特にネグレクトのケースでは、相談支援専門員が正当な理由をもって自宅に訪問できるという有効性を感じていた。ネグレクトによる事態の手遅れを予防する観点や、利用者自身が重要なニーズに気づかず専門的なアプローチが必要な場合等、市町村には利用者の不利益とならないよう個別に、適切なモニタリング実施頻度を判断し、随時見直す責任がある。

⑤ 揺らぎを受け止められたと利用者が実感できる関係性

全身の筋肉が衰える進行性難病等においては、告知前後から自己の存在の揺らぎに対する支援も含め、身体的・精神的・スピリチュアルの側面における緩和ケアが必要であると考えられる。専門職の適切かつ継続的なかわりの中で、利用者からみて揺らぎも含め受け止められた、と実感できる関係性である。障害受容や、延命、命の選択を迫られる人生の判断を支える専門職であるために適切なモニタリングの頻度や方法を考慮しなければならない。

計画相談支援のモニタリングには、当然サービス調整に係る相談はあるが、サービスの

選択と人生の選択の関連もなかにはある。人の尊厳をまもる計画相談支援におけるモニタリング支援とは、利用者により、同一の利用者であってもその置かれた状況により刻々と変化するものと考えられる。

人は計画どおりに生きられるものではない。人には誰しも揺らぎがある。揺らいでも良いことを肯定されることで安心につながることもある。そこには中立性の担保された専門的・個別的関与が求められる。まさに計画作成を担う相談支援専門員はその一職種である。

⑥ 政策的な適切性・公平性の判断の難しさ
随時モニタリング（柔軟性のあるモニタリング）の重要性が示唆された。一方で、柔軟性のある判断は、政策的に責任をもって行うことは容易ではない。制度として仮に柔軟なモニタリングは可能とした場合、専門職のみで判断すれば、全体性としての公平性に欠く恐れがある。市町村においてその判断を行う場合においても属人的な基準による運用の恐れがある。ゆえに市町村は公平性を担保する観点から標準的判断に頼り、むしろ政策的には新しくても、運用上は先祖かえりといった揺り戻しも想定される。仮に実行する場合には、事例を積み上げ、事例集等から判断し、一定の時間をかけながら判断の平準化を行っていくプロセスも見込んだ政策決定が求められると考えられる。

E. 結論

E 1の結論 研究1. 先行研究レビュー

文献レビューは、本研究のテーマにかかわる理論的文献、実証的な先行研究という観点意識した。特に留意したことは、研究2は、研究3以降の土台を形成する概念となることから、研究2の研究を行う前段階において適切に過去の文献を確認することである。すなわち本研究は、研究2の概念（暫定的）があつてこそ、研究3の半構造化面接、研究4の2020年度の質問紙票によるモニタリングの実施実態及び影響を調査に一貫性が保たれる研究の構造であることを認識し、文献レビューを行う必要があつた。

文献レビューは次の4つの方法、（1）電子ジャーナルCiNii Articleによるキーワード検索、（2）行政の助成事業や研究機関が行う調査結果の報告書の検索、（3）厚生労働省の社会保障審議会等、政府の公開会議の資料、（4）著書検索とした。

主だった文献と考察を加え研究1の結論を示す。

1) 日本総合研究所. 平成24年度老人保健推進費等補助金老人保健健康増進等事業。

『ケアマネジメントの質的評価のあり方に関する調査研究事業』報告書^{研1-1)}では、ケアマネジメントの質的評価の在り方について、ドナベディアンモデルと、ケアマネジメント・プロセスを使用した二つのフレームワークが整理されていた。フレームワークは、38頁に示されており、ケアマネジメント実践の目的を、①法の理念・目的、②ケアマネジメントの実践者である介護支援専門員の行動指針にそつた行動とし、ドナベディアンモデル

のストラクチャー（構造）、プロセス（過程）、アウトカム（結果）の3つのスコープから協調されるべきことを整理していた。ストラクチャーとプロセスでは主に専門職の技術に関することで、課題分析やチームコーディネート力、全プロセスにおける支援力に関することであるのに対し、アウトカムでは、利用者にとっての利益になったかという観点から整理されていた。

日本介護支援専門員協会. 平成30年度厚生労働省老人保健健康増進等事業、ケアマネジメントの公正中立性を確保するための取組や質に関する指標のあり方に関する調査研究事業報告書^{研1-2)}では、これまでの多くの調査研究は国内の障害福祉サービスと介護保険の相違、あるいは相談支援専門員と介護支援専門員の相違や連携に関するテーマが大半であつたが、ケアマネジメントの質の国際比較を行ったことにより、我が国のケアマネジメントの特徴として、ケアマネジメント実践を専門に行い有給の者が存在することが挙げられた。専門職の存在にはおのずと機能が求められるが、なぜ他国にはなく我が国の障害と高齢の二つの制度にはケアマネジメント機能のみならず、専門の職種が配置されたのかあらためて認識し、再考する必要がある。これは計画相談支援等（ケアマネジメント）の質を考えるにあたり、留意する事項となると考えた。

厚生労働省 相談支援の質の向上に向けた検討会、第9回。資料2「相談支援の質の向上に向けた検討会における議論の取りまとめ」では、相談支援専門員の役割に関しとりまとめられていた。特に筆者により分類したところでは、ミッションとして「障害児者の

自立の促進と障害者総合支援法の理念である共生社会の実現に向けた支援を実施すること」とし、役割として例えばソーシャルワークの担い手としてのスキル/知識を高めることや、地域のつながりや支援者/住民等の関係構築等、更には将来への期待として、領域にとらわれない幅広い見識や判断能力を有すること等が示された。一方で、ケアマネジメントの質についての概念や定義は直接的には示されていない。文献レビューから、計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価はみあたらなかった。宮脇⁶⁾は、より良い実践を行うためには専門職として自分が斯くありたいという姿をもつこと、それを実現するには倫理観・道徳観をもち、考え、その感受性を高めることとしている。法令や支給決定に基づくモニタリング回数やそれ以上の回数を実施することのいみをもって質の高いケアマネジメントになるわけではない。また奥川は、専門職が自己検証する際の条件を二つ示している⁷⁾。一つに、その専門職が共通して備えるべき資質を理解する必要性を、二つめにその専門職が平均以上の水準で遂行するために必要とされる知識と技術、そのレベル（段階）が示されている必要がある。二つめの技術について先行研究に置き換えれば、厚生労働省の相談支援の質の向上に向けたとりまとめに類似している。しかし、一つめについては、計画相談支援等（ケアマネジメント）の質の評価指標という観点で整理されたものではなかった。医師や看護師には70年～100年程の歴史があり、プロフェッショナルズムに基づく専門的知識や技能が蓄積されてきた。相談支援専門員が行う計画相談支援という観点では2005年に導入され、ようやく実

践知が蓄積されはじめてきたところである。実証研究に基づく知見はまだ見当たらなかったが、過去の経験に基づき必要とされる技術は整理されつつある。そこでその基盤となる評価指標を整理し暫定版として示す必要性が示唆された。

E2 結論

研究2. 計画相談支援（ケアマネジメント）等における質の指標・項目（暫定版）の生成の結論

一次分析では73のコードから意味のまとまりのあるものを集め、47サブカテゴリ、46のカテゴリ、13のコアカテゴリが生成された。一次分析では障害福祉領域における相談に関連し総論的に分析し考察した。

【領域別のケアマネジメントの目的・特徴】はそれぞれ異なること、【計画相談支援とケアマネジメントの関連】の考察から高齢領域と障害領域のケアマネジメントの相違は、障害福祉領域には効率及び効果、いわば成果を求める法の条文は存在しないことがわかった。一方で、ケアマネジメントの特性として地域でのケアマネジメントの効果というマクロ的な視点で評価する考えも高齢領域では示され始めている実態があり、ケアマネジメントに求める質の評価は個別のケース（ミクロ）から地域の全体性（マクロ）へと広がりがみられることから両制度の機能と質の評価に差異があることがわかった。これをうけ質の議論にのみならず、制度横断的なケアマネジメントが推進される今日、両制度の施策の展開や教育においては目的及び質の評価の

指標となりえる視点の相違にも留意する必要性が明らかになった。

【障害福祉領域における相談の構造・機能・役割】は、未分化の状態にあるといえるが、その要因に【相談支援の目的】と【計画相談支援の目的】は共通しており、サービス利用の一点のみをもって機械的に分担することは現実的ではないことが明らかになった。

また【継続的ケアマネジメント機能を発揮できる条件としての個別性に対応したモニタリング実施期間の判断】では、市町村にそのための判断基準や技術が問われるが、一律『国の示す基準にそった判断』としている自治体がある一方で、改定事項を先行して実施している自治体も存在した。相談支援専門員は、自らの相談に関する直接援助の価値や経営とのはざままで葛藤していた。

二次分析から質の評価指標となり得るコアカテゴリーは3つ「計画相談支援の基盤を成すもの」、「一連の過程を通じた支援」、「質の指標と関連事項」、質の評価項目は18であった（表〇）。ここで得られた質の評価指標は、本研究における研究3及び研究4を展開するうえでの共通認識として使用する暫定版としての位置づけである。本評価指標の項目を確定版として汎用性のあるものとするには、本指標を用いた実証研究が必要である。

E 3 結論

研究3. 相談支援専門員、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者からみたモニタリング実施の実態

3職種に対する半構造化インタビューのデータから、平成30年度障害福祉サービス等報酬改定におけるモニタリング実施頻度の高まりの効果は認められていることが明らかになった。

利用者は相談支援専門員を身近な相談者として認識し、モニタリングでは過去の話ではなく、現在、未来の話へと時間軸が転換した。これにより事後的対応に終始していた以前に比べ、相談支援専門員の業務は、リスク予測や予防的観点を含むものに変化している。事業所からは相談したい存在へと変化していた一方で事業所による温度差や、相談支援専門員に依存傾向となる面も見られ始めていた。

質の高いモニタリングとは“頻度”から“利用者の個別性や状況に応じた”モニタリングへと認識は変化した。このことは相談支援専門員を共に伴奏するパートナーとしての認識に変化しているものと考えられる。

適切なモニタリングのタイミングや頻度は利用者が前回の面談をおぼえていられることや、医療機関へ同行、季節ごとの生活や心身状態の変化、不安定な時期への対応、発達への配慮・親の心身状態及び緊急性等を考慮する必要があると考える。

定期モニタリング^{表3-10)}に加え随時モニタリング^{表3-11)}の概念が示されたこと。いずれも利用者にとっての必要性の観点から適切にも人タリング時期と頻度を判断されなければならないことが示された。

これらから柔軟なモニタリング随時モニタリングは、熱心で質の高い相談支援専門員だけが行う行為ではなく、利用者にとっての必要性を鑑み、適切に判断される必要がある。随

時モニタリングの必要性の判断者は相談支援専門員と多職種、行政による判断や行政による判断が想定される。しかし政策的な判断基準を明確化することは難しく、むしろ公平性の名のもとに運用上の先祖返りの可能性も推察される。

計画相談支援におけるモニタリングは、サービス等利用計画の相談を行う過程において、さまざまな相談を受ける。人の感情や生活には揺らぎがあり、計画どおりに運ぶものではない。時に人生の再獲得をも支援する支援が求められるだろう。尊厳をまもり人生とともに歩む計画相談支援におけるモニタリングへと昇華することが望まれる。

<本研究の限界>

本研究の限界は、質的研究法により算出したデータにより分析しており、結果は必ずしも全国の実態を一般化したものではない。そこで2020年度に実施する全国の相談支援事業所に対する量的調査の結果と併せて考察し、全国の実態を考慮したうえで考察を深める必要がある。

■引用文献:

- ・研1-1) 日本総合研究所.平成24年度老人保健推進費等補助金老人保健健康増進等事業. ケアマネジメントの質的評価のあり方に関する調査研究事業報告書. 38頁~40頁. 平成25年3月
- ・研1-2) 日本介護支援専門員協会. 平成30年度厚生労働省老人保健健康増進等事業, ケアマネジメントの公正中立性を確保するための取

組や質に関する指標のあり方に関する調査研究事業報告書」. 31頁, 35頁, 53頁, 179~183頁. 2019年4月.

- ・研究1-3) 厚生労働省.「相談支援の質の向上に向けた検討会(第9回), 資料2.「相談支援の質の向上に向けた検討会における議論の取りまとめ」. 頁表記無し. 平成31年3月
- ・研究1-5) 旧医師法, 保健師助産師看護師法
- ・研1-6) 宮脇美保子. 身近な事例で学ぶ看護倫理. 中央法規. 12~14頁. 2008

■参考文献

- ・研1-4) 近藤 隆雄「サービス・マネジメント入門 ものづくりから価値づくりの視点へ」. 生産性出版. 2007

■研究1. 文献検索結果のうち, 本文中に解説しなかった文献一覧

- ・野中猛. 精神障害領域のケアマネジメント導入をめぐる課題, 4-9, Vol.15 No2.こころの健康, 2000
- ・中谷久恵. 介護保険利用家族によるケアマネジメントの評価. 島根医科大学紀要(24), 45-52, 2001.
- ・佐藤泉. ケアマネジメントにおける連携技術に関連する要因. 日本保健福祉学会誌8(1), 27-34, 2001
- ・佐藤泉. 保健福祉専門職のケアマネジメント技術に関する研究:管理職経験者との関連, 日本保健医療学会誌7(2), 35-42, 2001
- ・飛田義幸. 計画相談支援の意味と相談支援事業の継続性についての一考察静岡大学紀要(14), 15-22, 2018-02
- ・吉澤浩一. 「サービス等利用計画(計画相談支援)」と「個別支援計画(障害福祉サービス)」と

- の有機的な連携実践(特集 障害者のある人の地域生活支援と「相談支援」:ソーシャルワークとしての「相談支援」を考える, 日本精神保健福祉協会誌46(2), 100-102, 2015-06
- ・安梅勅江, 他. ケアマネジメント専門誌評価モデル試案の妥当性と信頼性および社会福祉士の自己評価の特徴, 老年社会学, 20(1), 1998
 - ・ケアマネジメント過程の質を評価する尺度の開発—デルファイ調査と信頼性・妥当性の検討, 日本公衆衛生学会雑誌46(1), 2001
 - ・在宅ケアマネジメントの効果と評価指標に関する研究, 58(5), 2002
 - ・内田陽子. 在宅ケアの質・経済的評価とケア法の開発, 155-157, Kitano Med J56.2006
 - ・白澤政和. 高齢者福祉分野での成果と課題, 社会福祉学. 45-48, 第47巻第2号. 2006
 - ・介護保険サービス利用者のサービスに対する満足度尺度の妥当性および信頼性, 川崎医療福祉学会誌, 17(2), 2008
 - ・日本相談支援専門員協会. サービス等利用計画作成サポートブック, 2012
 - ・日本相談支援専門員協会. サービス等利用計画の評価指標に関する調査研究」報告書.2012
 - ・研2-1)ウヴェ・フリック. 小田博志監訳. 新版 質的研究入門 人間の科学のための方法論, 春秋社. 239頁. 2020
 - ・研2-2)厚生労働省. 障害福祉サービス等報酬改定検討チーム ヒアリング 第10回. ヒアリング資料1.3頁. 20200721
 - ・研2-3)白澤政和. ケアマネジメントの本質. 中央法規, 2, 918-22, 2018
 - ・研究2-4)介護保険法, e-Gov.
https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/ls/g0500/viewContents?lawId=409AC0000000123_20200401_501AC0000000009, 2020.07.013
 - ・研2-5)障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律e-Gov.
https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/ls/g0500/viewContents?lawId=417AC0000000123_20200401_430AC0000000044,2020.07.01
 - ・研2-6)野中猛. 多職種連携の技術. 中央法規, 108, 2014
 - ・研2-7)令和元年度老人保健健康増進等事業 ケアマネジメントの公正中立性を確保するための取組や質に関する指標のあり方に関する調査研究報告書, 医療経済研究機構, 172, 2020
 - ・研3-1)野中猛. 多職種連携の技術. 中央法規, 12. 31, 2014
- F. 健康危険情報**
本研究における健康危険情報はない。
- G.研究発表**
1. 論文発表 なし
 2. 学会発表 なし
- H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む.)**
1. 特許取得 なし
 2. 実用新案登録 なし
 3. その他 なし

【2020年度研究】

A. 研究目的

(1) 背景

ケアマネジメントはソーシャルワーク実践方法の一つである。その起こりは、1970年代のアメリカであり、当時の精神障害者の長期入院の状態は社会問題となっており、その「脱施設化」、つまり地域移行である。施設の中では、患者が生きていくために必要な医療、介護、生活支援等が包括的に提供される。他方、施設を出て地域で生活するためには、住宅の確保、移動方法の修得、生活備品の調達や毎日の生活、治療を受けることに至るまでのすべてを手配し、それが適切に提供され続けるようにする必要があった。このような地域で個々の精神障害者が自立した生活を行えるよう、複雑なサービスの調整を継続的に行う必要性が高まり、ケアマネジメントが活用されるようになった。

本邦では、1990年代に在宅介護支援センターにおいて高齢領域にケアマネジメントの方法を用いた高齢者支援が試行的に行われ、社会保障制度としては初めて2000（平成12）年に介護保険制度に、要介護高齢者等を対象とした生活支援の手法として、ケアマネジメントが取り入れられた。ケアマネジメントを専門に行う相談援助職として創設された資格である介護支援専門員は、有給でその業務を行う職種として介護サービスの計画作成、サービスの調整及び給付管理を担うよう位置づけられた。これが本邦におけるケアマネジメントとそれを専門に行う職種のはじまりである。

その後、障害者の地域生活への支援においても、サービス提供事業者を障害者自らが選択する障害者支援費制度が導入された。それに伴い、2002（平成14）年に厚生労働省によ

り示された障害者ケアガイドラインにおいて、障害当事者主体のケアマネジメントの必要性が明示された。2006（平成18）年に施行された障害者自立支援法においては、障害者への相談支援事業が法律上に規定されたことに伴い、「サービス利用計画作成費」として個別給付によるケアマネジメントの提供が制度化された。サービス利用計画作成費は、障害福祉サービスを利用する者の中でも、特に支援が必要な状況にある限られた者を対象としていた。そのため、すべての者は対象とならなかった。そこで希望するすべての者へケアマネジメントを提供することを目的に、2010（平成22）年の障害者自立支援法の改正により、計画相談支援及び障害児相談支援（以下「計画相談支援等」という。）が創設された。さらに、2015（平成27）年4月から「サービス利用計画作成費」は、すべての障害福祉サービス利用者へ適用されることとなった。それ以降、各市町村や計画相談支援等を担う事業者の努力により、2019（平成31）年3月までには計画相談支援等はケアマネジメントを希望するほぼ全ての障害者等に提供されるに至った。

各市町村において、計画相談支援等の体制整備への取組が進む中で、2016（平成28）年3月から7月にかけて、厚生労働省においては「相談支援の質の向上に向けた検討会（以下、「検討会」という）」が実施された。この検討会は、障害者への相談支援の質の向上を目指すものである。検討会では、相談支援専門員の資質向上と相談支援体制の整備の方向性について議論され、その内容がとりまとめられた。検討会のとりまとめでは、計画相談支援等（ケアマネジメント）の質を高める上で、利用者との信頼関係を構築し、新たなニーズや状況の変化に応じたニーズを見出すた

めには、モニタリングが継続的かつ定期的に実施されることが重要であることが示された。

本来、ケアマネジメントにおけるモニタリングとは、利用者の状況に応じ、ケアマネジメントを実施する専門職によるモニタリング実施の必要性の判断、もしくは利用者の求めにより行われるものである。介護保険制度における居宅介護支援では、省令第38号(支援)第13条において、モニタリング頻度は全ての要介護高齢者に対し、一律で、少なくとも1月に1回実施することが規定されている。

他方、計画相談支援等においては、利用している障害福祉サービス種別や支援の必要度によって規則により定められたモニタリング実施頻度の標準期間を勘案し、市町村により個別の利用者に応じたモニタリング頻度が決められる仕組みとなっている。

計画相談支援等においてモニタリングの重要性は以前から指摘されてきた。経過を振り返れば、2015(平成27)年3月に開催された障害保健福祉主管課長会議資料においては、きめ細かいモニタリングを実施する対象例が示された。しかし、その後も多くの市町村はモニタリング実施標準期間を客観的指標として、それに準じた頻度設定としてきた。そのため、計画相談支援等におけるモニタリングの平均は年に2回程度と低調であり、その結果として、利用者との関係性の構築、アセスメントの深化による適切なニーズの把握と支援の調整等、ケアマネジメントに期待される効果が十分に発揮されていない状況にあった。

大平は、計画相談支援の課題には複数あるが、特にモニタリング実施期間に関しては、2018(平成30)年報酬改定において、モニタリング実施標準期間の一部見直しを行ったこと、つまり頻度の高まりについて述べている[1]。

モニタリングは「継続的アセスメント」と称され、計画相談支援の全過程(ケアマネジメント・プロセス)に影響を与える。なぜならそれは提供された障害福祉サービス等の効果の検証、心身状態及び生活の質の悪化防止等予防的観点、新たな課題の出現の発見・ニーズ分析等を行うが、利用者や家族との信頼関係に基づく面接を基盤として継続的な情報収集・分析行う為であるためだ。適切なモニタリングは2回目以降に作成されるサービス等計画の精度を一層高め、適切なサービスは利用者の自立支援・生活の質の向上に資するものとなり、結果として制度が本来目指す適切な給付に繋がる。一方でモニタリングが不適切であれば計画相談支援全体の質は低下する。

2018(平成30)年報酬改定今般の報酬改定では計画相談支援におけるモニタリング機能の重要性を鑑み、計画相談支援の質の向上に資するモニタリング標準実施期間の見直しがなされたものといえる。

計画相談支援等は障害福祉サービス等が効果的にまた適正に利用されるための中核的役割を担っており、今後更なる計画相談支援等の質の向上が求められている。

本研究の初年度にあたる2019(令和1)年度の研究で明らかになったことは、次のとおりである。

計画相談支援等(ケアマネジメント)の質の評価指標(暫定版)をフォーカス・グループ・インタビューにおいて生成し、それを基盤として、モニタリング実践の実態把握を目的に、相談支援専門員、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の3職種16名を対象に半構造化インタビューを行った。

その結果、報酬改定のモニタリング実施頻度の高まりに関する効果として、①利用者、事業所との信頼関係の構築を礎にした計画相

談支援は、従前の事後報告の受領から将来予測に基づく予防的関与に至っていたこと、②定時モニタリングのほか、必要に迫られ支給決定対象外で行う随時モニタリングが行われている実態が浮かび上がった。

また、サービス事業所からみた質の高いモニタリングとは、利用者の個別性と状況に応じた対応と捉え、サービス事業所はこのようなモニタリングを求めている。2019（令和1）年度の研究からは、次期報酬改定に向けて『利用者の状況に応じた柔軟なモニタリングの必要性』が示唆された。

これら2019（令和1）年度における研究結果を踏まえ、2020（令和2）年には量的調査（全国の相談支援事業所を対象とする質問紙表を用いた横断的調査）を行うこととした。

（2）目的

1）本研究の目的

本研究は計画相談支援におけるモニタリング実施標準期間の改定に伴う効果を検証し、次期報酬改定に向けた見直しの検討を行う際のエビデンスの蓄積を行うことを2年の研究期間における研究全体の目的としている。

2）2019（令和1）年度研究の目的

1年目である2019（令和1）年度の研究では、①本研究の基盤となる「計画相談支援の質」の暫定的定義を目的にフォーカス・グループ・インタビューにより行うこと、②改定後間もないモニタリングの実施状況を浮き彫りにすることを目的に相談支援専門員、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者に半構造化インタビューを実施すること、③①及び②の結果を踏まえた質問紙票（2020（令

和2）年度実施予定の全国調査）を作成することであった。

3）2020（令和2）年度の目的

■仮説と目的の再設定

本研究は、当初、相談支援専門員が行うモニタリング実施頻度の高まりによる影響を調査し、次期報酬改定に向けた、最適のモニタリング実施頻度の提案を行うことであった。それは、平成30（2018）年度報酬改定により「モニタリング実施頻度が高まったことで、モニタリングの質は向上する」との仮説に基づくものであったが、2019（令和1）年度の研究結果から、モニタリングの実施頻度自体が質の向上に寄与したといえるだけの明確な結果は得られなかった。むしろ浮き彫りになったのは、モニタリング実施頻度の高まりをきっかけとした、相談支援専門員とサービス事業所との連携の増加、サービス担当者会議の開催頻度の増加、サービス担当者会議での医師との連携である。このような連携が強化されるなかで、サービス事業所は相談支援専門員を頼りにするようになっていった。

定期的に指定されたタイミングで行うモニタリングをきっかけに発展した、連携先が求める対象、状況、タイミングに応じて機動的かつ柔軟にモニタリングすること、つまり頻度よりもその実施方法こそ、今後強化すべきとの仮説がたてられた。とすれば明らかにすべきは、頻度よりも、モニタリングすべき対象、状況、タイミングであると考えられる。報酬改定により、相談支援専門員が、連携先が求めるタイミングを逃さず柔軟かつ機動的にモニタリング実施可能な環境を整備することが肝要であり、ひいてはそれが、ケアマネ

ジメントの質の向上に寄与するものと推定した。

上記の理由から2020（令和2）年度研究の仮説を変更し、研究の目的は、利用者や連携先がモニタリングを求める状況、対象、タイミング等を浮き彫りにし、相談支援専門員が行うべきモニタリングについて明らかにすることとした。

B. 研究の方法

1. 2020（令和2）年度の研究のデザイン

研究は、研究1.研究2.研究3で構成されている。研究は、研究番号の若い順に得られた結果を活かし、結論づけていくものである。そのため一つ一つの研究を独立させず、一括研究として行う。

研究1. 質問紙票による横断的調査
研究2. 次期報酬改定に向けたモニタリング実施方法、モニタリング実施頻度の検討
研究3. モニタリング実施項目の整理

(1) 複眼的視点から検討するための体制

本研究は、障害福祉サービスや相談支援専門員に関連する各団体の代表から構成される委員会を設置し、研究期間中に委員会を3回開催（その他電子メールでの確認等を含む）することとした。

委員会を設置した理由は、計画相談支援の対象者の年代は児童から高齢者まで幅が広く、多岐にわたる障害種別があり、それらに対応できる視点を備えるためである。幅広い視点と意見を踏まえ、モニタリングに関する効果を適切に検証できるよう、複眼的に研究行程を確認する体制をとった。委員会では、研究デザイン、研究の実行程の確認、行った調査の結果分析に対する意見、最終的にモ

ニタリング実施項目の整理を行った。委員会のメンバーは、各団体の委員（表1）と、研究代表者及び共同研究者から構成した。

表 1

日本相談支援専門員協会	推薦委員
全国児童発達支援協議会	推薦委員
日本知的障害者福祉協会	推薦委員
日本介護支援専門員協会	推薦委員
国立障害者リハビリテーションセンター	職員
県庁	職員
市役所	職員
ケアマネジメントの研究に精通したシクタクの職員	

委員会は、下記のとおり実施した。

第1回委員会：2020年7月28日

第2回委員会：2020年11月10日

第3回委員会：2021年2月22日

開催方法は、いずれも会場（国際医療福祉大学大学院東京赤坂キャンパス302/303）及びZoomによるハイブリッド方式。

2. 倫理的配慮

本研究は、国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：19-Ig-211）。

B1. 研究1. 質問紙票を用いた横断的調査

(1) 研究の考え方

計画相談支援における相談支援専門員のモニタリング実施の実態を捉えるためには、相談支援専門員本人はもとより、所属する法人や事業所の特性、また利用者の実態からみたモニタリングの観点が必要である。とはいえ、実際に利用者に対し調査票の記入を求めることは、利用者やその家族への負担となることから、利用者に関するモニタリング実施

状況に関し、相談支援専門員に回答を求めるものとした。そこで、質問紙調査票は、相談支援事業所票、相談支援専門員票、利用者情報票の3種とした。

調査の実施期間は、令和2年4月20(月)~令和2年6月3日(火)とした。

(2) 新型コロナウイルス感染症に伴う初めての緊急事態宣言の発令と、調査実施期間の重複に際しての配慮と工夫

研究1の調査期間は、2020(令和2)年4月の緊急事態宣言の期間と重複する。調査協力者の調査票回答に対する負担感の軽減を図る必要性と、研究計画時点において見込んだ回収率の達成の困難さが予想されることから、下記の追加対策を行うこととした。

① 回収期限の延長：

<当初>5月20日

<変更後>6月3日※到着遅延分の最終受領は6月9日

② 督促はがきの発送：5月下旬時点の回収数を確認し、発送の是非を判断する。

※結果として当初見込みの回収率を確保できたことから、督促はがきの発送は行わなかった。

(4) 調査対象ごとの調査の方法

研究1の法

1) 相支援事業所調査

計画相談支援事業所の管理者宛に事業所調査票(1票)を郵送配布・回収する。配布先は全国の計画相談支援(指定特定・指定障害児)事業所10,202件(平成31年4月1日現在)のうち、有効回収数を1000件、回収率30%想定とし、系統抽出法にて3,330事業所を抽出する。調査は2020(令和2)年4月発送、6月上旬に回収する。分析は単純集計・クロス集計とし、更に統計学的分析を実施す

る。集計結果(速報)は7月下旬に委員会に報告し、考察に関し委員会の意見を交えて深め、8月末日途に報告書(速報版)を作成し、9月を目途に厚生労働省に報告書(速報版)を提出する。

2) 相談支援専門員調査

計画相談支援事業所の管理者宛に相談支援専門員票を配布し、事業所に従事するすべての相談支援専門員に調査票の記入を依頼する。但し、相談支援専門員は、2018(平成30)年4月以前にも相談支援専門員として業務を行っている者を対象とする(前職は当該事業所勤務であるかは問わない)。(全国の相談支援専門員の従事者数：26,219人(平成31年4月1日現在))

3) 相談支援専門員に対する利用者調査

利用者情報票は、相談支援専門員が担当する利用者であって、2020(令和2)年3月に計画相談支援を利用している者のサービス利用に関する情報を、相談支援専門員が記入するものである。相談支援専門員一人につき、モニタリング実施標準期間の変更になった利用者のうち、五十音順に早い利用者3名を抽出する。利用者票において収集する情報は、障害種別、年齢構成区分、障害支援区分、モニタリング頻度の実態(変化)、事例の状況、利用サービス、得られた成果、支援チームの形成状況等で、個人を特定できない情報とする。

B2. 研究 2. 次期報酬改定に向けた重点的にモニタリングを行う例の検討

2020年（令和2年）7月下旬に委員会を開催し、研究1の調査結果の速報、及び2019年度研究の結果を踏まえ、次期報酬改定に向けたモニタリングのあり方について意見を交換すると共に検討し、同年8月下旬を目途に報告書（速報版）を作成する。

2020（令和2）年11月に委員会を開催し、重点的にモニタリングを行う例について検討し、整理する。

B3. 研究 3. モニタリング実施項目の整理

2019年度の質的研究及び2020年度の量的研究の結果と、委員会における意見をもとに、実施すべきモニタリング項目を整理する。

C. 研究結果

C1. 質問紙票による横断的調査の結果

下記に質問紙票による横断的調査として、調査1. 相談支援事業所を対象とした調査結果、調査2. 相談支援専門員を対象とした調査結果、調査3. 利用者調査の結果を示す。

調査対象等

- ・調査対象：計画相談支援（指定特定・指定障害児）事業所、及び所属する相談支援専門員
- ・抽出方法：47都道府県の全事業所（8,011事業所）から系統抽出法で抽出
- ・標本数：3,330事業所

表2 調査種別と有効回収数：

調査種別	回答者	有効回答数
事業者票	管理者又は事業所の管理・運営者	1,111事業所 (有効回収率33.4%)
相談支援専門員票	事業所に所属する全ての相談支援専門員	2,212人 (相談支援専門員数)
利用者情報票	モニタリング実施標準期間改定の対象となった利用者を担当する相談支援専門員 ※相談支援専門員1人につき利用者3名まで	4,927人 (利用者数)

調査結果の見方

調査結果の集計表は、原則として上段：回答度数（当該選択肢に回答した事業所数や人数）、下段：各質問の「調査数」を基数（n）とした百分率（%）で表し、小数第2位を四捨五入している。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。また、2つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が100%を超える場合がある。

実数値を記入する質問については、「無回答」を除いて算出した主な基本統計量（平均値・最大値・最小値・標準偏差）も掲載している。

事業者票

計画相談支援の活動状況

2019年9月時点における計画相談支援の活動状況では、「活動中」が97.6%となっている。

表 3 計画相談支援の活動状況 (2019年9月時点)

調査数	活動中	休止中、廃止	当該サービスを実施していない
1111	1084	19	8
100.0	97.6	1.7	0.7

事業者の運営法人【設問1】

事業者の運営法人

事業者の運営法人は、「社会福祉法人(社会福祉協議会以外)」(50.5%)が5割を占めて最も割合が高く、次いで「営利法人(株式・合名・合資・合同会社)」(15.7%),「特定非営利活動法人(NPO)」(12.4%)がそれぞれ1割台で続いている。

表 4 事業者の運営法人

調査数	都道府県、市区町村、広域連合、都道府県、一部事務組、合	社会福祉協議会	社会福祉法人(社会福祉協議会以外)	医療法人	営利法人(株式・合資・合同会社)	特定非営利活動法人(NPO)	その他の法人	無回答
1111	41	91	561	47	174	138	48	11
100.0	3.7	8.2	50.5	4.2	15.7	12.4	4.3	1.0

事業者の設置法人（運営法人と異なる場合）

事業者の設置法人と運営法人が異なる場合（委託、指定管理等）の設置法人の種別についてたずねたところ、94.4%が「無回答」（設置法人と運営法人が同一）であった。

設置法人と運営法人が異なる場合の設置法人では「都道府県，市区町村，広域連合，一部事務組合」（4.6%）の割合が最も高い。

事業所の相談支援専門員の配置状況【設問2】

2019年9月時点において事業所に配置されていた相談支援専門員について、相談支援専門員ごとに、常勤・非常勤の別と、配属事業の種別についてたずねた（記入欄10人分）。

回答があった相談支援専門員数は全体で2,534人であり、うち常勤が2,181人（全体の86.1%）、非常勤が353人（同 13.9%）であった。

事業種別は全体では「指定特定相談支援」（93.7%）、「指定障害児相談支援」（64.6%）、「指定一般相談支援」（41.9%）の順で割合が高い。

常勤・非常勤別にみると、常勤は非常勤に比べて「指定一般相談支援」（常勤：44.1%、非常勤：28.3%）や「障害者相談支援事業」（常勤：26.6%、非常勤：11.0%）等の割合が高くなっている。

表 5 事業所の相談支援専門員の配置状況（複数回答）

		調査数	指定特定相談支援	指定一般相談支援	指定障害児相談支援	自立生活援助	障害者相談支援事業	基幹相談支援センター	居宅介護支援	地域活動支援センター	生活困窮者自立相談支援事業	その他障害福祉サービス等
全体		2534 100.0	2374 93.7	1062 41.9	1636 64.6	74 2.9	619 24.4	173 6.8	77 3.0	134 5.3	4 0.2	283 11.2
常勤・非常勤別	常勤	2181 100.0	2055 94.2	962 44.1	1410 64.6	65 3.0	580 26.6	165 7.6	64 2.9	122 5.6	4 0.2	222 10.2
	非常勤	353 100.0	319 90.4	100 28.3	226 64.0	9 2.5	39 11.0	8 2.3	13 3.7	12 3.4	-	61 17.3

サービス等利用計画・障害児支援利用計画の作成件数等【設問3】

2018年9月時点の作成件数等

相談支援専門員数（2018年9月時点）

2018年9月時点における事業所ごとの相談支援専門員数は、「1~3人」（74.1%）が7割を超えて最も割合が高く、平均2.30人となっている。

表 6 相談支援専門員の員数（2018年9月時点）

	調査数	いない（0人）	1人	4人	7人	10人以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
相談支援専門員の員数	1103 100.0	38 3.4	817 74.1	159 14.4	18 1.6	7 0.6	64 5.8	1039 100.0	2.30	2.18	0	44

サービス等利用計画（2018年9月時点）

2018年9月時点におけるサービス等利用計画のうち、サービス利用支援の契約件数は、「1~5件」（29.8%）の割合が最も高く、次いで「21件以上」（17.8%）、「6~10件」（15.4%）となっており、1~10件で45.2%を占めている。平均は18.22件であった。

継続サービス利用支援の契約件数は、「21件以上」（35.6%）の割合が最も高く、平均30.52件であった。

契約者総数は、「101人以上」（28.7%）の割合が最も高く、次いで「1~20人」（15.0%）、「21~40人」（12.5%）、「41~60人」（10.2%）となっており、平均92.07人であった。

表 7 サービス等利用計画（2018年9月時点） サービス利用支援の契約件数

	調査数	なし（0件）	1~5件	6~10件	11~15件	16~20件	21件以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
サービス利用支援	1103 100.0	125 11.3	329 29.8	170 15.4	83 7.5	61 5.5	196 17.8	139 12.6	964 100.0	18.22	41.88	0	548

表 8 サービス等利用計画（2018年9月時点） 継続サービス利用支援の契約件数

	調査数	なし（0件）	1~5件	6~10件	11~15件	16~20件	21件以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
継続サービス利用支援	1103 100.0	85 7.7	158 14.3	137 12.4	111 10.1	89 8.1	393 35.6	130 11.8	973 100.0	30.52	58.15	0	880

表 9 サービス等利用計画（2018年9月時点） 契約者総数

	調査数	いない（0人）	1~20人	21~40人	41~60人	61~80人	81人以上	10人以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
契約者総数	1103 100.0	64 5.8	165 15.0	138 12.5	113 10.2	103 9.3	85 7.7	317 28.7	118 10.7	985 100.0	92.07	98.95	0	810

障害児支援利用計画（2018年9月時点）

2018年9月時点における障害児支援利用計画のうち、障害児支援利用援助の契約件数では、「なし（0件）」（30.4%）及び「無回答」（30.0%）といった障害児支援利用計画を行っていないと想定される事業所が全体の60.4%を占めており、次いで「1~5件」（22.5%）となっている。平均は8.17件であった。

継続障害児支援利用援助の契約件数についても、「なし（0件）」（25.6%）・「無回答（30.6%）」で56.2%を占めており、次いで「1~5件」（16.8%）、「21件以上」（10.9%）となっている。平均は12.49件であった。契約者総数も、「いない（0人）」（20.0%）・「無回答」（27.8%）で47.8%を占めており、次いで「1~20人」（24.6%）となっている。平均は34.42人であった。

表 10 障害児支援利用計画（2018年9月時点）障害児支援利用援助の契約件数

	調査数	なし（0件）	1~5件	6~10件	11~15件	16~20件	21件以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
障害児支援利用援助	1103 100.0	335 30.4	248 22.5	78 7.1	30 2.7	25 2.3	56 5.1	331 30.0	772 100.0	8.17	28.04	0	344

表 11 障害児支援利用計画（2018年9月時点）継続障害児支援利用援助の契約件数

	調査数	なし（0件）	1~5件	6~10件	11~15件	16~20件	21件以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
継続障害児支援利用援助	1103 100.0	282 25.6	185 16.8	94 8.5	56 5.1	28 2.5	120 10.9	338 30.6	765 100.0	12.49	30.20	0	327

表 12 障害児支援利用計画（2018年9月時点）契約者総数

	調査数	いない（0人）	1~2人	2~4人	4~6人	6~8人	8~10人	10人以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
契約者総数	1103 100.0	221 20.0	271 24.6	98 8.9	60 5.4	41 3.7	22 2.0	83 7.5	307 27.8	796 100.0	34.42	60.24	0	514

2019年9月時点の作成件数等

相談支援専門員数（2019年9月時点）

2019年9月時点における事業所ごとの相談支援専門員数は、「1~3人」（75.9%）が7割を超えて最も割合が高く、平均2.44人（2018年9月時点との差：+0.14人）となっている。

表 13 相談支援専門員の員数（2019年9月時点）

	調査数	いない（0人）	1~3人	4~6人	7~9人	10人以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
相談支援専門員の員数	1103 100.0	3 0.3	837 75.9	166 15.0	22 2.0	10 0.9	65 5.9	1038 100.0	2.44	2.38	0	53

サービス等利用計画（2019年9月時点）

2019年9月時点におけるサービス等利用計画のうち、サービス利用支援の契約件数は、「1~5件」（31.5%）の割合が最も高く、次いで「21件以上」（18.0%）、「6~10件」（16.2%）となっており、1~10件で47.7%を占めている。平均は18.51件（2018年9月時点との差：+0.29件）であった。

継続サービス利用支援の契約件数は、「21件以上」（41.2%）の割合が最も高く、平均37.57件（同：+7.05件）であった。

契約者総数は、「101人以上」（29.9%）の割合が最も高く、次いで「1~20人」（16.1%）、「21~40人」（13.1%）、「41~60人」（10.7%）となっており、平均96.15人（同：+4.08人）であった。

表 14 サービス等利用計画（2019年9月時点）サービス利用支援の契約件数

	調査数	なし（0件）	1~5件	6~10件	11~15件	16~20件	21件以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
サービス利用支援	1103 100.0	96 8.7	347 31.5	179 16.2	92 8.3	59 5.3	199 18.0	131 11.9	972 100.0	18.51	46.87	0	874

表 75 サービス等利用計画（2019年9月時点）継続サービス利用支援の契約件数

	調査数	なし（0件）	1~5件	6~10件	11~15件	16~20件	21件以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
継続サービス利用支援	1103 100.0	43 3.9	136 12.3	146 13.2	111 10.1	90 8.2	454 41.2	123 11.2	980 100.0	37.57	84.02	0	1,467

表 86 サービス等利用計画（2019年9月時点）契約者総数

	調査数	いない（0人）	1~20人	21~40人	41~60人	61~80人	81~100人	101人以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
契約者総数	1103 100.0	20 1.8	178 16.1	144 13.1	118 10.7	108 9.8	95 8.6	330 29.9	110 10.0	993 100.0	96.15	98.92	0	800

障害児支援利用計画（2019年9月時点）

2019年9月時点における障害児支援利用計画のうち、障害児支援利用援助の契約件数では、「なし（0件）」（28.0%）及び「無回答」（29.4%）といった障害児支援利用計画を行っていないと想定される事業所が57.4%を占めており、次いで「1~5件」（23.9%）となっている。平均は8.82件（2018年9月時点との差：+0.65件）であった。

継続障害児支援利用援助の契約件数についても、「なし（0件）」（22.5%）・「無回答（29.6%）」で52.1%を占めており、次いで「1~5件」（18.9%）、「21件以上」（11.5%）となっており、平均13.72件（同：+1.23件）であった。

契約者総数も、「いない（0人）」（17.9%）・「無回答」（27.0%）で44.9%を占めており、次いで「1~20人」（25.3%）となっている。平均は37.92人（同：+3.50人）であった。

表 9 障害児支援利用計画（2019年9月時点）障害児支援利用援助の契約件数

	調査数	なし（0件）	1~5件	6~10件	11~15件	16~20件	21件以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
障害児支援利用援助	1103 100.0	309 28.0	264 23.9	87 7.9	33 3.0	17 1.5	69 6.3	324 29.4	779 100.0	8.82	28.37	0	342

表 108 障害児支援利用計画（2019年9月時点）継続障害児支援利用援助の契約件数

	調査数	なし（0件）	1~5件	6~10件	11~15件	16~20件	21件以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
継続障害児支援利用援助	1103 100.0	248 22.5	209 18.9	105 9.5	53 4.8	35 3.2	127 11.5	326 29.6	777 100.0	13.72	32.41	0	319

表 19 障害児支援利用計画（2019年9月時点）契約者総数

	調査数	いない（0人）	1~20人	21~30人	31~40人	41~50人	51~60人	61~70人	71~80人	81人以上	無回答	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
契約者総数	1103 100.0	197 17.9	279 25.3	106 9.6	60 5.4	46 4.2	23 2.1	94 8.5	298 27.0	805 100.0	37.92	64.34	0	598		

調査2. 相談支援専門員票

担当利用者数・モニタリング実施数（2019年4～9月）【設問1】

担当している利用者数

2019年4～9月の担当利用者数は、各月とも「51人以上」が25～27%前後で最も割合が高く、次いで「1～10人」が20～22%前後、「11～20人」が14～15%前後の順となっており、平均も36～38人前後と月度ごとに大きな違いは見られない。

表 20 担当している利用者数（2019年4～9月）

	調査数	いない (0人)	1 5 10人	1 5 20人	2 5 30人	3 5 40人	4 5 50人	5 1人以上	無回答	除く調査数 (無回答)	平均	標準偏差	最小値	最大値
2019年4月	2212 100.0	129 5.8	476 21.5	337 15.2	250 11.3	189 8.5	169 7.6	564 25.5	98 4.4	2114 16.6	36.09	36.03	0	324
2019年5月	2212 100.0	115 5.2	490 22.2	332 15.0	259 11.7	179 8.1	166 7.5	570 25.8	101 4.6	2111 16.6	36.27	36.35	0	324
2019年6月	2212 100.0	111 5.0	451 20.4	318 14.4	276 12.5	203 9.2	178 8.0	578 26.1	97 4.4	2115 16.6	37.15	36.15	0	325
2019年7月	2212 100.0	105 4.7	483 21.8	339 15.3	256 11.6	184 8.3	170 7.7	587 26.5	88 4.0	2124 16.7	36.94	36.37	0	325
2019年8月	2212 100.0	95 4.3	484 21.9	347 15.7	254 11.5	180 8.1	179 8.1	589 26.6	84 3.8	2128 16.7	37.14	36.43	0	327
2019年9月	2212 100.0	84 3.8	467 21.1	314 14.2	287 13.0	191 8.6	198 9.0	604 27.3	67 3.0	2145 16.8	38.14	36.33	0	327

モニタリング実施数

2019年4～9月のモニタリング実施の利用者数は、各月とも「1～5人」が22～30%前後で最も割合が高く、次いで「6～10人」が20～22%前後と上位1・2位は変わらないが、6月・9月は他の月に比べて「21人以上」の割合が高く（6月：15.2%、9月：19.0%）、平均実施数（6月：10.94人、9月12.51人）も10人以上と高くなっている。

表 21 モニタリング実施の利用者数（2019年4～9月）

	調査数	いない (0人)	1 5 人	6 5 10人	1 5 15人	1 6 20人	2 1人以上	無回答	除く調査数 (無回答)	平均	標準偏差	最小値	最大値
2019年4月	2212 100.0	224 10.1	671 30.3	497 22.5	343 15.5	191 8.6	195 8.8	91 4.1	2121 16.5	9.04	8.31	0	73
2019年5月	2212 100.0	198 9.0	680 30.7	493 22.3	347 15.7	200 9.0	208 9.4	86 3.9	2126 16.6	9.18	8.05	0	55
2019年6月	2212 100.0	188 8.5	575 26.0	448 20.3	327 14.8	253 11.4	336 15.2	85 3.8	2127 16.6	10.94	9.59	0	100
2019年7月	2212 100.0	196 8.9	624 28.2	516 23.3	355 16.0	225 10.2	225 10.2	71 3.2	2141 16.7	9.59	8.22	0	48
2019年8月	2212 100.0	175 7.9	654 29.6	505 22.8	366 16.5	226 10.2	213 9.6	73 3.3	2139 16.7	9.50	8.09	0	52
2019年9月	2212 100.0	139 6.3	507 22.9	469 21.2	370 16.7	259 11.7	421 19.0	47 2.1	2165 16.9	12.51	10.70	0	84

モニタリング実施標準期間改定の対象になった利用者数（2019年4～9月）【設問2】

2019年4～9月に担当していた利用者のうち、平成30年度報酬改定でモニタリング実施標準期間の改定の対象となった利用者数は「1～5人」（37.9%）の割合が最も高く、次いで「0人」（23.8%）、「6～10人」（14.9%）となっており、1～10人で52.8%を占めている。平均は12.12人であった。

表 22 モニタリング実施標準期間改定の対象になった利用者数（2019年4～9月）

調査数	0人	1～5人	6～10人	11～15人	16～20人	21～25人	26～30人	31～35人	36～40人	除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
2212 100.0	527 23.8	839 37.9	329 14.9	141 6.4	72 3.3	53 2.4	102 4.6	149 6.7	2063 100.0	12.12	20.03	0	277	

「利用者情報票」の提出部数【設問3】

本調査では、相談支援専門員ごとに、2019年4～9月に担当していた利用者のうち、平成30年度報酬改定でモニタリング実施標準期間の改定の対象となった利用者から原則3名まで抽出し、「利用者情報票」の提出を依頼した。なお、2019年4～9月の間に、児童で実施標準期間よりも短縮したケースがある場合には、3名のうち1名は児童を含めることとした。利用者情報票を1部以上提出した相談支援専門員の割合は、児童分18.2%、一般分67.5%であった。

表 23 「利用者情報票」の提出部数

	調査数	なし（0部）	1部	2部	3部	4部以上	無回答	答除く調査数（無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値
児童	2212 100.0	792 35.8	282 12.7	46 2.1	74 3.3	3 0.1	1015 45.9	1197 100.0	0.5	1.3	0	26
一般	2212 100.0	359 16.2	225 10.2	318 14.4	938 42.4	11 0.5	361 16.3	1851 100.0	2.1	1.8	0	31

2018年3月末時点での所属と契約利用者数【設問4】

2018年3月末時点で現在の事業所に所属していた人が75.3%を占めている。2018年3月末時点で現在の事業所に所属していた人に当該時点での契約利用者数をたずねたところ、「1~20人」と「21~40人」が各18.5%で最も割合が高く、次いで「101人以上」（17.7%）となっており、平均64.92人であった。

表 24 2018年3月末時点で現在の事業所に所属状況と契約利用者数

調査数	はい たい （所属して）	いい なえ か （所属し）	無回答							除調査数 （無回答）	平均	標準偏差	最小値	最大値	
2212 100.0	1666 75.3	531 24.0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			1 5 2 0 人	2 1 5 4 0 人	4 1 5 6 0 人	6 1 5 8 0 人	8 1 5 1 0 0 人	1 0 1 人 以上	無回答						
1666 100.0	68 4.1	308 18.5	308 18.5	228 13.7	202 12.1	151 9.1	295 17.7	106 6.4	1560 100.0	64.92	63.59	0	505		

相談支援専門員の基本属性（2019年9月時点）【設問5】

相談支援専門員の性別

相談支援専門員の性別は、「女性」（54.1%）が5割強を占めている。

表 11 相談支援専門員の性別

調査数	男性	女性	無回答
2212 100.0	638 28.8	1197 54.1	377 17.0

相談支援専門員の年齢

相談支援専門員の年齢は、「40代」(36.4%)の割合が最も高く、次いで「30代」(24.1%)、「50代」(22.0%)となっている。

表 26 相談支援専門員の年齢

調査数	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
2212	60	534	806	486	255	28	43
100.0	2.7	24.1	36.4	22.0	11.5	1.3	1.9

相談支援専門員としての経験年数

相談支援専門員としての経験年数は、「4~6年」(34.0%)と「1~3年」(33.4%)がそれぞれ3割強と高く、平均4.27年であった。

表 127 相談支援専門員としての経験年数

調査数	1年未満	1~3年	4~6年	7~9年	10年以上	無回答	調査数(無回答除く)	平均	標準偏差	最小値	最大値
2212	208	738	751	276	134	105	2107	4.27	3.12	0	20
100.0	9.4	33.4	34.0	12.5	6.1	4.7	100.0				

管理者であるか

管理者の割合は22.5%であった。

表 138 管理者であるか

調査数	はい(管理者である)	いいえ(管理者ではない)	無回答
2212	498	1648	66
100.0	22.5	74.5	3.0

相談支援専門員の保有資格等

保有資格について複数回答でたずねたところ、「介護福祉士」(40.2%)の割合が最も高く、次いで「社会福祉士」(36.6%)、「介護支援専門員」(21.9%)、「精神保健福祉士」(21.0%)、「ホームヘルパー」(19.2%)となっている。

表 149 相談支援専門員の保有資格等（複数回答）

調査数	社会福祉士	精神保健福祉士	介護福祉士	看護師（准看護師）	保健師	介護支援専門員	ホームヘルパー	理学療法士	作業療法士	その他	無回答
2212	809	465	889	49	15	485	425	1	12	370	219
100.0	36.6	21.0	40.2	2.2	0.7	21.9	19.2	0.0	0.5	16.7	9.9

調査3. 利用者情報票

利用者に関する基本情報（2019年9月1日時点）【設問1】

利用者の年齢

利用者の年齢は、「40代」・「50代」が各18.2%で最も割合が高く、次いで「~19歳以下」(15.9%)、「20代」(15.3%)となっており、平均40.69歳であった。

表30 利用者の年齢

調査数	5 1 9 歳 以下	2 0 代	3 0 代	4 0 代	5 0 代	6 0 代	7 0 代	8 0 歳 以上	無 回 答	答 調 査 数 （ 無 回 答 ）	平 均	標 準 偏 差	最 小 値	最 大 値
4927 100.0	785 15.9	755 15.3	654 13.3	896 18.2	896 18.2	664 13.5	192 3.9	39 0.8	46 0.9	4881 100.0	40.69	18.83	0	97

利用者の性別

利用者の性別は、「男性」(57.1%)が「女性」(41.7%)を上回っている。

表31 利用者の性別

調査数	男 性	女 性	無 回 答
4927 100.0	2815 57.1	2053 41.7	59 1.2

障害支援区分

利用者の障害支援区分は、「区分6」(17.9%)、「区分3」(16.9%)、「区分2」(15.4%)の順となっている。

表32 障害支援区分

調査数	1	2	3	4	5	6	区 分 な し	無 回 答
4927 100.0	92 1.9	758 15.4	834 16.9	691 14.0	580 11.8	881 17.9	265 5.4	826 16.8

障害種別

利用者の障害種別は、「知的」(48.0%)が5割弱と最も割合が高く、次いで「身体」(27.3%)、「精神」(24.4%)となっている。

身体障害の内容では「肢体不自由」(63.0%)が6割強と最も割合が高く、次いで「視覚」(20.3%)となっている。

表33 障害種別 (複数回答)

調査数	身体	知的	精神	発達	重症心身	難病	無回答
4927	1347	2364	1200	325	232	237	96
100.0	27.3	48.0	24.4	6.6	4.7	4.8	1.9

↓

調査数	視覚	聴覚	肢体不自由	内部障害	無回答
1347	273	91	849	81	129
100.0	20.3	6.8	63.0	6.0	9.6

計画相談支援開始以前からの関わりの有無

利用者情報票に回答している相談支援専門員と利用者との間に計画相談支援開始以前から関わりがあった割合は36.4%であり、関わりの内容では、サービス提供等の直接支援での関わりと想定される「その他」(51.8%)が5割強と最も割合が高く、次いで「障害者相談支援事業」(34.5%)となっている。

表34 計画相談支援開始以前からの関わりの有無

調査数	有	無	無回答
4927	1791	2914	222
100.0	36.4	59.1	4.5

↓

調査数	障害者相談支援事業	地域移行支援	その他	無回答
1791	617	30	928	216
100.0	34.5	1.7	51.8	12.1

紹介経路

事業所への紹介経路は、「行政」(28.3%)の割合が最も高く、次いで「サービス事業所」(18.0%)、「家族」(17.3%)、「施設」(10.5%)となっている。

表35 紹介経路

調査数	本人	家族	行政	施設	医療機関	サービス事業所	学校	地域住民	その他	無回答
4927	282	852	1393	518	303	889	144	13	250	283
100.0	5.7	17.3	28.3	10.5	6.1	18.0	2.9	0.3	5.1	5.7

事業所としての契約年月

事業所としての契約年月は、「2013～2015年」(30.1%)の割合が最も高く、次いで「2016～2018年」(25.9%)となっている。

表36 事業所としての契約年月

調査数	2013～2015年	2016～2018年	2019年以降	無回答		
4927	26	138	1484	1274	320	1685
100.0	0.5	2.8	30.1	25.9	6.5	34.2

利用者に関わった期間 (2019年9月時点)

利用者情報票に回答している相談支援専門員が利用者に関わった期間(2019年9月時点)は、「1～3年」(47.9%)が5割弱と最も割合が高く、次いで「4～6年」(21.8%)となっている。

表37 利用者と相談支援専門員との関わりの期間 (2019年9月時点)

調査数	1年未満	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上	無回答
4927	290	2359	1072	111	70	1025
100.0	5.9	47.9	21.8	2.3	1.4	20.8

モニタリング実施標準期間が変更となった項目のうち、2019年9月時点で利用していたサービス
【設問2】

利用者が平成30年報酬改定で計画相談支援等のモニタリング実施標準期間が変更となった項目のうち、2019年9月時点で利用していたサービスは、「居宅介護」(40.0%)が4割と最も割合が高く、次いで「短期入所」(29.2%)、「障害者支援施設」(19.2%)となっている。

表 15 モニタリング実施標準期間が変更となった項目のうち、2019年9月時点で利用していたサービス
(複数回答)

調査数	居宅介護	行動援護	同行援護	重度訪問介護	就労定着支援	自立訓練	就労移行支援	短期入所	自立生活援助	同生活援助	日中サービス支援型共	のぞみの園	障害者支援施設	療養介護	重度障害者等包括支援	無回答
4927	1972	188	217	84	80	113	273	1438	54	122	2	946	108	4	489	
100.0	40.0	3.8	4.4	1.7	1.6	2.3	5.5	29.2	1.1	2.5	0.0	19.2	2.2	0.1	9.9	

モニタリング実施頻度【設問3】

モニタリング実施回数

当該利用者に対するモニタリングの実施回数を、2018・2019年(4~9月)で比較すると、2019年は「1回」(40.4%)・「2回」(39.2%)がそれぞれ4割を占めており、2018年と比べて「なし(0回)」や「1回」の割合が減少し、「2回」等の複数回実施の割合が増加している。平均値で比較すると2018年1.4回から2019年2.0回に増加している。

表 16 モニタリング実施回数

	調査数	なし(0回)	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答	調査数(無回答除く)	平均	最小値	最大値
2019年4月~9月	4927	119	1992	1933	370	213	269	31	4896	2.0	0	28
	100.0	2.4	40.4	39.2	7.5	4.3	5.5	0.6	52.2			
2018年4月~9月	4927	596	2761	672	175	97	177	449	4478	1.4	0	28
	100.0	12.1	56.0	13.6	3.6	2.0	3.6	9.1	47.8			

自治体が支給決定したモニタリング回数

当該利用者に対し自治体が支給決定したモニタリング回数を、2018・2019年（4～9月）で比較すると、実施回数と同様に、2019年は「1回」（38.3%）・「2回」（41.9%）がそれぞれ4割前後を占めており、2018年と比べて「なし（0回）」や「1回」の割合が減少し、「2回」等の複数回の割合が増加している。平均値で比較すると2018年1.4回から2019年1.9回に増加している。

表 40 自治体が支給決定したモニタリング回数

	調査数	なし （0回）	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回以上	無 回答	答 調 除 査 く 数 （ 無 回	平 均	最 小 値	最 大 値
2019年4月～9月	4927 100.0	104 2.1	1889 38.3	2062 41.9	322 6.5	230 4.7	229 4.6	91 1.8	4836 52.3	1.9	0	15
2018年4月～9月	4927 100.0	534 10.8	2739 55.6	719 14.6	167 3.4	93 1.9	152 3.1	523 10.6	4404 47.7	1.4	0	15

理想だと思うモニタリング回数

当該利用者に対して理想だと思うモニタリング回数を、2018・2019年（4～9月）で比較すると、実施回数や支給決定回数と同様に、2019年は「1回」（39.8%）・「2回」（36.4%）がそれぞれ4割程度を占めており、2018年と比べて「なし（0回）」や「1回」の割合が減少し、「2回」等の複数回の割合が増加している。

平均値で比較すると2018年1.6回から2019年2.0回に増加している。

表 17 理想だと思うモニタリング回数

	調査数	なし （0回）	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回以上	無 回答	調 査 数	平 均	最 小 値	最 大 値
2019年4月～9月	4927 100.0	73 1.5	1963 39.8	1792 36.4	402 8.2	212 4.3	284 5.8	201 4.1	4726 52.9	2.0	0	13
2018年4月～9月	4927 100.0	361 7.3	2302 46.7	997 20.2	248 5.0	115 2.3	190 3.9	714 14.5	4213 47.1	1.6	0	12

自治体の支給決定回数と理想だと思う回数の比較

前出の「自治体の支給決定回数」と「理想だと思う回数」について比較したところ、全体の30.8%が、2018年・2019年いずれかが自治体の支給決定回数と理想だと思う回数が異なっていた。

表42 自治体の支給決定回数と理想だと思う回数の比較

調査数	と支給回数 が異なる 回数	2018年・ 2019年 自治体 理想 回数	それ 以外
4927	1519	3408	
100.0	30.8	69.2	

モニタリングの実施・支給決定・理想回数に乖離が生じた理由【設問4】

設問3のモニタリング実施回数・自治体支給決定回数・理想だと思う回数に乖離が生じた理由は、「自治体の判断」(32.2%)の割合が最も高く、次いで「業務多忙で対応困難」(20.4%)、「その他」(18.8%)、「利用者が望まない」(11.5%)の順となっている。

表 43 モニタリングの実施・支給決定・理想回数に乖離が生じた理由

調査数	自治体の判断	業務多忙で 対応困難	利用者が望まない	その他	無回答
1519	489	310	175	286	259
100.0	32.2	20.4	11.5	18.8	17.1

モニタリング実施状況【設問5】

本人以外のモニタリング対象

当該利用者本人以外のモニタリング対象は、「サービス事業所」(89.5%)が最も割合が高く、9割を占めている。

表 18 本人以外のモニタリング対象

調査数	サービス事業所	関係機関	その他	無回答
4927	4408	326	104	89
100.0	89.5	6.6	2.1	1.8

直近のモニタリング所要時間

直近のモニタリング所要時間は、「1時間未満」(49.6%)が5割と最も割合が高く、次いで「30分未満」(37.6%)となっており、これらを合計すると1時間未満が87.2%を占めている。

表 19 直近のモニタリング所要時間

調査数	30分未満	1時間未満	2時間未満	3時間未満	3時間以上	無回答
4927	1852	2444	500	42	25	64
100.0	37.6	49.6	10.1	0.9	0.5	1.3

主なモニタリング実施場所

主なモニタリング実施場所は、「自宅訪問(グループホーム、障害者支援施設を含む)」(64.2%)が6割を超えて最も割合が高く、次いで「サービス事業所」(24.2%)となっている。

表 46 主なモニタリング実施場所

調査数	自宅訪問(グループホーム、障害者支援施設を含む)	来所	サービス事業所	病院	関係機関	学校	電話・FAXのみ	その他	無回答
4927	3164	310	1193	58	44	12	73	33	40
100.0	64.2	6.3	24.2	1.2	0.9	0.2	1.5	0.7	0.8

主なモニタリング実施場所までの片道移動時間

前出の主なモニタリング実施場所までの片道の移動時間は、「15分未満」(45.4%)の割合が最も高く、次いで「30分未満」(36.9%)となっており、これらを合計すると30分未満が82.3%を占めている。

表 47 主なモニタリング実施場所までの片道移動時間

調査数	15分未満	30分未満	45分未満	60分未満	60分以上	無回答
4927	2239	1817	488	178	57	148
100.0	45.4	36.9	9.9	3.6	1.2	3.0

報酬改定以降のモニタリング実施に合わせたサービス担当者会議の実施

平成30年報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことが「ある」との回答が47.7%を占めている。その際の平均的な所要時間（日程調整・記録含む）は、「31～60分」(43.5%)の割合が最も高く、次いで「～30分」(22.0%)となっており、これらを合計すると60分以下が65.5%を占めているが、「61～90分」(14.4%)や「91～120分」(11.7%)等の60分を超える時間をかけている層も33.5%を占めており、平均72.62分であった。

表 48 報酬改定以降のモニタリング実施に合わせたサービス担当者会議の実施状況

調査数	あり	なし	無回答
4927	2351	2540	36
100.0	47.7	51.6	0.7

↓

調査数	530分	31560分	61590分	911920分	1211分以上	無回答	調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
2351	518	1023	339	274	175	22	2329	72.62	49.89	5	500
100.0	22.0	43.5	14.4	11.7	7.4	0.9	100.0				

報酬改定以降のサービス提供時モニタリングの実施

平成30年報酬改定以降、サービス提供時モニタリングを実施したことが「ある」との回答が59.0%を占めている。その際の平均的な所要時間（日程調整・実施後の記録含む）は、「～30分」(38.8%)・「31～60分」(36.3%)の割合がそれぞれ4割弱と高く、これらを合計すると60分以下が75.1%を占めており、平均61.86分であった。

表 20 報酬改定以降のサービス提供時モニタリングの実施状況

調査数	あり	なし	無回答
4927	2908	1868	151
100.0	59.0	37.9	3.1

↓

調査数	530分	31560分	61590分	911920分	1211分以上	無回答	調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
2908	1127	1055	293	240	118	75	2893	61.86	52.36	5	960
100.0	38.8	36.3	10.1	8.3	4.1	2.6	100.0				

モニタリング実施標準期間の改定による影響【設問6】

当該利用者に関するモニタリング実施標準期間改定による影響として相談支援専門員が感じている印象を、下記の28項目別にたずねた。

「そう思う」の割合が50%以上の項目は、「(3) 本人が相談支援専門員の顔を覚えてくれた」(59.4%)、「(5) 本人から親近感をもってもらえるようになった」(55.9%)、「(13) サービス事業所からの情報提供が増えた」(52.9%)、「(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」(63.1%)、「(18) 相談支援専門員が、利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(57.2%)、「(21) 利用者の成長(変化)がみえるようになった」(57.0%)の6項目であった。

一方、「そう思わない」の割合が50%以上の項目は、「(1) 本人から制度について聞かれることが増えた」(83.0%)、「(2) 家族から制度について聞かれることが増えた」(60.0%)、「(7) 本人から不安を訴える電話が減った」(78.1%)、「(8) 家族から不安を訴える電話が減った」(64.5%)、「(9) 自宅を訪問しやすくなった」(51.8%)、「(10) 本人にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(71.1%)、「(11) 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(50.3%)、「(15) サービス事業所からの相談が増えた」(62.5%)、「(16) 以前よりサービス担当者会議を行うようになった」(73.2%)、「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(53.0%)、「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(69.8%)、「(23) サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービスに近づいた」(63.0%)、「(24) モニタリング回数が増え、利用者がストレスを感じるようになった」(84.0%)、「(25) モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった」(67.7%)、「(26) 変化のないケースでは、変化がないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い」(68.7%)、「(27) サービス管理責任者等が忙しくなったようだ」(61.4%)、「(28) 請求事務が大変になった」(64.6%)の17項目であった。

表 50 モニタリング実施標準期間の改定による影響

	調査数	そう思う	そう思わない	家族はいない	無回答
(1) 本人から制度について聞かれることが増えた	4927 100.0	636 12.9	4089 83.0	- -	202 4.1
(2) 家族から制度について聞かれることが増えた	4927 100.0	1028 20.9	2954 60.0	743 15.1	202 4.1
(3) 本人が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	4927 100.0	2927 59.4	1824 37.0	- -	176 3.6
(4) 家族が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	4927 100.0	2278 46.2	1698 34.5	754 15.3	197 4.0
(5) 本人から親近感をもってもらえるようになった	4927 100.0	2756 55.9	1991 40.4	- -	180 3.7
(6) 家族から親近感をもってもらえるようになった	4927 100.0	2177 44.2	1798 36.5	758 15.4	194 3.9
(7) 本人からの不安を訴える電話が減った	4927 100.0	754 15.3	3846 78.1	- -	327 6.6
(8) 家族からの不安を訴える電話が減った	4927 100.0	726 14.7	3178 64.5	746 15.1	277 5.6

	調査数	そう思う	そう思わない	家族はいない	無回答
(9) 自宅に訪問しやすくなった	4927 100.0	2182 44.3	2553 51.8	- -	192 3.9
(10) 本人にサービス事業所との違いをわかってもらえた	4927 100.0	1207 24.5	3504 71.1	- -	216 4.4
(11) 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた	4927 100.0	1483 30.1	2477 50.3	755 15.3	212 4.3
(12) 親や家族に現状報告をしやすくなった	4927 100.0	2201 44.7	1772 36.0	755 15.3	199 4.0
(13) サービス事業所からの情報提供が増えた	4927 100.0	2608 52.9	2150 43.6	- -	169 3.4
(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた	4927 100.0	3111 63.1	1654 33.6	- -	162 3.3
(15) サービス事業所からの相談が増えた	4927 100.0	1681 34.1	3078 62.5	- -	168 3.4
(16) 以前よりサービス担当者会議を行うようになった	4927 100.0	1152 23.4	3607 73.2	- -	168 3.4
(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった	4927 100.0	2147 43.6	2611 53.0	- -	169 3.4
(18) 相談支援専門員が、利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった	4927 100.0	2816 57.2	1931 39.2	- -	180 3.7
(19) 相談支援専門員が、家族のサービスへの家族の満足度がわかった	4927 100.0	2044 41.5	1913 38.8	764 15.5	206 4.2
(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた	4927 100.0	2404 48.8	2354 47.8	- -	169 3.4
(21) 利用者の成長(変化)がみえるようになった	4927 100.0	2809 57.0	1955 39.7	- -	163 3.3
(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った	4927 100.0	1317 26.7	3439 69.8	- -	171 3.5
(23) サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた	4927 100.0	1623 32.9	3105 63.0	- -	199 4.0
(24) モニタリング回数が増え、利用者がストレスを感じるようになった	4927 100.0	608 12.3	4139 84.0	- -	180 3.7
(25) モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった	4927 100.0	619 12.6	3335 67.7	767 15.6	206 4.2
(26) 変化のないケースでは、変化がないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い	4927 100.0	1379 28.0	3383 68.7	- -	165 3.3
(27) サービス管理責任者等が忙しくなったようだ	4927 100.0	1715 34.8	3026 61.4	- -	186 3.8
(28) 請求事務が大変になった	4927 100.0	1553 31.5	3185 64.6	- -	189 3.8

差の検定

モニタリング実施頻度の平均値の差の検定

モニタリング実施回数，自治体が支給決定したモニタリング回数および理想だと思ふモニタリングの回数の平均値を2018年・2019年（4～9月）で比較すると，全ての回数において2019年の増加が認められた。

平均値は，モニタリング実施回数では2018年1.4回から2019年2.0回へ，自治体が決定したモニタリング回数は，2018年の1.4回から2019年1.9回へ，そして理想だと思ふモニタリング回数は，2018年1.6回から2019年2.0回へ増加している。

表 51 実施した回数，自治体が支給決定した回数，理想だと思ふ回数の差の検定

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差	有意確率 (両側)	有意差
2019年4月～9月／設問3 実施した回数の合計	1.90	4468	1.442	.022	0.000	**
2018年4月～9月／設問3 実施した回数の合計	1.37	4468	1.325	.020		
2019年4月～9月／設問3 自治体が支給決定した回数の合計	1.89	4390	1.255	.019	0.000	**
2018年4月～9月／設問3 自治体が支給決定した回数の合計	1.37	4390	1.271	.019		
2019年4月～9月／設問3 理想だと思ふ回数の合計	1.93	4206	1.343	.021	0.000	**
2018年4月～9月／設問3 理想だと思ふ回数の合計	1.58	4206	1.320	.020		

* 有意差の表記 * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$ (以下同様)

モニタリング実施頻度の各回数間の平均値の差の検定

モニタリング実施回数と自治体が支給決定したモニタリング回数の平均値

モニタリング実施回数と自治体が支給決定したモニタリング回数の平均値を2018年・2019年（4～9月）で比較すると，2018年は回数に差がないが，2019年のモニタリング実施回数は1.95回で自治体が支給決定したモニタリング回数1.93回より多いことが認められた*。

表 52 モニタリング実施回数と自治体の支給決定した回数

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差	有意確率 (両側)	有意差
2018年4月～9月／設問3 実施した回数の合計	1.374	4402	1.3286	.0200	0.577	
2018年4月～9月／設問3 自治体が支給決定した回数の合計	1.368	4402	1.2734	.0192		
2019年4月～9月／設問3 実施した回数の合計	1.953	4831	1.5014	.0216	0.040	*
2019年4月～9月／設問3 自治体が支給決定した回数の合計	1.926	4831	1.2839	.0185		

自治体が支給決定したモニタリング回数と理想だと思ふモニタリング回数の平均の差の検定

自治体が支給決定したモニタリング回数と理想だと思ふモニタリングの回数の平均値を2018年・2019年（4～9月）比較すると，2018年**，2019年**ともに理想だと思ふモニタリング回数が多いことが認められた。

表 21 自治体が支給決定したモニタリング回数と理想だと思ふモニタリング回数

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差	有意確率 (両側)	有意差
2018年4月～9月／設問3 自治体が支給決定した回数の合計	1.375	4189	1.2845	.0198	0.000	**
2018年4月～9月／設問3 理想だと思ふ回数の合計	1.579	4189	1.3178	.0204		
2019年4月～9月／設問3 自治体が支給決定した回数の合計	1.928	4694	1.2869	.0188	0.000	**
2019年4月～9月／設問3 理想だと思ふ回数の合計	1.975	4694	1.3750	.0201		

モニタリング実施回数と理想だと思ふモニタリング回数の平均の差の検定

モニタリング実施回数と理想だと思ふモニタリングの回数の平均値を2018年・2019年（4～9月）比較すると、2018年*、2019年**ともに、モニタリング実施回数より理想だと思ふモニタリング回数が多いことが認められた。

表 54 モニタリング実施回数と理想だと思ふ回数

	平均値	度数	標準偏差	平均値の標準誤差	有意確率 (両側)	有意差
2018年4月～9月／設問3 実施した回数の合計	1.382	4211	1.3392	.0206	0.000	**
2018年4月～9月／設問3 理想だと思ふ回数の合計	1.583	4211	1.3231	.0204		
2019年4月～9月／設問3 実施した回数の合計	1.948	4718	1.4619	.0213	0.018	*
2019年4月～9月／設問3 理想だと思ふ回数の合計	1.981	4718	1.3859	.0202		

自治体が支給決定したモニタリング回数と理想だと思ふモニタリング回数比較

「自治体が支給決定したモニタリング回数」と「理想だと思ふモニタリング回数」の比較では、2019年は「自治体が支給決定したモニタリング回数」と「理想だと思ふモニタリング回数」が同じ（73.8%）および「自治体が支給決定した回数」が「理想だと思ふモニタリング回数」より多い（10.9%）の割合が2018年より増加している。

表 22 モニタリング実施回数と理想だと思ふ回数

	調査数	数回自治 が数が よが体 り理が 少理想 なだ給 いと決 思定 うし 回た	数回自治 が数が 同と体 じ理が 理想支 だ給 と決 思定 うし 回た	数回自治 が数が よが体 り理が 多理想 いだ給 いと決 思定 うし 回た	無 回 答
2019年4月～9月	4927 100.0	522 10.6	3,636 73.8	536 10.9	233 4.7
2018年4月～9月	4927 100.0	745 15.1	3,320 67.4	123 2.5	739 15.0

自治体が支給決定したモニタリング回数・理想だと思ふモニタリング回数とモニタリングの実施・支給決定・理想回数に乖離が生じた理由

2018年は「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「理想だと思ふモニタリング回数」より「少ない」群では「自治体の判断」（56.5%）の割合が最も高く、「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「理想だと思ふモニタリング回数」と比較し「同じ」と「多い」群では、「業務多忙で困難」の割合が最も高くなっている。

2019年は「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「理想だと思ふモニタリング回数」と比較し「少ない」と「同じ」群では、「自治体の判断」の割合が最も高く、「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「理想だと思ふモニタリング回数」より「多い」群では、「業務多忙で困難」（32.5%）の割合が最も高くなっている。

表 56 自治体が支給決定したモニタリング回数・理想だと思ふモニタリング回数とモニタリングの実施・支給決定・理想回数に乖離が生じた理由（無回答除く）

		設問4 設問3で実施した回数の合計・自治体が支給決定した回数の合計・理想だと思ふ回数の合計に乖離が生じた理由					
		自治体の判断	業務多忙で対応困難	利用者が望まない	その他	合計	
2019年比較	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思ふ回数 少ない	度数	217	95	37	87	436
		期待度数	169.3	107.0	60.6	99.0	436.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思ふ回数 2019年比較の%	49.8%	21.8%	8.5%	20.0%	100.0%
		調整済み残差	5.8	-1.7	-4.0	-1.7	
	同じ	度数	190	52	23	59	324
		期待度数	125.8	79.5	45.0	73.6	324.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思ふ回数 2019年比較の%	58.6%	16.0%	7.1%	18.2%	100.0%
		調整済み残差	8.5	-4.1	-4.1	-2.2	
	多い	度数	82	162	115	140	499
		期待度数	193.8	122.5	69.4	113.4	499.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思ふ回数 2019年比較の%	16.4%	32.5%	23.0%	28.1%	100.0%
		調整済み残差	-13.2	5.3	7.6	3.7	
** P<0.01	合計	度数	489	309	175	286	1259
		期待度数	489.0	309.0	175.0	286.0	1259.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思ふ回数 2019年比較の%	38.8%	24.5%	13.9%	22.7%	100.0%
		調整済み残差					
2018年比較	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思ふ回数 少ない	度数	322	112	42	94	570
		期待度数	220.0	144.9	78.2	126.9	570.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思ふ回数 2018年比較の%	56.5%	19.6%	7.4%	16.5%	100.0%
		調整済み残差	12.4	-4.5	-6.2	-4.7	
	同じ	度数	104	140	91	129	464
		期待度数	179.1	117.9	63.6	103.3	464.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思ふ回数 2018年比較の%	22.4%	30.2%	19.6%	27.8%	100.0%
		調整済み残差	-9.3	3.1	4.8	3.7	
	多い	度数	16	39	24	32	111
		期待度数	42.8	28.2	15.2	24.7	111.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思ふ回数 2018年比較の%	14.4%	35.1%	21.6%	28.8%	100.0%
		調整済み残差	-5.5	2.5	2.5	1.7	
** P<0.01	合計	度数	442	291	157	255	1145
		期待度数	442.0	291.0	157.0	255.0	1145.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思ふ回数 2018年比較の%	38.6%	25.4%	13.7%	22.3%	100.0%
		調整済み残差					

クロス集計

モニタリング実施状況とモニタリング実施頻度

モニタリング所要時間とモニタリング実施回数

直近のモニタリング所要時間（30分未満，1時間未満，2時間未満，3時間未満，3時間以上）とモニタリング実施回数（1回，2回，3回以上）の2018年・2019年のクロス集計の結果

2018年のモニタリング実施回数は直近のモニタリング所要時間「30分未満」では「1回」（76.3%）が最も割合が高く、「30分以上」から時間が増えるにつれて「1回」の割合が減少している。

2019年のモニタリング実施回数は直近のモニタリング所要時間「30分未満」では「1回」（48.0%）の割合が最も高いが、「30分以上」になると「2回」の割合が最も高くなり、「3時間以上」では「1回」（26.1%）の割合が最も低くなっている。

表 57 直近のモニタリング所要時間と実施したモニタリング回数

			設問3 実施した回数の合計 2019年				設問3 実施した回数の合計 2018年			
			1回	2回	3回以上	合計	1回	2回	3回以上	合計
②直近のモニタリングの所要時間	30分未満	度数	859	660	269	1788	1079	203	132	1414
		期待度数	745.9	724.0	318.1	1788.0	1005.8	245.0	163.2	1414.0
		②直近のモニタリングの所要時間の%	48.0%	36.9%	15.0%	100.0%	76.3%	14.4%	9.3%	100.0%
		調整済み残差	6.9	-3.9	-3.9		5.4	-3.7	-3.3	
	1時間未満	度数	913	1027	457	2397	1346	372	247	1965
		期待度数	1000.0	970.6	426.5	2397.0	1397.7	340.5	226.8	1965.0
		②直近のモニタリングの所要時間の%	38.1%	42.8%	19.1%	100.0%	68.5%	18.9%	12.6%	100.0%
		調整済み残差	-5.1	3.3	2.3		-3.7	2.7	2.0	
	2時間未満	度数	182	200	100	482	270	80	54	404
		期待度数	201.1	195.2	85.8	482.0	287.4	70.0	46.6	404.0
		②直近のモニタリングの所要時間の%	37.8%	41.5%	20.7%	100.0%	66.8%	19.8%	13.4%	100.0%
		調整済み残差	-1.9	.5	1.8		-2.0	1.4	1.2	
	3時間未満	度数	12	18	7	37	24	5	6	35
		期待度数	15.4	15.0	6.6	37.0	24.9	6.1	4.0	35.0
		②直近のモニタリングの所要時間の%	32.4%	48.6%	18.9%	100.0%	68.6%	14.3%	17.1%	100.0%
		調整済み残差	-1.1	1.0	.2		-.3	-.5	1.0	
3時間以上	度数	6	9	8	23	11	5	4	20	
	期待度数	9.6	9.3	4.1	23.0	14.2	3.5	2.3	20.0	
	②直近のモニタリングの所要時間の%	26.1%	39.1%	34.8%	100.0%	55.0%	25.0%	20.0%	100.0%	
	調整済み残差	-1.5	-.1	2.1		-1.6	.9	1.2		
合計		度数	1972	1914	841	4727	2730	665	443	3838
		期待度数	1972.0	1914.0	841.0	4727.0	2730.0	665.0	443.0	3838.0
		②直近のモニタリングの所要時間の%	41.7%	40.5%	17.8%	100.0%	71.1%	17.3%	11.5%	100.0%

$\chi^2(8)=54.199, p<0.01^{**}$ $\chi^2(8)=32.592, p<0.01^{**}$

モニタリング実施場所までの片道移動時間とモニタリング実施回数

主なモニタリング実施場所までの片道移動時間（15分未満，30分未満，45分未満，60分未満，60分以上）とモニタリング実施回数（1回，2回，3回以上）の2018年・2019年のクロス集計の結果

2018年のモニタリング実施回数は主なモニタリング実施場所までの片道移動時間「60分以上」では「1回」（81.8%）も割合が最も高く，「60分未満」の全ての片道移動時間において「1回」（63.9%～74.5%）の割合が最も高い。

一方で，2019年のモニタリング実施回数は主なモニタリング実施場所までの片道移動時間「15分未満」，45分以上である「60分未満」と「60分以上」は，「1回」の割合が最も高いが，「30分未満」（44.7%）「45分未満」（43.3%）では「2回」の割合が最も高い。

表 58 主なモニタリング実施場所までの片道移動時間と実施したモニタリング回数

			2019年				2018年			
			1回	2回	3回以上	合計	1回	2回	3回以上	合計
④主なモニタリング実施場所までの片道の移動時間	15分未満	度数	1016	812	331	2159	1318	263	187	1768
		期待度数	893.1	880.5	385.4	2159.0	1260.2	304.7	203.1	1768.0
		④主なモニタリング実施場所までの片道の移動時間調整済み残差	47.1%	37.6%	15.3%	100.0%	74.5%	14.9%	10.6%	100.0%
			7.3	-4.1	-4.2		4.2	-3.6	-1.6	
	30分未満	度数	636	794	347	1777	994	278	180	1452
		期待度数	735.1	724.7	317.2	1777.0	1035.0	250.2	166.8	1452.0
		④主なモニタリング実施場所までの片道の移動時間調整済み残差	35.8%	44.7%	19.5%	100.0%	68.5%	19.1%	12.4%	100.0%
			-6.1	4.3	2.3		-3.0	2.5	1.4	
	45分未満	度数	169	208	103	480	260	78	43	381
		期待度数	198.6	195.8	85.7	480.0	271.6	65.7	43.8	381.0
		④主なモニタリング実施場所までの片道の移動時間調整済み残差	35.2%	43.3%	21.5%	100.0%	68.2%	20.5%	11.3%	100.0%
			-2.9	1.2	2.2		-1.4	1.8	-1	
	60分未満	度数	74	57	42	173	85	26	22	133
		期待度数	71.6	70.6	30.9	173.0	94.8	22.9	15.3	133.0
		④主なモニタリング実施場所までの片道の移動時間調整済み残差	42.8%	32.9%	24.3%	100.0%	63.9%	19.5%	16.5%	100.0%
			.4	-2.1	2.2		-1.9	.7	1.9	
	60分以上	度数	26	23	6	55	36	6	2	44
		期待度数	22.8	22.4	9.8	55.0	31.4	7.6	5.1	44.0
		④主なモニタリング実施場所までの片道の移動時間調整済み残差	47.3%	41.8%	10.9%	100.0%	81.8%	13.6%	4.5%	100.0%
			.9	.2	-1.4		1.6	-.6	-1.5	
合計	度数	1921	1894	829	4644	2693	651	434	3778	
	期待度数	1921.0	1894.0	829.0	4644.0	2693.0	651.0	434.0	3778.0	
	④主なモニタリング実施場所までの片道の移動時間調整済み残差	41.4%	40.8%	17.9%	100.0%	71.3%	17.2%	11.5%	100.0%	

$\chi^2(8)=70.016, p<0.01^{**}$ $\chi^2(8)=25.452, p<0.01^{**}$

サービス担当者会議の平均的な所要時間とモニタリング実施回数

サービス担当者会議の平均的な所要時間（～30分，31～60分，61～90分，91分～120分，121分以上）と当該利用者に対するモニタリング実施回数（1回，2回，3回以上）の2018年・2019年のクロス集計の結果

2018年のモニタリング実施回数は，サービス担当者会議の平均的な所要時間の全ての時間で「1回」の割合が最も高い。

2019年のモニタリング実施回数は，サービス担当者会議の所要時間「30分以内」では「1回」（42.9%）の割合が最も高いが，30分を超えると「2回」の割合（41.4～44.0%）が最も高い。

表 59 サービス担当者会議の平均的な所要時間と実施したモニタリング回数

			2019年				2018年			
			1回	2回	3回以上	合計	1回	2回	3回以上	合計
⑥モニタリング実施時に行ったサービス担当者会議の所要時間（日程調整・記録含む）	～30分	度数	219	191	100	510	273	65	49	387
		期待度数	181.5	209.7	118.8	510.0	253.2	77.4	56.3	387.0
		⑥モニタリング実施時に行ったサービス担当者会議調整済み残差	42.9%	37.5%	19.6%	100.0%	70.5%	16.8%	12.7%	100.0%
			3.9	-1.9	-2.2		2.4	-1.8	-1.2	
	31～60分	度数	345	419	247	1011	516	171	131	818
		期待度数	359.8	415.8	235.4	1011.0	535.2	163.7	119.1	818.0
		⑥モニタリング実施時に行ったサービス担当者会議調整済み残差	34.1%	41.4%	24.4%	100.0%	63.1%	20.9%	16.0%	100.0%
			-1.3	.3	1.1		-1.9	.9	1.6	
	61～90分	度数	114	146	72	332	173	63	32	268
		期待度数	118.1	136.5	77.3	332.0	175.4	53.6	39.0	268.0
		⑥モニタリング実施時に行ったサービス担当者会議調整済み残差	34.3%	44.0%	21.7%	100.0%	64.6%	23.5%	11.9%	100.0%
			-5	1.1	-7		-3	1.5	-1.3	
91～120分	度数	86	111	69	266	135	42	38	215	
	期待度数	94.7	109.4	61.9	266.0	140.7	43.0	31.3	215.0	
	⑥モニタリング実施時に行ったサービス担当者会議調整済み残差	32.3%	41.7%	25.9%	100.0%	62.8%	19.5%	17.7%	100.0%	
		-1.2	.2	1.1		-9	-2	1.4		
121分以上	度数	52	76	46	174	103	26	17	146	
	期待度数	61.9	71.6	40.5	174.0	95.5	29.2	21.3	146.0	
	⑥モニタリング実施時に行ったサービス担当者会議調整済み残差	29.9%	43.7%	26.4%	100.0%	70.5%	17.8%	11.6%	100.0%	
		-1.6	.7	1.0		1.4	-7	-1.0		
合計	度数	816	943	534	2293	1200	367	267	1834	
	期待度数	816.0	943.0	534.0	2293.0	1200.0	367.0	267.0	1834.0	
	⑥モニタリング実施時に行ったサービス担当者会議調整済み残差	35.6%	41.1%	23.3%	100.0%	65.4%	20.0%	14.6%	100.0%	

$\chi^2(8)=18.984, p<0.05*$

$\chi^2(8)=13.118, p=0.108$

サービス提供時モニタリングの平均的な所要時間とモニタリング実施回数

サービス提供時モニタリングの平均的な所要時間（～30分，31～60分，61～90分，91分～120分，121分以上）と当該利用者に対するモニタリング実施回数（1回，2回，3回以上）の2018年・2019年のクロス集計の結果

2018年のモニタリング実施回数はサービス提供時モニタリングの平均的な所要時間の全ての時間で「1回」の割合が最も高い。

2019年のモニタリング実施回数はサービス提供時モニタリングの所要時間「61～90分」では「1回」（50.2%）の割合が最も高く，「30分以内」では「1回」と「2回」が同割合であるが，他の所要時間では「2回」の割合が最も高い。

表 60 サービス提供時モニタリングの平均的な所要時間と実施したモニタリング回数

		設問3 実施した回数の合計 2019年				設問3 実施した回数の合計 2018年				
		1回	2回	3回以上	合計	1回	2回	3回以上	合計	
⑧サービス提供時モニタリングの平均的な所要時間（日程調整・実施後の記録を含む）	～30分	度数	438	437	226	1101	592	167	129	888
		期待度数	440.5	442.5	218.1	1101.0	614.1	160.6	113.4	888.0
		⑧サービス提供時モニタリングの平均的な所要時間調整済み残差	39.8%	39.7%	20.5%	100.0%	66.7%	18.8%	14.5%	100.0%
			-2	-4	8		-2.1	.7	2.0	
	31～60分	度数	392	426	220	1038	556	163	106	825
		期待度数	415.3	417.2	205.6	1038.0	570.5	149.2	105.3	825.0
		⑧サービス提供時モニタリングの平均的な所要時間調整済み残差	37.8%	41.0%	21.2%	100.0%	67.4%	19.8%	12.8%	100.0%
			-1.9	.7	1.4		-1.4	1.6	.1	
	61～90分	度数	140	94	45	279	176	38	18	232
		期待度数	111.6	112.1	55.3	279.0	160.4	41.9	29.6	232.0
		⑧サービス提供時モニタリングの平均的な所要時間調整済み残差	50.2%	33.7%	16.1%	100.0%	75.9%	16.4%	7.8%	100.0%
			3.7	-2.3	-1.6		2.3	-7	-2.4	
	91～120分	度数	95	101	37	233	147	22	24	193
		期待度数	93.2	93.6	46.1	233.0	133.5	34.9	24.6	193.0
		⑧サービス提供時モニタリングの平均的な所要時間調整済み残差	40.8%	43.3%	15.9%	100.0%	76.2%	11.4%	12.4%	100.0%
			.2	1.0	-1.6		2.2	-2.5	-.1	
	121分以上	度数	42	54	20	116	78	15	9	102
		期待度数	46.4	46.6	23.0	116.0	70.5	18.4	13.0	102.0
		⑧サービス提供時モニタリングの平均的な所要時間調整済み残差	36.2%	46.6%	17.2%	100.0%	76.5%	14.7%	8.8%	100.0%
			-.9	1.4	-.7		1.6	-.9	-1.2	
合計		度数	1107	1112	548	2767	1549	405	286	2240
		期待度数	1107.0	1112.0	548.0	2767.0	1549.0	405.0	286.0	2240.0
		⑧サービス提供時モニタリングの平均的な所要時間調整済み残差	40.0%	40.2%	19.8%	100.0%	69.2%	18.1%	12.8%	100.0%

$\chi^2(8)=19.323, p<0.05*$

$\chi^2(8)=20.132, p<0.05*$

利用者の年齢とモニタリング実施頻度

利用者の年齢の3群（18歳未満・18歳以上65歳未満・65歳以上）とモニタリング実施頻度の2018年・2019年とのクロス集計の結果

利用者の年齢とモニタリング実施回数

2018年のモニタリング実施回数は全ての年齢層で「1回」の割合が最も高い。

2019年のモニタリング実施回数は「65歳未満」で「2回」の割合が高く、「65歳以上」では「1回」の割合が最も高いが、その割合は2018年82.1%から2019年55.5%へ減少した。

表 61 利用者の年齢 とモニタリング実施回数

		設問3 実施した回数の合計 2019年				設問3 実施した回数の合計 2018年			
		1回	2回	3回以上	合計	1回	2回	3回以上	合計
18歳未満	度数	226	251	135	612	316	105	68	489
	期待度数	255.4	248.1	108.5	612.0	348.2	84.3	56.5	489.0
	設問1 ①利用者の年齢の%	36.9%	41.0%	22.1%	100.0%	64.6%	21.5%	13.9%	100.0%
	調整済み残差	-2.6	.3	3.0		-3.4	2.7	1.7	
18歳以上65歳未満	度数	1512	1515	668	3695	2128	514	357	2999
	期待度数	1541.8	1498.1	655.1	3695.0	2135.6	517.0	346.5	2999.0
	設問1 ①利用者の年齢の%	40.9%	41.0%	18.1%	100.0%	71.0%	17.1%	11.9%	100.0%
	調整済み残差	-2.1	1.2	1.2		-.6	-.3	1.3	
65歳以上	度数	239	155	37	431	299	45	20	364
	期待度数	179.8	174.7	76.4	431.0	259.2	62.7	42.1	364.0
	設問1 ①利用者の年齢の%	55.5%	36.0%	8.6%	100.0%	82.1%	12.4%	5.5%	100.0%
	調整済み残差	6.1	-2.0	-5.2		4.8	-2.6	-3.8	
合計	度数	1977	1921	840	4738	2743	664	445	3852
	期待度数	1977.0	1921.0	840.0	4738.0	2743.0	664.0	445.0	3852.0
	設問1 ①利用者の年齢の%	41.7%	40.5%	17.7%	100.0%	71.2%	17.2%	11.6%	100.0%

$$\chi^2(4)=52.922, p<0.01^{**}$$

$$\chi^2(4)=33.469, p<0.01^{**}$$

利用者の年齢と自治体が支給決定したモニタリング回数

2018年の自治体が支給決定したモニタリング回数は全ての年齢層で「1回」の割合が最も高い。2019年の自治体が支給決定したモニタリング回数は「65歳未満」で「2回」の割合が最も高く、「65歳以上」では「1回」の割合が最も高いが、その割合は2018年82.2%から2019年52.9%へ減少した。

表 62 利用者の年齢 と自治体が支給決定したモニタリング回数

		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年				設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2018年			
		1回	2回	3回以上	合計	1回	2回	3回以上	合計
18歳未満	度数	229	273	101	603	315	112	58	485
	期待度数	240.8	263.4	98.8	603.0	343.8	89.7	51.5	485.0
	設問1 ①利用者の年齢の%	38.0%	45.3%	16.7%	100.0%	64.9%	23.1%	12.0%	100.0%
	調整済み残差	-1.1	.8	.3		-3.1	2.8	1.0	
18歳以上65歳未満	度数	1416	1608	633	3657	2106	553	330	2989
	期待度数	1460.3	1597.5	599.2	3657.0	2118.8	552.7	317.6	2989.0
	設問1 ①利用者の年齢の%	38.7%	44.0%	17.3%	100.0%	70.5%	18.5%	11.0%	100.0%
	調整済み残差	-3.2	.7	3.2		-1.1	.0	1.6	
65歳以上	度数	229	169	35	433	301	45	20	366
	期待度数	172.9	189.1	71.0	433.0	259.4	67.7	38.9	366.0
	設問1 ①利用者の年齢の%	52.9%	39.0%	8.1%	100.0%	82.2%	12.3%	5.5%	100.0%
	調整済み残差	5.8	-2.0	-4.9		5.0	-3.2	-3.4	
合計	度数	1874	2050	769	4693	2722	710	408	3840
	期待度数	1874.0	2050.0	769.0	4693.0	2722.0	710.0	408.0	3840.0
	設問1 ①利用者の年齢の%	39.9%	43.7%	16.4%	100.0%	70.9%	18.5%	10.6%	100.0%

$$\chi^2(4)=42.853, p<0.01^{**}$$

$$\chi^2(4)=32.771, p<0.01^{**}$$

利用者の年齢と理想だと思うモニタリング回数

2018年の理想だと思うモニタリング回数は全ての年齢層で「1回」の割合が最も高い。2019年の理想だと思うモニタリング回数は「18歳未満」で「2回」（40.5%）の割合が最も高く、「18歳以上」では「1回」の割合が最も高いが、「18歳以上65歳未満」では2018年59.4%から2019年41.9%、「65歳以上」は2018年69.4%から53.6%へ減少した。

表 63 利用者の年齢 と 理想だと思うモニタリング回数

		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年				設問3 理想だと思う回数の合計 2018年			
		1回	2回	3回以上	合計	1回	2回	3回以上	合計
18歳未満	度数	214	238	135	587	259	129	83	471
	期待度数	248.1	226.3	112.6	587.0	281.8	121.8	67.4	471.0
	設問1 ①利用者の年齢の%	36.5%	40.5%	23.0%	100.0%	55.0%	27.4%	17.6%	100.0%
	調整済み残差	-3.1	1.1	2.5		-2.3	.8	2.2	
18歳以上65歳未満	度数	1512	1388	709	3609	1771	776	434	2981
	期待度数	1525.5	1391.1	692.4	3609.0	1783.6	771.0	426.4	2981.0
	設問1 ①利用者の年齢の%	41.9%	38.5%	19.6%	100.0%	59.4%	26.0%	14.6%	100.0%
	調整済み残差	-1.0	-2	1.5		-1.0	.4	.8	
65歳以上	度数	226	154	42	422	258	84	30	372
	期待度数	178.4	162.7	81.0	422.0	222.6	96.2	53.2	372.0
	設問1 ①利用者の年齢の%	53.6%	36.5%	10.0%	100.0%	69.4%	22.6%	8.1%	100.0%
	調整済み残差	4.9	-9	-5.1		3.9	-1.5	-3.6	
合計	度数	1952	1780	886	4618	2288	989	547	3824
	期待度数	1952.0	1780.0	886.0	4618.0	2288.0	989.0	547.0	3824.0
	設問1 ①利用者の年齢の%	42.3%	38.5%	19.2%	100.0%	59.8%	25.9%	14.3%	100.0%

$\chi^2(4)=42.199, p<0.01^{**}$

$\chi^2(4)=23.464, p<0.01^{**}$

利用者の年齢とモニタリング実施標準期間改定による影響

利用者の年齢の3群（18歳未満・18歳以上65歳未満・65歳以上）とモニタリング実施標準期間改定による影響（「そう思う」「そう思わない」）（2019年）とのクロス集計の結果より、割合が50%以上（ $P<0.05$ +2.0以上の残差Z）の項目を示す。

「18歳未満」のモニタリング実施標準期間改定による影響

「18歳未満」で「そう思う」の該当項目は、

「(4) ご家族が相談支援員の顔を覚えてくれた」(74.4%) Z=13.9

「(6) ご家族から親近感を持ってもらえるようになった」(72.8%) Z=14.1

「(11) 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(50.8%) Z=10.9

「(12) 親や家族に現状報告をしやすくなった」(64.7%) Z=9.5

「(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」(69.6%) Z=2.4

「(19) 相談支援専門員が、家族のサービスへの家族の満足度がわかった」(65.0%) Z=11.4

「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(56.1%) Z=2.9

「(21) 利用者の成長（変化）がみえるようになった」(75.1%) Z=8.6 の8項目であった。

一方で、「18歳未満」で「そう思わない」の該当項目は、

「(1) 本人から制度について聞かれることが増えた」(96.0%) Z=7.1

「(5) 本人から親近感をもってもらえるようになった」(50.7%) Z=4.7

「(7) 本人から不安を訴える電話が減った」(88.2%) Z=3.1

「(8) 家族から不安を訴える電話が減った」(78.3%) Z=5.5

「(10) 本人にサービス事業所の違いをわかってもらえた」(86.1%) Z=6.8

「(24) モニタリング回数が増え、利用者がストレスを感じるようになった」(91.3%) Z=3.2

「(25) モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった」(74.9%) Z=2.4

の7項目であった。

「18歳以上65歳未満」のモニタリング実施標準期間改定による影響

「18歳以上65歳未満」で「そう思う」の該当項目は、「(5) 本人から親近感をもってもらえるようになった」(58.9%) $Z=2.1$ の1項目であった。一方で、「18歳以上65歳未満」で「そう思わない」に該当する項目はなかった。

「65歳以上」のモニタリング実施標準期間改定による影響

「65歳以上」で「そう思う」の該当項目は、「(5) 本人から親近感をもってもらえるようになった」(63.3%) $Z=2.3$ の1項目であった。一方で、「65歳未満」で「そう思わない」の該当項目は、

- 「(15) サービス事業所からの相談が増えた」(70.5%) $Z=2.7*$
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(58.6%) $Z=4.0$
- 「(21) 利用者の成長(変化)がみえるようになった」(50.8%) $Z=4.4$
- 「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(80.5%) $Z=3.9$
- 「(23) サービス量が増えた,又は減ったことにより,適切なサービス量に近づいた」(71.6%) $Z=2.7$ の5項目であった。

表 23 利用者の年齢とモニタリング実施標準期間改定による影響 *設問欄に有意差を表記

設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
1 本人から制度について聞かれることが増えた	18歳未満	度数	23	554		577
		期待度数	77.3	499.7		577.0
		設問 1 ①利用者の年齢の%	4.0%	96.0%		100.0%
		調整済み残差	-7.1	7.1		
	18歳以上65歳未満	度数	536	3139		3675
		期待度数	492.4	3182.6		3675.0
		設問 1 ①利用者の年齢の%	14.6%	85.4%		100.0%
		調整済み残差	4.5	-4.5		
	65歳以上	度数	69	366		435
		期待度数	58.3	376.7		435.0
		設問 1 ①利用者の年齢の%	15.9%	84.1%		100.0%
		調整済み残差	1.6	-1.6		
** p<0.01	合計	度数	628	4059	4687	
	期待度数	628.0	4059.0	4687.0		
	設問 1 ①利用者の年齢の%	13.4%	86.6%	100.0%		
設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
2 ご家族から制度について聞かれることが増えた	18歳未満	度数	220	379	2	601
		期待度数	130.5	376.3	94.1	601.0
		設問 1 ①利用者の年齢の%	36.6%	63.1%	.3%	100.0%
		調整済み残差	9.5	.2	-11.1	
	18歳以上65歳未満	度数	757	2272	628	3657
		期待度数	794.3	2290.0	572.7	3657.0
		設問 1 ①利用者の年齢の%	20.7%	62.1%	17.2%	100.0%
		調整済み残差	-3.2	-1.3	5.4	
	65歳以上	度数	41	284	104	429
		期待度数	93.2	268.6	67.2	429.0
		設問 1 ①利用者の年齢の%	9.6%	66.2%	24.2%	100.0%
		調整済み残差	-6.4	1.6	5.1	
** p<0.01	合計	度数	1018	2935	734	4687
	期待度数	1018.0	2935.0	734.0	4687.0	
	設問 1 ①利用者の年齢の%	21.7%	62.6%	15.7%	100.0%	
設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
3 本人が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	18歳未満	度数	346	250		596
		期待度数	367.7	228.3		596.0
		設問 1 ①利用者の年齢の%	58.1%	41.9%		100.0%
		調整済み残差	-2.0	2.0		
	18歳以上65歳未満	度数	2301	1383		3684
		期待度数	2273.0	1411.0		3684.0
		設問 1 ①利用者の年齢の%	62.5%	37.5%		100.0%
		調整済み残差	2.0	-2.0		
	65歳以上	度数	259	171		430
		期待度数	265.3	164.7		430.0
		設問 1 ①利用者の年齢の%	60.2%	39.8%		100.0%
		調整済み残差	-7	.7		
p=0.098	合計	度数	2906	1804	4710	
	期待度数	2906.0	1804.0	4710.0		
	設問 1 ①利用者の年齢の%	61.7%	38.3%	100.0%		
設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
4 ご家族が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	18歳未満	度数	448	150	2	600
		期待度数	289.6	215.2	95.2	600.0
		設問 1 ①利用者の年齢の%	74.7%	25.0%	.3%	100.0%
		調整済み残差	13.9	-5.9	-11.2	
	18歳以上65歳未満	度数	1686	1340	636	3662
		期待度数	1767.8	1313.3	580.9	3662.0
		設問 1 ①利用者の年齢の%	46.0%	36.6%	17.4%	100.0%
		調整済み残差	-5.8	2.0	5.3	
	65歳以上	度数	130	192	106	428
		期待度数	206.6	153.5	67.9	428.0
		設問 1 ①利用者の年齢の%	30.4%	44.9%	24.8%	100.0%
		調整済み残差	-7.8	4.1	5.3	
** p<0.01	合計	度数	2264	1682	744	4690
	期待度数	2264.0	1682.0	744.0	4690.0	
	設問 1 ①利用者の年齢の%	48.3%	35.9%	15.9%	100.0%	

設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
5 本人から親近感をもって もらえるようになった	18歳未満	度数	294	302		596
		期待度数	346.4	249.6		596.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	49.3%	50.7%		100.0%
		調整済み残差	-4.7	4.7		
	18歳以上65歳未満	度数	2167	1510		3677
		期待度数	2137.0	1540.0		3677.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	58.9%	41.1%		100.0%
		調整済み残差	2.1	-2.1		
	65歳以上	度数	274	159		433
		期待度数	251.6	181.4		433.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	63.3%	36.7%		100.0%
		調整済み残差	2.3	-2.3		
** p<0.01	合計	度数	2735	1971	4706	
	期待度数	2735.0	1971.0	4706.0		
	設問1 ①利用者の年齢の%	58.1%	41.9%	100.0%		
設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
6 ご家族から親近感をもっ てもらえるようになった	18歳未満	度数	440	162	2	604
		期待度数	278.5	229.2	96.3	604.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	72.8%	26.8%	.3%	100.0%
		調整済み残差	14.1	-6.0	-11.2	
	18歳以上65歳未満	度数	1601	1421	639	3661
		期待度数	1688.1	1389.4	583.5	3661.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	43.7%	38.8%	17.5%	100.0%
		調整済み残差	-6.2	2.3	5.3	
	65歳以上	度数	123	198	107	428
		期待度数	197.4	162.4	68.2	428.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	28.7%	46.3%	25.0%	100.0%
		調整済み残差	-7.6	3.7	5.4	
** p<0.01	合計	度数	2164	1781	748	4693
	期待度数	2164.0	1781.0	748.0	4693.0	
	設問1 ①利用者の年齢の%	46.1%	38.0%	15.9%	100.0%	
設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
7 本人からの不安を訴える 電話が減った	18歳未満	度数	65	486		551
		期待度数	90.5	460.5		551.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	11.8%	88.2%		100.0%
		調整済み残差	-3.1	3.1		
	18歳以上65歳未満	度数	598	2994		3592
		期待度数	589.9	3002.1		3592.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	16.6%	83.4%		100.0%
		調整済み残差	.8	-.8		
	65歳以上	度数	86	332		418
		期待度数	68.6	349.4		418.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	20.6%	79.4%		100.0%
		調整済み残差	2.4	-2.4		
** p<0.01	合計	度数	749	3812	4561	
	期待度数	749.0	3812.0	4561.0		
	設問1 ①利用者の年齢の%	16.4%	83.6%	100.0%		
設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
8 家族からの不安を訴える 電話が減った	18歳未満	度数	125	459	2	586
		期待度数	91.5	401.0	93.5	586.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	21.3%	78.3%	.3%	100.0%
		調整済み残差	4.1	5.5	-11.0	
	18歳以上65歳未満	度数	525	2451	627	3603
		期待度数	562.5	2465.5	575.0	3603.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	14.6%	68.0%	17.4%	100.0%
		調整済み残差	-3.7	-1.1	5.1	
	65歳以上	度数	70	246	107	423
		期待度数	66.0	289.5	67.5	423.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	16.5%	58.2%	25.3%	100.0%
		調整済み残差	.6	-4.8	5.5	
** p<0.01	合計	度数	720	3156	736	4612
	期待度数	720.0	3156.0	736.0	4612.0	
	設問1 ①利用者の年齢の%	15.6%	68.4%	16.0%	100.0%	

設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
9 自宅に訪問しやすくなった	18歳未満	度数	280	313		593
		期待度数	273.3	319.7		593.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	47.2%	52.8%		100.0%
		調整済み残差	.6	-.6		
	18歳以上65歳未満	度数	1668	2000		3668
		期待度数	1690.2	1977.8		3668.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	45.5%	54.5%		100.0%
		調整済み残差	-1.6	1.6		
	65歳以上	度数	215	218		433
		期待度数	199.5	233.5		433.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	49.7%	50.3%		100.0%
		調整済み残差	1.6	-1.6		
p=0.215	合計	度数	2163	2531		4694
		期待度数	2163.0	2531.0		4694.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	46.1%	53.9%		100.0%
設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
10 本人にサービス事業所の違いをわかってもらえた	18歳未満	度数	79	488		567
		期待度数	145.7	421.3		567.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	13.9%	86.1%		100.0%
		調整済み残差	-6.8	6.8		
	18歳以上65歳未満	度数	1002	2669		3671
		期待度数	943.1	2727.9		3671.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	27.3%	72.7%		100.0%
		調整済み残差	4.8	-4.8		
	65歳以上	度数	119	314		433
		期待度数	111.2	321.8		433.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	27.5%	72.5%		100.0%
		調整済み残差	.9	-.9		
** p<0.01	合計	度数	1200	3471		4671
		期待度数	1200.0	3471.0		4671.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	25.7%	74.3%		100.0%
設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
11 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた	18歳未満	度数	304	292	2	598
		期待度数	188.3	314.4	95.3	598.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	50.8%	48.8%	.3%	100.0%
		調整済み残差	10.9	-2.0	-11.2	
	18歳以上65歳未満	度数	1089	1925	636	3650
		期待度数	1149.3	1919.1	581.7	3650.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	29.8%	52.7%	17.4%	100.0%
		調整済み残差	-4.6	.4	5.2	
	65歳以上	度数	79	241	107	427
		期待度数	134.4	224.5	68.0	427.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	18.5%	56.4%	25.1%	100.0%
		調整済み残差	-6.1	1.7	5.4	
** p<0.01	合計	度数	1472	2458	745	4675
		期待度数	1472.0	2458.0	745.0	4675.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	31.5%	52.6%	15.9%	100.0%
設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
12 親や家族に現状報告をしやすくなった	18歳未満	度数	388	210	2	600
		期待度数	279.9	224.7	95.3	600.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	64.7%	35.0%	.3%	100.0%
		調整済み残差	9.5	-1.3	-11.2	
	18歳以上65歳未満	度数	1656	1368	635	3659
		期待度数	1707.0	1370.6	581.5	3659.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	45.3%	37.4%	17.4%	100.0%
		調整済み残差	-3.6	-.2	5.2	
	65歳以上	度数	143	178	108	429
		期待度数	200.1	160.7	68.2	429.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	33.3%	41.5%	25.2%	100.0%
		調整済み残差	-5.8	1.8	5.5	
** p<0.01	合計	度数	2187	1756	745	4688
		期待度数	2187.0	1756.0	745.0	4688.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	46.7%	37.5%	15.9%	100.0%

設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
13 サービス事業所からの情報提供が増えた	18歳未満	度数	327	269		596
		期待度数	326.7	269.3		596.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	54.9%	45.1%		100.0%
		調整済み残差	.0	.0		
	18歳以上65歳未満	度数	2042	1645		3687
		期待度数	2021.3	1665.7		3687.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	55.4%	44.6%		100.0%
		調整済み残差	1.5	-1.5		
	65歳以上	度数	217	217		434
		期待度数	237.9	196.1		434.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	50.0%	50.0%		100.0%
		調整済み残差	-2.1	2.1		
p=0.103	合計	度数	2586	2131	4717	
		期待度数	2586.0	2131.0	4717.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	54.8%	45.2%	100.0%	
設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
14 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた	18歳未満	度数	415	181		596
		期待度数	389.2	206.8		596.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	69.6%	30.4%		100.0%
		調整済み残差	2.4	-2.4		
	18歳以上65歳未満	度数	2403	1290		3693
		期待度数	2411.7	1281.3		3693.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	65.1%	34.9%		100.0%
		調整済み残差	-.6	.6		
	65歳以上	度数	267	168		435
		期待度数	284.1	150.9		435.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	61.4%	38.6%		100.0%
		調整済み残差	-1.8	1.8		
* p<0.05	合計	度数	3085	1639	4724	
		期待度数	3085.0	1639.0	4724.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	65.3%	34.7%	100.0%	
設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
15 サービス事業所からの相談が増えた	18歳未満	度数	200	396		596
		期待度数	210.7	385.3		596.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	33.6%	66.4%		100.0%
		調整済み残差	-1.0	1.0		
	18歳以上65歳未満	度数	1340	2348		3688
		期待度数	1303.9	2384.1		3688.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	36.3%	63.7%		100.0%
		調整済み残差	2.7	-2.7		
	65歳以上	度数	128	306		434
		期待度数	153.4	280.6		434.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	29.5%	70.5%		100.0%
		調整済み残差	-2.7	2.7		
* p<0.05	合計	度数	1668	3050	4718	
		期待度数	1668.0	3050.0	4718.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	35.4%	64.6%	100.0%	
設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
16 以前よりサービス担当者会議を行うようになった	18歳未満	度数	146	447		593
		期待度数	143.3	449.7		593.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	24.6%	75.4%		100.0%
		調整済み残差	.3	-.3		
	18歳以上65歳未満	度数	895	2797		3692
		期待度数	891.9	2800.1		3692.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	24.2%	75.8%		100.0%
		調整済み残差	.3	-.3		
	65歳以上	度数	99	335		434
		期待度数	104.8	329.2		434.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	22.8%	77.2%		100.0%
		調整済み残差	-.7	.7		
p=0.774	合計	度数	1140	3579	4719	
		期待度数	1140.0	3579.0	4719.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	24.2%	75.8%	100.0%	

設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
17 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった	18歳未満	度数	279	315		594
		期待度数	268.1	325.9		594.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	47.0%	53.0%		100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.0		
	18歳以上65歳未満	度数	1678	2013		3691
		期待度数	1665.9	2025.1		3691.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	45.5%	54.5%		100.0%
		調整済み残差	.9	-.9		
	65歳以上	度数	172	260		432
		期待度数	195.0	237.0		432.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	39.8%	60.2%		100.0%
		調整済み残差	-2.3	2.3		
p=0.052	合計	度数	2129	2588		4717
		期待度数	2129.0	2588.0		4717.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	45.1%	54.9%		100.0%
18 相談支援専門員が、利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった	18歳未満	度数	345	247		592
		期待度数	351.7	240.3		592.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	58.3%	41.7%		100.0%
		調整済み残差	-.6	.6		
	18歳以上65歳未満	度数	2185	1496		3681
		期待度数	2186.5	1494.5		3681.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	59.4%	40.6%		100.0%
		調整済み残差	-.1	.1		
	65歳以上	度数	266	168		434
		期待度数	257.8	176.2		434.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	61.3%	38.7%		100.0%
		調整済み残差	.8	-.8		
p=0.620	合計	度数	2796	1911		4707
		期待度数	2796.0	1911.0		4707.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	59.4%	40.6%		100.0%
19 相談支援専門員が、家族のサービスへの家族の満足度がわかった	18歳未満	度数	387	204	4	595
		期待度数	258.0	241.1	95.8	595.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	65.0%	34.3%	.7%	100.0%
		調整済み残差	11.4	-3.3	-11.0	
	18歳以上65歳未満	度数	1521	1493	642	3656
		期待度数	1585.5	1481.6	588.9	3656.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	41.6%	40.8%	17.6%	100.0%
		調整済み残差	-4.6	.8	5.1	
	65歳以上	度数	122	200	108	430
		期待度数	186.5	174.3	69.3	430.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	28.4%	46.5%	25.1%	100.0%
		調整済み残差	-6.6	2.7	5.3	
** p<0.01	合計	度数	2030	1897	754	4681
		期待度数	2030.0	1897.0	754.0	4681.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	43.4%	40.5%	16.1%	100.0%
20 相談支援専門員として新たなニーズが見えた	18歳未満	度数	335	262		597
		期待度数	301.5	295.5		597.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	56.1%	49.3%		100.0%
		調整済み残差	2.9	-2.9		
	18歳以上65歳未満	度数	1868	1820		3688
		期待度数	1862.4	1825.6		3688.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	50.7%	49.3%		100.0%
		調整済み残差	.4	-.4		
	65歳以上	度数	179	253		432
		期待度数	218.2	213.8		432.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	41.4%	58.6%		100.0%
		調整済み残差	-4.0	4.0		
** p<0.01	合計	度数	2382	2335		4717
		期待度数	2382.0	2335.0		4717.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	50.5%	49.5%		100.0%

設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
21 利用者の成長（変化）がみえるようになった	18歳未満	度数	447	148		595
		期待度数	351.1	243.9		595.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	75.1%	24.9%		100.0%
		調整済み残差	8.6	-8.6		
	18歳以上65歳未満	度数	2126	1567		3693
		期待度数	2179.2	1513.8		3693.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	57.6%	42.4%		100.0%
		調整済み残差	-3.8	3.8		
	65歳以上	度数	214	221		435
		期待度数	256.7	178.3		435.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	49.2%	50.8%		100.0%
		調整済み残差	-4.4	4.4		
** p<0.01	合計	度数	2787	1936	4723	
		期待度数	2787.0	1936.0	4723.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	59.0%	41.0%	100.0%	
22 モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った	18歳未満	度数	192	405	597	
		期待度数	164.7	432.3	597.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	32.2%	67.8%	100.0%	
		調整済み残差	2.7	-2.7		
	18歳以上65歳未満	度数	1025	2662	3687	
		期待度数	1017.3	2669.7	3687.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	27.8%	72.2%	100.0%	
		調整済み残差	.6	-.6		
	65歳以上	度数	84	347	431	
		期待度数	118.9	312.1	431.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	19.5%	80.5%	100.0%	
		調整済み残差	-3.9	3.9		
** p<0.01	合計	度数	1301	3414	4715	
		期待度数	1301.0	3414.0	4715.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	27.6%	72.4%	100.0%	
23 サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた	18歳未満	度数	241	350	591	
		期待度数	202.8	388.2	591.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	40.8%	59.2%	100.0%	
		調整済み残差	3.5	-3.5		
	18歳以上65歳未満	度数	1246	2424	3670	
		期待度数	1259.1	2410.9	3670.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	34.0%	66.0%	100.0%	
		調整済み残差	-1.0	1.0		
	65歳以上	度数	121	305	426	
		期待度数	146.2	279.8	426.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	28.4%	71.6%	100.0%	
		調整済み残差	-2.7	2.7		
** p<0.01	合計	度数	1608	3079	4687	
		期待度数	1608.0	3079.0	4687.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	34.3%	65.7%	100.0%	
24 モニタリング回数が増え、利用者がストレスを感じるようになった	18歳未満	度数	51	534	585	
		期待度数	74.8	510.2	585.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	8.7%	91.3%	100.0%	
		調整済み残差	-3.2	3.2		
	18歳以上65歳未満	度数	493	3193	3686	
		期待度数	471.5	3214.5	3686.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	13.4%	86.6%	100.0%	
		調整済み残差	2.3	-2.3		
	65歳以上	度数	58	377	435	
		期待度数	55.6	379.4	435.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	13.3%	86.7%	100.0%	
		調整済み残差	.4	-.4		
** p<0.01	合計	度数	602	4104	4706	
		期待度数	602.0	4104.0	4706.0	
		設問1 ①利用者の年齢の%	12.8%	87.2%	100.0%	

設問	年齢区分		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
25 モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった	18歳未満	度数	147	448	3	598
		期待度数	78.6	422.7	96.7	598.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	24.6%	74.9%	.5%	100.0%
		調整済み残差	8.9	2.4	-11.1	
	18歳以上65歳未満	度数	443	2565	646	3654
		期待度数	480.1	2583.0	590.9	3654.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	12.1%	70.2%	17.7%	100.0%
		調整済み残差	-3.9	-1.4	5.3	
	65歳以上	度数	25	296	108	429
		期待度数	56.4	303.3	69.4	429.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	5.8%	69.0%	25.2%	100.0%
		調整済み残差	-4.7	-.8	5.3	
** p<0.01	合計	度数	615	3309	757	4681
		期待度数	615.0	3309.0	757.0	4681.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	13.1%	70.7%	16.2%	100.0%
26 変化のないケースでは、変化がないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い	18歳未満	度数	165	429		594
		期待度数	171.6	422.4		594.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	27.8%	72.2%		100.0%
		調整済み残差	-.6	.6		
	18歳以上65歳未満	度数	1063	2629		3692
		期待度数	1066.7	2625.3		3692.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	28.8%	71.2%		100.0%
		調整済み残差	-.3	.3		
	65歳以上	度数	136	299		435
		期待度数	125.7	309.3		435.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	31.3%	68.7%		100.0%
		調整済み残差	1.1	-1.1		
p=0.456	合計	度数	1364	3357		4721
		期待度数	1364.0	3357.0		4721.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	28.9%	71.1%		100.0%
27 サービス管理責任者等が忙しくなったようだ	18歳未満	度数	215	375		590
		期待度数	214.0	376.0		590.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	36.4%	63.6%		100.0%
		調整済み残差	.1	-.1		
	18歳以上65歳未満	度数	1348	2330		3678
		期待度数	1334.3	2343.7		3678.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	36.7%	63.3%		100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.0		
	65歳以上	度数	142	290		432
		期待度数	156.7	275.3		432.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	32.9%	67.1%		100.0%
		調整済み残差	-1.5	1.5		
p=0.302	合計	度数	1705	2995		4700
		期待度数	1705.0	2995.0		4700.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	36.3%	63.7%		100.0%
28 請求事務が大変になった	18歳未満	度数	189	400		589
		期待度数	193.6	395.4		589.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	32.1%	67.9%		100.0%
		調整済み残差	-.4	.4		
	18歳以上65歳未満	度数	1225	2451		3676
		期待度数	1208.1	2467.9		3676.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	33.3%	66.7%		100.0%
		調整済み残差	1.3	-1.3		
	65歳以上	度数	130	303		433
		期待度数	142.3	290.7		433.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	30.0%	70.0%		100.0%
		調整済み残差	-1.3	1.3		
p=0.350	合計	度数	1544	3154		4698
		期待度数	1544.0	3154.0		4698.0
		設問1 ①利用者の年齢の%	32.9%	67.1%		100.0%

モニタリング実施頻度とモニタリング実施状況

モニタリング実施回数と報酬改定以降のサービス担当者会議の実施

モニタリング実施回数（1回，2回，3回以上）2018年・2019年と報酬改定以降モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無（あり，なし）のクロス集計の結果

サービス担当者会議は，2018年モニタリング実施回数「1回」では実施「なし」（56.1％）の割合が高く，「2回」「3回以上」とモニタリング実施回数の増加により，実施「あり」の割合の方が高くなる．2019年モニタリング実施回数「1回」「2回」では，サービス担当者会議の実施「なし」の割合が高く，「3回以上」になると実施「あり」の割合の方が高くなる．

表 65 モニタリング実施回数と報酬改定以降のサービス担当者会議の実施

		⑤報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無 2019年			⑤報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無 2018年		
		あり	なし	合計	あり	なし	合計
1回	度数	824	1155	1979	1204	1538	2742
	期待度数	963.5	1015.5	1979.0	1312.0	1430.0	2742.0
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	41.6%	58.4%	100.0%	43.9%	56.1%	100.0%
	調整済み残差	-8.2	8.2		-7.7	7.7	
2回	度数	948	978	1926	369	300	669
	期待度数	937.7	988.3	1926.0	320.1	348.9	669.0
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	49.2%	50.8%	100.0%	55.2%	44.8%	100.0%
	調整済み残差	.6	-6		4.2	-4.2	
3回以上	度数	543	307	850	273	174	447
	期待度数	413.8	436.2	850.0	213.9	233.1	447.0
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	63.9%	36.1%	100.0%	61.1%	38.9%	100.0%
	調整済み残差	9.8	-9.8		6.0	-6.0	
合計	度数	2315	2440	4755	1846	2012	3858
	期待度数	2315.0	2440.0	4755.0	1846.0	2012.0	3858.0
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	48.7%	51.3%	100.0%	47.8%	52.2%	100.0%

$\chi^2(2)=118.149, p<0.01^{**}$

$(2)=62.700, p<0.01^{**}$

自治体が支給決定したモニタリング回数と報酬改定以降のサービス担当者会議の実施

自治体が支給決定したモニタリング回数（1回，2回，3回以上）2018年・2019年と報酬改定以降モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無（あり，なし）のクロス集計の結果

サービス担当者会議は，2018年自治体が支給決定したモニタリング回数「1回」では実施「なし」の割合が高く，「2回」「3回以上」と自治体が支給決定したモニタリング回数の増加により，実施「あり」の割合の方が高くなる。

2019年自治体が支給決定したモニタリング回数「1回」，「2回」では，サービス担当者会議の実施「なし」の割合が高く，「3回以上」になると実施「あり」の割合の方が高くなる。

表 24 自治体が支給決定したモニタリング回数と報酬改定以降のサービス担当者会議の実施

		⑤報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無 2019年			⑤報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無 2018年		
		あり	なし	合計	あり	なし	合計
1回	度数	802	1072	1874	1201	1520	2721
	期待度数	905.0	969.0	1874.0	1291.9	1429.1	2721.0
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	42.8%	57.2%	100.0%	44.1%	55.9%	100.0%
	調整済み残差	-6.1	6.1		-6.4	6.4	
2回	度数	989	1066	2055	390	326	716
	期待度数	992.4	1062.6	2055.0	340.0	376.0	716.0
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	48.1%	51.9%	100.0%	54.5%	45.5%	100.0%
	調整済み残差	-.2	.2		4.2	-4.2	
3回以上	度数	483	297	780	236	175	411
	期待度数	376.7	403.3	780.0	195.1	215.9	411.0
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	61.9%	38.1%	100.0%	57.4%	42.6%	100.0%
	調整済み残差	8.3	-8.3		4.3	-4.3	
合計	度数	2274	2435	4709	1827	2021	3848
	期待度数	2274.0	2435.0	4709.0	1827.0	2021.0	3848.0
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	48.3%	51.7%	100.0%	47.5%	52.5%	100.0%

$$\chi^2(2)=80.730, p<0.01**$$

$$\chi^2(2)=42.500, p<0.01**$$

理想だと思うモニタリング回数と報酬改定以降のサービス担当者会議の実施

理想だと思うモニタリング回数（1回，2回，3回以上）2018年・2019年と報酬改定以降モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無（あり，なし）のクロス集計の結果

サービス担当者会議は，2018年理想だと思うモニタリング回数「1回」では実施「なし」の割合が高く，「2回」「3回以上」と理想だと思うモニタリング回数の増加に伴い，サービス担当者会議の実施「あり」の割合は高くなる．2019年理想だと思うモニタリング回数「1回」では，サービス担当者会議の実施「なし」の割合が高く，「2回」「3回以上」と回数の増加に伴い，実施「あり」の割合の方が高くなる．

表 67 理想だと思うモニタリング回数と報酬改定以降のサービス担当者会議の実施

		⑤報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無 2019年			⑤報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無 2018年		
		あり	なし	合計	あり	なし	合計
1回	度数	762	1187	1949	922	1364	2286
	期待度数	940.2	1008.8	1949.0	1080.9	1205.1	2286.0
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	39.1%	60.9%	100.0%	40.3%	59.7%	100.0%
	調整済み残差	-10.6	10.6		-10.5	10.5	
2回	度数	898	887	1785	544	448	992
	期待度数	861.1	923.9	1785.0	469.0	523.0	992.0
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	50.3%	49.7%	100.0%	54.8%	45.2%	100.0%
	調整済み残差	2.2	-2.2		5.5	-5.5	
3回以上	度数	573	322	895	344	206	550
	期待度数	431.7	463.3	895.0	260.1	289.9	550.0
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	64.0%	36.0%	100.0%	62.5%	37.5%	100.0%
	調整済み残差	10.5	-10.5		7.7	-7.7	
合計	度数	2233	2396	4629	1810	2018	3828
	期待度数	2233.0	2396.0	4629.0	1810.0	2018.0	3828.0
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	48.2%	51.8%	100.0%	47.3%	52.7%	100.0%

$\chi^2(2)=157.591, p<0.01^{**}$

$\chi^2(2)=118.425, p<0.01^{**}$

モニタリングの実施回数の比較と報酬改定以降のサービス担当者会議の実施

「実施したモニタリング回数」「自治体が支給決定したモニタリング回数」と「理想だと思いうモニタリング回数」を各回数間で比較し、「少ない」「同じ」「多い」の3群に分けた上で、報酬改定以降モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無（あり、なし）とクロス集計を行った結果を示す。

自治体が支給決定したモニタリング回数・モニタリング実施回数とサービス担当者会議

「少ない」は「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「モニタリング実施回数」より少ない、「同じ」は「自治体が支給決定したモニタリング回数」と「モニタリング実施回数」が同じ、そして「多い」は「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「モニタリング実施回数」より多いである。

サービス担当者会議は、2018年「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「モニタリング実施回数」より「少ない」と、サービス担当者会議の実施「あり」の割合は高く、回数が「同じ」または「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「多い」と実施「なし」の割合が高い。

同様に2019年「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「少ない」とサービス担当者会議の実施「あり」の割合が高く、回数が「同じ」または「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「多い」とサービス担当者会議の実施「なし」の割合が高い。

表 68 自治体が支給決定したモニタリング回数・モニタリング実施回数とサービス担当者会議

		⑤報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無 2019年			⑤報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無 2018年		
		あり	なし	合計	あり	なし	合計
少ない	度数	183	100	283	111	61	172
	期待度数	135.8	147.2	283.0	81.7	90.3	172.0
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	64.7%	35.3%	100.0%	64.5%	35.5%	100.0%
	調整済み残差	5.8	-5.8		4.6	-4.6	
同じ	度数	1982	2205	4187	1876	2113	3989
	期待度数	2009.4	2177.6	4187.0	1895.2	2093.8	3989.0
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	47.3%	52.7%	100.0%	47.0%	53.0%	100.0%
	調整済み残差	-2.4	2.4		-2.0	2.0	
多い	度数	141	194	335	93	124	217
	期待度数	160.8	174.2	335.0	103.1	113.9	217.0
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	42.1%	57.9%	100.0%	42.9%	57.1%	100.0%
	調整済み残差	-2.2	2.2		-1.4	1.4	
合計	度数	2306	2499	4805	2080	2298	4378
	期待度数	2306.0	2499.0	4805.0	2080.0	2298.0	4378.0
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	48.0%	52.0%	100.0%	47.5%	52.5%	100.0%
	調整済み残差						

$\chi^2(2)=36.912, p<0.01^{**}$

$\chi^2(2)=22.244, p<0.01^{**}$

自治体が支給決定したモニタリング回数・理想だと思うモニタリング回数とサービス担当者会議

「少ない」は「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「理想だと思うモニタリング回数」より少ない、「同じ」は「自治体が支給決定したモニタリング回数」と「理想だと思うモニタリング回数」が同じ、「多い」は「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「理想だと思うモニタリング回数」より多いである。

サービス担当者会議は、2018年が「自治体が支給決定した回数」が「理想だと思うモニタリング回数」より「少ない」と、サービス担当者会議の実施「あり」の割合は高く、回数が「同じ」または「自治体が支給決定した回数」が「多い」と実施「なし」の割合が高い。

同様に2019年「自治体が支給決定した回数」が「少ない」とサービス担当者会議の実施「あり」の割合が高く、回数が「同じ」または「自治体が支給決定した回数」が「多い」と実施「なし」の割合が高い。

表 69 自治体が支給決定したモニタリング回数・理想だと思うモニタリング回数とサービス担当者会議

		⑤報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無 2019年			⑤報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無 2018年		
		あり	なし	合計	あり	なし	合計
少ない	度数	303	215	518	421	319	740
	期待度数	248.9	269.1	518.0	352.4	387.6	740.0
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	58.5%	41.5%	100.0%	56.9%	43.1%	100.0%
	調整済み残差	5.0	-5.0		5.6	-5.6	
同じ	度数	1735	1881	3616	1512	1789	3301
	期待度数	1737.5	1878.5	3616.0	1572.0	1729.0	3301.0
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	48.0%	52.0%	100.0%	45.8%	54.2%	100.0%
	調整済み残差	-2	.2		-4.6	4.6	
多い	度数	205	329	534	50	73	123
	期待度数	256.6	277.4	534.0	58.6	64.4	123.0
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	38.4%	61.6%	100.0%	40.7%	59.3%	100.0%
	調整済み残差	-4.7	4.7		-1.6	1.6	
合計	度数	2243	2425	4668	1983	2181	4164
	期待度数	2243.0	2425.0	4668.0	1983.0	2181.0	4164.0
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	48.1%	51.9%	100.0%	47.6%	52.4%	100.0%

$\chi^2(2)=42.608, p<0.01^{**}$

$\chi^2(2)=32.262, p<0.01^{**}$

理想だと思うモニタリング回数・実施したモニタリング回数とサービス担当者会議

「少ない」は「理想だと思うモニタリング回数」が「実施したモニタリング回数」より少ない、「同じ」は「理想だと思うモニタリング回数」が「実施したモニタリング回数」と同じ、そして「多い」は「理想だと思うモニタリング回数」が「実施したモニタリング回数」がより多いである。

サービス担当者会議は、2018年「理想だと思うモニタリング回数」が「実施したモニタリング回数」より「少ない」または「理想だと思うモニタリング回数」が「多い」とサービス担当者会議の実施「あり」の割合は高く、回数が「同じ」だと実施「なし」の割合が高い。

2019年「理想だと思うモニタリング回数」が「少ない」または回数が「同じ」だとサービス担当者会議の実施「なし」の割合が高く、「理想だと思うモニタリング回数」が「多い」とサービス担当者会議の実施「あり」の割合が高い傾向がみられる。

表 70 理想だと思うモニタリング回数・実施したモニタリング回数とサービス担当者会議

		⑤報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無 2019年			⑤報酬改定以降、モニタリング実施に合わせてサービス担当者会議を実施したことの有無 2018年		
		あり	なし	合計	あり	なし	合計
少ない	度数	252	284	536	80	65	145
	期待度数	257.2	278.8	536.0	68.9	76.1	145.0
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	47.0%	53.0%	100.0%	55.2%	44.8%	100.0%
	調整済み残差	- .5	.5		1.9	-1.9	
同じ	度数	1706	1875	3581	1497	1762	3259
	期待度数	1718.4	1862.6	3581.0	1547.8	1711.2	3259.0
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	47.6%	52.4%	100.0%	45.9%	54.1%	100.0%
	調整済み残差	- .8	.8		-3.8	3.8	
多い	度数	293	281	574	411	371	782
	期待度数	275.4	298.6	574.0	371.4	410.6	782.0
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	51.0%	49.0%	100.0%	52.6%	47.4%	100.0%
	調整済み残差	1.6	-1.6		3.1	-3.1	
合計	度数	2251	2440	4691	1988	2198	4186
	期待度数	2251.0	2440.0	4691.0	1988.0	2198.0	4186.0
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	48.0%	52.0%	100.0%	47.5%	52.5%	100.0%

$\chi^2(2)=2.526, p=0.283$

$\chi^2(2)=14.648, p<0.01^*$

(参考) 回数比較について

①～③の各回数を比較する

①実施した回数の合計

②自治体が支給決定した回数の合計

③理想だと思う回数の合計

- ・ ①と② (基準は②) ②が①より少ない群, ②と①は同じ群, ②が①より多い群
- ・ ②と③ (基準は②) ②が③より少ない群, ②と③は同じ群, ②が③より多い群
- ・ ③と① (基準は③) ③が①より少ない群, ①と③は同じ群, ③が①より多い群

モニタリングの実施頻度とモニタリング実施標準期間の改定による影響

モニタリングの実施頻度 2018 年・2019 年とモニタリング実施標準期間改定による影響
（「そう思う」「そう思わない」）とのクロス集計の結果より、割合が 50%以上（ $P < 0.05$ +2.0
以上の残差 Z）の項目を示す。2018 年・2019 年の共通の群にある項目は（ ）の数字に下線
で示す。

実施したモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

2018年実施したモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

実施したモニタリング回数「1回」で「そう思う」に該当する項目はなかった。
一方で、「そう思わない」の該当項目は、

- 「(1) 本人から制度について聞かれることが増えた」(88.3%) Z=4.4
- 「(2) ご家族から制度について聞かれることが増えた」(65.0%) Z=5.0
- 「(7) 本人からの不安を訴える電話が減った」(85.6%) Z=5.6
- 「(8) 家族からの不安を訴える電話が減った」(71.5%) Z=6.5
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(57.7%) Z=5.7
- 「(10) 本人にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(78.9%) Z=7.5
- 「(11) 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(55.9%) Z=5.5
- 「(15) サービス事業所からの相談が増えた」(68.3%) Z=7.1
- 「(16) 以前よりサービス担当者会議を行うようになった」(78.4%) Z=4.5
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(58.5%) Z=6.8
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(53.4%) Z=5.5
- 「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(76.4%) Z=8.2
- 「(23) サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた」(69.5%)
Z=7.6 の13項目である。

実施したモニタリング回数「2回」で、「そう思う」の該当項目は、

- 「(6) ご家族から親近感を持ってもらえるようになった」(50.7%) Z=2.4
 - 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(50.2%) Z=2.8
 - 「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(62.7%)
Z=2.2
 - 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(54.9%) Z=3.0 の4項目である。
- 一方で「そう思わない」に該当する項目はなかった。

実施したモニタリング回数「3回以上」で「そう思う」の該当項目は、

- 「(3) 本人が相談支援員の顔を覚えてくれた」(70.2%) Z=4.5
- 「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(69.3%) Z=5.4
- 「(6) ご家族から親近感を持ってもらえるようになった」(51.0%) Z=2.0
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(55.8%) Z=4.7
- 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(60.4%) Z=2.8
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(59.5%) Z=6.5
- 「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(65.8%)
Z=3.2
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(59.0%) Z=4.2
- 「(21) 利用者の成長（変化）がみえるようになった」(62.6%) Z=2.1 の9項目である。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

「(26) 変化のないケースでは変化のないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い」(76.3%) Z=2.7

「(27) サービス管理責任者等が忙しくなったようだ」(69.2%) Z=2.5

「(28) 請求事務が大変になった」(72.8%) Z=2.5 の3項目である。

2019年実施したモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

実施したモニタリング回数「1回」で「そう思う」に該当する項目はなかった。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

「(1) 本人から制度について聞かれることが増えた」(90.3%) Z=6.6

「(2) ご家族から制度について聞かれることが増えた」(70.7%) Z=9.9

「(7) 本人からの不安を訴える電話が減った」(85.2%) Z=9.9

「(8) 家族からの不安を訴える電話が減った」(72.1%) Z=4.6

「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(59.9%) Z=7.3

「(10) 本人にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(80.4%) Z=8.1

「(11) 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(58.8%) Z=7.4

「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(50.1%) Z=6.0

「(15) サービス事業所からの相談が増えた」(71.7%) Z=8.7

「(16) 以前よりサービス担当者会議を行うようになった」(80.0%) Z=6.0

「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(62.0%) Z=8.6

「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(56.7%) Z=8.7

「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(78.8%) Z=8.7

「(23) サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた」(72.7%) Z=8.8

「(24) モニタリング回数が増え、利用者がストレスを感じるようになった」(88.5%) Z=2.4

「(25) モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった」(72.7%) Z=8.8

の16項目である。

実施したモニタリング回数「2回」では、「そう思う」の該当項目は、

「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(62.6%) Z=3.3

「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(53.1%) Z=2.4 の2項目である。
一方で「そう思わない」に該当する項目はなかった。

実施したモニタリング回数「3回以上」で「そう思う」の該当項目は、

「(3) 本人が相談支援員の顔を覚えてくれた」(73.7%) Z=7.6

「(4) ご家族が相談支援員の顔を覚えてくれた」(57.6%) Z=5.6

「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(71.0%) Z=8.0

「(6) ご家族から親近感を持ってもらえるようになった」(55.4%) Z=5.8

「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(59.5%) Z=8.2

「(12) 親や家族に現状報告をしやすくなった」(53.9%) Z=4.5

「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(66.4%) Z=7.2

「(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」(72.6%) Z=4.6

「(15) サービス事業所からの相談が増えた」(50.4%) Z=9.8

「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(58.5%) Z=8.3

「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(69.6%)
Z=6.4

「(19) 相談支援専門員が、家族のサービスへの家族の満足度がわかった」(51.2%) Z=4.8

「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(63.8%) Z=8.1

「(21) 利用者の成長(変化)がみえるようになった」(69.1%) Z=6.3

「(23) サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた」
(50.3%) Z=10.4 の15項目である。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

「(26) 変化のないケースでは変化のないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い」(75.7%) Z=3.1 の1項目である。

表 71 実施したモニタリング回数と影響 *設問欄に有意差を表記：(上) 2019年, (下) 2018年

設問	回数	実施した回数の合計 2019年				実施した回数の合計 2018年				
		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	
1 本人から制度について聞かれることが増えた	1回	度数	184	1719		1903	312	2347		2659
		期待度数	259.4	1643.6		1903.0	353.4	2305.6		2659.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	9.7%	90.3%		100.0%	11.7%	88.3%		100.0%
		調整済み残差	-6.6	6.6			-4.4	4.4		
	2回	度数	272	1599		1871	107	537		644
		期待度数	255.0	1616.0		1871.0	85.6	558.4		644.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	14.5%	85.5%		100.0%	16.6%	83.4%		100.0%
		調整済み残差	1.5	-1.5			2.7	-2.7		
	3回以上	度数	169	642		811	78	358		436
		期待度数	110.6	700.4		811.0	58.0	378.0		436.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	20.8%	79.2%		100.0%	17.9%	82.1%		100.0%
		調整済み残差	6.6	-6.6			3.0	-3.0		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	625	3960		4585	497	3242		3739
	期待度数	625.0	3960.0		4585.0	497.0	3242.0		3739.0	
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	13.6%	86.4%		100.0%	13.3%	86.7%		100.0%	
設問	回数	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	
2 ご家族から制度について聞かれることが増えた	1回	度数	310	1343	247	1900	549	1728	381	2658
		期待度数	416.9	1183.5	299.6	1900.0	581.9	1661.2	414.9	2658.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	16.3%	70.7%	13.0%	100.0%	20.7%	65.0%	14.3%	100.0%
		調整済み残差	-7.7	9.9	-4.3		-2.9	5.0	-3.4	
	2回	度数	455	1073	337	1865	161	368	115	644
		期待度数	409.2	1161.7	294.1	1865.0	141.0	402.5	100.5	644.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	24.4%	57.5%	18.1%	100.0%	25.0%	57.1%	17.9%	100.0%
		調整済み残差	3.3	-5.5	3.5		2.1	-3.1	1.7	
	3回以上	度数	241	440	139	820	109	242	88	439
		期待度数	179.9	510.8	129.3	820.0	96.1	274.4	68.5	439.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	29.4%	53.7%	17.0%	100.0%	24.8%	55.1%	20.0%	100.0%
		調整済み残差	5.7	-5.6	1.0		1.6	-3.4	2.7	
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1006	2856	723	4585	819	2338	584	3741
	期待度数	1006.0	2856.0	723.0	4585.0	819.0	2338.0	584.0	3741.0	
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	21.9%	62.3%	15.8%	100.0%	21.9%	62.5%	15.6%	100.0%	
設問	回数	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	
3 本人が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	1回	度数	1083	827		1910	1539	1128		2667
		期待度数	1185.9	724.1		1910.0	1608.2	1058.8		2667.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	56.7%	43.3%		100.0%	57.7%	42.3%		100.0%
		調整済み残差	-6.3	6.3			-5.1	5.1		
	2回	度数	1176	706		1882	420	233		653
		期待度数	1168.5	713.5		1882.0	393.7	259.3		653.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	62.5%	37.5%		100.0%	64.3%	35.7%		100.0%
		調整済み残差	.5	-5			2.3	-2.3		
	3回以上	度数	604	215		819	304	129		433
		期待度数	508.5	310.5		819.0	261.1	171.9		433.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	73.7%	26.3%		100.0%	70.2%	29.8%		100.0%
		調整済み残差	7.6	-7.6			4.5	-4.5		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	2863	1748		4611	2263	1490		3753
	期待度数	2863.0	1748.0		4611.0	2263.0	1490.0		3753.0	
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	62.1%	37.9%		100.0%	60.3%	39.7%		100.0%	
設問	回数	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	
4 ご家族が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	1回	度数	825	818	256	1899	1242	1029		2660
		期待度数	920.3	674.6	304.0	1899.0	1278.5	962.6		2660.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	43.4%	43.1%	13.5%	100.0%	46.7%	38.7%		100.0%
		調整済み残差	-5.7	9.0	-3.9		-2.6	5.0		
	2回	度数	928	608	337	1873	339	200		651
		期待度数	907.7	665.4	299.9	1873.0	312.9	235.6		651.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	49.5%	32.5%	18.0%	100.0%	52.1%	30.7%		100.0%
		調整済み残差	1.2	-3.6	3.0		2.3	-3.2		
	3回以上	度数	472	205	142	819	220	127		436
		期待度数	396.9	291.0	131.1	819.0	209.6	157.8		436.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	57.6%	25.0%	17.3%	100.0%	50.5%	29.1%		100.0%
		調整済み残差	5.8	-6.9	1.1		1.1	-3.3		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	2225	1631	735	4591	1801	1356		3747
	期待度数	2225.0	1631.0	735.0	4591.0	1801.0	1356.0		3747.0	
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	48.5%	35.5%	16.0%	100.0%	48.1%	36.2%		100.0%	

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
5 本人から親近感をもってもらえるようになった	1回	度数	1003	902		1905	1442	1225		2667
		期待度数	1115.5	789.5		1905.0	1526.3	1140.7		2667.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	52.7%	47.3%		100.0%	54.1%	45.9%		100.0%
		調整済み残差	-6.8	6.8			-6.1	6.1		
	2回	度数	1112	769		1881	404	247		651
		期待度数	1101.4	779.6		1881.0	372.6	278.4		651.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	59.1%	40.9%		100.0%	62.1%	37.9%		100.0%
		調整済み残差	.6	-6			2.7	-2.7		
	3回以上	度数	582	238		820	303	134		437
		期待度数	480.1	339.9		820.0	250.1	186.9		437.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	71.0%	29.0%		100.0%	69.3%	30.7%		100.0%
		調整済み残差	8.0	-8.0			5.4	-5.4		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	2697	1909		4606	2149	1606		3755
		期待度数	2697.0	1909.0		4606.0	2149.0	1606.0		3755.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	58.6%	41.4%		100.0%	57.2%	42.8%		100.0%
		調整済み残差								
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
6 ご家族から親近感をもってもらえるようになった	1回	度数	752	886	259	1897	1190	1079	392	2661
		期待度数	877.7	714.5	304.8	1897.0	1237.1	1002.8	421.1	2661.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	39.6%	46.7%	13.7%	100.0%	44.7%	40.5%	14.7%	100.0%
		調整済み残差	-7.6	10.6	-3.7		-3.4	5.7	-2.9	
	2回	度数	917	622	334	1873	329	207	113	649
		期待度数	866.6	705.5	301.0	1873.0	301.7	244.6	102.7	649.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	49.0%	33.2%	17.8%	100.0%	50.7%	31.9%	17.4%	100.0%
		調整済み残差	3.0	-5.2	2.7		2.4	-3.3	1.2	
	3回以上	度数	456	222	145	823	223	126	88	437
		期待度数	380.8	310.0	132.2	823.0	203.2	164.7	69.2	437.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	55.4%	27.0%	17.6%	100.0%	51.0%	28.8%	20.1%	100.0%
		調整済み残差	5.8	-7.0	1.3		2.0	-4.1	2.6	
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	2125	1730	738	4593	1742	1412	593	3747
		期待度数	2125.0	1730.0	738.0	4593.0	1742.0	1412.0	593.0	3747.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	46.3%	37.7%	16.1%	100.0%	46.5%	37.7%	15.8%	100.0%
		調整済み残差								
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
7 本人からの不安を訴える電話が減った	1回	度数	272	1566		1838	374	2231		2605
		期待度数	301.4	1536.6		1838.0	431.3	2173.7		2605.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	14.8%	85.2%		100.0%	14.4%	85.6%		100.0%
		調整済み残差	-2.4	2.4			-5.6	5.6		
	2回	度数	296	1542		1838	126	518		644
		期待度数	301.4	1536.6		1838.0	106.6	537.4		644.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	16.1%	83.9%		100.0%	19.6%	80.4%		100.0%
		調整済み残差	-4	4			2.3	-2.3		
	3回以上	度数	164	624		788	108	315		423
		期待度数	129.2	658.8		788.0	70.0	353.0		423.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	20.8%	79.2%		100.0%	25.5%	74.5%		100.0%
		調整済み残差	3.7	-3.7			5.3	-5.3		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	732	3732		4464	608	3064		3672
		期待度数	732.0	3732.0		4464.0	608.0	3064.0		3672.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	16.4%	83.6%		100.0%	16.6%	83.4%		100.0%
		調整済み残差								
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
8 家族からの不安を訴える電話が減った	1回	度数	268	1338	250	1856	363	1877	384	2624
		期待度数	290.8	1266.5	298.6	1856.0	414.4	1793.7	415.8	2624.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	14.4%	72.1%	13.5%	100.0%	13.8%	71.5%	14.6%	100.0%
		調整済み残差	-1.9	4.6	-4.0		-5.1	6.5	-3.2	
	2回	度数	271	1246	332	1849	113	420	114	647
		期待度数	289.7	1261.8	297.5	1849.0	102.2	442.3	102.5	647.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	14.7%	67.4%	18.0%	100.0%	17.5%	64.9%	17.6%	100.0%
		調整済み残差	-1.6	-1.0	2.8		1.3	-2.1	1.4	
	3回以上	度数	168	495	144	807	109	235	89	433
		期待度数	126.5	550.7	129.8	807.0	68.4	296.0	68.6	433.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	20.8%	61.3%	17.8%	100.0%	25.2%	54.3%	20.6%	100.0%
		調整済み残差	4.4	-4.6	1.5		5.7	-6.7	2.9	
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	707	3079	726	4512	585	2532	587	3704
		期待度数	707.0	3079.0	726.0	4512.0	585.0	2532.0	587.0	3704.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	15.7%	68.2%	16.1%	100.0%	15.8%	68.4%	15.8%	100.0%
		調整済み残差								

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
9 自宅に訪問しやすくなった	1回	度数	762	1126		1898	1127	1535		2662
		期待度数	884.4	1013.6		1898.0	1205.4	1456.6		2662.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	40.1%	59.9%		100.0%	42.3%	57.7%		100.0%
		調整済み残差	-7.3	7.3			-5.7	5.7		
	2回	度数	891	986		1877	327	324		651
		期待度数	874.6	1002.4		1877.0	294.8	356.2		651.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	47.5%	52.5%		100.0%	50.2%	49.8%		100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.0			2.8	-2.8		
	3回以上	度数	488	332		820	245	194		439
		期待度数	382.1	437.9		820.0	198.8	240.2		439.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	59.5%	40.5%		100.0%	55.8%	44.2%		100.0%
		調整済み残差	8.2	-8.2			4.7	-4.7		
	合計	度数	2141	2454		4595	1699	2053		3752
		期待度数	2141.0	2454.0		4595.0	1699.0	2053.0		3752.0
設問3 実施した回数の合計 2019年の%		46.6%	53.4%		100.0%	45.3%	54.7%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
10 本人にサービス事業所の違いをわかってもらえた	1回	度数	371	1526		1897	561	2093		2654
		期待度数	489.0	1408.0		1897.0	650.5	2003.5		2654.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	19.6%	80.4%		100.0%	21.1%	78.9%		100.0%
		調整済み残差	-8.1	8.1			-7.5	7.5		
	2回	度数	493	1374		1867	186	462		648
		期待度数	481.3	1385.7		1867.0	158.8	489.2		648.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	26.4%	73.6%		100.0%	28.7%	71.3%		100.0%
		調整済み残差	.8	-.8			2.7	-2.7		
	3回以上	度数	314	492		806	168	263		431
		期待度数	207.8	598.2		806.0	105.6	325.4		431.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	39.0%	61.0%		100.0%	39.0%	61.0%		100.0%
		調整済み残差	9.4	-9.4			7.4	-7.4		
	合計	度数	1178	3392		4570	915	2818		3733
		期待度数	1178.0	3392.0		4570.0	915.0	2818.0		3733.0
設問3 実施した回数の合計 2019年の%		25.8%	74.2%		100.0%	24.5%	75.5%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
11 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた	1回	度数	526	1114	253	1893	782	1486	390	2658
		期待度数	598.7	990.2	304.1	1893.0	827.0	1410.4	420.6	2658.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	27.8%	58.8%	13.4%	100.0%	29.4%	55.9%	14.7%	100.0%
		調整済み残差	-4.7	7.4	-4.2		-3.5	5.5	-3.0	
	2回	度数	588	942	338	1868	221	312	115	648
		期待度数	590.8	977.1	300.1	1868.0	201.6	343.8	102.5	648.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	31.5%	50.4%	18.1%	100.0%	34.1%	48.1%	17.7%	100.0%
		調整済み残差	-2	-2.1	3.1		1.8	-2.8	1.5	
	3回以上	度数	333	337	144	814	161	187	87	435
		期待度数	257.5	425.8	130.8	814.0	135.3	230.8	68.8	435.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	40.9%	41.4%	17.7%	100.0%	37.0%	43.0%	20.0%	100.0%
		調整済み残差	6.3	-6.9	1.4		2.8	-4.5	2.5	
	合計	度数	1447	2393	735	4575	1164	1985	592	3741
		期待度数	1447.0	2393.0	735.0	4575.0	1164.0	1985.0	592.0	3741.0
設問3 実施した回数の合計 2019年の%		31.6%	52.3%	16.1%	100.0%	31.1%	53.1%	15.8%	100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
12 親や家族に現状報告をしやすくなった	1回	度数	802	840	257	1899	1228	1045	389	2662
		期待度数	890.1	704.7	304.2	1899.0	1244.7	996.9	420.4	2662.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	42.2%	44.2%	13.5%	100.0%	46.1%	39.3%	14.6%	100.0%
		調整済み残差	-5.3	8.4	-3.9		-1.2	3.6	-3.1	
	2回	度数	908	629	335	1872	318	218	113	649
		期待度数	877.5	694.7	299.8	1872.0	303.5	243.1	102.5	649.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	48.5%	33.6%	17.9%	100.0%	49.0%	33.6%	17.4%	100.0%
		調整済み残差	1.8	-4.1	2.9		1.3	-2.2	1.2	
	3回以上	度数	441	234	143	818	207	141	90	438
		期待度数	383.4	303.6	131.0	818.0	204.8	164.0	69.2	438.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	53.9%	28.6%	17.5%	100.0%	47.3%	32.2%	20.5%	100.0%
		調整済み残差	4.5	-5.6	1.3		.2	-2.4	2.9	
	合計	度数	2151	1703	735	4589	1753	1404	592	3749
		期待度数	2151.0	1703.0	735.0	4589.0	1753.0	1404.0	592.0	3749.0
設問3 実施した回数の合計 2019年の%		46.9%	37.1%	16.0%	100.0%	46.8%	37.4%	15.8%	100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
13 サービス事業所からの情報提供が増えた	1回	度数	953	958		1911	1413	1264		2677
		期待度数	1052.1	858.9		1911.0	1449.1	1227.9		2677.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	49.9%	50.1%		100.0%	52.8%	47.2%		100.0%
		調整済み残差	-6.0	6.0			-2.6	2.6		
	2回	度数	1042	840		1882	359	288		647
		期待度数	1036.2	845.8		1882.0	350.2	296.8		647.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	55.4%	44.6%		100.0%	55.5%	44.5%		100.0%
		調整済み残差	.4	-4			.8	-1.8		
	3回以上	度数	547	277		824	265	174		439
		期待度数	453.7	370.3		824.0	237.6	201.4		439.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	66.4%	33.6%		100.0%	60.4%	39.6%		100.0%
		調整済み残差	7.2	-7.2			2.8	-2.8		
	合計	度数	2542	2075		4617	2037	1726		3763
期待度数		2542.0	2075.0		4617.0	2037.0	1726.0		3763.0	
設問3 実施した回数の合計 2019年の%		55.1%	44.9%		100.0%	54.1%	45.9%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
14 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた	1回	度数	1174	742		1916	1739	941		2680
		期待度数	1258.4	657.6		1916.0	1738.1	941.9		2680.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	61.3%	38.7%		100.0%	64.9%	35.1%		100.0%
		調整済み残差	-5.3	5.3			.1	-1		
	2回	度数	1267	620		1887	411	241		652
		期待度数	1239.4	647.6		1887.0	422.8	229.2		652.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	67.1%	32.9%		100.0%	63.0%	37.0%		100.0%
		調整済み残差	1.7	-1.7			-1.1	1.1		
	3回以上	度数	596	225		821	295	143		438
		期待度数	539.2	281.8		821.0	284.1	153.9		438.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	72.6%	27.4%		100.0%	67.4%	32.6%		100.0%
		調整済み残差	4.6	-4.6			1.2	-1.2		
	合計	度数	3037	1587		4624	2445	1325		3770
期待度数		3037.0	1587.0		4624.0	2445.0	1325.0		3770.0	
設問3 実施した回数の合計 2019年の%		65.7%	34.3%		100.0%	64.9%	35.1%		100.0%	
** p<0.01 p=0.342										
15 サービス事業所からの相談が増えた	1回	度数	541	1372		1913	848	1830		2678
		期待度数	680.2	1232.8		1913.0	942.2	1735.8		2678.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	28.3%	71.7%		100.0%	31.7%	68.3%		100.0%
		調整済み残差	-8.7	8.7			-7.1	7.1		
	2回	度数	688	1197		1885	267	385		652
		期待度数	670.2	1214.8		1885.0	229.4	422.6		652.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	36.5%	63.5%		100.0%	41.0%	59.0%		100.0%
		調整済み残差	1.1	-1.1			3.4	-3.4		
	3回以上	度数	413	407		820	210	226		436
		期待度数	291.6	528.4		820.0	153.4	282.6		436.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	50.4%	49.6%		100.0%	48.2%	51.8%		100.0%
		調整済み残差	9.8	-9.8			6.0	-6.0		
	合計	度数	1642	2976		4618	1325	2441		3766
期待度数		1642.0	2976.0		4618.0	1325.0	2441.0		3766.0	
設問3 実施した回数の合計 2019年の%		35.6%	64.4%		100.0%	35.2%	64.8%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
16 以前よりサービス担当者会議を行うようになった	1回	度数	382	1530		1912	578	2097		2675
		期待度数	468.2	1443.8		1912.0	631.5	2043.5		2675.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	20.0%	80.0%		100.0%	21.6%	78.4%		100.0%
		調整済み残差	-6.0	6.0			-4.5	4.5		
	2回	度数	459	1427		1886	175	479		654
		期待度数	461.8	1424.2		1886.0	154.4	499.6		654.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	24.3%	75.7%		100.0%	26.8%	73.2%		100.0%
		調整済み残差	-2	.2			2.1	-2.1		
	3回以上	度数	290	531		821	136	301		437
		期待度数	201.0	620.0		821.0	103.2	333.8		437.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	35.3%	64.7%		100.0%	31.1%	68.9%		100.0%
		調整済み残差	8.0	-8.0			3.9	-3.9		
	合計	度数	1131	3488		4619	889	2877		3766
期待度数		1131.0	3488.0		4619.0	889.0	2877.0		3766.0	
設問3 実施した回数の合計 2019年の%		24.5%	75.5%		100.0%	23.6%	76.4%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
17 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった	1回	度数	725	1185		1910	1109	1563		2672
		期待度数	869.0	1041.0		1910.0	1202.5	1469.5		2672.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	38.0%	62.0%		100.0%	41.5%	58.5%		100.0%
		調整済み残差	-8.6	8.6			-6.8	6.8		
	2回	度数	894	990		1884	324	329		653
		期待度数	857.1	1026.9		1884.0	293.9	359.1		653.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	47.5%	52.5%		100.0%	49.6%	50.4%		100.0%
		調整済み残差	2.2	-2.2			2.6	-2.6		
	3回以上	度数	482	342		824	261	178		439
		期待度数	374.9	449.1		824.0	197.6	241.4		439.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	58.5%	41.5%		100.0%	59.5%	40.5%		100.0%
		調整済み残差	8.3	-8.3			6.5	-6.5		
合計	度数	2101	2517		4618	1694	2070		3764	
	期待度数	2101.0	2517.0		4618.0	1694.0	2070.0		3764.0	
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	45.5%	54.5%		100.0%	45.0%	55.0%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
18 相談支援専門員が、利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった	1回	度数	1004	906		1910	1513	1158		2671
		期待度数	1139.9	770.1		1910.0	1569.3	1101.7		2671.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	52.6%	47.4%		100.0%	56.6%	43.4%		100.0%
		調整済み残差	-8.3	8.3			-4.1	4.1		
	2回	度数	1175	703		1878	408	243		651
		期待度数	1120.8	757.2		1878.0	382.5	268.5		651.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	62.6%	37.4%		100.0%	62.7%	37.3%		100.0%
		調整済み残差	3.3	-3.3			2.2	-2.2		
	3回以上	度数	571	249		820	287	149		436
		期待度数	489.4	330.6		820.0	256.2	179.8		436.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	69.6%	30.4%		100.0%	65.8%	34.2%		100.0%
		調整済み残差	6.4	-6.4			3.2	-3.2		
合計	度数	2750	1858		4608	2208	1550		3758	
	期待度数	2750.0	1858.0		4608.0	2208.0	1550.0		3758.0	
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	59.7%	40.3%		100.0%	58.8%	41.2%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
19 相談支援専門員が、家族のサービスへの家族の満足度がわかった	1回	度数	751	884	261	1896	1148	1116	395	2659
		期待度数	827.8	759.9	308.3	1896.0	1161.9	1072.4	424.7	2659.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	39.6%	46.6%	13.8%	100.0%	43.2%	42.0%	14.9%	100.0%
		調整済み残差	-4.6	7.6	-3.8		-1.0	3.2	-2.9	
	2回	度数	831	698	339	1868	296	239	113	648
		期待度数	815.5	748.7	303.8	1868.0	283.2	261.3	103.5	648.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	44.5%	37.4%	18.1%	100.0%	45.7%	36.9%	17.4%	100.0%
		調整済み残差	.9	-3.1	2.9		1.1	-2.0	1.1	
	3回以上	度数	418	254	145	817	192	155	90	437
		期待度数	356.7	327.4	132.9	817.0	191.0	176.2	69.8	437.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	51.2%	31.1%	17.7%	100.0%	43.9%	35.5%	20.6%	100.0%
		調整済み残差	4.8	-5.8	1.3		.1	-2.2	2.8	
合計	度数	2000	1836	745	4581	1636	1510	598	3744	
	期待度数	2000.0	1836.0	745.0	4581.0	1636.0	1510.0	598.0	3744.0	
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	43.7%	40.1%	16.3%	100.0%	43.7%	40.3%	16.0%	100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
20 相談支援専門員として新たなニーズが見えた	1回	度数	827	1083		1910	1245	1426		2671
		期待度数	973.0	937.0		1910.0	1322.0	1349.0		2671.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	43.3%	56.7%		100.0%	46.6%	53.4%		100.0%
		調整済み残差	-8.7	8.7			-5.5	5.5		
	2回	度数	1000	884		1884	358	294		652
		期待度数	959.8	924.2		1884.0	322.7	329.3		652.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	53.1%	46.9%		100.0%	54.9%	45.1%		100.0%
		調整済み残差	2.4	-2.4			3.0	-3.0		
	3回以上	度数	525	298		823	258	179		437
		期待度数	419.3	403.7		823.0	216.3	220.7		437.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	63.8%	36.2%		100.0%	59.0%	41.0%		100.0%
		調整済み残差	8.1	-8.1			4.2	-4.2		
合計	度数	2352	2265		4617	1861	1899		3760	
	期待度数	2352.0	2265.0		4617.0	1861.0	1899.0		3760.0	
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	50.9%	49.1%		100.0%	49.5%	50.5%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
21 利用者の成長(変化)がみえるようになった	1回	度数	1026	889		1915	1515	1164		2679
		期待度数	1136.7	778.3		1915.0	1553.5	1125.5		2679.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	53.6%	46.4%		100.0%	56.6%	43.4%		100.0%
		調整済み残差	-6.7	6.7			-2.8	2.8		
	2回	度数	1149	736		1885	397	256		653
		期待度数	1118.8	766.2		1885.0	378.7	274.3		653.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	61.0%	39.0%		100.0%	60.8%	39.2%		100.0%
		調整済み残差	1.8	-1.8			1.6	-1.6		
	3回以上	度数	569	254		823	273	163		436
		期待度数	488.5	334.5		823.0	252.8	183.2		436.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	69.1%	30.9%		100.0%	62.6%	37.4%		100.0%
		調整済み残差	6.3	-6.3			2.1	-2.1		
	** p<0.01 * p<0.05	合計	度数	2744	1879		4623	2185	1583	
期待度数			2744.0	1879.0		4623.0	2185.0	1583.0		3768.0
設問3 実施した回数の合計 2019年の%			59.4%	40.6%		100.0%	58.0%	42.0%		100.0%
22 モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った	1回	度数	405	1509		1914	632	2046		2678
		期待度数	536.3	1377.7		1914.0	733.3	1944.7		2678.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	21.2%	78.8%		100.0%	23.6%	76.4%		100.0%
		調整済み残差	-8.7	8.7			-8.2	8.2		
	2回	度数	528	1353		1881	220	432		652
		期待度数	527.0	1354.0		1881.0	178.5	473.5		652.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	28.1%	71.9%		100.0%	33.7%	66.3%		100.0%
		調整済み残差	.1	-1			4.0	-4.0		
	3回以上	度数	360	460		820	180	259		439
		期待度数	229.7	590.3		820.0	120.2	318.8		439.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	43.9%	56.1%		100.0%	41.0%	59.0%		100.0%
		調整済み残差	11.2	-11.2			6.8	-6.8		
	** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1293	3322		4615	1032	2737	
期待度数			1293.0	3322.0		4615.0	1032.0	2737.0		3769.0
設問3 実施した回数の合計 2019年の%			28.0%	72.0%		100.0%	27.4%	72.6%		100.0%
23 サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた	1回	度数	516	1376		1892	810	1846		2656
		期待度数	655.4	1236.6		1892.0	910.4	1745.6		2656.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	27.3%	72.7%		100.0%	30.5%	69.5%		100.0%
		調整済み残差	-8.8	8.8			-7.6	7.6		
	2回	度数	661	1215		1876	258	393		651
		期待度数	649.9	1226.1		1876.0	223.1	427.9		651.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	35.2%	64.8%		100.0%	39.6%	60.4%		100.0%
		調整済み残差	.7	-7			3.2	-3.2		
	3回以上	度数	412	407		819	216	223		439
		期待度数	283.7	535.3		819.0	150.5	288.5		439.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	50.3%	49.7%		100.0%	49.2%	50.8%		100.0%
		調整済み残差	10.4	-10.4			7.0	-7.0		
	** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1589	2998		4587	1284	2462	
期待度数			1589.0	2998.0		4587.0	1284.0	2462.0		3746.0
設問3 実施した回数の合計 2019年の%			34.6%	65.4%		100.0%	34.3%	65.7%		100.0%
24 モニタリング回数が増え、利用者がストレスを感じるようになった	1回	度数	220	1690		1910	341	2330		2671
		期待度数	247.5	1662.5		1910.0	357.0	2314.0		2671.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	11.5%	88.5%		100.0%	12.8%	87.2%		100.0%
		調整済み残差	-2.4	2.4			-1.7	1.7		
	2回	度数	260	1621		1881	86	564		650
		期待度数	243.8	1637.2		1881.0	86.9	563.1		650.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	13.8%	86.2%		100.0%	13.2%	86.8%		100.0%
		調整済み残差	1.5	-1.5			-.1	.1		
	3回以上	度数	117	699		816	75	360		435
		期待度数	105.7	710.3		816.0	58.1	376.9		435.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	14.3%	85.7%		100.0%	17.2%	82.8%		100.0%
		調整済み残差	1.3	-1.3			2.5	-2.5		
	* p<0.05 * p<0.05	合計	度数	597	4010		4607	502	3254	
期待度数			597.0	4010.0		4607.0	502.0	3254.0		3756.0
設問3 実施した回数の合計 2019年の%			13.0%	87.0%		100.0%	13.4%	86.6%		100.0%

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
25 モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった	1回	度数	220	1416	261	1897	381	1887	394	2662
		期待度数	247.6	1340.0	309.3	1897.0	360.9	1873.4	427.7	2662.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	11.6%	74.6%	13.8%	100.0%	14.3%	70.9%	14.8%	100.0%
		調整済み残差	-2.5	5.0	-3.9		2.1	1.1	-3.3	
	2回	度数	281	1249	339	1869	79	454	115	648
		期待度数	244.0	1320.3	304.8	1869.0	87.9	456.0	104.1	648.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	15.0%	66.8%	18.1%	100.0%	12.2%	70.1%	17.7%	100.0%
		調整済み残差	3.3	-4.7	2.8		-1.1	-2	1.3	
	3回以上	度数	97	571	147	815	48	296	93	437
		期待度数	106.4	575.7	132.9	815.0	59.2	307.5	70.2	437.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	11.9%	70.1%	18.0%	100.0%	11.0%	67.7%	21.3%	100.0%
		調整済み残差	-1.1	-4	1.5		-1.7	-1.3	3.2	
合計	度数	598	3236	747	4581	508	2637	602	3747	
	期待度数	598.0	3236.0	747.0	4581.0	508.0	2637.0	602.0	3747.0	
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	13.1%	70.6%	16.3%	100.0%	13.6%	70.4%	16.1%	100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
26 変化のないケースでは、変化がないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い	1回	度数	574	1342		1916	831	1845		2676
		期待度数	551.9	1364.1		1916.0	784.5	1891.5		2676.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	30.0%	70.0%		100.0%	31.1%	68.9%		100.0%
		調整済み残差	1.5	-1.5			3.7	-3.7		
	2回	度数	558	1328		1886	169	483		652
		期待度数	543.2	1342.8		1886.0	191.1	460.9		652.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	29.6%	70.4%		100.0%	25.9%	74.1%		100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.0			-2.1	2.1		
	3回以上	度数	199	620		819	104	334		438
		期待度数	235.9	583.1		819.0	128.4	309.6		438.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	24.3%	75.7%		100.0%	23.7%	76.3%		100.0%
		調整済み残差	-3.1	3.1			-2.7	2.7		
合計	度数	1331	3290		4621	1104	2662		3766	
	期待度数	1331.0	3290.0		4621.0	1104.0	2662.0		3766.0	
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	28.8%	71.2%		100.0%	29.3%	70.7%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
27 サービス管理責任者等が忙しくなったようだ	1回	度数	692	1222		1914	1011	1658		2669
		期待度数	696.0	1218.0		1914.0	969.6	1699.4		2669.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	36.2%	63.8%		100.0%	37.9%	62.1%		100.0%
		調整済み残差	-2	2			3.1	-3.1		
	2回	度数	688	1191		1879	218	430		648
		期待度数	683.2	1195.8		1879.0	235.4	412.6		648.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	36.6%	63.4%		100.0%	33.6%	66.4%		100.0%
		調整済み残差	.3	-3			-1.6	1.6		
	3回以上	度数	293	515		808	133	299		432
		期待度数	293.8	514.2		808.0	156.9	275.1		432.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	36.3%	63.7%		100.0%	30.8%	69.2%		100.0%
		調整済み残差	-1	1			-2.5	2.5		
合計	度数	1673	2928		4601	1362	2387		3749	
	期待度数	1673.0	2928.0		4601.0	1362.0	2387.0		3749.0	
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	36.4%	63.6%		100.0%	36.3%	63.7%		100.0%	
	p=0.9550 ** p<0.01									
28 請求事務が大変になった	1回	度数	644	1268		1912	896	1770		2666
		期待度数	628.3	1283.7		1912.0	865.4	1800.6		2666.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	33.7%	66.3%		100.0%	33.6%	66.4%		100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.0			2.4	-2.4		
	2回	度数	611	1263		1874	202	444		646
		期待度数	615.8	1258.2		1874.0	209.7	436.3		646.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	32.6%	67.4%		100.0%	31.3%	68.7%		100.0%
		調整済み残差	-3	3			-7	7		
	3回以上	度数	256	556		812	118	316		434
		期待度数	266.8	545.2		812.0	140.9	293.1		434.0
		設問3 実施した回数の合計 2019年の%	31.5%	68.5%		100.0%	27.2%	72.8%		100.0%
		調整済み残差	-9	9			-2.5	2.5		
合計	度数	1511	3087		4598	1216	2530		3746	
	期待度数	1511.0	3087.0		4598.0	1216.0	2530.0		3746.0	
	設問3 実施した回数の合計 2019年の%	32.9%	67.1%		100.0%	32.5%	67.5%		100.0%	
	p=0.523 * p<0.05									

自治体が支給決定したモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

2018年自治体が支給決定したモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

自治体が支給決定したモニタリング回数「1回」で「そう思う」に該当する項目はなかった。一方で、「そう思わない」の該当項目は、

- 「(1) 本人から制度について聞かれることが増えた」(88.3%) Z=4.1
- 「(2) ご家族から制度について聞かれることが増えた」(64.4%) Z=4.1
- 「(7) ご本人からの不安を訴える電話が減った」(85.5%) Z=4.7
- 「(8) 家族からの不安を訴える電話が減った」(71.1%) Z=3.1
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(57.0%) Z=4.2
- 「(10) 本人にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(78.2%) Z=5.4
- 「(11) 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(55.4%) Z=4.2
- 「(15) サービス事業所からの相談が増えた」(68.3%) Z=6.4
- 「(16) 以前よりサービス担当者会議を行うようになった」(78.2%) Z=3.8
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(58.0%) Z=5.5
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(53.4%) Z=5.3
- 「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(76.2%) Z=7.2
- 「(23) サービス量が増えた, 又は減ったことにより, 適切なサービス量に近づいた」(69.1%) Z=6.2

の13項目である。

自治体が支給決定したモニタリング回数「2回」で「そう思う」に該当する項目は、

- 「(4) ご家族が相談支援員の顔を覚えてくれた」(53.0%) Z=2.9
- 「(6) ご家族から親近感を持ってもらえるようになった」(50.7%) Z=2.4

の2項目である。一方で「そう思わない」に該当する項目はなかった。

自治体が支給決定したモニタリング回数「3回以上」で「そう思う」の該当項目は、

- 「(3) 本人が相談支援員の顔を覚えてくれた」(67.0%) Z=2.9
- 「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(68.3%) Z=4.8
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(58.0%) Z=7.0
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(57.6%) Z=5.4
- 「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(65.3%)

Z=2.9

- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(56.4%) Z=3.0

の6項目である。

一方「そう思わない」に該当する項目は、

「(26) 変化のないケースでは変化のないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い」(76.8%) Z=3.0 の1項目である。

2019年自治体が支給決定したモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

自治体が支給決定したモニタリング回数「1回」で「そう思う」に該当する項目はなかった。一方で、「そう思わない」の割合が50%以上の項目は、

- 「(1) 本人から制度について聞かれることが増えた」(89.6%) Z=5.1
- 「(2) ご家族から制度について聞かれることが増えた」(69.4%) Z=8.0
- 「(8) 家族からの不安を訴える電話が減った」(71.1%) Z=3.1
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(58.8%) Z=5.6
- 「(10) 本人にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(78.5%) Z=5.2
- 「(11) 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(57.4%) Z=5.4
- 「(15) サービス事業所からの相談が増えた」(71.5%) Z=7.8
- 「(16) 以前よりサービス担当者会議を行うようになった」(79.1%) Z=4.5
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(60.7%) Z=6.6
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(55.7%) Z=7.2
- 「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(76.7%) Z=5.6
- 「(23) サービス量が増えた, 又は減ったことにより, 適切なサービス量に近づいた」(70.4%) Z=5.7
- 「(25) モニタリングが増え, 家族がストレスを感じるようになった」(74.0%) Z=3.8

の13項目である。一方「そう思う」に該当する項目はなかった。

自治体が支給決定したモニタリング回数「2回」では「そう思う」「そう思わない」に該当する項目はなかった。

自治体が支給決定したモニタリング回数「3回以上」で「そう思う」の該当項目は、

- 「(3) 本人が相談支援員の顔を覚えてくれた」(72.3%) Z=6.4
- 「(4) ご家族が相談支援員の顔を覚えてくれた」(55.9%) Z=4.5
- 「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(70.2%) Z=7.2
- 「(6) ご家族から親近感を持ってもらえるようになった」(53.0%) Z=4.1
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(58.0%) Z=7.0
- 「(12) 親や家族に現状報告をしやすくなった」(51.7%) Z=2.9
- 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(66.6%) Z=7.1
- 「(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」(71.4%) Z=3.8
- 「(15) サービス事業所からの相談が増えた」(50.7%) Z=9.7
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(57.9%) Z=7.6
- 「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(70.1%) Z=6.5
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(62.6%) Z=7.1
- 「(21) 利用者の成長(変化)がみえるようになった」(67.9%) Z=5.3

の13項目である。

一方「そう思わない」に該当する項目は、

- 「(26) 変化のないケースでは変化のないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い」(75.7%) Z=3.1 の1項目である。

表 72 自治体が支給決定したモニタリング回数と影響

*設問欄に有意差を表記：(上) 2019年, (下) 2018年

設問	回数		自治体が支給決定した回数の合計 2019年				自治体が支給決定した回数の合計 2018年			
			そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
1 本人から制度について聞かれることが増えた	1回	度数	188	1622		1810	308	2334		2642
		期待度数	245.8	1564.2		1810.0	346.5	2295.5		2642.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	10.4%	89.6%		100.0%	11.7%	88.3%		100.0%
		調整済み残差	-5.1	5.1			-4.1	4.1		
	2回	度数	281	1706		1987	119	568		687
		期待度数	269.9	1717.1		1987.0	90.1	596.9		687.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	14.1%	85.9%		100.0%	17.3%	82.7%		100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.0			3.6	-3.6		
	3回以上	度数	148	598		746	62	337		399
		期待度数	101.3	644.7		746.0	52.3	346.7		399.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	19.8%	80.2%		100.0%	15.5%	84.5%		100.0%
		調整済み残差	5.5	-5.5			1.5	-1.5		
合計	度数	617	3926		4543	489	3239		3728	
	期待度数	617.0	3926.0		4543.0	489.0	3239.0		3728.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	13.6%	86.4%		100.0%	13.1%	86.9%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年	1回	度数	312	1254	241	1807	559	1702	381	2642
		期待度数	398.1	1126.2	282.7	1807.0	584.2	1648.5	409.3	2642.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	17.3%	69.4%	13.3%	100.0%	21.2%	64.4%	14.4%	100.0%
		調整済み残差	-6.3	8.0	-3.5		-2.2	4.0	-2.8	
	2回	度数	483	1159	341	1983	183	391	114	688
		期待度数	436.8	1235.9	310.3	1983.0	152.1	429.3	106.6	688.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	24.4%	58.4%	17.2%	100.0%	26.6%	56.8%	16.6%	100.0%
		調整済み残差	3.3	-4.7	2.5		3.1	-3.3	.9	
	3回以上	度数	206	419	129	754	83	235	83	401
		期待度数	166.1	469.9	118.0	754.0	88.7	250.2	62.1	401.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	27.3%	55.6%	17.1%	100.0%	20.7%	58.6%	20.7%	100.0%
		調整済み残差	3.8	-4.2	1.2		-7	-1.7	3.1	
合計	度数	1001	2832	711	4544	825	2328	578	3731	
	期待度数	1001.0	2832.0	711.0	4544.0	825.0	2328.0	578.0	3731.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	22.0%	62.3%	15.6%	100.0%	22.1%	62.4%	15.5%	100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
3 本人が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	1回	度数	1055	763		1818	1550	1099		2649
		期待度数	1125.0	693.0		1818.0	1594.2	1054.8		2649.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	58.0%	42.0%		100.0%	58.5%	41.5%		100.0%
		調整済み残差	-4.4	4.4			-3.2	3.2		
	2回	度数	1228	770		1998	436	260		696
		期待度数	1236.4	761.6		1998.0	418.9	277.1		696.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	61.5%	38.5%		100.0%	62.6%	37.4%		100.0%
		調整済み残差	-5	.5			1.5	-1.5		
	3回以上	度数	545	209		754	266	131		397
		期待度数	466.6	287.4		754.0	238.9	158.1		397.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	72.3%	27.7%		100.0%	67.0%	33.0%		100.0%
		調整済み残差	6.4	-6.4			2.9	-2.9		
合計	度数	2828	1742		4570	2252	1490		3742	
	期待度数	2828.0	1742.0		4570.0	2252.0	1490.0		3742.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	61.9%	38.1%		100.0%	60.2%	39.8%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
4 ご家族が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	1回	度数	801	760		1807	1241	1016		2643
		期待度数	873.9	647.1		1807.0	1272.0	959.3		2643.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	44.3%	42.1%		100.0%	47.0%	38.4%		100.0%
		調整済み残差	-4.4	7.1			-2.2	4.2		
	2回	度数	978	669		1989	368	213		694
		期待度数	961.9	712.3		1989.0	334.0	251.9		694.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	49.2%	33.6%		100.0%	53.0%	30.7%		100.0%
		調整済み残差	1.0	-2.7			2.9	-3.4		
	3回以上	度数	421	200		753	189	127		399
		期待度数	364.2	269.6		753.0	192.0	144.8		399.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	55.9%	26.6%		100.0%	47.4%	31.8%		100.0%
		調整済み残差	4.5	-5.8			-3	-2.0		
合計	度数	2200	1629		4549	1798	1356		3736	
	期待度数	2200.0	1629.0		4549.0	1798.0	1356.0		3736.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	48.4%	35.8%		100.0%	48.1%	36.3%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
5 本人から親近感をもってもらえるようになった	1回	度数	975	839		1814	1453	1197		2650
		期待度数	1058.4	755.6		1814.0	1511.9	1138.1		2650.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	53.7%	46.3%		100.0%	54.8%	45.2%		100.0%
		調整済み残差	-5.1	5.1			-4.3	4.3		
	2回	度数	1159	838		1997	410	284		694
		期待度数	1165.1	831.9		1997.0	395.9	298.1		694.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	58.0%	42.0%		100.0%	59.1%	40.9%		100.0%
		調整済み残差	-4	4			1.2	-1.2		
	3回以上	度数	530	225		755	273	127		400
		期待度数	440.5	314.5		755.0	228.2	171.8		400.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	70.2%	29.8%		100.0%	68.3%	31.8%		100.0%
		調整済み残差	7.2	-7.2			4.8	-4.8		
	** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	2664	1902		4566	2136	1608	
期待度数		2664.0	1902.0		4566.0	2136.0	1608.0		3744.0	
設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%		58.3%	41.7%		100.0%	57.1%	42.9%		100.0%	
6 ご家族から親近感をもってもらえるようになった	1回	度数	740	820	250	1810	1198	1058	389	2645
		期待度数	836.8	685.4	287.8	1810.0	1231.5	999.4	414.1	2645.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	40.9%	45.3%	13.8%	100.0%	45.3%	40.0%	14.7%	100.0%
		調整済み残差	-5.9	8.4	-3.1		-2.4	4.3	-2.5	
	2回	度数	965	683	340	1988	351	226	115	692
		期待度数	919.1	752.8	316.1	1988.0	322.2	261.5	108.3	692.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	48.5%	34.4%	17.1%	100.0%	50.7%	32.7%	16.6%	100.0%
		調整済み残差	2.7	-4.3	2.0		2.4	-3.1	.8	
	3回以上	度数	400	221	134	755	191	128	81	400
		期待度数	349.1	285.9	120.1	755.0	186.2	151.1	62.6	400.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	53.0%	29.3%	17.7%	100.0%	47.8%	32.0%	20.3%	100.0%
		調整済み残差	4.1	-5.3	1.5		.5	-2.5	2.7	
	** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	2105	1724	724	4553	1740	1412	585
期待度数		2105.0	1724.0	724.0	4553.0	1740.0	1412.0	585.0	3737.0	
設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%		46.2%	37.9%	15.9%	100.0%	46.6%	37.8%	15.7%	100.0%	
7 本人からの不安を訴える電話が減った	1回	度数	275	1477		1752	376	2217		2593
		期待度数	286.6	1465.4		1752.0	424.0	2169.0		2593.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	15.7%	84.3%		100.0%	14.5%	85.5%		100.0%
		調整済み残差	-1.0	1.0			-4.7	4.7		
	2回	度数	301	1646		1947	126	557		683
		期待度数	318.5	1628.5		1947.0	111.7	571.3		683.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	15.5%	84.5%		100.0%	18.4%	81.6%		100.0%
		調整済み残差	-1.4	1.4			1.6	-1.6		
	3回以上	度数	148	579		727	97	290		387
		期待度数	118.9	608.1		727.0	63.3	323.7		387.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	20.4%	79.6%		100.0%	25.1%	74.9%		100.0%
		調整済み残差	3.2	-3.2			4.9	-4.9		
	** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	724	3702		4426	599	3064	
期待度数		724.0	3702.0		4426.0	599.0	3064.0		3663.0	
設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%		16.4%	83.6%		100.0%	16.4%	83.6%		100.0%	
8 家族からの不安を訴える電話が減った	1回	度数	272	1260	241	1773	372	1858	381	2611
		期待度数	278.5	1212.5	282.0	1773.0	413.5	1788.3	409.2	2611.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	15.3%	71.1%	13.6%	100.0%	14.2%	71.2%	14.6%	100.0%
		調整済み残差	-5	3.1	-3.4		-4.1	5.4	-2.8	
	2回	度数	281	1343	338	1962	113	459	115	687
		期待度数	308.2	1341.8	312.1	1962.0	108.8	470.5	107.7	687.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	14.3%	68.5%	17.2%	100.0%	16.4%	66.8%	16.7%	100.0%
		調整済み残差	-2.2	.1	2.1		.5	-1.0	.9	
	3回以上	度数	150	458	133	741	100	213	83	396
		期待度数	116.4	506.7	117.9	741.0	62.7	271.2	62.1	396.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	20.2%	61.8%	17.9%	100.0%	25.3%	53.8%	21.0%	100.0%
		調整済み残差	3.7	-4.2	1.7		5.4	-6.7	3.1	
	** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	703	3061	712	4476	585	2530	579
期待度数		703.0	3061.0	712.0	4476.0	585.0	2530.0	579.0	3694.0	
設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%		15.7%	68.4%	15.9%	100.0%	15.8%	68.5%	15.7%	100.0%	

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
9 自宅に訪問しやすくなった	1回	度数	744	1061		1805	1137	1509		2646
		期待度数	836.8	968.2		1805.0	1195.0	1451.0		2646.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	41.2%	58.8%		100.0%	43.0%	57.0%		100.0%
		調整済み残差	-5.6	5.6			-4.2	4.2		
	2回	度数	932	1067		1999	340	354		694
		期待度数	926.7	1072.3		1999.0	313.4	380.6		694.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	46.6%	53.4%		100.0%	49.0%	51.0%		100.0%
		調整済み残差	.3	-3			2.2	-2.2		
	3回以上	度数	437	317		754	213	189		402
		期待度数	349.5	404.5		754.0	181.6	220.4		402.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	58.0%	42.0%		100.0%	53.0%	47.0%		100.0%
		調整済み残差	7.0	-7.0			3.3	-3.3		
	** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	2113	2445		4558	1690	2052	
期待度数		2113.0	2445.0		4558.0	1690.0	2052.0		3742.0	
設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%		46.4%	53.6%		100.0%	45.2%	54.8%		100.0%	
10 本人にサービス事業所の違いをわかってもらった	1回	度数	388	1417		1805	576	2061		2637
		期待度数	462.1	1342.9		1805.0	640.8	1996.2		2637.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	21.5%	78.5%		100.0%	21.8%	78.2%		100.0%
		調整済み残差	-5.2	5.2			-5.4	5.4		
	2回	度数	490	1494		1984	184	506		690
		期待度数	507.9	1476.1		1984.0	167.7	522.3		690.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	24.7%	75.3%		100.0%	26.7%	73.3%		100.0%
		調整済み残差	-1.2	1.2			1.6	-1.6		
	3回以上	度数	282	460		742	145	252		397
		期待度数	190.0	552.0		742.0	96.5	300.5		397.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	38.0%	62.0%		100.0%	36.5%	63.5%		100.0%
		調整済み残差	8.5	-8.5			6.0	-6.0		
	** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1160	3371		4531	905	2819	
期待度数		1160.0	3371.0		4531.0	905.0	2819.0		3724.0	
設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%		25.6%	74.4%		100.0%	24.3%	75.7%		100.0%	
11 家族にサービス事業所との違いをわかってもらった	1回	度数	524	1035	244	1803	791	1464	387	2642
		期待度数	569.6	946.4	287.0	1803.0	822.8	1405.6	413.5	2642.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	29.1%	57.4%	13.5%	100.0%	29.9%	55.4%	14.6%	100.0%
		調整済み残差	-3.0	5.4	-3.6		-2.5	4.2	-2.6	
	2回	度数	615	1025	344	1984	234	343	115	692
		期待度数	626.8	1041.4	315.8	1984.0	215.5	368.2	108.3	692.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	31.0%	51.7%	17.3%	100.0%	33.8%	49.6%	16.6%	100.0%
		調整済み残差	-8	-1.0	2.3		1.7	-2.1	.8	
	3回以上	度数	294	321	134	749	137	178	82	397
		期待度数	236.6	393.2	119.2	749.0	123.6	211.2	62.1	397.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	39.3%	42.9%	17.9%	100.0%	34.5%	44.8%	20.7%	100.0%
		調整済み残差	4.9	-5.8	1.6		1.5	-3.5	2.9	
	** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1433	2381	722	4536	1162	1985	584
期待度数		1433.0	2381.0	722.0	4536.0	1162.0	1985.0	584.0	3731.0	
設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%		31.6%	52.5%	15.9%	100.0%	31.1%	53.2%	15.7%	100.0%	
12 親や家族に現状報告をしやすくなった	1回	度数	800	762	247	1809	1234	1025	386	2645
		期待度数	847.8	674.1	287.1	1809.0	1234.1	997.0	413.9	2645.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	44.2%	42.1%	13.7%	100.0%	46.7%	38.8%	14.6%	100.0%
		調整済み残差	-2.9	5.5	-3.3		.0	2.1	-2.8	
	2回	度数	943	705	339	1987	334	245	114	693
		期待度数	931.3	740.4	315.4	1987.0	323.3	261.2	108.5	693.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	47.5%	35.5%	17.1%	100.0%	48.2%	35.4%	16.5%	100.0%
		調整済み残差	.7	-2.2	1.9		.9	-1.4	.6	
	3回以上	度数	389	228	136	753	176	139	85	400
		期待度数	352.9	280.6	119.5	753.0	186.6	150.8	62.6	400.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	51.7%	30.3%	18.1%	100.0%	44.0%	34.8%	21.3%	100.0%
		調整済み残差	2.9	-4.3	1.8		-1.1	-1.3	3.3	
	** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	2132	1695	722	4549	1744	1409	585
期待度数		2132.0	1695.0	722.0	4549.0	1744.0	1409.0	585.0	3738.0	
設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%		46.9%	37.3%	15.9%	100.0%	46.7%	37.7%	15.7%	100.0%	

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
13 サービス事業所からの情報提供が増えた	1回	度数	931	888		1819	1409	1251		2660
		期待度数	997.1	821.9		1819.0	1431.4	1228.6		2660.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	51.2%	48.8%		100.0%	53.0%	47.0%		100.0%
		調整済み残差	-4.0	4.0			-1.6	1.6		
	2回	度数	1074	927		2001	379	312		691
		期待度数	1096.9	904.1		2001.0	371.8	319.2		691.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	53.7%	46.3%		100.0%	54.8%	45.2%		100.0%
		調整済み残差	-1.4	1.4			.6	-1.6		
	3回以上	度数	504	253		757	231	170		401
		期待度数	415.0	342.0		757.0	215.8	185.2		401.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	66.6%	33.4%		100.0%	57.6%	42.4%		100.0%
		調整済み残差	7.1	-7.1			1.6	-1.6		
** p<0.01 p=0.185	合計	度数	2509	2068		4577	2019	1733		3752
	期待度数	2509.0	2068.0		4577.0	2019.0	1733.0		3752.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	54.8%	45.2%		100.0%	53.8%	46.2%		100.0%	
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
14 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた	1回	度数	1132	691		1823	1730	933		2663
		期待度数	1193.7	629.3		1823.0	1724.3	938.7		2663.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	62.1%	37.9%		100.0%	65.0%	35.0%		100.0%
		調整済み残差	-3.9	3.9			.4	-4.4		
	2回	度数	1329	675		2004	447	249		696
		期待度数	1312.2	691.8		2004.0	450.7	245.3		696.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	66.3%	33.7%		100.0%	64.2%	35.8%		100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.0			-3	.3		
	3回以上	度数	540	216		756	257	143		400
		期待度数	495.0	261.0		756.0	259.0	141.0		400.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	71.4%	28.6%		100.0%	64.3%	35.8%		100.0%
		調整済み残差	3.8	-3.8			-2	.2		
** p<0.01 p=0.913	合計	度数	3001	1582		4583	2434	1325		3759
	期待度数	3001.0	1582.0		4583.0	2434.0	1325.0		3759.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	65.5%	34.5%		100.0%	64.8%	35.2%		100.0%	
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
15 サービス事業所からの相談が増えた	1回	度数	519	1302		1821	843	1818		2661
		期待度数	642.8	1178.2		1821.0	928.3	1732.7		2661.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	28.5%	71.5%		100.0%	31.7%	68.3%		100.0%
		調整済み残差	-7.8	7.8			-6.4	6.4		
	2回	度数	715	1288		2003	289	407		696
		期待度数	707.0	1296.0		2003.0	242.8	453.2		696.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	35.7%	64.3%		100.0%	41.5%	58.5%		100.0%
		調整済み残差	.5	-5			4.1	-4.1		
	3回以上	度数	382	372		754	178	220		398
		期待度数	266.2	487.8		754.0	138.8	259.2		398.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	50.7%	49.3%		100.0%	44.7%	55.3%		100.0%
		調整済み残差	9.7	-9.7			4.4	-4.4		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1616	2962		4578	1310	2445		3755
	期待度数	1616.0	2962.0		4578.0	1310.0	2445.0		3755.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	35.3%	64.7%		100.0%	34.9%	65.1%		100.0%	
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
16 以前よりサービス担当者会議を行うようになった	1回	度数	380	1439		1819	579	2078		2657
		期待度数	444.1	1374.9		1819.0	624.1	2032.9		2657.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	20.9%	79.1%		100.0%	21.8%	78.2%		100.0%
		調整済み残差	-4.5	4.5			-3.8	3.8		
	2回	度数	476	1528		2004	186	511		697
		期待度数	489.3	1514.7		2004.0	163.7	533.3		697.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	23.8%	76.2%		100.0%	26.7%	73.3%		100.0%
		調整済み残差	-9	.9			2.2	-2.2		
	3回以上	度数	262	494		756	117	284		401
		期待度数	184.6	571.4		756.0	94.2	306.8		401.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	34.7%	65.3%		100.0%	29.2%	70.8%		100.0%
		調整済み残差	7.2	-7.2			2.8	-2.8		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1118	3461		4579	882	2873		3755
	期待度数	1118.0	3461.0		4579.0	882.0	2873.0		3755.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	24.4%	75.6%		100.0%	23.5%	76.5%		100.0%	

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
17 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった	1回	度数	714	1103		1817	1114	1541		2655
		期待度数	822.2	994.8		1817.0	1190.6	1464.4		2655.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	39.3%	60.7%		100.0%	42.0%	58.0%		100.0%
		調整済み残差	-6.6	6.6			-5.5	5.5		
	2回	度数	919	1084		2003	338	359		697
		期待度数	906.3	1096.7		2003.0	312.6	384.4		697.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	45.9%	54.1%		100.0%	48.5%	51.5%		100.0%
		調整済み残差	.8	-1.8			2.1	-2.1		
	3回以上	度数	438	319		757	231	170		401
		期待度数	342.5	414.5		757.0	179.8	221.2		401.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	57.9%	42.1%		100.0%	57.6%	42.4%		100.0%
		調整済み残差	7.6	-7.6			5.4	-5.4		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	2071	2506		4577	1683	2070		3753
	期待度数	2071.0	2506.0		4577.0	1683.0	2070.0		3753.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	45.2%	54.8%		100.0%	44.8%	55.2%		100.0%	
18 相談支援専門員が、利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった	1回	度数	968	848		1816	1515	1140		2655
		期待度数	1079.1	736.9		1816.0	1556.3	1098.7		2655.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	53.3%	46.7%		100.0%	57.1%	42.9%		100.0%
		調整済み残差	-6.8	6.8			-3.0	3.0		
	2回	度数	1219	781		2000	422	273		695
		期待度数	1188.4	811.6		2000.0	407.4	287.6		695.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	61.0%	39.1%		100.0%	60.7%	39.3%		100.0%
		調整済み残差	1.9	-1.9			1.2	-1.2		
	3回以上	度数	528	225		753	260	138		398
		期待度数	447.4	305.6		753.0	233.3	164.7		398.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	70.1%	29.9%		100.0%	65.3%	34.7%		100.0%
		調整済み残差	6.5	-6.5			2.9	-2.9		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	2715	1854		4569	2197	1551		3748
	期待度数	2715.0	1854.0		4569.0	2197.0	1551.0		3748.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	59.4%	40.6%		100.0%	58.6%	41.4%		100.0%	
19 相談支援専門員が、家族のサービスへの家族の満足度がわかった	1回	度数	734	820	250	1804	1151	1102	391	2644
		期待度数	785.4	728.6	290.0	1804.0	1153.9	1072.5	417.7	2644.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	40.7%	45.5%	13.9%	100.0%	43.5%	41.7%	14.8%	100.0%
		調整済み残差	-3.1	5.6	-3.3		-2.2	2.2	-2.6	
	2回	度数	869	772	344	1985	309	268	115	692
		期待度数	864.2	801.7	319.1	1985.0	302.0	280.7	109.3	692.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	43.8%	38.9%	17.3%	100.0%	44.7%	38.7%	16.6%	100.0%
		調整済み残差	.3	-1.8	2.0		.6	-1.1	.7	
	3回以上	度数	374	242	136	752	170	145	84	399
		期待度数	327.4	303.7	120.9	752.0	174.1	161.8	63.0	399.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	49.7%	32.2%	18.1%	100.0%	42.6%	36.3%	21.1%	100.0%
		調整済み残差	3.8	-5.0	1.6		-4.4	-1.8	3.0	
** p<0.01 * p<0.05	合計	度数	1977	1834	730	4541	1630	1515	590	3735
	期待度数	1977.0	1834.0	730.0	4541.0	1630.0	1515.0	590.0	3735.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	43.5%	40.4%	16.1%	100.0%	43.6%	40.6%	15.8%	100.0%	
20 相談支援専門員として新たなニーズが見えた	1回	度数	805	1013		1818	1238	1417		2655
		期待度数	923.9	894.1		1818.0	1311.2	1343.8		2655.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	44.3%	55.7%		100.0%	46.6%	53.4%		100.0%
		調整済み残差	-7.2	7.2			-5.3	5.3		
	2回	度数	1048	956		2004	389	307		696
		期待度数	1018.4	985.6		2004.0	343.7	352.3		696.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	52.3%	47.7%		100.0%	55.9%	44.1%		100.0%
		調整済み残差	1.8	-1.8			3.8	-3.8		
	3回以上	度数	473	282		755	225	174		399
		期待度数	383.7	371.3		755.0	197.1	201.9		399.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	62.6%	37.4%		100.0%	56.4%	43.6%		100.0%
		調整済み残差	7.1	-7.1			3.0	-3.0		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	2326	2251		4577	1852	1898		3750
	期待度数	2326.0	2251.0		4577.0	1852.0	1898.0		3750.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	50.8%	49.2%		100.0%	49.4%	50.6%		100.0%	

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
21 利用者の成長(変化)がみえるようになった	1回	度数	1004	818		1822	1500	1162		2662
		期待度数	1079.2	742.8		1822.0	1536.8	1125.2		2662.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	55.1%	44.9%		100.0%	56.3%	43.7%		100.0%
		調整済み残差	-4.6	4.6			-2.7	2.7		
	2回	度数	1197	808		2005	423	273		696
		期待度数	1187.6	817.4		2005.0	401.8	294.2		696.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	59.7%	40.3%		100.0%	60.8%	39.2%		100.0%
		調整済み残差	.6	-1.6			1.8	-1.8		
	3回以上	度数	513	242		755	242	153		399
		期待度数	447.2	307.8		755.0	230.4	168.6		399.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	67.9%	32.1%		100.0%	61.7%	38.3%		100.0%
		調整済み残差	5.3	-5.3			1.7	-1.7		
合計	度数	2714	1868		4582	2169	1588		3757	
	期待度数	2714.0	1868.0		4582.0	2169.0	1588.0		3757.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	59.2%	40.8%		100.0%	57.7%	42.3%		100.0%	
	** p<0.01 * p<0.05									
22 モニタリングしたことによってサービス等利用計画の変更に至った	1回	度数	424	1396		1820	634	2027		2661
		期待度数	506.9	1313.1		1820.0	723.7	1937.3		2661.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	23.3%	76.7%		100.0%	23.8%	76.2%		100.0%
		調整済み残差	-5.6	5.6			-7.2	7.2		
	2回	度数	544	1455		1999	237	459		696
		期待度数	556.8	1442.2		1999.0	189.3	506.7		696.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	27.2%	72.8%		100.0%	34.1%	65.9%		100.0%
		調整済み残差	-9	.9			4.5	-4.5		
	3回以上	度数	306	449		755	151	250		401
		期待度数	210.3	544.7		755.0	109.1	291.9		401.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	40.5%	59.5%		100.0%	37.7%	62.3%		100.0%
		調整済み残差	8.5	-8.5			5.0	-5.0		
合計	度数	1274	3300		4574	1022	2736		3758	
	期待度数	1274.0	3300.0		4574.0	1022.0	2736.0		3758.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	27.9%	72.1%		100.0%	27.2%	72.8%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
23 サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた	1回	度数	533	1270		1803	817	1823		2640
		期待度数	621.6	1181.4		1803.0	898.6	1741.4		2640.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	29.6%	70.4%		100.0%	30.9%	69.1%		100.0%
		調整済み残差	-5.7	5.7			-6.2	6.2		
	2回	度数	668	1325		1993	260	432		692
		期待度数	687.1	1305.9		1993.0	235.5	456.5		692.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	33.5%	66.5%		100.0%	37.6%	62.4%		100.0%
		調整済み残差	-1.2	1.2			2.2	-2.2		
	3回以上	度数	367	385		752	194	208		402
		期待度数	259.3	492.7		752.0	136.8	265.2		402.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	48.8%	51.2%		100.0%	48.3%	51.7%		100.0%
		調整済み残差	9.0	-9.0			6.4	-6.4		
合計	度数	1568	2980		4548	1271	2463		3734	
	期待度数	1568.0	2980.0		4548.0	1271.0	2463.0		3734.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	34.5%	65.5%		100.0%	34.0%	66.0%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
24 モニタリング回数が増え、利用者がストレスを感じるようになった	1回	度数	210	1608		1818	343	2311		2654
		期待度数	233.3	1584.7		1818.0	354.4	2299.6		2654.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	11.6%	88.4%		100.0%	12.9%	87.1%		100.0%
		調整済み残差	-2.1	2.1			-1.2	1.2		
	2回	度数	267	1729		1996	92	600		692
		期待度数	256.2	1739.8		1996.0	92.4	599.6		692.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	13.4%	86.6%		100.0%	13.3%	86.7%		100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.0			-1	.1		
	3回以上	度数	109	643		752	65	333		398
		期待度数	96.5	655.5		752.0	53.2	344.8		398.0
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	14.5%	85.5%		100.0%	16.3%	83.7%		100.0%
		調整済み残差	1.5	-1.5			1.8	-1.8		
合計	度数	586	3980		4566	500	3244		3744	
	期待度数	586.0	3980.0		4566.0	500.0	3244.0		3744.0	
	設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	12.8%	87.2%		100.0%	13.4%	86.6%		100.0%	
	p=0.080 p=0.176									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	
25 モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった	1回	度数	217	1337	252	1806	383	1870	392	2645	
		期待度数	234.6	1280.2	291.1	1806.0	360.4	1864.1	420.5	2645.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%調整済み残差	12.0%	74.0%	14.0%	100.0%	14.5%	70.7%	14.8%	100.0%	
	2回	度数	287	1354	343	1984	83	492	116	691	
		期待度数	257.8	1406.4	319.8	1984.0	94.1	487.0	109.9	691.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%調整済み残差	14.5%	68.2%	17.3%	100.0%	12.0%	71.2%	16.8%	100.0%	
	3回以上	度数	86	528	137	751	43	271	86	400	
		期待度数	97.6	532.4	121.1	751.0	54.5	281.9	63.6	400.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%調整済み残差	11.5%	70.3%	18.2%	100.0%	10.8%	67.8%	21.5%	100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	590	3219	732	4541	509	2633	594	3736
		期待度数	590.0	3219.0	732.0	4541.0	509.0	2633.0	594.0	3736.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	13.0%	70.9%	16.1%	100.0%	13.6%	70.5%	15.9%	100.0%	
26 変化のないケースでは、変化がないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い	1回	度数	524	1298		1822	831	1828		2659	
		期待度数	526.8	1295.2		1822.0	791.7	1867.3		2659.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%調整済み残差	28.8%	71.2%		100.0%	31.3%	68.7%		100.0%	
	2回	度数	617	1386		2003	194	501		695	
		期待度数	579.2	1423.8		2003.0	206.9	488.1		695.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%調整済み残差	30.8%	69.2%		100.0%	27.9%	72.1%		100.0%	
	3回以上	度数	183	571		754	93	308		401	
		期待度数	218.0	536.0		754.0	119.4	281.6		401.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%調整済み残差	24.3%	75.7%		100.0%	23.2%	76.8%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1324	3255		4579	1118	2637		3755
		期待度数	1324.0	3255.0		4579.0	1118.0	2637.0		3755.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	28.9%	71.1%		100.0%	29.8%	70.2%		100.0%	
27 サービス管理責任者等が忙しくなったようだ	1回	度数	660	1160		1820	994	1659		2653	
		期待度数	659.5	1160.5		1820.0	963.1	1689.9		2653.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%調整済み残差	36.3%	63.7%		100.0%	37.5%	62.5%		100.0%	
	2回	度数	723	1274		1997	239	453		692	
		期待度数	723.6	1273.4		1997.0	251.2	440.8		692.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%調整済み残差	36.2%	63.8%		100.0%	34.5%	65.5%		100.0%	
	3回以上	度数	270	475		745	125	271		396	
		期待度数	269.9	475.1		745.0	143.7	252.3		396.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%調整済み残差	36.2%	63.8%		100.0%	31.6%	68.4%		100.0%	
	p=0.999 * p<0.05	合計	度数	1653	2909		4562	1358	2383		3741
		期待度数	1653.0	2909.0		4562.0	1358.0	2383.0		3741.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	36.2%	63.8%		100.0%	36.3%	63.7%		100.0%	
28 請求事務が大変になった	1回	度数	623	1194		1817	887	1762		2649	
		期待度数	596.0	1221.0		1817.0	861.0	1788.0		2649.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%調整済み残差	34.3%	65.7%		100.0%	33.5%	66.5%		100.0%	
	2回	度数	636	1357		1993	210	481		691	
		期待度数	653.7	1339.3		1993.0	224.6	466.4		691.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%調整済み残差	31.9%	68.1%		100.0%	30.4%	69.6%		100.0%	
	3回以上	度数	236	512		748	118	280		398	
		期待度数	245.3	502.7		748.0	129.4	268.6		398.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%調整済み残差	31.6%	68.4%		100.0%	29.6%	70.4%		100.0%	
	p=0.216 p=0.132	合計	度数	1495	3063		4558	1215	2523		3738
		期待度数	1495.0	3063.0		4558.0	1215.0	2523.0		3738.0	
		設問3 自治体が支給決定した回数の合計 2019年の%	32.8%	67.2%		100.0%	32.5%	67.5%		100.0%	

理想だと思うモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

2018年理想だと思うモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

理想だと思うモニタリング回数「1回」で「そう思う」に該当する項目はなかった。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

- 「(1) 本人から制度について聞かれることが増えた」(90.0%) Z=6.7
- 「(2) ご家族から制度について聞かれることが増えた」(66.2%) Z=5.4
- 「(7) 本人から不安を訴える電話が減った」(86.1%) Z=4.8
- 「(8) 家族から不安を訴える電話が減った」(71.8%) Z=5.1
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(60.6%) Z=8.6
- 「(10) 本人にサービス事業所の違いを分かってもらえた」(80.0%) Z=7.5
- 「(11) 家族にサービス事業所の違いを分かってもらえた」(56.2%) Z=4.3
- 「(15) サービス事業者からの相談が増えた」(72.6%) Z=11.4
- 「(16) 以前よりサービス担当者会議を行うようになった」(80.8%) Z=7.5
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(61.3%) Z=9.1
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(56.9%) Z=9.0
- 「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(79.4%) Z=10.2
- 「(23) サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた」(72.7%) Z=9.9 の13項目である。

理想だと思うモニタリング回数「2回」で「そう思う」の該当項目は、

- 「(3) 本人が相談支援員の顔を覚えてくれた」(63.3%) Z=2.5
- 「(4) ご家族が相談支援員の顔を覚えてくれた」(52.0%) Z=3.1
- 「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(62.5%) Z=3.9
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(52.1%) Z=5.0
- 「(12) 親や家族に現状報告しやすくなった」(50.4%) Z=2.7
- 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(58.3%) Z=3.0
- 「(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」(68.2%) Z=2.4
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(50.9%) Z=4.4
- 「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(64.3%) Z=4.2

- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(57.6%) Z=6.1
- 「(21) 利用者の成長(変化)がみえるようになった」(62.6%) Z=3.3 の11項目である。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

- 「(25) モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった」(73.1%) Z=2.1
- 「(26) 変化のないケースでは、変化がないことを確認する気かとなり相談支援専門員として辛い」(76.4%) Z=4.5
- 「(27) サービス管理責任者が忙しくなったようだ」(69.8%) Z=4.5
- 「(28) 請求業務が大変になった」(70.8%) Z=2.4 の4項目である。

理想だと思うモニタリング回数「3回以上」で「そう思う」の該当項目は、

- 「(3) 本人が相談支援員の顔を覚えてくれた」(68.5%) Z=4.4
- 「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(69.4%) Z=6.2
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(56.3%) Z=5.6
- 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(61.9%) Z=3.9
- 「(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」(69.8%) Z=2.5

「(15) サービス事業所からの相談が増えた」(50.8%) Z=8.5
「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(59.1%) Z=7.2
「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(66.0%)
Z=3.8

「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(59.2%) Z=5.1
「(21) 利用者の成長(変化)がみえるようになった」(64.4%) Z=3.2

の10項目である。

一方で「そう思わない」の該当項目は、

「(26) 変化のないケースでは、変化がないことを確認する気かとなり相談支援専門員として辛い」(78.8%) Z=4.4 の1項目である。

2019年理想だと思うモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

理想だと思うモニタリング回数「1回」で「そう思う」に該当する項目はなかった。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

「(1) 本人から制度について聞かれることが増えた」(91.4%) Z=8.6
「(2) ご家族から制度について聞かれることが増えた」(70.1%) Z=9.0
「(5) 本人から親近感をもってもらえるようになった」(50.2%) Z=10.2
「(7) 本人から不安を訴える電話が減った」(86.1%) Z=3.8
「(8) 家族から不安を訴える電話が減った」(72.9%) Z=5.5
「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(62.6%) Z=10.5
「(10) 本人にサービス事業所の違いを分かってもらえた」(81.2%) Z=9.3
「(11) 家族にサービス事業所の違いを分かってもらえた」(58.7%) Z=7.4
「(13) サービス事業所からの情報提供が増えた」(52.3%) Z=8.4
「(15) サービス事業所からの相談が増えた」(75.3%) Z=12.8
「(16) 以前よりサービス担当者会議を行うようになった」(82.7%) Z=9.2
「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(65.0%) Z=11.9
「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(60.6%) Z=12.9
「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(81.1%) Z=11.1
「(23) サービス量が増えた,又は減ったことにより,適切なサービス量に近づいた」(75.9%)
Z=12.4 の15項目である。

理想だと思うモニタリング回数「2回」で「そう思う」の該当項目は、

「(4) ご家族が相談支援員の顔を覚えてくれた」(51.2%) Z=3.0
「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(61.3%) Z=3.1
「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(56.9%) Z=2.0
「(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」(68.9) Z=3.7
「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(64.0%)
Z=4.8

「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(56.4%) Z=6.1
「(21) 利用者の成長(変化)がみえるようになった」(63.3%) Z=4.4 の7項目である。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

「(24) モニタリング回数が増え,利用者がストレスを感じるようになった」(88.8%) Z=2.9
「(26) 変化のないケースでは,変化がないことを確認する気かとなり相談支援専門員として辛い」(74.9%) Z=4.0

「(27) サービス管理責任者が忙しくなったようだ」(65.7%) Z=2.1 の3項目である.

理想だと思うモニタリング回数「3回以上」で「そう思う」の該当項目は,

「(3) 本人が相談支援員の顔を覚えてくれた」(72.7%) Z=7.5

「(4) ご家族が相談支援員の顔を覚えてくれた」(56.2%) Z=4.5

「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(71.6%) Z=8.9

「(6) ご家族から親近感を持ってもらえるようになった」(53.0%) Z=4.5

「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(60.1%) Z=9.0

「(12) 親や家族に現状報告をしやすくなった」(53.0%) Z=4.1

「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(67.1%) Z=8.0

「(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」(73.1) Z=5.2

「(15) サービス事業所からの相談が増えた」(53.8%) Z=12.6

「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(59.9%) Z=9.6

「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(68.9%)

Z=6.2

「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(63.6%) Z=8.5

「(21) 利用者の成長(変化)がみえるようになった」(68.2%) Z=6.0

「(23) サービス量が増えた,又は減ったことにより,適切なサービス量に近づいた」(51.2%) Z=11.6 の14項目である.

一方で「そう思わない」の該当項目は,

「(26) 変化のないケースでは,変化がないことを確認する気かとなり相談支援専門員として辛い」(78.6%) Z=5.2

「(28) 請求業務が大変になった」(70.6%) Z=2.1 の2項目である.

表 73 理想だと思うモニタリング回数と影響 *設問欄に有意差を表記：(上) 2019年, (下) 2018年

設問	回数		理想だと思う回数の合計 2019年				理想だと思う回数の合計 2018年			
			そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
1 本人から制度について聞かれることが増えた	1回	度数	162	1727		1889	221	1987		2208
		期待度数	259.9	1629.1		1889.0	288.6	1919.4		2208.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	8.6%	91.4%		100.0%	10.0%	90.0%		100.0%
		調整済み残差	-8.6	8.6			-6.7	6.7		
	2回	度数	258	1463		1721	158	805		963
		期待度数	236.7	1484.3		1721.0	125.9	837.1		963.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	15.0%	85.0%		100.0%	16.4%	83.6%		100.0%
		調整済み残差	1.9	-1.9			3.6	-3.6		
	3回以上	度数	196	672		868	106	434		540
		期待度数	119.4	748.6		868.0	70.6	469.4		540.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	22.6%	77.4%		100.0%	19.6%	80.4%		100.0%
		調整済み残差	8.4	-8.4			4.9	-4.9		
合計	度数	616	3862		4478	485	3226		3711	
	期待度数	616.0	3862.0		4478.0	485.0	3226.0		3711.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	13.8%	86.2%		100.0%	13.1%	86.9%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
2 ご家族から制度について聞かれることが増えた	1回	度数	301	1315	260	1876	431	1454	313	2198
		期待度数	408.9	1171.3	295.8	1876.0	479.4	1376.0	342.5	2198.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	16.0%	70.1%	13.9%	100.0%	19.6%	66.2%	14.2%	100.0%
		調整済み残差	-7.9	9.0	-3.0		-3.9	5.4	-2.7	
	2回	度数	419	1014	293	1726	237	568	164	969
		期待度数	376.2	1077.7	272.1	1726.0	211.4	606.6	151.0	969.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	24.3%	58.7%	17.0%	100.0%	24.5%	58.6%	16.9%	100.0%
		調整済み残差	3.2	-4.0	1.8		2.3	-3.0	1.3	
	3回以上	度数	256	467	153	876	141	300	101	542
		期待度数	190.9	547.0	138.1	876.0	118.2	339.3	84.5	542.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	29.2%	53.3%	17.5%	100.0%	26.0%	55.4%	18.6%	100.0%
		調整済み残差	5.9	-6.2	1.5		2.6	-3.8	2.1	
合計	度数	976	2796	706	4478	809	2322	578	3709	
	期待度数	976.0	2796.0	706.0	4478.0	809.0	2322.0	578.0	3709.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	21.8%	62.4%	15.8%	100.0%	21.8%	62.6%	15.6%	100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
3 本人が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	1回	度数	1041	850		1891	1245	969		2214
		期待度数	1167.7	723.3		1891.0	1325.0	889.0		2214.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	55.1%	44.9%		100.0%	56.2%	43.8%		100.0%
		調整済み残差	-7.9	7.9			-5.4	5.4		
	2回	度数	1104	635		1739	617	358		975
		期待度数	1073.8	665.2		1739.0	583.5	391.5		975.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	63.5%	36.5%		100.0%	63.3%	36.7%		100.0%
		調整済み残差	1.9	-1.9			2.5	-2.5		
	3回以上	度数	638	239		877	369	170		539
		期待度数	541.5	335.5		877.0	322.6	216.4		539.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	72.7%	27.3%		100.0%	68.5%	31.5%		100.0%
		調整済み残差	7.5	-7.5			4.4	-4.4		
合計	度数	2783	1724		4507	2231	1497		3728	
	期待度数	2783.0	1724.0		4507.0	2231.0	1497.0		3728.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	61.7%	38.3%		100.0%	59.8%	40.2%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
4 ご家族が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	1回	度数	802	813		1882	1006	876		2203
		期待度数	910.4	671.1		1882.0	1052.6	803.7		2203.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	42.6%	43.2%		100.0%	45.7%	39.8%		100.0%
		調整済み残差	-6.6	9.0			-3.1	5.0		
	2回	度数	886	546		1731	505	303		971
		期待度数	837.4	617.2		1731.0	463.9	354.2		971.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	51.2%	31.5%		100.0%	52.0%	31.2%		100.0%
		調整済み残差	3.0	-4.6			3.1	-4.0		
	3回以上	度数	484	242		877	265	177		543
		期待度数	424.2	312.7		877.0	259.4	198.1		543.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	55.2%	27.6%		100.0%	48.8%	32.6%		100.0%
		調整済み残差	4.5	-5.6			5	-2.0		
合計	度数	2172	1601		4490	1776	1356		3717	
	期待度数	2172.0	1601.0		4490.0	1776.0	1356.0		3717.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	48.4%	35.7%		100.0%	47.8%	36.5%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
5 本人から親近感をもってもらえるようになった	1回	度数	934	953		1887	1146	1066		2212
		期待度数	1101.2	785.8		1887.0	1264.4	947.6		2212.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	49.5%	50.5%		100.0%	51.8%	48.2%		100.0%
		調整済み残差	-10.2	10.2			-8.0	8.0		
	2回	度数	1066	674		1740	609	365		974
		期待度数	1015.4	724.6		1740.0	556.8	417.2		974.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	61.3%	38.7%		100.0%	62.5%	37.5%		100.0%
		調整済み残差	3.1	-3.1			3.9	-3.9		
	3回以上	度数	629	249		878	376	166		542
		期待度数	512.4	365.6		878.0	309.8	232.2		542.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	71.6%	28.4%		100.0%	69.4%	30.6%		100.0%
		調整済み残差	8.9	-8.9			6.2	-6.2		
	合計	度数	2629	1876		4505	2131	1597		3728
期待度数		2629.0	1876.0		4505.0	2131.0	1597.0		3728.0	
設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%		58.4%	41.6%		100.0%	57.2%	42.8%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
6 ご家族から親近感をもってもらえるようになった	1回	度数	744	866	271	1881	962	916	325	2203
		期待度数	868.2	710.2	302.5	1881.0	1018.8	834.9	349.3	2203.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	39.6%	46.0%	14.4%	100.0%	43.7%	41.6%	14.8%	100.0%
		調整済み残差	-7.5	9.7	-2.6		-3.8	5.6	-2.2	
	2回	度数	862	570	297	1729	488	316	164	968
		期待度数	798.1	652.9	278.1	1729.0	447.7	366.9	153.5	968.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	49.9%	33.0%	17.2%	100.0%	50.4%	32.6%	16.9%	100.0%
		調整済み残差	3.9	-5.2	1.6		3.0	-3.9	1.1	
	3回以上	度数	466	259	154	879	268	176	100	544
		期待度数	405.7	331.9	141.4	879.0	251.6	206.2	86.2	544.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	53.0%	29.5%	17.5%	100.0%	49.3%	32.4%	18.4%	100.0%
		調整済み残差	4.5	-5.7	1.3		1.5	-2.9	1.7	
	合計	度数	2072	1695	722	4489	1718	1408	589	3715
期待度数		2072.0	1695.0	722.0	4489.0	1718.0	1408.0	589.0	3715.0	
設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%		46.2%	37.8%	16.1%	100.0%	46.2%	37.9%	15.9%	100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
7 本人からの不安を訴える電話が減った	1回	度数	256	1582		1838	302	1864		2166
		期待度数	302.0	1536.0		1838.0	355.1	1810.9		2166.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	13.9%	86.1%		100.0%	13.9%	86.1%		100.0%
		調整済み残差	-3.8	3.8			-4.8	4.8		
	2回	度数	271	1413		1684	161	790		951
		期待度数	276.7	1407.3		1684.0	155.9	795.1		951.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	16.1%	83.9%		100.0%	16.9%	83.1%		100.0%
		調整済み残差	-5	5			.5	-5		
	3回以上	度数	191	657		848	135	396		531
		期待度数	139.3	708.7		848.0	87.0	444.0		531.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	22.5%	77.5%		100.0%	25.4%	74.6%		100.0%
		調整済み残差	5.3	-5.3			6.1	-6.1		
	合計	度数	718	3652		4370	598	3050		3648
期待度数		718.0	3652.0		4370.0	598.0	3050.0		3648.0	
設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%		16.4%	83.6%		100.0%	16.4%	83.6%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
8 家族からの不安を訴える電話が減った	1回	度数	239	1346	262	1847	293	1563	321	2177
		期待度数	288.6	1261.4	297.0	1847.0	339.7	1492.8	344.5	2177.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	12.9%	72.9%	14.2%	100.0%	13.5%	71.8%	14.7%	100.0%
		調整済み残差	-4.2	5.5	-2.9		-4.3	5.1	-2.2	
	2回	度数	258	1150	297	1705	147	653	161	961
		期待度数	266.4	1164.5	274.1	1705.0	150.0	659.0	152.1	961.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	15.1%	67.4%	17.4%	100.0%	15.3%	68.0%	16.8%	100.0%
		調整済み残差	-7	-1.0	1.9		-3	-5	.9	
	3回以上	度数	193	520	151	864	134	306	100	540
		期待度数	135.0	590.1	138.9	864.0	84.3	370.3	85.4	540.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	22.3%	60.2%	17.5%	100.0%	24.8%	56.7%	18.5%	100.0%
		調整済み残差	6.1	-5.7	1.2		6.4	-6.5	1.9	
	合計	度数	690	3016	710	4416	574	2522	582	3678
期待度数		690.0	3016.0	710.0	4416.0	574.0	2522.0	582.0	3678.0	
設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%		15.6%	68.3%	16.1%	100.0%	15.6%	68.6%	15.8%	100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
9 自宅に訪問しやすくなった	1回	度数	702	1177		1879	868	1337		2205
		期待度数	874.9	1004.1		1879.0	995.5	1209.5		2205.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	37.4%	62.6%		100.0%	39.4%	60.6%		100.0%
		調整済み残差	-10.5	10.5			-8.6	8.6		
	2回	度数	862	873		1735	506	466		972
		期待度数	807.8	927.2		1735.0	438.8	533.2		972.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	49.7%	50.3%		100.0%	52.1%	47.9%		100.0%
		調整済み残差	3.3	-3.3			5.0	-5.0		
	3回以上	度数	527	350		877	306	238		544
		期待度数	408.3	468.7		877.0	245.6	298.4		544.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	60.1%	39.9%		100.0%	56.3%	43.8%		100.0%
		調整済み残差	9.0	-9.0			5.6	-5.6		
	合計	度数	2091	2400		4491	1680	2041		3721
期待度数		2091.0	2400.0		4491.0	1680.0	2041.0		3721.0	
設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%		46.6%	53.4%		100.0%	45.1%	54.9%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
10 本人にサービス事業所の違いをわかってもらった	1回	度数	354	1531		1885	441	1765		2206
		期待度数	488.8	1396.2		1885.0	536.6	1669.4		2206.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	18.8%	81.2%		100.0%	20.0%	80.0%		100.0%
		調整済み残差	-9.3	9.3			-7.5	7.5		
	2回	度数	467	1253		1720	264	703		967
		期待度数	446.0	1274.0		1720.0	235.2	731.8		967.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	27.2%	72.8%		100.0%	27.3%	72.7%		100.0%
		調整済み残差	1.5	-1.5			2.5	-2.5		
	3回以上	度数	338	527		865	198	341		539
		期待度数	224.3	640.7		865.0	131.1	407.9		539.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	39.1%	60.9%		100.0%	36.7%	63.3%		100.0%
		調整済み残差	9.8	-9.8			7.3	-7.3		
	合計	度数	1159	3311		4470	903	2809		3712
期待度数		1159.0	3311.0		4470.0	903.0	2809.0		3712.0	
設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%		25.9%	74.1%		100.0%	24.3%	75.7%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
11 家族にサービス事業所との違いをわかってもらった	1回	度数	508	1103	267	1878	642	1236	323	2201
		期待度数	595.0	981.0	302.1	1878.0	680.3	1172.0	348.7	2201.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	27.1%	58.7%	14.2%	100.0%	29.2%	56.2%	14.7%	100.0%
		調整済み残差	-5.7	7.4	-2.9		-2.8	4.3	-2.4	
	2回	度数	563	862	300	1725	314	490	165	969
		期待度数	546.5	901.0	277.5	1725.0	299.5	516.0	153.5	969.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	32.6%	50.0%	17.4%	100.0%	32.4%	50.6%	17.0%	100.0%
		調整済み残差	1.1	-2.4	1.9		1.2	-1.9	1.2	
	3回以上	度数	347	373	153	873	191	250	100	541
		期待度数	276.6	456.0	140.4	873.0	167.2	288.1	85.7	541.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	39.7%	42.7%	17.5%	100.0%	35.3%	46.2%	18.5%	100.0%
		調整済み残差	5.7	-6.3	1.3		2.4	-3.5	1.8	
	合計	度数	1418	2338	720	4476	1147	1976	588	3711
期待度数		1418.0	2338.0	720.0	4476.0	1147.0	1976.0	588.0	3711.0	
設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%		31.7%	52.2%	16.1%	100.0%	30.9%	53.2%	15.8%	100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
12 親や家族に現状報告をしやすくなった	1回	度数	779	838	267	1884	992	893	322	2207
		期待度数	883.4	698.6	302.0	1884.0	1031.0	827.3	348.6	2207.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	41.3%	44.5%	14.2%	100.0%	44.9%	40.5%	14.6%	100.0%
		調整済み残差	-6.3	8.7	-2.9		-2.6	4.5	-2.4	
	2回	度数	860	568	298	1726	487	316	163	966
		期待度数	809.3	640.0	276.7	1726.0	451.3	362.1	152.6	966.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	49.8%	32.9%	17.3%	100.0%	50.4%	32.7%	16.9%	100.0%
		調整済み残差	3.1	-4.6	1.8		2.7	-3.6	1.1	
	3回以上	度数	464	257	154	875	257	184	102	543
		期待度数	410.3	324.4	140.3	875.0	253.7	203.6	85.8	543.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	53.0%	29.4%	17.6%	100.0%	47.3%	33.9%	18.8%	100.0%
		調整済み残差	4.1	-5.3	1.4		.3	-1.9	2.1	
	合計	度数	2103	1663	719	4485	1736	1393	587	3716
期待度数		2103.0	1663.0	719.0	4485.0	1736.0	1393.0	587.0	3716.0	
設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%		46.9%	37.1%	16.0%	100.0%	46.7%	37.5%	15.8%	100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
13 サービス事業所からの情報提供が増えた	1回	度数	903	991		1894	1120	1099		2219
		期待度数	1041.9	852.1		1894.0	1201.9	1017.1		2219.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	47.7%	52.3%		100.0%	50.5%	49.5%		100.0%
		調整済み残差	-8.4	8.4			-5.5	5.5		
	2回	度数	989	750		1739	566	405		971
		期待度数	956.6	782.4		1739.0	525.9	445.1		971.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	56.9%	43.1%		100.0%	58.3%	41.7%		100.0%
		調整済み残差	2.0	-2.0			3.0	-3.0		
	3回以上	度数	590	289		879	336	207		543
		期待度数	483.5	395.5		879.0	294.1	248.9		543.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	67.1%	32.9%		100.0%	61.9%	38.1%		100.0%
		調整済み残差	8.0	-8.0			3.9	-3.9		
	合計	度数	2482	2030		4512	2022	1711		3733
期待度数		2482.0	2030.0		4512.0	2022.0	1711.0		3733.0	
設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%		55.0%	45.0%		100.0%	54.2%	45.8%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
14 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた	1回	度数	1120	777		1897	1387	835		2222
		期待度数	1243.7	653.3		1897.0	1444.3	777.7		2222.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	59.0%	41.0%		100.0%	62.4%	37.6%		100.0%
		調整済み残差	-7.8	7.8			-4.0	4.0		
	2回	度数	1199	542		1741	665	310		975
		期待度数	1141.4	599.6		1741.0	633.8	341.3		975.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	68.9%	31.1%		100.0%	68.2%	31.8%		100.0%
		調整済み残差	3.7	-3.7			2.4	-2.4		
	3回以上	度数	643	237		880	379	164		543
		期待度数	576.9	303.1		880.0	353.0	190.1		543.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	73.1%	26.9%		100.0%	69.8%	30.2%		100.0%
		調整済み残差	5.2	-5.2			2.5	-2.5		
	合計	度数	2962	1556		4518	2431	1309		3740
期待度数		2962.0	1556.0		4518.0	2431.0	1309.0		3740.0	
設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%		65.6%	34.4%		100.0%	65.0%	35.0%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
15 サービス事業所からの相談が増えた	1回	度数	469	1426		1895	609	1611		2220
		期待度数	672.7	1222.3		1895.0	771.3	1448.7		2220.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	24.7%	75.3%		100.0%	27.4%	72.6%		100.0%
		調整済み残差	-12.8	12.8			-11.4	11.4		
	2回	度数	661	1079		1740	414	561		975
		期待度数	617.7	1122.3		1740.0	338.7	636.3		975.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	38.0%	62.0%		100.0%	42.5%	57.5%		100.0%
		調整済み残差	2.8	-2.8			5.9	-5.9		
	3回以上	度数	472	406		878	275	266		541
		期待度数	311.7	566.3		878.0	188.0	353.0		541.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	53.8%	46.2%		100.0%	50.8%	49.2%		100.0%
		調整済み残差	12.6	-12.6			8.5	-8.5		
	合計	度数	1602	2911		4513	1298	2438		3736
期待度数		1602.0	2911.0		4513.0	1298.0	2438.0		3736.0	
設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%		35.5%	64.5%		100.0%	34.7%	65.3%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
16 以前よりサービス担当者会議を行うようになった	1回	度数	328	1567		1895	426	1793		2219
		期待度数	459.2	1435.8		1895.0	521.2	1697.8		2219.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	17.3%	82.7%		100.0%	19.2%	80.8%		100.0%
		調整済み残差	-9.2	9.2			-7.5	7.5		
	2回	度数	449	1292		1741	271	706		977
		期待度数	421.9	1319.1		1741.0	229.5	747.5		977.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	25.8%	74.2%		100.0%	27.7%	72.3%		100.0%
		調整済み残差	1.9	-1.9			3.6	-3.6		
	3回以上	度数	317	562		879	181	361		542
		期待度数	213.0	666.0		879.0	127.3	414.7		542.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	36.1%	63.9%		100.0%	33.4%	66.6%		100.0%
		調整済み残差	9.1	-9.1			5.9	-5.9		
	合計	度数	1094	3421		4515	878	2860		3738
期待度数		1094.0	3421.0		4515.0	878.0	2860.0		3738.0	
設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%		24.2%	75.8%		100.0%	23.5%	76.5%		100.0%	
** p<0.01 ** p<0.01										

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
17 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった	1回	度数	662	1229		1891	859	1358		2217
		期待度数	858.5	1032.5		1891.0	994.8	1222.2		2217.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	35.0%	65.0%		100.0%	38.7%	61.3%		100.0%
		調整済み残差	-11.9	11.9			-9.1	9.1		
	2回	度数	859	881		1740	496	479		975
		期待度数	790.0	950.0		1740.0	437.5	537.5		975.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	49.4%	50.6%		100.0%	50.9%	49.1%		100.0%
		調整済み残差	4.2	-4.2			4.4	-4.4		
	3回以上	度数	527	353		880	321	222		543
		期待度数	399.5	480.5		880.0	243.7	299.3		543.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	59.9%	40.1%		100.0%	59.1%	40.9%		100.0%
		調整済み残差	9.6	-9.6			7.2	-7.2		
合計	度数	2048	2463		4511	1676	2059		3735	
	期待度数	2048.0	2463.0		4511.0	1676.0	2059.0		3735.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	45.4%	54.6%		100.0%	44.9%	55.1%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
18 相談支援専門員が、利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった	1回	度数	971	922		1893	1203	1013		2216
		期待度数	1128.6	764.4		1893.0	1298.7	917.3		2216.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	51.3%	48.7%		100.0%	54.3%	45.7%		100.0%
		調整済み残差	-9.7	9.7			-6.5	6.5		
	2回	度数	1110	624		1734	626	347		973
		期待度数	1033.8	700.2		1734.0	570.2	402.8		973.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	64.0%	36.0%		100.0%	64.3%	35.7%		100.0%
		調整済み残差	4.8	-4.8			4.2	-4.2		
	3回以上	度数	603	272		875	357	184		541
		期待度数	521.7	353.3		875.0	317.1	223.9		541.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	68.9%	31.1%		100.0%	66.0%	34.0%		100.0%
		調整済み残差	6.2	-6.2			3.8	-3.8		
合計	度数	2684	1818		4502	2186	1544		3730	
	期待度数	2684.0	1818.0		4502.0	2186.0	1544.0		3730.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	59.6%	40.4%		100.0%	58.6%	41.4%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
19 相談支援専門員が、家族のサービスへの家族の満足度がわかった	1回	度数	717	893	273	1883	913	961	330	2204
		期待度数	817.8	759.4	305.8	1883.0	954.6	897.0	352.4	2204.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	38.1%	47.4%	14.5%	100.0%	41.4%	43.6%	15.0%	100.0%
		調整済み残差	-6.2	8.2	-2.7		-2.8	4.3	-2.0	
	2回	度数	806	618	301	1725	458	347	163	968
		期待度数	749.2	695.7	280.1	1725.0	419.2	394.0	154.8	968.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	46.7%	35.8%	17.4%	100.0%	47.3%	35.8%	16.8%	100.0%
		調整済み残差	3.5	-4.9	1.7		2.9	-3.6	8	
	3回以上	度数	424	297	154	875	238	204	101	543
		期待度数	380.0	352.9	142.1	875.0	235.2	221.0	86.8	543.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	48.5%	33.9%	17.6%	100.0%	43.8%	37.6%	18.6%	100.0%
		調整済み残差	3.3	-4.3	1.2		3	-1.6	1.8	
合計	度数	1947	1808	728	4483	1609	1512	594	3715	
	期待度数	1947.0	1808.0	728.0	4483.0	1609.0	1512.0	594.0	3715.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	43.4%	40.3%	16.2%	100.0%	43.3%	40.7%	16.0%	100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
20 相談支援専門員として新たなニーズが見えた	1回	度数	746	1148		1894	955	1262		2217
		期待度数	959.8	934.2		1894.0	1090.7	1126.3		2217.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	39.4%	60.6%		100.0%	43.1%	56.9%		100.0%
		調整済み残差	-12.9	12.9			-9.0	9.0		
	2回	度数	981	757		1738	560	413		973
		期待度数	880.8	857.2		1738.0	478.7	494.3		973.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	56.4%	43.6%		100.0%	57.6%	42.4%		100.0%
		調整済み残差	6.1	-6.1			6.1	-6.1		
	3回以上	度数	559	320		879	321	221		542
		期待度数	445.4	433.6		879.0	266.6	275.4		542.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	63.6%	36.4%		100.0%	59.2%	40.8%		100.0%
		調整済み残差	8.5	-8.5			5.1	-5.1		
合計	度数	2286	2225		4511	1836	1896		3732	
	期待度数	2286.0	2225.0		4511.0	1836.0	1896.0		3732.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	50.7%	49.3%		100.0%	49.2%	50.8%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
21 利用者の成長(変化)がみえるようになった	1回	度数	976	923		1899	1211	1012		2223
		期待度数	1125.4	773.6		1899.0	1289.8	933.2		2223.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	51.4%	48.6%		100.0%	54.5%	45.5%		100.0%
		調整済み残差	-9.2	9.2			-5.3	5.3		
	2回	度数	1102	638		1740	610	365		975
		期待度数	1031.2	708.8		1740.0	565.7	409.3		975.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	63.3%	36.7%		100.0%	62.6%	37.4%		100.0%
		調整済み残差	4.4	-4.4			3.3	-3.3		
	3回以上	度数	599	279		878	349	193		542
		期待度数	520.3	357.7		878.0	314.5	227.5		542.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	68.2%	31.8%		100.0%	64.4%	35.6%		100.0%
		調整済み残差	6.0	-6.0			3.2	-3.2		
合計	度数	2677	1840		4517	2170	1570		3740	
	期待度数	2677.0	1840.0		4517.0	2170.0	1570.0		3740.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	59.3%	40.7%		100.0%	58.0%	42.0%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
22 モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った	1回	度数	359	1536		1895	458	1763		2221
		期待度数	523.9	1371.1		1895.0	593.0	1628.0		2221.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	18.9%	81.1%		100.0%	20.6%	79.4%		100.0%
		調整済み残差	-11.1	11.1			-10.2	10.2		
	2回	度数	517	1219		1736	316	659		975
		期待度数	479.9	1256.1		1736.0	260.3	714.7		975.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	29.8%	70.2%		100.0%	32.4%	67.6%		100.0%
		調整済み残差	2.5	-2.5			4.7	-4.7		
	3回以上	度数	370	506		876	224	318		542
		期待度数	242.2	633.8		876.0	144.7	397.3		542.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	42.2%	57.8%		100.0%	41.3%	58.7%		100.0%
		調整済み残差	10.8	-10.8			8.3	-8.3		
合計	度数	1246	3261		4507	998	2740		3738	
	期待度数	1246.0	3261.0		4507.0	998.0	2740.0		3738.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	27.6%	72.4%		100.0%	26.7%	73.3%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
23 サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた	1回	度数	452	1423		1875	601	1599		2200
		期待度数	647.0	1228.0		1875.0	741.0	1459.0		2200.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	24.1%	75.9%		100.0%	27.3%	72.7%		100.0%
		調整済み残差	-12.4	12.4			-9.9	9.9		
	2回	度数	647	1085		1732	382	590		972
		期待度数	597.7	1134.3		1732.0	327.4	644.6		972.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	37.4%	62.6%		100.0%	39.3%	60.7%		100.0%
		調整済み残差	3.2	-3.2			4.3	-4.3		
	3回以上	度数	447	426		873	268	274		542
		期待度数	301.3	571.7		873.0	182.6	359.4		542.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	51.2%	48.8%		100.0%	49.4%	50.6%		100.0%
		調整済み残差	11.6	-11.6			8.4	-8.4		
合計	度数	1546	2934		4480	1251	2463		3714	
	期待度数	1546.0	2934.0		4480.0	1251.0	2463.0		3714.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	34.5%	65.5%		100.0%	33.7%	66.3%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
24 モニタリング回数が増え、利用者がストレスを感じるようになった	1回	度数	277	1615		1892	300	1917		2217
		期待度数	245.8	1646.2		1892.0	295.5	1921.5		2217.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	14.6%	85.4%		100.0%	13.5%	86.5%		100.0%
		調整済み残差	2.8	-2.8			.4	-4		
	2回	度数	195	1542		1737	117	856		973
		期待度数	225.7	1511.3		1737.0	129.7	843.3		973.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	11.2%	88.8%		100.0%	12.0%	88.0%		100.0%
		調整済み残差	-2.8	2.8			-1.4	1.4		
	3回以上	度数	113	761		874	80	459		539
		期待度数	113.5	760.5		874.0	71.8	467.2		539.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	12.9%	87.1%		100.0%	14.8%	85.2%		100.0%
		調整済み残差	-1	1			1.1	-1.1		
合計	度数	585	3918		4503	497	3232		3729	
	期待度数	585.0	3918.0		4503.0	497.0	3232.0		3729.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	13.0%	87.0%		100.0%	13.3%	86.7%		100.0%	
	** p<0.01 p=0.275									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
25 モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった	1回	度数	291	1324	271	1886	350	1533	325	2208
		期待度数	244.5	1333.5	308.0	1886.0	294.6	1556.9	356.4	2208.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	15.4%	70.2%	14.4%	100.0%	15.9%	69.4%	14.7%	100.0%
		調整済み残差	4.2	-6	-3.0		5.4	-1.8	-2.9	
	2回	度数	203	1215	306	1724	90	707	170	967
		期待度数	223.5	1219.0	281.6	1724.0	129.0	681.9	156.1	967.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	11.8%	70.5%	17.7%	100.0%	9.3%	73.1%	17.6%	100.0%
		調整済み残差	-1.9	-3	2.0		-4.3	2.1	1.4	
	3回以上	度数	87	630	155	872	56	381	105	542
		期待度数	113.0	616.5	142.4	872.0	72.3	382.2	87.5	542.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	10.0%	72.2%	17.8%	100.0%	10.3%	70.3%	19.4%	100.0%
		調整済み残差	-2.9	1.1	1.3		-2.2	-1	2.2	
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	581	3169	732	4482	496	2621	600	3717
	期待度数	581.0	3169.0	732.0	4482.0	496.0	2621.0	600.0	3717.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	13.0%	70.7%	16.3%	100.0%	13.3%	70.5%	16.1%	100.0%	
26 変化のないケースでは、変化がないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い	1回	度数	664	1233		1897	745	1476		2221
		期待度数	541.7	1355.3		1897.0	647.6	1573.4		2221.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	35.0%	65.0%		100.0%	33.5%	66.5%		100.0%
		調整済み残差	8.2	-8.2			7.1	-7.1		
	2回	度数	438	1304		1742	230	745		975
		期待度数	497.4	1244.6		1742.0	284.3	690.7		975.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	25.1%	74.9%		100.0%	23.6%	76.4%		100.0%
		調整済み残差	-4.0	4.0			-4.5	4.5		
	3回以上	度数	187	688		875	115	427		542
		期待度数	249.9	625.1		875.0	158.0	384.0		542.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	21.4%	78.6%		100.0%	21.2%	78.8%		100.0%
		調整済み残差	-5.2	5.2			-4.4	4.4		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1289	3225		4514	1090	2648		3738
	期待度数	1289.0	3225.0		4514.0	1090.0	2648.0		3738.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	28.6%	71.4%		100.0%	29.2%	70.8%		100.0%	
27 サービス管理責任者等が忙しくなったようだ	1回	度数	727	1165		1892	867	1347		2214
		期待度数	685.0	1207.0		1892.0	800.8	1413.2		2214.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	38.4%	61.6%		100.0%	39.2%	60.8%		100.0%
		調整済み残差	2.6	-2.6			4.6	-4.6		
	2回	度数	596	1140		1736	294	678		972
		期待度数	628.5	1107.5		1736.0	351.6	620.4		972.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	34.3%	65.7%		100.0%	30.2%	69.8%		100.0%
		調整済み残差	-2.1	2.1			-4.5	4.5		
	3回以上	度数	304	562		866	186	352		538
		期待度数	313.5	552.5		866.0	194.6	343.4		538.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	35.1%	64.9%		100.0%	34.6%	65.4%		100.0%
		調整済み残差	-7	7			-8	8		
* p<0.05 ** p<0.01	合計	度数	1627	2867		4494	1347	2377		3724
	期待度数	1627.0	2867.0		4494.0	1347.0	2377.0		3724.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	36.2%	63.8%		100.0%	36.2%	63.8%		100.0%	
28 請求事務が大変になった	1回	度数	660	1229		1889	755	1459		2214
		期待度数	612.0	1277.0		1889.0	712.7	1501.3		2214.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	34.9%	65.1%		100.0%	34.1%	65.9%		100.0%
		調整済み残差	3.1	-3.1			3.0	-3.0		
	2回	度数	540	1193		1733	284	690		974
		期待度数	561.5	1171.5		1733.0	313.5	660.5		974.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	31.2%	68.8%		100.0%	29.2%	70.8%		100.0%
		調整済み残差	-1.4	1.4			-2.4	2.4		
	3回以上	度数	256	616		872	161	379		540
		期待度数	282.5	589.5		872.0	173.8	366.2		540.0
		設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	29.4%	70.6%		100.0%	29.8%	70.2%		100.0%
		調整済み残差	-2.1	2.1			-1.3	1.3		
** p<0.01 * p<0.05	合計	度数	1456	3038		4494	1200	2528		3728
	期待度数	1456.0	3038.0		4494.0	1200.0	2528.0		3728.0	
	設問3 理想だと思う回数の合計 2019年の%	32.4%	67.6%		100.0%	32.2%	67.8%		100.0%	

回数比較とモニタリング実施標準期間の改定による影響

モニタリングの回数比較（3群）2018年・2019年とモニタリング実施標準期間改定による影響（「そう思う」「そう思わない」）とのクロス集計の結果より、割合が50%以上（ $P < 0.05$ +2.0以上の残差Z）の項目を示す。2018年・2019年の共通の群にある項目は（ ）の数字に下線で示す。

自治体が支給決定したモニタリング回数・実施した回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

2018年自治体が支給決定したモニタリング回数・実施した回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「実施したモニタリング回数」より「少ない」群で、「そう思う」の該当項目は、

- 「(3) 本人が相談支援員の顔を覚えてくれた」(76.0%) Z=4.3
- 「(4) ご家族が相談支援員の顔を覚えてくれた」(58.1%) Z=2.8
- 「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(71.7%) Z=3.9
- 「(6) ご家族から親近感を持ってもらえるようになった」(56.6%) Z=2.9
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(55.6%) Z=2.9
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(53.4%) Z=2.4
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(59.0%) Z=2.6*

の7項目である。一方で「そう思わない」に該当する項目はなかった。

回数が「同じ」群では「そう思う」の該当項目は、

「(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」(65.4%) Z=2.4
の1項目である。

一方で、「そう思わない」の該当項目は

- 「(10) 本人にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(76.0%) Z=2.2
- 「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(74.2%) Z=4.4
- 「(23) サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた」(67.2%)

Z=2.4 の3項目である。

「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「実施したモニタリング回数」より「多い」群では、「そう思う」に該当する項目はなかった。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

- 「(7) 本人からの不安を訴える電話が減った」(90.2%) Z=2.6
- 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(54.0%) Z=2.4 の2項目である。

2019年自治体が支給決定したモニタリング回数・実施した回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「実施したモニタリング回数」がより「少ない」群で、「そう思う」の該当項目は、

- 「(3) 本人が相談支援員の顔を覚えてくれた」(72.4%) Z=3.8
- 「(4) ご家族が相談支援員の顔を覚えてくれた」(60.0%) Z=4.0
- 「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(65.0%) Z=2.4
- 「(6) ご家族から親近感を持ってもらえるようになった」(54.3%) Z=2.8
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(57.6%) Z=4.0
- 「(12) 親や家族に現状報告をしやすくなった」(54.9%) Z=2.8
- 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(64.0%) Z=3.2
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(54.8%) Z=3.4
- 「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(65.2%) Z=2.1

- 「(19) 相談支援専門員が家族のサービスへの家族の満足度がわかった」(51.6%) Z=2.8
- 「(21) 利用者の成長(変化)がみえるようになった」(68.1%) Z=3.2

の11項目である。一方で「そう思わない」に該当する項目はなかった。

回数が「同じ」群では「そう思う」に該当する項目はなかった。

一方で、「そう思わない」の該当項目は

- 「(2) ご家族から制度について聞かれることが増えた」(63.2%) Z=2.9
- 「(25) モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった」(71.5%) Z=2.2
- 「(26) 変化のないケースでは、変化がないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い」(71.6%) Z=2.1 の3項目である。

「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「実施したモニタリング回数」より「多い」群では、「そう思う」に該当する項目はなかった。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

- 「(8) 家族からの不安を訴える電話が減った」(75.9%) Z=2.9
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(61.5%) Z=2.8
- 「(10) 本人にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(82.0%) Z=3.2
- 「(11) 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(60.3%) Z=2.9
- 「(12) 親や家族に現状報告をしやすくなった」(50.5%) Z=5.0
- 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(51.1%) Z=2.2
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(63.9%) Z=3.4
- 「(19) 相談支援専門員が家族のサービスへの家族の満足度がわかった」(50.0%) Z=3.6
- 「(23) サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた」(72.9%) Z=2.8の9項目である。

表 74 自治体が支給決定したモニタリング回数・実施したモニタリング回数と影響

*設問欄に有意差を表記：(上) 2019年, (下) 2018年

設問	回数	②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年				②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2018年			
		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
1 本人から制度について聞かれることが増えた	少ない	度数	65	211		276	34	138	172
		期待度数	37.0	239.0		276.0	22.2	149.8	172.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	23.6%	76.4%		100.0%	19.8%	80.2%	100.0%
		調整済み残差	5.1	-5.1			2.7	-2.7	
	同じ	度数	512	3527		4039	486	3369	3855
		期待度数	541.6	3497.4		4039.0	496.8	3358.2	3855.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	12.7%	87.3%		100.0%	12.6%	87.4%	100.0%
		調整済み残差	-3.8	3.8			-1.7	1.7	
	多い	度数	45	279		324	26	184	210
		期待度数	43.4	280.6		324.0	27.1	182.9	210.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	13.9%	86.1%		100.0%	12.4%	87.6%	100.0%
		調整済み残差	.3	-.3			-.2	.2	
合計	度数	622	4017		4639	546	3691	4237	
	期待度数	622.0	4017.0		4639.0	546.0	3691.0	4237.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	13.4%	86.6%		100.0%	12.9%	87.1%	100.0%	
2 ご家族から制度について聞かれることが増えた	少ない	度数	94	134	49	277	53	95	174
		期待度数	60.6	173.2	43.2	277.0	37.7	109.7	174.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	33.9%	48.4%	17.7%	100.0%	30.5%	54.6%	14.9%
		調整済み残差	5.0	-5.0	1.0		2.9	-2.4	-.1
	同じ	度数	851	2551	634	4036	818	2445	3852
		期待度数	882.9	2523.4	629.8	4036.0	834.6	2429.2	3852.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	21.1%	63.2%	15.7%	100.0%	21.2%	63.5%	15.3%
		調整済み残差	-3.4	2.5	.5		-2.2	1.7	.1
	多い	度数	70	216	41	327	47	132	211
		期待度数	71.5	204.4	51.0	327.0	45.7	133.1	211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	21.4%	66.1%	12.5%	100.0%	22.3%	62.6%	15.2%
		調整済み残差	-.2	1.4	-1.6		.2	-.2	.0
合計	度数	1015	2901	724	4640	918	2672	4237	
	期待度数	1015.0	2901.0	724.0	4640.0	918.0	2672.0	4237.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	21.9%	62.5%	15.6%	100.0%	21.7%	63.1%	15.3%	
3 本人が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	少ない	度数	199	76		275	130	41	171
		期待度数	169.6	105.4		275.0	103.1	67.9	171.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	72.4%	27.6%		100.0%	76.0%	24.0%	100.0%
		調整済み残差	3.8	-3.8			4.3	-4.3	
	同じ	度数	2492	1575		4067	2314	1556	3870
		期待度数	2507.7	1559.3		4067.0	2333.7	1536.3	3870.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	61.3%	38.7%		100.0%	59.8%	40.2%	100.0%
		調整済み残差	-1.4	1.4			-2.2	2.2	
	多い	度数	186	138		324	120	91	211
		期待度数	199.8	124.2		324.0	127.2	83.8	211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	57.4%	42.6%		100.0%	56.9%	43.1%	100.0%
		調整済み残差	-1.6	1.6			-1.0	1.0	
合計	度数	2877	1789		4666	2564	1688	4252	
	期待度数	2877.0	1789.0		4666.0	2564.0	1688.0	4252.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	61.7%	38.3%		100.0%	60.3%	39.7%	100.0%	
4 ご家族が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	少ない	度数	165	58		275	100	46	172
		期待度数	132.6	99.0		275.0	82.1	63.4	172.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	60.0%	21.1%		100.0%	58.1%	26.7%	100.0%
		調整済み残差	4.0	-5.3			2.8	-2.8	
	同じ	度数	1915	1491		4046	1820	1442	3855
		期待度数	1950.3	1456.4		4046.0	1841.1	1420.8	3855.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	47.3%	36.9%		100.0%	47.2%	37.4%	100.0%
		調整済み残差	-3.1	3.2			-2.3	2.4	
	多い	度数	159	123		324	104	74	211
		期待度数	156.2	116.6		324.0	100.8	77.8	211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	49.1%	38.0%		100.0%	49.3%	35.1%	100.0%
		調整済み残差	.3	.8			.5	-.6	
合計	度数	2239	1672		4645	2024	1562	4238	
	期待度数	2239.0	1672.0		4645.0	2024.0	1562.0	4238.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	48.2%	36.0%		100.0%	47.8%	36.9%	100.0%	

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
9 自宅に訪問しやすくなった	少ない	度数	159	117		276	95	76		171
		期待度数	127.2	148.8		276.0	77.2	93.8		171.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	57.6%	42.4%		100.0%	55.6%	44.4%		100.0%
		調整済み残差	4.0	-4.0			2.8	-2.8		
	同じ	度数	1859	2190		4049	1734	2130		3864
		期待度数	1866.1	2182.9		4049.0	1743.6	2120.4		3864.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	45.9%	54.1%		100.0%	44.9%	55.1%		100.0%
		調整済み残差	-6	6			-1.0	1.0		
	多い	度数	126	201		327	87	124		211
		期待度数	150.7	176.3		327.0	95.2	115.8		211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	38.5%	61.5%		100.0%	41.2%	58.8%		100.0%
		調整済み残差	-2.8	2.8			-1.2	1.2		
合計	度数	2144	2508		4652	1916	2330		4246	
	期待度数	2144.0	2508.0		4652.0	1916.0	2330.0		4246.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	46.1%	53.9%		100.0%	45.1%	54.9%		100.0%	
10 本人にサービス事業所の違いをわかってもらえた	少ない	度数	101	171		272	67	101		168
		期待度数	69.3	202.7		272.0	41.1	126.9		168.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	37.1%	62.9%		100.0%	39.9%	60.1%		100.0%
		調整済み残差	4.5	-4.5			4.7	-4.7		
	同じ	度数	1020	3012		4032	925	2927		3852
		期待度数	1027.6	3004.4		4032.0	942.5	2909.5		3852.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	25.3%	74.7%		100.0%	24.0%	76.0%		100.0%
		調整済み残差	-8	8			-2.2	2.2		
	多い	度数	58	264		322	43	167		210
		期待度数	82.1	239.9		322.0	51.4	158.6		210.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	18.0%	82.0%		100.0%	20.5%	79.5%		100.0%
		調整済み残差	-3.2	3.2			-1.4	1.4		
合計	度数	1179	3447		4626	1035	3195		4230	
	期待度数	1179.0	3447.0		4626.0	1035.0	3195.0		4230.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	25.5%	74.5%		100.0%	24.5%	75.5%		100.0%	
11 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた	少ない	度数	114	109	51	274	69	79	25	173
		期待度数	86.5	144.0	43.4	274.0	54.0	92.4	26.6	173.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	41.6%	39.8%	18.6%	100.0%	39.9%	45.7%	14.5%	100.0%
		調整済み残差	3.7	-4.4	1.3		2.5	-2.1	-3	
	同じ	度数	1261	2129	641	4031	1195	2058	593	3846
		期待度数	1272.9	2119.1	639.0	4031.0	1200.2	2053.9	591.9	3846.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	31.3%	52.8%	15.9%	100.0%	31.1%	53.5%	15.4%	100.0%
		調整済み残差	-1.1	9	2		-6	4	2	
	多い	度数	87	196	42	325	56	122	33	211
		期待度数	102.6	170.9	51.5	325.0	65.8	112.7	32.5	211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	26.8%	60.3%	12.9%	100.0%	26.5%	57.8%	15.6%	100.0%
		調整済み残差	-1.9	2.9	-1.5		-1.5	1.3	1	
合計	度数	1462	2434	734	4630	1320	2259	651	4230	
	期待度数	1462.0	2434.0	734.0	4630.0	1320.0	2259.0	651.0	4230.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	31.6%	52.6%	15.9%	100.0%	31.2%	53.4%	15.4%	100.0%	
12 親や家族に現状報告をしやすくなった	少ない	度数	150	73	50	273	93	55	25	173
		期待度数	127.6	102.2	43.2	273.0	80.8	65.5	26.7	173.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	54.9%	26.7%	18.3%	100.0%	53.8%	31.8%	14.5%	100.0%
		調整済み残差	2.8	-3.8	1.2		1.9	-1.7	-4	
	同じ	度数	1901	1500	643	4044	1805	1454	596	3855
		期待度数	1890.5	1513.2	640.3	4044.0	1800.6	1459.6	594.8	3855.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	47.0%	37.1%	15.9%	100.0%	46.8%	37.7%	15.5%	100.0%
		調整済み残差	9	-1.2	3		5	-6	2	
	多い	度数	119	164	42	325	82	96	33	211
		期待度数	151.9	121.6	51.5	325.0	98.6	79.9	32.6	211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	36.6%	50.5%	12.9%	100.0%	38.9%	45.5%	15.6%	100.0%
		調整済み残差	-3.8	5.0	-1.5		-2.3	2.3	1	
合計	度数	2170	1737	735	4642	1980	1605	654	4239	
	期待度数	2170.0	1737.0	735.0	4642.0	1980.0	1605.0	654.0	4239.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	46.7%	37.4%	15.8%	100.0%	46.7%	37.9%	15.4%	100.0%	

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
13 サービス事業所からの情報提供が増えた	少ない	度数	178	100		278	102	72		174
		期待度数	152.4	125.6		278.0	94.1	79.9		174.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	64.0%	36.0%		100.0%	58.6%	41.4%		100.0%
		調整済み残差	3.2	-3.2			1.2	-1.2		
	同じ	度数	2223	1844		4067	2105	1771		3876
		期待度数	2229.4	1837.6		4067.0	2095.8	1780.2		3876.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	54.7%	45.3%		100.0%	54.3%	45.7%		100.0%
		調整済み残差	-6	6			1.0	-1.0		
	多い	度数	160	167		327	97	114		211
		期待度数	179.2	147.8		327.0	114.1	96.9		211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	48.9%	51.1%		100.0%	46.0%	54.0%		100.0%
		調整済み残差	-2.2	2.2			-2.4	2.4		
合計	度数	2561	2111		4672	2304	1957		4261	
	期待度数	2561.0	2111.0		4672.0	2304.0	1957.0		4261.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	54.8%	45.2%		100.0%	54.1%	45.9%		100.0%	
	** p<0.01 * p<0.05									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
14 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた	少ない	度数	194	82		276	108	65		173
		期待度数	180.4	95.6		276.0	112.3	60.7		173.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	70.3%	29.7%		100.0%	62.4%	37.6%		100.0%
		調整済み残差	1.8	-1.8			-7	7		
	同じ	度数	2677	1398		4075	2542	1342		3884
		期待度数	2662.9	1412.1		4075.0	2520.8	1363.2		3884.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	65.7%	34.3%		100.0%	65.4%	34.6%		100.0%
		調整済み残差	1.3	-1.3			2.4	-2.4		
	多い	度数	186	141		327	120	91		211
		期待度数	213.7	113.3		327.0	136.9	74.1		211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	56.9%	43.1%		100.0%	56.9%	43.1%		100.0%
		調整済み残差	-3.3	3.3			-2.5	2.5		
合計	度数	3057	1621		4678	2770	1498		4268	
	期待度数	3057.0	1621.0		4678.0	2770.0	1498.0		4268.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	65.3%	34.7%		100.0%	64.9%	35.1%		100.0%	
	** p<0.01 * p<0.05									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
15 サービス事業所からの相談が増えた	少ない	度数	119	158		277	72	101		173
		期待度数	97.6	179.4		277.0	60.0	113.0		173.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	43.0%	57.0%		100.0%	41.6%	58.4%		100.0%
		調整済み残差	2.8	-2.8			2.0	-2.0		
	同じ	度数	1414	2655		4069	1340	2540		3880
		期待度数	1434.1	2634.9		4069.0	1344.9	2535.1		3880.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	34.8%	65.2%		100.0%	34.5%	65.5%		100.0%
		調整済み残差	-1.8	1.8			-6	6		
	多い	度数	114	213		327	66	145		211
		期待度数	115.3	211.7		327.0	73.1	137.9		211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	34.9%	65.1%		100.0%	31.3%	68.7%		100.0%
		調整済み残差	-2	2			-1.1	1.1		
合計	度数	1647	3026		4673	1478	2786		4264	
	期待度数	1647.0	3026.0		4673.0	1478.0	2786.0		4264.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	35.2%	64.8%		100.0%	34.7%	65.3%		100.0%	
	** p<0.05 p=0.091									
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
16 以前よりサービス担当者会議を行うようになった	少ない	度数	92	184		276	55	117		172
		期待度数	66.7	209.3		276.0	41.2	130.8		172.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	33.3%	66.7%		100.0%	32.0%	68.0%		100.0%
		調整済み残差	3.7	-3.7			2.5	-2.5		
	同じ	度数	967	3104		4071	924	2958		3882
		期待度数	983.3	3087.7		4071.0	930.2	2951.8		3882.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	23.8%	76.2%		100.0%	23.8%	76.2%		100.0%
		調整済み残差	-1.7	1.7			-8	8		
	多い	度数	70	257		327	43	168		211
		期待度数	79.0	248.0		327.0	50.6	160.4		211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	21.4%	78.6%		100.0%	20.4%	79.6%		100.0%
		調整済み残差	-1.2	1.2			-1.3	1.3		
合計	度数	1129	3545		4674	1022	3243		4265	
	期待度数	1129.0	3545.0		4674.0	1022.0	3243.0		4265.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇨①実施した回数 2019年比較の%	24.2%	75.8%		100.0%	24.0%	76.0%		100.0%	
	** p<0.01 * p<0.05									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
17 相談支援専門員と して予測に基づく支援 ができるようになった	少ない	度数	153	126		279	93	81		174
		期待度数	125.8	153.2		279.0	77.5	96.5		174.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	54.8%	45.2%		100.0%	53.4%	46.6%		100.0%
		調整済み残差	3.4	-3.4			2.4	-2.4		
	同じ	度数	1836	2230		4066	1722	2156		3878
		期待度数	1833.7	2232.3		4066.0	1727.5	2150.5		3878.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	45.2%	54.8%		100.0%	44.4%	55.6%		100.0%
		調整済み残差	.2	-.2			-.6	.6		
	多い	度数	118	209		327	84	127		211
		期待度数	147.5	179.5		327.0	94.0	117.0		211.0
設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%		36.1%	63.9%		100.0%	39.8%	60.2%		100.0%	
調整済み残差		-3.4	3.4			-1.4	1.4			
** p<0.01 * p<0.05	合計	度数	2107	2565		4672	1899	2364		4263
	期待度数	2107.0	2565.0		4672.0	1899.0	2364.0		4263.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	45.1%	54.9%		100.0%	44.5%	55.5%		100.0%	
18 相談支援専門員 が、利用者の今使っ ているサービスへの満足 度がわかった	少ない	度数	180	96		276	110	62		172
		期待度数	163.6	112.4		276.0	100.4	71.6		172.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	65.2%	34.8%		100.0%	64.0%	36.0%		100.0%
		調整済み残差	2.1	-2.1			1.5	-1.5		
	同じ	度数	2416	1645		4061	2256	1617		3873
		期待度数	2407.5	1653.5		4061.0	2261.4	1611.6		3873.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	59.5%	40.5%		100.0%	58.2%	41.8%		100.0%
		調整済み残差	.8	-.8			-.6	.6		
	多い	度数	169	158		327	119	92		211
		期待度数	193.9	133.1		327.0	123.2	87.8		211.0
設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%		51.7%	48.3%		100.0%	56.4%	43.6%		100.0%	
調整済み残差		-2.9	2.9			-.6	.6			
** p<0.01 p=0.277	合計	度数	2765	1899		4664	2485	1771		4256
	期待度数	2765.0	1899.0		4664.0	2485.0	1771.0		4256.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	59.3%	40.7%		100.0%	58.4%	41.6%		100.0%	
19 相談支援専門員 が、家族のサービスへ の家族の満足度がわ かった	少ない	度数	142	83	50	275	84	64	25	173
		期待度数	119.5	111.5	44.1	275.0	75.3	70.7	26.9	173.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	51.6%	30.2%	18.2%	100.0%	48.6%	37.0%	14.5%	100.0%
		調整済み残差	2.8	-3.6	1.0		1.4	-1.1	-.4	
	同じ	度数	1750	1633	652	4035	1680	1572	602	3854
		期待度数	1752.9	1635.4	646.7	4035.0	1677.8	1576.0	600.2	3854.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	43.4%	40.5%	16.2%	100.0%	43.6%	40.8%	15.6%	100.0%
		調整済み残差	-3	-2	.6		.2	-.4	.3	
	多い	度数	122	163	41	326	81	97	33	211
		期待度数	141.6	132.1	52.2	326.0	91.9	86.3	32.9	211.0
設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%		37.4%	50.0%	12.6%	100.0%	38.4%	46.0%	15.6%	100.0%	
調整済み残差		-2.3	3.6	-1.8		-1.5	1.5	.0		
** p<0.01 p=0.352	合計	度数	2014	1879	743	4636	1845	1733	660	4238
	期待度数	2014.0	1879.0	743.0	4636.0	1845.0	1733.0	660.0	4238.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	43.4%	40.5%	16.0%	100.0%	43.5%	40.9%	15.6%	100.0%	
20 相談支援専門員と して新たなニーズが見 えた	少ない	度数	155	125		280	102	71		173
		期待度数	141.2	138.8		280.0	85.3	87.7		173.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	55.4%	44.6%		100.0%	59.0%	41.0%		100.0%
		調整済み残差	1.7	-1.7			2.6	-2.6		
	同じ	度数	2051	2015		4066	1891	1986		3877
		期待度数	2050.8	2015.2		4066.0	1912.6	1964.4		3877.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	50.4%	49.6%		100.0%	48.8%	51.2%		100.0%
		調整済み残差	.0	.0			-2.3	2.3		
	多い	度数	151	176		327	109	102		211
		期待度数	164.9	162.1		327.0	104.1	106.9		211.0
設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%		46.2%	53.8%		100.0%	51.7%	48.3%		100.0%	
調整済み残差		-1.6	1.6			.7	-.7			
p=0.079 * p<0.05	合計	度数	2357	2316		4673	2102	2159		4261
	期待度数	2357.0	2316.0		4673.0	2102.0	2159.0		4261.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	50.4%	49.6%		100.0%	49.3%	50.7%		100.0%	

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
21 利用者の成長(変化)がみえるようになった	少ない	度数	190	89		279	104	68		172
		期待度数	164.5	114.5		279.0	100.1	71.9		172.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	68.1%	31.9%		100.0%	60.5%	39.5%		100.0%
		調整済み残差	3.2	-3.2			.6	-6		
	同じ	度数	2397	1675		4072	2258	1627		3885
		期待度数	2400.7	1671.3		4072.0	2260.2	1624.8		3885.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	58.9%	41.1%		100.0%	58.1%	41.9%		100.0%
		調整済み残差	-3	.3			-2	.2		
	多い	度数	171	156		327	121	90		211
		期待度数	192.8	134.2		327.0	122.8	88.2		211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	52.3%	47.7%		100.0%	57.3%	42.7%		100.0%
		調整済み残差	-2.5	2.5			-3	.3		
** p<0.01 p=0.805	合計	度数	2758	1920		4678	2483	1785		4268
		期待度数	2758.0	1920.0		4678.0	2483.0	1785.0		4268.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	59.0%	41.0%		100.0%	58.2%	41.8%		100.0%
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
22 モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った	少ない	度数	134	144		278	80	94		174
		期待度数	76.6	201.4		278.0	46.5	127.5		174.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	48.2%	51.8%		100.0%	46.0%	54.0%		100.0%
		調整済み残差	7.9	-7.9			5.9	-5.9		
	同じ	度数	1074	2991		4065	1000	2880		3880
		期待度数	1120.3	2944.7		4065.0	1036.2	2843.8		3880.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	26.4%	73.6%		100.0%	25.8%	74.2%		100.0%
		調整済み残差	-4.5	4.5			-4.4	4.4		
	多い	度数	79	248		327	59	152		211
		期待度数	90.1	236.9		327.0	56.3	154.7		211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	24.2%	75.8%		100.0%	28.0%	72.0%		100.0%
		調整済み残差	-1.4	1.4			.4	-4		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1287	3383		4670	1139	3126		4265
		期待度数	1287.0	3383.0		4670.0	1139.0	3126.0		4265.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	27.6%	72.4%		100.0%	26.7%	73.3%		100.0%
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
23 サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた	少ない	度数	134	142		276	80	93		173
		期待度数	94.3	181.7		276.0	57.6	115.4		173.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	48.6%	51.4%		100.0%	46.2%	53.8%		100.0%
		調整済み残差	5.2	-5.2			3.7	-3.7		
	同じ	度数	1365	2681		4046	1265	2595		3860
		期待度数	1382.1	2663.9		4046.0	1286.1	2573.9		3860.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	33.7%	66.3%		100.0%	32.8%	67.2%		100.0%
		調整済み残差	-1.6	1.6			-2.4	2.4		
	多い	度数	87	234		321	68	140		208
		期待度数	109.7	211.3		321.0	69.3	138.7		208.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	27.1%	72.9%		100.0%	32.7%	67.3%		100.0%
		調整済み残差	-2.8	2.8			-2	.2		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1586	3057		4643	1413	2828		4241
		期待度数	1586.0	3057.0		4643.0	1413.0	2828.0		4241.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	34.2%	65.8%		100.0%	33.3%	66.7%		100.0%
設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
24 モニタリング回数が増え、利用者がストレスを感じるようになった	少ない	度数	49	227		276	31	142		173
		期待度数	35.2	240.8		276.0	22.5	150.5		173.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	17.8%	82.2%		100.0%	17.9%	82.1%		100.0%
		調整済み残差	2.6	-2.6			2.0	-2.0		
	同じ	度数	501	3560		4061	494	3377		3871
		期待度数	518.4	3542.6		4061.0	503.3	3367.7		3871.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	12.3%	87.7%		100.0%	12.8%	87.2%		100.0%
		調整済み残差	-2.3	2.3			-1.5	1.5		
	多い	度数	45	279		324	28	181		209
		期待度数	41.4	282.6		324.0	27.2	181.8		209.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	13.9%	86.1%		100.0%	13.4%	86.6%		100.0%
		調整済み残差	.6	-.6			.2	-.2		
* p<0.05 p=0.141	合計	度数	595	4066		4661	553	3700		4253
		期待度数	595.0	4066.0		4661.0	553.0	3700.0		4253.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	12.8%	87.2%		100.0%	13.0%	87.0%		100.0%

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
25 モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった	少ない	度数	52	169	53	274	26	119		173
		期待度数	35.7	194.3	44.0	274.0	23.2	122.7	27.1	173.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	19.0%	61.7%	19.3%	100.0%	15.0%	68.8%	16.2%	100.0%
		調整済み残差	3.0	-3.5	1.5		.6	-6	.2	
	同じ	度数	502	2885	650	4037	510	2741	603	3854
		期待度数	526.0	2862.3	648.7	4037.0	515.7	2734.3	604.0	3854.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	12.4%	71.5%	16.1%	100.0%	13.2%	71.1%	15.6%	100.0%
		調整済み残差	-3.1	2.2	2		-9	.8	-1	
	多い	度数	50	233	42	325	31	146	33	210
		期待度数	42.3	230.4	52.2	325.0	28.1	149.0	32.9	210.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	15.4%	71.7%	12.9%	100.0%	14.8%	69.5%	15.7%	100.0%
		調整済み残差	1.3	.3	-1.6		.6	-5	.0	
** p<0.01 p=0.920	合計	度数	604	3287	745	4636	567	3006	664	4237
	期待度数	604.0	3287.0	745.0	4636.0	567.0	3006.0	664.0	4237.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	13.0%	70.9%	16.1%	100.0%	13.4%	70.9%	15.7%	100.0%	
26 変化のないケースでは、変化がないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い	少ない	度数	79	197		276	42	130		172
		期待度数	79.9	196.1		276.0	49.8	122.2		172.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	28.6%	71.4%		100.0%	24.4%	75.6%		100.0%
		調整済み残差	-1	.1			-1.3	1.3		
	同じ	度数	1158	2914		4072	1122	2760		3882
		期待度数	1179.4	2892.6		4072.0	1125.0	2757.0		3882.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	28.4%	71.6%		100.0%	28.9%	71.1%		100.0%
		調整済み残差	-2.1	2.1			-4	.4		
	多い	度数	117	210		327	72	139		211
		期待度数	94.7	232.3		327.0	61.1	149.9		211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	35.8%	64.2%		100.0%	34.1%	65.9%		100.0%
		調整済み残差	2.8	-2.8			1.7	-1.7		
* p<0.05 p=0.107	合計	度数	1354	3321		4675	1236	3029		4265
	期待度数	1354.0	3321.0		4675.0	1236.0	3029.0		4265.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	29.0%	71.0%		100.0%	29.0%	71.0%		100.0%	
27 サービス管理責任者等が忙しくなったようだ	少ない	度数	100	174		274	54	117		171
		期待度数	98.9	175.1		274.0	61.6	109.4		171.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	36.5%	63.5%		100.0%	31.6%	68.4%		100.0%
		調整済み残差	.1	-1			-1.2	1.2		
	同じ	度数	1459	2600		4059	1404	2465		3869
		期待度数	1464.8	2594.2		4059.0	1394.7	2474.3		3869.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	35.9%	64.1%		100.0%	36.3%	63.7%		100.0%
		調整済み残差	-5	.5			1.0	-1.0		
	多い	度数	122	203		325	74	136		210
		期待度数	117.3	207.7		325.0	75.7	134.3		210.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	37.5%	62.5%		100.0%	35.2%	64.8%		100.0%
		調整済み残差	.6	-6			-3	.3		
p=0.838 p=0.441	合計	度数	1681	2977		4658	1532	2718		4250
	期待度数	1681.0	2977.0		4658.0	1532.0	2718.0		4250.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	36.1%	63.9%		100.0%	36.0%	64.0%		100.0%	
28 請求事務が大変になった	少ない	度数	101	173		274	45	126		171
		期待度数	89.8	184.2		274.0	56.4	114.6		171.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	36.9%	63.1%		100.0%	26.3%	73.7%		100.0%
		調整済み残差	1.5	-1.5			-1.9	1.9		
	同じ	度数	1316	2740		4056	1285	2581		3866
		期待度数	1329.9	2726.1		4056.0	1274.1	2591.9		3866.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	32.4%	67.6%		100.0%	33.2%	66.8%		100.0%
		調整済み残差	-1.3	1.3			1.2	-1.2		
	多い	度数	109	215		324	70	141		211
		期待度数	106.2	217.8		324.0	69.5	141.5		211.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	33.6%	66.4%		100.0%	33.2%	66.8%		100.0%
		調整済み残差	.3	-3			.1	-1		
p=0.303 p=0.169	合計	度数	1526	3128		4654	1400	2848		4248
	期待度数	1526.0	3128.0		4654.0	1400.0	2848.0		4248.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数 ⇔①実施した回数 2019年比較の%	32.8%	67.2%		100.0%	33.0%	67.0%		100.0%	

自治体が支給決定したモニタリング回数・理想だと思うモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

2018年自治体が支給決定したモニタリング回数・理想だと思うモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「理想だと思うモニタリング回数」よりも「少ない」群で、「そう思う」の該当項目は、

「(3) 本人が相談支援員の顔を覚えてくれた」(65.0%) Z=3.0

「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(65.7%) Z=5.0

「(6) ご家族から親近感を持ってもらえるようになった」(50.6%) Z=2.9

「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(56.6%) Z=7.0

「(12) 親や家族に現状報告をしやすくなった」(54.4%) Z=4.6

「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(63.5%) Z=5.7

「(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」(75.8%) Z=7.0

「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(64.9%)

Z=3.9

「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(58.9%) Z=5.8

「(21) 利用者の成長(変化)がみえるようになった」(64.3%) Z=3.7 の10項目である。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

「(24) モニタリングが増え、利用者がストレスを感じるようになった」(89.2%) Z=2.2

「(25) モニタリングが増え、家族がストレスを感じるようになった」(74.9%) Z=2.7

「(26) 変化のないケースでは、変化のないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い」(79.4%) Z=5.4

「(28) 請求業務が大変になった」(70.5%) Z=2.1 の4項目である。

回数が「同じ」群では、「そう思う」に該当する項目はなかった。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

「(2) ご家族から制度について聞かれることが増えた」(64.2%) Z=2.8

「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(57.2%) Z=5.3

「(10) 本人にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(76.4%) Z=2.2

「(15) サービス事業者からの相談が増えた」(67.8%) Z=6.1

「(16) 以前よりサービス担当者会議を行うようになった」(77.9%) Z=5.3

「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(57.0%) Z=3.7

「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(52.5%) Z=4.2

「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(75.1%) Z=4.5

「(23) サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた」(68.8%)

Z=4.9 の9項目である。

「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「理想だと思うモニタリング回数」よりも「多い」群では、「そう思う」の該当項目は、

「(26) 変化のないケースでは、変化のないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い」(51.7%) Z=5.5 の1項目である。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

「(3) 本人が相談支援員の顔を覚えてくれた」(50.4%) Z=2.3

「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(60.7%) Z=4.0

「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(69.2%) Z=3.1

- 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(68.4%) Z=4.9
- 「(15) サービス事業者からの相談が増えた」(75.2%) Z=2.2
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(70.9%) Z=3.4
- 「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(59.5%) Z=4.0
- 「(19) 相談支援専門員が家族のサービスへの家族の満足度がわかった」(50.9%) Z=2.1
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(65.0%) Z=3.1
- 「(21) 利用者の成長(変化)が見えるようになった」(56.4%) Z=3.2 の10項目である.

2019年自治体が支給決定したモニタリング回数・理想だと思うモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「理想だと思うモニタリング回数」がより「少ない」群で、「そう思う」の該当項目は、

- 「(3) 本人が相談支援員の顔を覚えてくれた」(66.7%) Z=2.7
 - 「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(65.6%) Z=3.7
 - 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(52.5%) Z=3.1
 - 「(12) 親や家族に現状報告をしやすくなった」(53.2%) Z=3.0
 - 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(63.2%) Z=4.1
 - 「(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」(71.9%) Z=3.3
 - 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(56.6%) Z=3.1
- の7項目である。一方で、「そう思わない」に該当する項目はなかった。

回数が「同じ」群では、「そう思う」の該当項目は、

- 「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(59.0%) Z=2.3
 - 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(51.8%) Z=3.9 の2項目である。
- 一方で、「そう思わない」の該当項目は
- 「(24) モニタリングが増え、利用者がストレスを感じるようになった」(88.6%) Z=5.5
 - 「(25) モニタリングが増え、家族がストレスを感じるようになった」(72.8%) Z=5.7
 - 「(26) 変化のないケースでは、変化のないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い」(74.9%) Z=10.3
 - 「(27) サービス管理責任者等が忙しくなったようだ」(66.7%) Z=4.9
 - 「(28) 請求業務が大変になった」(69.5%) Z=5.9 の5項目である。

「自治体が支給決定したモニタリング回数」が「理想だと思うモニタリング回数」がより「多い」群では、「そう思う」に該当する項目はなかった。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

- 「(1) 本人から制度について聞かれることが増えた」(90.9%) Z=3.1
- 「(5) ご本人から親近感を持ってもらえるようになった」(55.6%) Z=6.7
- 「(7) 本人から不安を訴える電話が減った」(90.5%) Z=4.4
- 「(8) 家族からの不安を訴える電話が減った」(77.0%) Z=4.3
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(70.5%) Z=8.0
- 「(10) 本人にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(86.7%) Z=6.7
- 「(11) 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(60.5%) Z=3.8
- 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(58.7%) Z=6.5

「(15) サービス事業者からの相談が増えた」(77.1%) Z=6.2

「(16) 以前よりサービス担当者会議を行うようになった」(84.4%) Z=4.8

「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(73.6%) Z=9.1

「(18) 相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」(52.4%)

Z=5.8

「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(66.9%) Z=8.3

「(21) 利用者の成長(変化)が見えるようになった」(57.1%) Z=7.1

「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(83.8%) Z=6.1

「(23) サービス量が増えた,又は減ったことにより,適切なサービス量に近づいた」(83.7%)

Z=9.0 の16項目である.

表 75 自治体が支給決定したモニタリング回数・理想だと思うモニタリング回数と影響

*設問欄に有意差を表記：(上) 2019年, (下) 2018年

設問	回数	②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年				②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2018年				
		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	
1 本人から制度について聞かれることが増えた	少ない	度数	103	408		511	128	593	721	
		期待度数	68.8	442.2		511.0	93.3	627.7	721.0	
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	20.2%	79.8%		100.0%	17.8%	82.2%	100.0%	
		調整済み残差	4.7	-4.7			4.2	-4.2		
	同じ	度数	458	3029		3487	378	2819	3197	
		期待度数	469.8	3017.2		3487.0	413.9	2783.1	3197.0	
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	13.1%	86.9%		100.0%	11.8%	88.2%	100.0%	
		調整済み残差	-1.2	1.2			-4.2	4.2		
	多い	度数	47	468		515	16	98	114	
		期待度数	69.4	445.6		515.0	14.8	99.2	114.0	
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	9.1%	90.9%		100.0%	14.0%	86.0%	100.0%	
		調整済み残差	-3.1	3.1			.4	-4		
合計	度数	608	3905		4513	522	3510	4032		
	期待度数	608.0	3905.0		4513.0	522.0	3510.0	4032.0		
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	13.5%	86.5%		100.0%	12.9%	87.1%	100.0%		
	調整済み残差									
2 ご家族から制度について聞かれることが増えた	少ない	度数	140	301	75	516	192	424	110	726
		期待度数	112.7	322.8	80.5	516.0	156.7	458.3	111.1	726.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	27.1%	58.3%	14.5%	100.0%	26.4%	58.4%	15.2%	100.0%
		調整済み残差	3.1	-2.1	-7		3.5	-2.9	-1	
	同じ	度数	738	2201	549	3488	652	2048	489	3189
		期待度数	761.8	2181.7	544.5	3488.0	688.2	2013.0	487.8	3189.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	21.2%	63.1%	15.7%	100.0%	20.4%	64.2%	15.3%	100.0%
		調整済み残差	-2.0	1.4	.4		-3.4	2.8	.1	
	多い	度数	107	319	80	506	25	70	17	112
		期待度数	110.5	316.5	79.0	506.0	24.2	70.7	17.1	112.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	21.1%	63.0%	15.8%	100.0%	22.3%	62.5%	15.2%	100.0%
		調整済み残差	-4	.2	.1		.2	-1	.0	
合計	度数	985	2821	704	4510	869	2542	616	4027	
	期待度数	985.0	2821.0	704.0	4510.0	869.0	2542.0	616.0	4027.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	21.8%	62.5%	15.6%	100.0%	21.6%	63.1%	15.3%	100.0%	
	調整済み残差									
3 本人が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	少ない	度数	345	172		517	473	255		728
		期待度数	317.1	199.9		517.0	436.7	291.3		728.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	66.7%	33.3%		100.0%	65.0%	35.0%		100.0%
		調整済み残差	2.7	-2.7			3.0	-3.0		
	同じ	度数	2176	1333		3509	1898	1306		3204
		期待度数	2151.9	1357.1		3509.0	1922.1	1281.9		3204.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	62.0%	38.0%		100.0%	59.2%	40.8%		100.0%
		調整済み残差	1.8	-1.8			-1.9	1.9		
	多い	度数	265	252		517	58	59		117
		期待度数	317.1	199.9		517.0	70.2	46.8		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	51.3%	48.7%		100.0%	49.6%	50.4%		100.0%
		調整済み残差	-5.0	5.0			-2.3	2.3		
合計	度数	2786	1757		4543	2429	1620		4049	
	期待度数	2786.0	1757.0		4543.0	2429.0	1620.0		4049.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	61.3%	38.7%		100.0%	60.0%	40.0%		100.0%	
	調整済み残差									
4 ご家族が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	少ない	度数	269	173		518	365	251		727
		期待度数	249.7	186.7		518.0	345.6	269.8		727.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	51.9%	33.4%		100.0%	50.2%	34.5%		100.0%
		調整済み残差	1.8	-1.3			1.6	-1.6		
	同じ	度数	1691	1248		3493	1501	1197		3188
		期待度数	1683.9	1258.7		3493.0	1515.3	1183.1		3188.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	48.4%	35.7%		100.0%	47.1%	37.5%		100.0%
		調整済み残差	.5	-8			-1.1	1.1		
	多い	度数	218	207		507	50	48		116
		期待度数	244.4	182.7		507.0	55.1	43.1		116.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	43.0%	40.8%		100.0%	43.1%	41.4%		100.0%
		調整済み残差	-2.5	2.4			-1.0	1.0		
合計	度数	2178	1628		4518	1916	1496		4031	
	期待度数	2178.0	1628.0		4518.0	1916.0	1496.0		4031.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	48.2%	36.0%		100.0%	47.5%	37.1%		100.0%	
	調整済み残差									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
5 本人から親近感をもってもらえるようになった	少ない	度数	339	178		517	478	250		728
		期待度数	300.4	216.6		517.0	417.1	310.9		728.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	65.6%	34.4%		100.0%	65.7%	34.3%		100.0%
		調整済み残差	3.7	-3.7			5.0	-5.0		
	同じ	度数	2070	1437		3507	1795	1408		3203
		期待度数	2037.9	1469.1		3507.0	1834.9	1368.1		3203.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	59.0%	41.0%		100.0%	56.0%	44.0%		100.0%
		調整済み残差	2.3	-2.3			-3.1	3.1		
	多い	度数	228	286		514	46	71		117
		期待度数	298.7	215.3		514.0	67.0	50.0		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	44.4%	55.6%		100.0%	39.3%	60.7%		100.0%
		調整済み残差	-6.7	6.7			-4.0	4.0		
合計	度数	2637	1901		4538	2319	1729		4048	
	期待度数	2637.0	1901.0		4538.0	2319.0	1729.0		4048.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	58.1%	41.9%		100.0%	57.3%	42.7%		100.0%	
6 ご家族から親近感をもってもらえるようになった	少ない	度数	258	181	78	517	367	246	112	725
		期待度数	238.1	196.8	82.0	517.0	332.3	280.6	112.1	725.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	49.9%	35.0%	15.1%	100.0%	50.6%	33.9%	15.4%	100.0%
		調整済み残差	1.9	-1.5	-5		2.9	-2.9		0
	同じ	度数	1623	1314	557	3494	1431	1265	493	3189
		期待度数	1609.3	1330.2	554.5	3494.0	1461.6	1234.5	493.0	3189.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	46.5%	37.6%	15.9%	100.0%	44.9%	39.7%	15.5%	100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.2	2		-2.4	2.4		0
	多い	度数	200	225	82	507	49	49	18	116
		期待度数	233.5	193.0	80.5	507.0	53.2	44.9	17.9	116.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	39.4%	44.4%	16.2%	100.0%	42.2%	42.2%	15.5%	100.0%
		調整済み残差	-3.2	3.1	2		-8	8		0
合計	度数	2081	1720	717	4518	1847	1560	623	4030	
	期待度数	2081.0	1720.0	717.0	4518.0	1847.0	1560.0	623.0	4030.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	46.1%	38.1%	15.9%	100.0%	45.8%	38.7%	15.5%	100.0%	
7 本人からの不安を訴える電話が減った	少ない	度数	102	399		501	122	582		704
		期待度数	81.7	419.3		501.0	115.4	588.6		704.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	20.4%	79.6%		100.0%	17.3%	82.7%		100.0%
		調整済み残差	2.6	-2.6			7	-7		
	同じ	度数	567	2826		3393	511	2630		3141
		期待度数	553.3	2839.7		3393.0	515.0	2626.0		3141.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	16.7%	83.3%		100.0%	16.3%	83.7%		100.0%
		調整済み残差	1.3	-1.3			4	-4		
	多い	度数	48	455		503	16	97		113
		期待度数	82.0	421.0		503.0	18.5	94.5		113.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	9.5%	90.5%		100.0%	14.2%	85.8%		100.0%
		調整済み残差	-4.4	4.4			-7	7		
合計	度数	717	3680		4397	649	3309		3958	
	期待度数	717.0	3680.0		4397.0	649.0	3309.0		3958.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	16.3%	83.7%		100.0%	16.4%	83.6%		100.0%	
8 家族からの不安を訴える電話が減った	少ない	度数	100	332	75	507	121	488	105	714
		期待度数	79.2	347.4	80.4	507.0	111.5	492.4	110.1	714.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	19.7%	65.5%	14.8%	100.0%	16.9%	68.3%	14.7%	100.0%
		調整済み残差	2.7	-1.6	-7		1.1	-4		-6
	同じ	度数	560	2330	549	3439	489	2180	491	3160
		期待度数	536.9	2356.6	545.4	3439.0	493.7	2179.0	487.3	3160.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	16.3%	67.8%	16.0%	100.0%	15.5%	69.0%	15.5%	100.0%
		調整済み残差	2.3	-2.1	3		-5	1		4
	多い	度数	34	384	81	499	13	82	19	114
		期待度数	77.9	341.9	79.1	499.0	17.8	78.6	17.6	114.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	6.8%	77.0%	16.2%	100.0%	11.4%	71.9%	16.7%	100.0%
		調整済み残差	-5.7	4.3	2		-1.3	7		4
合計	度数	694	3046	705	4445	623	2750	615	3988	
	期待度数	694.0	3046.0	705.0	4445.0	623.0	2750.0	615.0	3988.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	15.6%	68.5%	15.9%	100.0%	15.6%	69.0%	15.4%	100.0%	

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
9 自宅に訪問しやすくなった	少ない	度数	271	245		516	409	313		722
		期待度数	238.0	278.0		516.0	324.5	397.5		722.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	52.5%	47.5%		100.0%	56.6%	43.4%		100.0%
		調整済み残差	3.1	-3.1			7.0	-7.0		
	同じ	度数	1664	1829		3493	1371	1371		3202
		期待度数	1611.1	1881.9		3493.0	1439.0	1763.0		3202.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	47.6%	52.4%		100.0%	42.8%	57.2%		100.0%
		調整済み残差	3.8	-3.8			-5.3	5.3		
	多い	度数	153	365		518	36	81		117
		期待度数	238.9	279.1		518.0	52.6	64.4		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	29.5%	70.5%		100.0%	30.8%	69.2%		100.0%
		調整済み残差	-8.0	8.0			-3.1	3.1		
合計	度数	2088	2439		4527	1816	2225		4041	
	期待度数	2088.0	2439.0		4527.0	1816.0	2225.0		4041.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	46.1%	53.9%		100.0%	44.9%	55.1%		100.0%	
	調整済み残差									
** p<0.01 ** p<0.01										
10 本人にサービス事業所の違いをわかってもらった	少ない	度数	153	360		513	206	516		722
		期待度数	130.8	382.2		513.0	175.8	546.2		722.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	29.8%	70.2%		100.0%	28.5%	71.5%		100.0%
		調整済み残差	2.4	-2.4			2.9	-2.9		
	同じ	度数	927	2549		3476	754	2440		3194
		期待度数	886.4	2589.6		3476.0	777.9	2416.1		3194.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	26.7%	73.3%		100.0%	23.6%	76.4%		100.0%
		調整済み残差	3.3	-3.3			-2.2	2.2		
	多い	度数	69	448		517	22	94		116
		期待度数	131.8	385.2		517.0	28.3	87.7		116.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	13.3%	86.7%		100.0%	19.0%	81.0%		100.0%
		調整済み残差	-6.7	6.7			-1.4	1.4		
合計	度数	1149	3357		4506	982	3050		4032	
	期待度数	1149.0	3357.0		4506.0	982.0	3050.0		4032.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	25.5%	74.5%		100.0%	24.4%	75.6%		100.0%	
	調整済み残差									
** p<0.01 ** p<0.01										
11 家族にサービス事業所との違いをわかってもらった	少ない	度数	186	255	76	517	238	375	110	723
		期待度数	162.9	272.0	82.0	517.0	223.6	388.1	111.3	723.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	36.0%	49.3%	14.7%	100.0%	32.9%	51.9%	15.2%	100.0%
		調整済み残差	2.3	-1.6	-8		1.3	-1.1	-2	
	同じ	度数	1116	1808	556	3480	980	1716	492	3188
		期待度数	1096.7	1831.1	552.2	3480.0	985.9	1711.2	490.9	3188.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	32.1%	52.0%	16.0%	100.0%	30.7%	53.8%	15.4%	100.0%
		調整済み残差	1.5	-1.6	-4		-5	-4	.1	
	多い	度数	118	308	83	509	27	70	18	115
		期待度数	160.4	267.8	80.8	509.0	35.6	61.7	17.7	115.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	23.2%	60.5%	16.3%	100.0%	23.5%	60.9%	15.7%	100.0%
		調整済み残差	-4.3	3.8	.3		-1.8	1.6	.1	
合計	度数	1420	2371	715	4506	1245	2161	620	4026	
	期待度数	1420.0	2371.0	715.0	4506.0	1245.0	2161.0	620.0	4026.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	31.5%	52.6%	15.9%	100.0%	30.9%	53.7%	15.4%	100.0%	
	調整済み残差									
** p<0.01 p=0.329										
12 親や家族に現状報告をしやすくなった	少ない	度数	274	164	77	515	392	220	109	721
		期待度数	241.5	191.9	81.5	515.0	336.0	273.8	111.2	721.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	53.2%	31.8%	15.0%	100.0%	54.4%	30.5%	15.1%	100.0%
		調整済み残差	3.0	-2.7	-6		4.6	-4.6	-3	
	同じ	度数	1661	1272	557	3490	1446	1256	494	3196
		期待度数	1636.8	1300.6	552.6	3490.0	1489.4	1213.6	493.0	3196.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	47.6%	36.4%	16.0%	100.0%	45.2%	39.3%	15.5%	100.0%
		調整済み残差	1.7	-2.1	-4		-3.4	3.4	.1	
	多い	度数	183	247	81	511	41	55	19	115
		期待度数	239.7	190.4	80.9	511.0	53.6	43.7	17.7	115.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	35.8%	48.3%	15.9%	100.0%	35.7%	47.8%	16.5%	100.0%
		調整済み残差	-5.3	5.5	.0		-2.4	2.2	.3	
合計	度数	2118	1683	715	4516	1879	1531	622	4032	
	期待度数	2118.0	1683.0	715.0	4516.0	1879.0	1531.0	622.0	4032.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	46.9%	37.3%	15.8%	100.0%	46.6%	38.0%	15.4%	100.0%	
	調整済み残差									
** p<0.01 ** p<0.01										

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
13 サービス事業所が らの情報提供が増えた	少ない	度数	328	191		519	462	266		728
		期待度数	283.9	235.1		519.0	392.5	335.5		728.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	63.2%	36.8%		100.0%	63.5%	36.5%		100.0%
		調整済み残差	4.1	-4.1			5.7	-5.7		
	同じ	度数	1944	1564		3508	1687	1523		3210
		期待度数	1918.7	1589.3		3508.0	1730.5	1479.5		3210.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	55.4%	44.6%		100.0%	52.6%	47.4%		100.0%
		調整済み残差	1.8	-1.8			-3.4	3.4		
	多い	度数	215	305		520	37	80		117
		期待度数	284.4	235.6		520.0	63.1	53.9		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	41.3%	58.7%		100.0%	31.6%	68.4%		100.0%
		調整済み残差	-6.5	6.5			-4.9	4.9		
合計	度数	2487	2060		4547	2186	1869		4055	
	期待度数	2487.0	2060.0		4547.0	2186.0	1869.0		4055.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	54.7%	45.3%		100.0%	53.9%	46.1%		100.0%	
	調整済み残差									
14 相談支援専門員が サービス事業所に問い 合わせる機会が増えた	少ない	度数	373	146		519	552	176		728
		期待度数	338.9	180.1		519.0	470.5	257.5		728.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	71.9%	28.1%		100.0%	75.8%	24.2%		100.0%
		調整済み残差	3.3	-3.3			7.0	-7.0		
	同じ	度数	2314	1200		3514	2012	1205		3217
		期待度数	2294.6	1219.4		3514.0	2078.9	1138.1		3217.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	65.9%	34.1%		100.0%	62.5%	37.5%		100.0%
		調整済み残差	1.4	-1.4			-5.4	5.4		
	多い	度数	286	234		520	61	56		117
		期待度数	339.5	180.5		520.0	75.6	41.4		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	55.0%	45.0%		100.0%	52.1%	47.9%		100.0%
		調整済み残差	-5.2	5.2			-2.9	2.9		
合計	度数	2973	1580		4553	2625	1437		4062	
	期待度数	2973.0	1580.0		4553.0	2625.0	1437.0		4062.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	65.3%	34.7%		100.0%	64.6%	35.4%		100.0%	
	調整済み残差									
15 サービス事業所が らの相談が増えた	少ない	度数	239	280		519	338	390		728
		期待度数	182.2	336.8		519.0	251.3	476.7		728.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	46.1%	53.9%		100.0%	46.4%	53.6%		100.0%
		調整済み残差	5.5	-5.5			7.5	-7.5		
	同じ	度数	1239	2270		3509	1034	2179		3213
		期待度数	1232.2	2276.8		3509.0	1109.3	2103.7		3213.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	35.3%	64.7%		100.0%	32.2%	67.8%		100.0%
		調整済み残差	.5	-0.5			-6.1	6.1		
	多い	度数	119	401		520	29	88		117
		期待度数	182.6	337.4		520.0	40.4	76.6		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	22.9%	77.1%		100.0%	24.8%	75.2%		100.0%
		調整済み残差	-6.2	6.2			-2.2	2.2		
合計	度数	1597	2951		4548	1401	2657		4058	
	期待度数	1597.0	2951.0		4548.0	1401.0	2657.0		4058.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	35.1%	64.9%		100.0%	34.5%	65.5%		100.0%	
	調整済み残差									
16 以前よりサービス 担当者会議を行うよう になった	少ない	度数	157	361		518	238	491		729
		期待度数	124.9	393.1		518.0	174.5	554.5		729.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	30.3%	69.7%		100.0%	32.6%	67.4%		100.0%
		調整済み残差	3.5	-3.5			6.1	-6.1		
	同じ	度数	859	2653		3512	711	2503		3214
		期待度数	846.7	2665.3		3512.0	769.5	2444.5		3214.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	24.5%	75.5%		100.0%	22.1%	77.9%		100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.0			-5.3	5.3		
	多い	度数	81	439		520	23	94		117
		期待度数	125.4	394.6		520.0	28.0	89.0		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	15.6%	84.4%		100.0%	19.7%	80.3%		100.0%
		調整済み残差	-4.8	4.8			-1.1	1.1		
合計	度数	1097	3453		4550	972	3088		4060	
	期待度数	1097.0	3453.0		4550.0	972.0	3088.0		4060.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	24.1%	75.9%		100.0%	23.9%	76.1%		100.0%	
	調整済み残差									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
17 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった	少ない	度数	258	260		518	390	339		729
		期待度数	233.5	284.5		518.0	324.2	404.8		729.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	49.8%	50.2%		100.0%	53.5%	46.5%		100.0%
		調整済み残差	2.3	-2.3			5.4	-5.4		
	同じ	度数	1654	1855		3509	1380	1830		3210
		期待度数	1581.6	1927.4		3509.0	1427.7	1782.3		3210.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	47.1%	52.9%		100.0%	43.0%	57.0%		100.0%
		調整済み残差	5.1	-5.1			-3.7	3.7		
	多い	度数	137	382		519	34	83		117
		期待度数	233.9	285.1		519.0	52.0	65.0		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	26.4%	73.6%		100.0%	29.1%	70.9%		100.0%
		調整済み残差	-9.1	9.1			-3.4	3.4		
合計	度数	2049	2497		4546	1804	2252		4056	
	期待度数	2049.0	2497.0		4546.0	1804.0	2252.0		4056.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	45.1%	54.9%		100.0%	44.5%	55.5%		100.0%	
	調整済み残差									
18 相談支援専門員が、利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった	少ない	度数	305	212		517	473	256		729
		期待度数	307.2	209.8		517.0	425.9	303.1		729.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	59.0%	41.0%		100.0%	64.9%	35.1%		100.0%
		調整済み残差	-2	2			3.9	-3.9		
	同じ	度数	2145	1358		3503	1846	1359		3205
		期待度数	2081.4	1421.6		3503.0	1872.4	1332.6		3205.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	61.2%	38.8%		100.0%	57.6%	42.4%		100.0%
		調整済み残差	4.6	-4.6			-2.1	2.1		
	多い	度数	247	272		519	47	69		116
		期待度数	308.4	210.6		519.0	67.8	48.2		116.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	47.6%	52.4%		100.0%	40.5%	59.5%		100.0%
		調整済み残差	-5.8	5.8			-4.0	4.0		
合計	度数	2697	1842		4539	2366	1684		4050	
	期待度数	2697.0	1842.0		4539.0	2366.0	1684.0		4050.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	59.4%	40.6%		100.0%	58.4%	41.6%		100.0%	
	調整済み残差									
19 相談支援専門員が、家族のサービスへの満足度がわかった	少ない	度数	235	207	76	518	351	267	108	726
		期待度数	225.3	209.7	83.0	518.0	313.8	299.1	113.1	726.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	45.4%	40.0%	14.7%	100.0%	48.3%	36.8%	14.9%	100.0%
		調整済み残差	.9	-3	-9		3.1	-2.7	-6	
	同じ	度数	1551	1370	564	3485	1353	1335	502	3190
		期待度数	1515.9	1410.8	558.3	3485.0	1379.0	1314.1	496.9	3190.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	44.5%	39.3%	16.2%	100.0%	42.4%	41.8%	15.7%	100.0%
		調整済み残差	2.5	-3.0	.6		-2.0	1.6	.5	
	多い	度数	177	250	83	510	39	59	18	116
		期待度数	221.8	206.5	81.7	510.0	50.1	47.8	18.1	116.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	34.7%	49.0%	16.3%	100.0%	33.6%	50.9%	15.5%	100.0%
		調整済み残差	-4.3	4.2	.2		-2.1	2.1	.0	
合計	度数	1963	1827	723	4513	1743	1661	628	4032	
	期待度数	1963.0	1827.0	723.0	4513.0	1743.0	1661.0	628.0	4032.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	43.5%	40.5%	16.0%	100.0%	43.2%	41.2%	15.6%	100.0%	
	調整済み残差									
20 相談支援専門員として新たなニーズが見えた	少ない	度数	294	225		519	429	299		728
		期待度数	260.5	258.5		519.0	357.9	370.1		728.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	56.6%	43.4%		100.0%	58.9%	41.1%		100.0%
		調整済み残差	3.1	-3.1			5.8	-5.8		
	同じ	度数	1816	1692		3508	1523	1686		3209
		期待度数	1760.9	1747.1		3508.0	1577.6	1631.4		3209.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	51.8%	48.2%		100.0%	47.5%	52.5%		100.0%
		調整済み残差	3.9	-3.9			-4.2	4.2		
	多い	度数	172	347		519	41	76		117
		期待度数	260.5	258.5		519.0	57.5	59.5		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	33.1%	66.9%		100.0%	35.0%	65.0%		100.0%
		調整済み残差	-8.3	8.3			-3.1	3.1		
合計	度数	2282	2264		4546	1993	2061		4054	
	期待度数	2282.0	2264.0		4546.0	1993.0	2061.0		4054.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔ ③理想だと思う回数 2019年比較の%	50.2%	49.8%		100.0%	49.2%	50.8%		100.0%	
	調整済み残差									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
21 利用者の成長（変化）がみえるようになった	少ない	度数	310	208		518	469	260		729
		期待度数	305.2	212.8		518.0	423.9	305.1		729.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％ 調整済み残差	59.8%	40.2%		100.0%	64.3%	35.7%		100.0%
			-5	-5			3.7	-3.7		
	同じ	度数	2149	1365		3514	1842	1374		3216
		期待度数	2070.4	1443.6		3514.0	1870.1	1345.9		3216.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％ 調整済み残差	61.2%	38.8%		100.0%	57.3%	42.7%		100.0%
			5.6	-5.6			-2.2	2.2		
	多い	度数	223	297		520	51	66		117
		期待度数	306.4	213.6		520.0	68.0	49.0		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％ 調整済み残差	42.9%	57.1%		100.0%	43.6%	56.4%		100.0%
			-7.9	7.9			-3.2	3.2		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	2682	1870		4552	2362	1700		4062
	期待度数	2682.0	1870.0		4552.0	2362.0	1700.0		4062.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％	58.9%	41.1%		100.0%	58.1%	41.9%		100.0%	
22 モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った	少ない	度数	188	331		519	250	479		729
		期待度数	142.3	376.7		519.0	193.4	535.6		729.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％ 調整済み残差	36.2%	63.8%		100.0%	34.3%	65.7%		100.0%
			4.8	-4.8			5.2	-5.2		
	同じ	度数	974	2530		3504	801	2412		3213
		期待度数	961.0	2543.0		3504.0	852.5	2360.5		3213.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％ 調整済み残差	27.8%	72.2%		100.0%	24.9%	75.1%		100.0%
			1.0	-1.0			-4.5	4.5		
	多い	度数	84	436		520	26	91		117
		期待度数	142.6	377.4		520.0	31.0	86.0		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％ 調整済み残差	16.2%	83.8%		100.0%	22.2%	77.8%		100.0%
			-6.1	6.1			-1.1	1.1		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1246	3297		4543	1077	2982		4059
	期待度数	1246.0	3297.0		4543.0	1077.0	2982.0		4059.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％	27.4%	72.6%		100.0%	26.5%	73.5%		100.0%	
23 サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた	少ない	度数	228	288		516	307	417		724
		期待度数	175.7	340.3		516.0	239.7	484.3		724.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％ 調整済み残差	44.2%	55.8%		100.0%	42.4%	57.6%		100.0%
			5.2	-5.2			5.9	-5.9		
	同じ	度数	1226	2260		3486	998	2196		3194
		期待度数	1187.2	2298.8		3486.0	1057.5	2136.5		3194.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％ 調整済み残差	35.2%	64.8%		100.0%	31.2%	68.8%		100.0%
			2.9	-2.9			-4.9	4.9		
	多い	度数	84	430		514	31	86		117
		期待度数	175.1	338.9		514.0	38.7	78.3		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％ 調整済み残差	16.3%	83.7%		100.0%	26.5%	73.5%		100.0%
			-9.0	9.0			-1.5	1.5		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1538	2978		4516	1336	2699		4035
	期待度数	1538.0	2978.0		4516.0	1336.0	2699.0		4035.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％	34.1%	65.9%		100.0%	33.1%	66.9%		100.0%	
24 モニタリング回数が増え、利用者がストレスを感じるようになった	少ない	度数	59	459		518	79	650		729
		期待度数	67.0	451.0		518.0	96.9	632.1		729.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％ 調整済み残差	11.4%	88.6%		100.0%	10.8%	89.2%		100.0%
			-1.1	1.1			-2.2	2.2		
	同じ	度数	401	3102		3503	434	2770		3204
		期待度数	453.2	3049.8		3503.0	425.7	2778.3		3204.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％ 調整済み残差	11.4%	88.6%		100.0%	13.5%	86.5%		100.0%
			-5.5	5.5			.9	-9		
	多い	度数	127	389		516	25	91		116
		期待度数	66.8	449.2		516.0	15.4	100.6		116.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％ 調整済み残差	24.6%	75.4%		100.0%	21.6%	78.4%		100.0%
			8.4	-8.4			2.7	-2.7		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	587	3950		4537	538	3511		4049
	期待度数	587.0	3950.0		4537.0	538.0	3511.0		4049.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇄ ③理想だと思う回数 2019年比較の％	12.9%	87.1%		100.0%	13.3%	86.7%		100.0%	

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
25 モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった	少ない	度数	59	376	81	516	66	544	116	726
		期待度数	68.2	364.8	83.0	516.0	97.8	514.0	114.2	726.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	11.4%	72.9%	15.7%	100.0%	9.1%	74.9%	16.0%	100.0%
		調整済み残差	-1.3	1.2	-3		-3.8	2.7	.2	
	同じ	度数	387	2538	562	3487	445	2245	499	3189
		期待度数	460.7	2465.1	561.2	3487.0	429.6	2257.9	501.6	3189.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	11.1%	72.8%	16.1%	100.0%	14.0%	70.4%	15.6%	100.0%
		調整済み残差	-7.7	5.7	.1		1.8	-1.1	-3	
	多い	度数	150	275	83	508	32	65	19	116
		期待度数	67.1	359.1	81.8	508.0	15.6	82.1	18.2	116.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	29.5%	54.1%	16.3%	100.0%	27.6%	56.0%	16.4%	100.0%
		調整済み残差	11.5	-8.7	.2		4.5	-3.5	.2	
合計	度数	596	3189	726	4511	543	2854	634	4031	
	期待度数	596.0	3189.0	726.0	4511.0	543.0	2854.0	634.0	4031.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	13.2%	70.7%	16.1%	100.0%	13.5%	70.8%	15.7%	100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
26 変化のないケースでは、変化がないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い	少ない	度数	135	383		518	150	579		729
		期待度数	149.2	368.8		518.0	209.8	519.2		729.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	26.1%	73.9%		100.0%	20.6%	79.4%		100.0%
		調整済み残差	-1.5	1.5			-5.4	5.4		
	同じ	度数	880	2632		3512	958	2256		3214
		期待度数	1011.4	2500.6		3512.0	924.8	2289.2		3214.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	25.1%	74.9%		100.0%	29.8%	70.2%		100.0%
		調整済み残差	-10.3	10.3			2.8	-2.8		
	多い	度数	295	224		519	60	56		116
		期待度数	149.5	369.5		519.0	33.4	82.6		116.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	56.8%	43.2%		100.0%	51.7%	48.3%		100.0%
		調整済み残差	15.0	-15.0			5.5	-5.5		
合計	度数	1310	3239		4549	1168	2891		4059	
	期待度数	1310.0	3239.0		4549.0	1168.0	2891.0		4059.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	28.8%	71.2%		100.0%	28.8%	71.2%		100.0%	
	** p<0.01 ** p<0.01									
27 サービス管理責任者等が忙しくなったようだ	少ない	度数	190	327		517	252	476		728
		期待度数	187.2	329.8		517.0	263.9	464.1		728.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	36.8%	63.2%		100.0%	34.6%	65.4%		100.0%
		調整済み残差	.3	-3			-1.0	1.0		
	同じ	度数	1200	2297		3497	1167	2032		3199
		期待度数	1266.0	2231.0		3497.0	1159.7	2039.3		3199.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	34.3%	65.7%		100.0%	36.5%	63.5%		100.0%
		調整済み残差	-4.9	4.9			.6	-6		
	多い	度数	250	266		516	47	70		117
		期待度数	186.8	329.2		516.0	42.4	74.6		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	48.4%	51.6%		100.0%	40.2%	59.8%		100.0%
		調整済み残差	6.1	-6.1			.9	-9		
合計	度数	1640	2890		4530	1466	2578		4044	
	期待度数	1640.0	2890.0		4530.0	1466.0	2578.0		4044.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	36.2%	63.8%		100.0%	36.3%	63.7%		100.0%	
	** p<0.01 p=0.429									
28 請求事務が大変になった	少ない	度数	173	344		517	215	513		728
		期待度数	169.0	348.0		517.0	239.5	488.5		728.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	33.5%	66.5%		100.0%	29.5%	70.5%		100.0%
		調整済み残差	.4	-4			-2.1	2.1		
	同じ	度数	1066	2433		3499	1070	2134		3204
		期待度数	1143.9	2355.1		3499.0	1054.0	2150.0		3204.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	30.5%	69.5%		100.0%	33.4%	66.6%		100.0%
		調整済み残差	-5.9	5.9			1.3	-1.3		
	多い	度数	242	272		514	47	70		117
		期待度数	168.0	346.0		514.0	38.5	78.5		117.0
		設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	47.1%	52.9%		100.0%	40.2%	59.8%		100.0%
		調整済み残差	7.4	-7.4			1.7	-1.7		
合計	度数	1481	3049		4530	1332	2717		4049	
	期待度数	1481.0	3049.0		4530.0	1332.0	2717.0		4049.0	
	設問3 ②自治体が支給決定した回数⇔③理想だと思う回数 2019年比較の%	32.7%	67.3%		100.0%	32.9%	67.1%		100.0%	
	** p<0.01 * p<0.05									

実施したモニタリング回数・理想だと思うモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

2018年実施したモニタリング回数・理想だと思うモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

「理想だと思うモニタリング回数」が「実施したモニタリング回数」がより「少ない」群で、「そう思う」に該当する項目はなかった。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(58.3%) Z=3.0
の1項目である。

回数が「同じ」群では、「そう思う」に該当する項目はなかった。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

- 「(1) 本人から制度について聞かれることが増えた」(87.8%) Z=2.9
- 「(2) ご家族から制度について聞かれることが増えた」(64.0%) Z=2.5
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(56.7%) Z=4.2
- 「(15) サービス事業者からの相談が増えた」(67.9%) Z=6.4
- 「(16) 以前よりサービス担当者会議を行うようになった」(77.9%) Z=5.1
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(57.0%) Z=3.9
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(52.8%) Z=4.9
- 「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(74.8%) Z=3.6
- 「(23) サービス量が増えた, 又は減ったことにより, 適切なサービス量に近づいた」(68.5%) Z=4.5

の9項目である。

「理想だと思うモニタリング回数」が「実施したモニタリング回数」がより「多い」群では、「そう思う」の該当項目は、

- 「(5) 本人から親近感を持ってもらえるようになった」(61.6%) Z=2.7
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(53.4%) Z=5.1
- 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(61.3%) Z=4.5
- 「(14) 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」(73.8%) Z=5.9
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(51.6%) Z=4.4
- 「(18) 相談支援専門員が, 利用者の今使っているサービスの満足度がわかった」(60.9%) Z=3.6

「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(58.0%) Z=5.4

「(21) 利用者の成長(変化)が見えるようになった」(54.7%) Z=4.0 の8項目である。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

「(24) モニタリングが増え, 利用者がストレスを感じるようになった」(89.4%) Z=2.4

「(25) モニタリングが増え, 家族がストレスを感じるようになった」(74.5%) Z=2.6

「(26) 変化のないケースでは, 変化のないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い」(77.0%) Z=3.9 の3項目である。

2019年実施したモニタリング回数・理想だと思ふモニタリング回数とモニタリング実施標準期間の改定による影響

「理想だと思ふモニタリング回数」が「実施したモニタリング回数」より「少ない」群で、「そう思う」に該当する項目はなかった。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

- 「(5) 本人から親近感を持ってもらえるようになった」(51.8%) Z=4.9
- 「(7) 本人から不安を訴える電話が減った」(88.4%) Z=3.1
- 「(9) 自宅に訪問しやすくなった」(63.9%) Z=4.9
- 「(10) 本人にサービス事業所との違いをわかってもらえた」(79.2%) Z=2.7*
- 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(53.2%) Z=3.9
- 「(15) サービス事業者からの相談が増えた」(73.5%) Z=4.5
- 「(16) 以前よりサービス担当者会議を行うようになった」(80.8%) Z=2.8
- 「(17) 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった」(68.2%) Z=6.5
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(61.3%) Z=5.6
- 「(21) 利用者の成長(変化)が見えるようになった」(50.6%) Z=4.6
- 「(22) モニタリングしたことでサービス等利用計画の変更に至った」(77.3%) Z=2.6*
- 「(23) サービス量が増えた,又は減ったことにより,適切なサービス量に近づいた」(75.5%)

Z=5.0 の12項目である。

回数が「同じ」群では、「そう思う」の該当項目は、

- 「(5) 本人から親近感を持ってもらえるようになった」(59.3%) Z=2.8
- 「(18) 相談支援専門員が,利用者の今使っているサービスの満足度がわかった」(60.9%) Z=3.6
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(51.2%) Z=2.3
- 「(21) 利用者の成長(変化)が見えるようになった」(60.6%) Z=3.9 の4項目である。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

- 「(2) ご家族から制度について聞かれることが増えた」(63.6%) Z=2.9
- 「(24) モニタリングが増え,利用者がストレスを感じるようになった」(88.5%) Z=5.1
- 「(25) モニタリングが増え,家族がストレスを感じるようになった」(72.3%) Z=4.6
- 「(26) 変化のないケースでは,変化のないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い」(74.6%) Z=9.1
- 「(27) サービス管理責任者等が忙しくなったようだ」(65.5%) Z=4.0
- 「(28) 請求業務が大変になった」(69.2%) Z=4.5 の6項目である。

「理想だと思ふモニタリング回数」が「実施したモニタリング回数」より「多い」群では、「そう思う」の該当項目は

- 「(13) サービス事業者からの情報提供が増えた」(60.1%) Z=2.8
- 「(20) 相談支援専門員として新たなニーズが見えた」(55.2%) Z=2.5 の2項目である。

一方で、「そう思わない」の該当項目は、

- 「(24) モニタリングが増え,利用者がストレスを感じるようになった」(90.0%) Z=2.2
 - 「(25) モニタリングが増え,家族がストレスを感じるようになった」(76.4%) Z=3.2
- の2項目である。

表 76 実施したモニタリング回数・理想だと思うモニタリング回数と影響

*設問欄に有意差を表記：(上) 2019年, (下) 2018年

設問	回数	③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年			③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2018年			合計		
		そう思う	そう思わない	家族はいない	そう思う	そう思わない	家族はいない			
1 本人から制度について聞かれることが増えた	少ない	度数	62	459	/	521	21	116	/	137
		期待度数	70.7	450.3		521.0	17.8	119.2		137.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	11.9%	88.1%		100.0%	15.3%	84.7%		100.0%
		調整済み残差	-1.2	1.2			.8	-8		
	同じ	度数	459	2993		3452	386	2774		3160
		期待度数	468.7	2983.3		3452.0	411.5	2748.5		3160.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	13.3%	86.7%		100.0%	12.2%	87.8%		100.0%
		調整済み残差	-1.0	1.0			-2.9	2.9		
	多い	度数	95	469		564	121	637		758
		期待度数	76.6	487.4		564.0	98.7	659.3		758.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	16.8%	83.2%		100.0%	16.0%	84.0%		100.0%
		調整済み残差	2.4	-2.4			2.7	-2.7		
* p<0.05 * p<0.05	合計	度数	616	3921	4537	528	3527	4055		
	期待度数	616.0	3921.0	4537.0	528.0	3527.0	4055.0			
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	13.6%	86.4%	100.0%	13.0%	87.0%	100.0%			
	調整済み残差									
2 ご家族から制度について聞かれることが増えた	少ない	度数	131	285	93	509	40	73	21	134
		期待度数	111.0	317.9	80.0	509.0	28.9	84.5	20.6	134.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	25.7%	56.0%	18.3%	100.0%	29.9%	54.5%	15.7%	100.0%
		調整済み残差	2.3	-3.2	1.7		2.4	-2.1	.1	
	同じ	度数	715	2198	542	3455	646	2020	488	3154
		期待度数	753.6	2158.0	543.3	3455.0	680.6	1988.2	485.2	3154.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	20.7%	63.6%	15.7%	100.0%	20.5%	64.0%	15.5%	100.0%
		調整済み残差	-3.3	2.9	-1		-3.2	2.5	.3	
	多い	度数	143	349	78	570	188	460	114	762
		期待度数	124.3	356.0	89.6	570.0	164.4	480.3	117.2	762.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	25.1%	61.2%	13.7%	100.0%	24.7%	60.4%	15.0%	100.0%
		調整済み残差	2.0	-7	-1.4		2.3	-1.7	-4	
** p<0.01 * p<0.05	合計	度数	989	2832	713	4534	874	2553	623	4050
	期待度数	989.0	2832.0	713.0	4534.0	874.0	2553.0	623.0	4050.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	21.8%	62.5%	15.7%	100.0%	21.6%	63.0%	15.4%	100.0%	
	調整済み残差									
3 本人が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	少ない	度数	295	230	/	525	86	53	/	139
		期待度数	322.3	202.7		525.0	83.4	55.6		139.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	56.2%	43.8%		100.0%	61.9%	38.1%		100.0%
		調整済み残差	-2.6	2.6			.5	-5		
	同じ	度数	2150	1321		3471	1888	1280		3168
		期待度数	2130.8	1340.2		3471.0	1901.4	1266.6		3168.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	61.9%	38.1%		100.0%	59.6%	40.4%		100.0%
		調整済み残差	1.4	-1.4			-1.0	1.0		
	多い	度数	358	212		570	470	295		765
		期待度数	349.9	220.1		570.0	459.2	305.8		765.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	62.8%	37.2%		100.0%	61.4%	38.6%		100.0%
		調整済み残差	.7	-7			.9	-9		
* p<0.05 p=0.584	合計	度数	2803	1763	4566	2444	1628	4072		
	期待度数	2803.0	1763.0	4566.0	2444.0	1628.0	4072.0			
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	61.4%	38.6%	100.0%	60.0%	40.0%	100.0%			
	調整済み残差									
4 ご家族が相談支援専門員の顔を覚えてくれた	少ない	度数	239	182	/	513	66	51	/	138
		期待度数	247.3	184.1		513.0	65.6	51.1		138.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	46.6%	35.5%		100.0%	47.8%	37.0%		100.0%
		調整済み残差	-8	-2			.1	.0		
	同じ	度数	1665	1240		3459	1484	1179		3153
		期待度数	1667.4	1241.1		3459.0	1498.7	1166.6		3153.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	48.1%	35.8%		100.0%	47.1%	37.4%		100.0%
		調整済み残差	-2	-1			-1.1	1.0		
	多い	度数	286	208		571	377	270		763
		期待度数	275.3	204.9		571.0	362.7	282.3		763.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	50.1%	36.4%		100.0%	49.4%	35.4%		100.0%
		調整済み残差	1.0	.3			1.2	-1.0		
p=0.376 p=0.839	合計	度数	2190	1630	4543	1927	1500	4054		
	期待度数	2190.0	1630.0	4543.0	1927.0	1500.0	4054.0			
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	48.2%	35.9%	100.0%	47.5%	37.0%	100.0%			
	調整済み残差									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
5 本人から親近感をもってもらえるようになった	少ない	度数	252	271		523	71	68		139
		期待度数	304.4	218.6		523.0	79.7	59.3		139.0
		設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	48.2%	51.8%		100.0%	51.1%	48.9%		100.0%
		調整済み残差	-4.9	4.9			-1.5	1.5		
	同じ	度数	2057	1410		3467	1791	1377		3168
		期待度数	2017.7	1449.3		3467.0	1815.5	1352.5		3168.0
		設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	59.3%	40.7%		100.0%	56.5%	43.5%		100.0%
		調整済み残差	2.8	-2.8			-1.9	1.9		
	多い	度数	346	226		572	471	293		764
		期待度数	332.9	239.1		572.0	437.8	326.2		764.0
		設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	60.5%	39.5%		100.0%	61.6%	38.4%		100.0%
		調整済み残差	1.2	-1.2			2.7	-2.7		
合計	度数	2655	1907		4562	2333	1738		4071	
	期待度数	2655.0	1907.0		4562.0	2333.0	1738.0		4071.0	
	設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	58.2%	41.8%		100.0%	57.3%	42.7%		100.0%	
	調整済み残差									
6 ご家族から親近感をもってもらえるようになった	少ない	度数	221	200	92	513	64	53	21	138
		期待度数	236.1	194.8	82.1	513.0	63.2	53.3	21.5	138.0
		設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	43.1%	39.0%	17.9%	100.0%	46.4%	38.4%	15.2%	100.0%
		調整済み残差	-1.4	5	1.3		1	-1	-1	
	同じ	度数	1611	1288	557	3456	1430	1229	494	3153
		期待度数	1590.6	1312.1	553.3	3456.0	1444.2	1217.8	491.0	3153.0
		設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	46.6%	37.3%	16.1%	100.0%	45.4%	39.0%	15.7%	100.0%
		調整済み残差	1.4	-1.7	4		-1.1	9	3	
	多い	度数	258	236	78	572	362	283	116	761
		期待度数	263.3	217.2	91.6	572.0	348.6	293.9	118.5	761.0
		設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	45.1%	41.3%	13.6%	100.0%	47.6%	37.2%	15.2%	100.0%
		調整済み残差	-5	1.7	-1.7		1.1	-9	-3	
合計	度数	2090	1724	727	4541	1856	1565	631	4052	
	期待度数	2090.0	1724.0	727.0	4541.0	1856.0	1565.0	631.0	4052.0	
	設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	46.0%	38.0%	16.0%	100.0%	45.8%	38.6%	15.6%	100.0%	
	調整済み残差									
7 本人からの不安を訴える電話が減った	少ない	度数	59	451		510	21	115		136
		期待度数	83.6	426.4		510.0	22.5	113.5		136.0
		設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	11.6%	88.4%		100.0%	15.4%	84.6%		100.0%
		調整済み残差	-3.1	3.1			-4	4		
	同じ	度数	564	2796		3360	521	2585		3106
		期待度数	551.0	2809.0		3360.0	514.9	2591.1		3106.0
		設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	16.8%	83.2%		100.0%	16.8%	83.2%		100.0%
		調整済み残差	1.2	-1.2			6	-6		
	多い	度数	102	449		551	118	621		739
		期待度数	90.4	460.6		551.0	122.5	616.5		739.0
		設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	18.5%	81.5%		100.0%	16.0%	84.0%		100.0%
		調整済み残差	1.4	-1.4			-5	5		
合計	度数	725	3696		4421	660	3321		3981	
	期待度数	725.0	3696.0		4421.0	660.0	3321.0		3981.0	
	設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	16.4%	83.6%		100.0%	16.6%	83.4%		100.0%	
	調整済み残差									
8 家族からの不安を訴える電話が減った	少ない	度数	51	364	91	506	22	93	22	137
		期待度数	79.0	346.1	81.0	506.0	21.5	94.3	21.3	137.0
		設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	10.1%	71.9%	18.0%	100.0%	16.1%	67.9%	16.1%	100.0%
		調整済み残差	-3.6	1.8	1.3		1	-2	2	
	同じ	度数	550	2304	549	3403	491	2142	491	3124
		期待度数	531.0	2327.3	544.7	3403.0	489.2	2149.4	485.3	3124.0
		設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	16.2%	67.7%	16.1%	100.0%	15.7%	68.6%	15.7%	100.0%
		調整済み残差	1.8	-1.8	4		2	-6	6	
	多い	度数	96	387	75	558	115	524	110	749
		期待度数	87.1	381.6	89.3	558.0	117.3	515.3	116.4	749.0
		設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	17.2%	69.4%	13.4%	100.0%	15.4%	70.0%	14.7%	100.0%
		調整済み残差	1.1	5	-1.8		-3	8	-7	
合計	度数	697	3055	715	4467	628	2759	623	4010	
	期待度数	697.0	3055.0	715.0	4467.0	628.0	2759.0	623.0	4010.0	
	設問 3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	15.6%	68.4%	16.0%	100.0%	15.7%	68.8%	15.5%	100.0%	
	調整済み残差									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
9 自宅に訪問しやすくなった	少ない	度数	189	335		524	54	85		139
		期待度数	242.1	281.9		524.0	62.6	76.4		139.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	36.1%	63.9%		100.0%	38.8%	61.2%		100.0%
		調整済み残差	-4.9	4.9			-1.5	1.5		
	同じ	度数	1644	1811		3455	1371	1795		3166
		期待度数	1596.5	1858.5		3455.0	1425.6	1740.4		3166.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	47.6%	52.4%		100.0%	43.3%	56.7%		100.0%
		調整済み残差	3.3	-3.3			-4.2	4.2		
	多い	度数	269	301		570	405	354		759
		期待度数	263.4	306.6		570.0	341.8	417.2		759.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	47.2%	52.8%		100.0%	53.4%	46.6%		100.0%
		調整済み残差	.5	-.5			5.1	-5.1		
合計	度数	2102	2447		4549	1830	2234		4064	
	期待度数	2102.0	2447.0		4549.0	1830.0	2234.0		4064.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	46.2%	53.8%		100.0%	45.0%	55.0%		100.0%	
	調整済み残差									
** p<0.01 ** p<0.01										
10 本人にサービス事業所の違いをわかってもらえた	少ない	度数	109	415		524	35	102		137
		期待度数	134.7	389.3		524.0	33.6	103.4		137.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	20.8%	79.2%		100.0%	25.5%	74.5%		100.0%
		調整済み残差	-2.7	2.7			.3	-.3		
	同じ	度数	912	2527		3439	767	2390		3157
		期待度数	883.9	2555.1		3439.0	774.1	2382.9		3157.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	26.5%	73.5%		100.0%	24.3%	75.7%		100.0%
		調整済み残差	2.2	-2.2			-.6	.6		
	多い	度数	143	423		566	192	568		760
		期待度数	145.5	420.5		566.0	186.3	573.7		760.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	25.3%	74.7%		100.0%	25.3%	74.7%		100.0%
		調整済み残差	-.3	.3			.5	-.5		
合計	度数	1164	3365		4529	994	3060		4054	
	期待度数	1164.0	3365.0		4529.0	994.0	3060.0		4054.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	25.7%	74.3%		100.0%	24.5%	75.5%		100.0%	
	調整済み残差									
* p<0.05 p=0.822										
11 家族にサービス事業所との違いをわかってもらえた	少ない	度数	141	277	93	511	39	78	20	137
		期待度数	161.2	268.0	81.8	511.0	42.4	73.3	21.3	137.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	27.6%	54.2%	18.2%	100.0%	28.5%	56.9%	14.6%	100.0%
		調整済み残差	-2.0	.8	1.4		-.6	.8	-.3	
	同じ	度数	1105	1789	554	3448	979	1680	493	3152
		期待度数	1087.9	1808.1	552.0	3448.0	975.7	1687.3	489.0	3152.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	32.0%	51.9%	16.1%	100.0%	31.1%	53.3%	15.6%	100.0%
		調整済み残差	1.3	-1.3	.2		.3	-.6	.4	
	多い	度数	183	309	78	570	235	409	115	759
		期待度数	179.8	298.9	91.2	570.0	234.9	406.3	117.8	759.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	32.1%	54.2%	13.7%	100.0%	31.0%	53.9%	15.2%	100.0%
		調整済み残差	.3	.9	-1.6		.0	.2	-.3	
合計	度数	1429	2375	725	4529	1253	2167	628	4048	
	期待度数	1429.0	2375.0	725.0	4529.0	1253.0	2167.0	628.0	4048.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	31.6%	52.4%	16.0%	100.0%	31.0%	53.5%	15.5%	100.0%	
	調整済み残差									
p=0.127 p=0.938										
12 親や家族に現状報告をしやすくなった	少ない	度数	211	214	89	514	59	58	20	137
		期待度数	240.5	191.6	82.0	514.0	63.7	52.0	21.3	137.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	41.1%	41.6%	17.3%	100.0%	43.1%	42.3%	14.6%	100.0%
		調整済み残差	-2.8	2.2	.9		-.8	1.1	-.3	
	同じ	度数	1646	1255	557	3458	1442	1223	496	3161
		期待度数	1617.8	1288.8	551.5	3458.0	1470.2	1199.7	491.1	3161.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	47.6%	36.3%	16.1%	100.0%	45.6%	38.7%	15.7%	100.0%
		調整済み残差	2.0	-2.4	.5		-2.1	1.8	.5	
	多い	度数	267	223	78	568	385	258	114	757
		期待度数	265.7	211.7	90.6	568.0	352.1	287.3	117.6	757.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	47.0%	39.3%	13.7%	100.0%	50.9%	34.1%	15.1%	100.0%
		調整済み残差	.1	1.0	-1.5		2.7	-2.4	-.4	
合計	度数	2124	1692	724	4540	1886	1539	630	4055	
	期待度数	2124.0	1692.0	724.0	4540.0	1886.0	1539.0	630.0	4055.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	46.8%	37.3%	15.9%	100.0%	46.5%	38.0%	15.5%	100.0%	
	調整済み残差									
* p<0.05 p=0.080										

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
13 サービス事業所からの情報提供が増えた	少ない	度数	246	280		526	58	81		139
		期待度数	287.9	238.1		526.0	75.1	63.9		139.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	46.8%	53.2%		100.0%	41.7%	58.3%		100.0%
		調整済み残差	-3.9	3.9			-3.0	3.0		
	同じ	度数	1912	1561		3473	1677	1498		3175
		期待度数	1901.0	1572.0		3473.0	1715.2	1459.8		3175.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	55.1%	44.9%		100.0%	52.8%	47.2%		100.0%
		調整済み残差	.8	-2.8			-2.9	2.9		
	多い	度数	344	228		572	468	296		764
		期待度数	313.1	258.9		572.0	412.7	351.3		764.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	60.1%	39.9%		100.0%	61.3%	38.7%		100.0%
		調整済み残差	2.8	-2.8			4.5	-4.5		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	2502	2069		4571	2203	1875		4078	
	期待度数	2502.0	2069.0		4571.0	2203.0	1875.0		4078.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	54.7%	45.3%		100.0%	54.0%	46.0%		100.0%	
14 相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた	少ない	度数	316	208		524	80	59		139
		期待度数	342.2	181.8		524.0	89.9	49.1		139.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	60.3%	39.7%		100.0%	57.6%	42.4%		100.0%
		調整済み残差	-2.6	2.6			-1.8	1.8		
	同じ	度数	2281	1200		3481	1997	1185		3182
		期待度数	2273.3	1207.7		3481.0	2057.2	1124.8		3182.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	65.5%	34.5%		100.0%	62.8%	37.2%		100.0%
		調整済み残差	.6	-2.6			-4.7	4.7		
	多い	度数	392	180		572	564	200		764
		期待度数	373.5	198.5		572.0	493.9	270.1		764.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	68.5%	31.5%		100.0%	73.8%	26.2%		100.0%
		調整済み残差	1.7	-1.7			5.9	-5.9		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	2989	1588		4577	2641	1444		4085	
	期待度数	2989.0	1588.0		4577.0	2641.0	1444.0		4085.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	65.3%	34.7%		100.0%	64.7%	35.3%		100.0%	
15 サービス事業所からの相談が増えた	少ない	度数	139	386		525	52	87		139
		期待度数	185.1	339.9		525.0	48.1	90.9		139.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	26.5%	73.5%		100.0%	37.4%	62.6%		100.0%
		調整済み残差	-4.5	4.5			.7	-7.7		
	同じ	度数	1219	2256		3475	1019	2159		3178
		期待度数	1225.2	2249.8		3475.0	1100.3	2077.7		3178.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	35.1%	64.9%		100.0%	32.1%	67.9%		100.0%
		調整済み残差	-.5	.5			-6.4	6.4		
	多い	度数	254	318		572	342	422		764
		期待度数	201.7	370.3		572.0	264.5	499.5		764.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	44.4%	55.6%		100.0%	44.8%	55.2%		100.0%
		調整済み残差	4.9	-4.9			6.5	-6.5		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	1612	2960		4572	1413	2668		4081	
	期待度数	1612.0	2960.0		4572.0	1413.0	2668.0		4081.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	35.3%	64.7%		100.0%	34.6%	65.4%		100.0%	
16 以前よりサービス担当者会議を行うようになった	少ない	度数	101	424		525	37	102		139
		期待度数	126.5	398.5		525.0	33.2	105.8		139.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	19.2%	80.8%		100.0%	26.6%	73.4%		100.0%
		調整済み残差	-2.8	2.8			.8	-8.8		
	同じ	度数	843	2635		3478	701	2477		3178
		期待度数	837.9	2640.1		3478.0	758.9	2419.1		3178.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	24.2%	75.8%		100.0%	22.1%	77.9%		100.0%
		調整済み残差	.4	-4.4			-5.1	5.1		
	多い	度数	158	413		571	237	529		766
		期待度数	137.6	433.4		571.0	182.9	583.1		766.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	27.7%	72.3%		100.0%	30.9%	69.1%		100.0%
		調整済み残差	2.1	-2.1			5.1	-5.1		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	1102	3472		4574	975	3108		4083	
	期待度数	1102.0	3472.0		4574.0	975.0	3108.0		4083.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	24.1%	75.9%		100.0%	23.9%	76.1%		100.0%	

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
17 相談支援専門員として予測に基づく支援ができるようになった	少ない	度数	167	358		525	59	80		139
		期待度数	236.8	288.2		525.0	62.0	77.0		139.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	31.8%	68.2%		100.0%	42.4%	57.6%		100.0%
		調整済み残差	-6.5	6.5			-5	5		
	同じ	度数	1637	1838		3475	1364	1811		3175
		期待度数	1567.2	1907.8		3475.0	1415.1	1759.9		3175.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	47.1%	52.9%		100.0%	43.0%	57.0%		100.0%
		調整済み残差	4.9	-4.9			-3.9	3.9		
	多い	度数	257	313		570	395	370		765
		期待度数	257.1	312.9		570.0	341.0	424.0		765.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	45.1%	54.9%		100.0%	51.6%	48.4%		100.0%
		調整済み残差	0	0			4.4	-4.4		
合計	度数	2061	2509		4570	1818	2261		4079	
	期待度数	2061.0	2509.0		4570.0	1818.0	2261.0		4079.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	45.1%	54.9%		100.0%	44.6%	55.4%		100.0%	
	調整済み残差									
18 相談支援専門員が、利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった	少ない	度数	274	250		524	70	68		138
		期待度数	311.5	212.5		524.0	80.7	57.3		138.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	52.3%	47.7%		100.0%	50.7%	49.3%		100.0%
		調整済み残差	-3.5	3.5			-1.9	1.9		
	同じ	度数	2113	1355		3468	1824	1346		3170
		期待度数	2061.3	1406.7		3468.0	1852.8	1317.2		3170.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	60.9%	39.1%		100.0%	57.5%	42.5%		100.0%
		調整済み残差	3.6	-3.6			-2.2	2.2		
	多い	度数	324	245		569	486	278		764
		期待度数	338.2	230.8		569.0	446.5	317.5		764.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	56.9%	43.1%		100.0%	63.6%	36.4%		100.0%
		調整済み残差	-1.3	1.3			3.2	-3.2		
合計	度数	2711	1850		4561	2380	1692		4072	
	期待度数	2711.0	1850.0		4561.0	2380.0	1692.0		4072.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	59.4%	40.6%		100.0%	58.4%	41.6%		100.0%	
	調整済み残差									
19 相談支援専門員が、家族のサービスへの家族の満足度がわかった	少ない	度数	203	217	92	512	59	59	20	138
		期待度数	222.4	206.9	82.7	512.0	59.7	56.7	21.7	138.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	39.6%	42.4%	18.0%	100.0%	42.8%	42.8%	14.5%	100.0%
		調整済み残差	-1.8	1.0	1.2		-1	4	-4	
	同じ	度数	1527	1364	563	3454	1339	1312	502	3153
		期待度数	1500.1	1395.8	558.2	3454.0	1363.0	1295.3	494.8	3153.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	44.2%	39.5%	16.3%	100.0%	42.5%	41.6%	15.9%	100.0%
		調整済み残差	1.9	-2.3	5		-1.8	1.3	8	
	多い	度数	240	252	78	570	354	294	114	762
		期待度数	247.6	230.3	92.1	570.0	329.4	313.0	119.6	762.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	42.1%	44.2%	13.7%	100.0%	46.5%	38.6%	15.0%	100.0%
		調整済み残差	-7	2.0	-1.7		2.0	-1.6	-6	
合計	度数	1970	1833	733	4536	1752	1665	636	4053	
	期待度数	1970.0	1833.0	733.0	4536.0	1752.0	1665.0	636.0	4053.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	43.4%	40.4%	16.2%	100.0%	43.2%	41.1%	15.7%	100.0%	
	調整済み残差									
20 相談支援専門員として新たなニーズが見えた	少ない	度数	203	322		525	66	73		139
		期待度数	263.9	261.1		525.0	68.5	70.5		139.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	38.7%	61.3%		100.0%	47.5%	52.5%		100.0%
		調整済み残差	-5.6	5.6			-4	4		
	同じ	度数	1779	1695		3474	1499	1675		3174
		期待度数	1746.1	1727.9		3474.0	1563.3	1610.7		3174.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	51.2%	48.8%		100.0%	47.2%	52.8%		100.0%
		調整済み残差	2.3	-2.3			-4.8	4.8		
	多い	度数	315	256		571	443	321		764
		期待度数	287.0	284.0		571.0	376.3	387.7		764.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	55.2%	44.8%		100.0%	58.0%	42.0%		100.0%
		調整済み残差	2.5	-2.5			5.4	-5.4		
合計	度数	2297	2273		4570	2008	2069		4077	
	期待度数	2297.0	2273.0		4570.0	2008.0	2069.0		4077.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	50.3%	49.7%		100.0%	49.3%	50.7%		100.0%	
	調整済み残差									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
21 利用者の成長(変化)がみえるようになった	少ない	度数	260	266		526	71	68		139
		期待度数	310.4	215.6		526.0	81.0	58.0		139.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	49.4%	50.6%		100.0%	51.1%	48.9%		100.0%
		調整済み残差	-4.7	4.7			-1.8	1.8		
	同じ	度数	2109	1371		3480	1815	1366		3181
		期待度数	2053.3	1426.7		3480.0	1854.1	1326.9		3181.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	60.6%	39.4%		100.0%	57.1%	42.9%		100.0%
		調整済み残差	3.9	-3.9			-3.0	3.0		
	多い	度数	331	239		570	495	270		765
		期待度数	336.3	233.7		570.0	445.9	319.1		765.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	58.1%	41.9%		100.0%	64.7%	35.3%		100.0%
		調整済み残差	-5	5			4.0	-4.0		
合計	度数	2700	1876		4576	2381	1704		4085	
	期待度数	2700.0	1876.0		4576.0	2381.0	1704.0		4085.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	59.0%	41.0%		100.0%	58.3%	41.7%		100.0%	
	調整済み残差									
22 モニタリングしたことによってサービス等利用計画の変更に至った	少ない	度数	119	406		525	41	98		139
		期待度数	144.3	380.7		525.0	36.9	102.1		139.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	22.7%	77.3%		100.0%	29.5%	70.5%		100.0%
		調整済み残差	-2.6	2.6			.8	-.8		
	同じ	度数	969	2501		3470	802	2376		3178
		期待度数	953.8	2516.2		3470.0	844.7	2333.3		3178.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	27.9%	72.1%		100.0%	25.2%	74.8%		100.0%
		調整済み残差	1.2	-1.2			-3.6	3.6		
	多い	度数	167	404		571	242	523		765
		期待度数	156.9	414.1		571.0	203.3	561.7		765.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	29.2%	70.8%		100.0%	31.6%	68.4%		100.0%
		調整済み残差	1.0	-1.0			3.5	-3.5		
合計	度数	1255	3311		4566	1085	2997		4082	
	期待度数	1255.0	3311.0		4566.0	1085.0	2997.0		4082.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	27.5%	72.5%		100.0%	26.6%	73.4%		100.0%	
	調整済み残差									
23 サービス量が増えた、又は減ったことにより、適切なサービス量に近づいた	少ない	度数	128	395		523	49	90		139
		期待度数	179.1	343.9		523.0	46.2	92.8		139.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	24.5%	75.5%		100.0%	35.3%	64.7%		100.0%
		調整済み残差	-5.0	5.0			.5	-.5		
	同じ	度数	1208	2240		3448	995	2166		3161
		期待度数	1180.5	2267.5		3448.0	1051.6	2109.4		3161.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	35.0%	65.0%		100.0%	31.5%	68.5%		100.0%
		調整済み残差	2.0	-2.0			-4.5	4.5		
	多い	度数	218	350		568	306	452		758
		期待度数	194.5	373.5		568.0	252.2	505.8		758.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	38.4%	61.6%		100.0%	40.4%	59.6%		100.0%
		調整済み残差	2.2	-2.2			4.6	-4.6		
合計	度数	1554	2985		4539	1350	2708		4058	
	期待度数	1554.0	2985.0		4539.0	1350.0	2708.0		4058.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	34.2%	65.8%		100.0%	33.3%	66.7%		100.0%	
	調整済み残差									
24 モニタリング回数が増え、利用者がストレスを感じるようになった	少ない	度数	134	390		524	35	104		139
		期待度数	67.7	456.3		524.0	18.5	120.5		139.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	25.6%	74.4%		100.0%	25.2%	74.8%		100.0%
		調整済み残差	9.2	-9.2			4.2	-4.2		
	同じ	度数	398	3068		3466	425	2744		3169
		期待度数	447.6	3018.4		3466.0	421.0	2748.0		3169.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	11.5%	88.5%		100.0%	13.4%	86.6%		100.0%
		調整済み残差	-5.1	5.1			.4	-.4		
	多い	度数	57	514		571	81	683		764
		期待度数	73.7	497.3		571.0	101.5	662.5		764.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	10.0%	90.0%		100.0%	10.6%	89.4%		100.0%
		調整済み残差	-2.2	2.2			-2.4	2.4		
合計	度数	589	3972		4561	541	3531		4072	
	期待度数	589.0	3972.0		4561.0	541.0	3531.0		4072.0	
	設問3 ③理想だと思う回数⇄①実施した回数 2019年比較の%	12.9%	87.1%		100.0%	13.3%	86.7%		100.0%	
	調整済み残差									

設問	回数		そう思う	そう思わない	家族はいない	合計	そう思う	そう思わない	家族はいない	合計
25 モニタリング回数が増え、家族がストレスを感じるようになった	少ない	度数	150	268	93	511	37	79	22	138
		期待度数	67.2	360.8	83.1	511.0	18.6	97.5	21.9	138.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	29.4%	52.4%	18.2%	100.0%	26.8%	57.2%	15.9%	100.0%
		調整済み残差	11.5	-9.6	1.3		4.7	-3.5	.0	
	同じ	度数	394	2499	562	3455	435	2219	500	3154
		期待度数	454.2	2439.2	561.6	3455.0	424.9	2229.5	499.6	3154.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	11.4%	72.3%	16.3%	100.0%	13.8%	70.4%	15.9%	100.0%
		調整済み残差	-6.2	4.6	.0		1.1	-9	.0	
	多い	度数	52	434	82	568	74	567	120	761
		期待度数	74.7	401.0	92.3	568.0	102.5	537.9	120.5	761.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	9.2%	76.4%	14.4%	100.0%	9.7%	74.5%	15.8%	100.0%
		調整済み残差	-3.0	3.2	-1.3		-3.4	2.6	-1	
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	596	3201	737	4534	546	2865	642	4053
		期待度数	596.0	3201.0	737.0	4534.0	546.0	2865.0	642.0	4053.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	13.1%	70.6%	16.3%	100.0%	13.5%	70.7%	15.8%	100.0%
26 変化のないケースでは、変化がないことを確認する機会となり相談支援専門員として辛い	少ない	度数	278	247		525	65	73		138
		期待度数	151.2	373.8		525.0	39.8	98.2		138.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	53.0%	47.0%		100.0%	47.1%	52.9%		100.0%
		調整済み残差	13.0	-13.0			4.8	-4.8		
	同じ	度数	883	2594		3477	935	2244		3179
		期待度数	1001.4	2475.6		3477.0	915.9	2263.1		3179.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	25.4%	74.6%		100.0%	29.4%	70.6%		100.0%
		調整済み残差	-9.1	9.1			1.6	-1.6		
	多い	度数	156	415		571	176	589		765
		期待度数	164.4	406.6		571.0	220.4	544.6		765.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	27.3%	72.7%		100.0%	23.0%	77.0%		100.0%
		調整済み残差	-.8	.8			-3.9	3.9		
** p<0.01 ** p<0.01	合計	度数	1317	3256		4573	1176	2906		4082
		期待度数	1317.0	3256.0		4573.0	1176.0	2906.0		4082.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	28.8%	71.2%		100.0%	28.8%	71.2%		100.0%
27 サービス管理責任者等が忙しくなったようだ	少ない	度数	241	281		522	53	85		138
		期待度数	188.4	333.6		522.0	49.9	88.1		138.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	46.2%	53.8%		100.0%	38.4%	61.6%		100.0%
		調整済み残差	5.1	-5.1			.6	-.6		
	同じ	度数	1194	2267		3461	1141	2025		3166
		期待度数	1248.9	2212.1		3461.0	1144.3	2021.7		3166.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	34.5%	65.5%		100.0%	36.0%	64.0%		100.0%
		調整済み残差	-4.0	4.0			-.3	.3		
	多い	度数	208	362		570	276	487		763
		期待度数	205.7	364.3		570.0	275.8	487.2		763.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	36.5%	63.5%		100.0%	36.2%	63.8%		100.0%
		調整済み残差	.2	-.2			.0	.0		
** p<0.01 p=0.852	合計	度数	1643	2910		4553	1470	2597		4067
		期待度数	1643.0	2910.0		4553.0	1470.0	2597.0		4067.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	36.1%	63.9%		100.0%	36.1%	63.9%		100.0%
28 請求事務が大変になった	少ない	度数	239	281		520	44	94		138
		期待度数	169.5	350.5		520.0	45.3	92.7		138.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	46.0%	54.0%		100.0%	31.9%	68.1%		100.0%
		調整済み残差	6.9	-6.9			-.2	.2		
	同じ	度数	1068	2395		3463	1060	2110		3170
		期待度数	1128.7	2334.3		3463.0	1040.1	2129.9		3170.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	30.8%	69.2%		100.0%	33.4%	66.6%		100.0%
		調整済み残差	-4.5	4.5			1.6	-1.6		
	多い	度数	177	393		570	232	532		764
		期待度数	185.8	384.2		570.0	250.7	513.3		764.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	31.1%	68.9%		100.0%	30.4%	69.6%		100.0%
		調整済み残差	-.8	.8			-1.6	1.6		
** p<0.01 p=0.260	合計	度数	1484	3069		4553	1336	2736		4072
		期待度数	1484.0	3069.0		4553.0	1336.0	2736.0		4072.0
		設問3 ③理想だと思う回数⇔①実施した回数 2019年比較の%	32.6%	67.4%		100.0%	32.8%	67.2%		100.0%

厚生労働省への速報の報告について

2020（令和2）年10月5日、研究1をまとめ、厚生労働省社会援護局障害福祉部障害福祉課へ「計画相談支援専門員等調査（速報）」として提出した。

C2. 研究2の結果 次期報酬改定に向けた重点的にモニタリングを行う例の検討

研究1で明らかになった傾向をもとに、本研究に設置している委員会において、各委員の立場における経験も踏まえつつ、重点的にモニタリングを行う例を整理した。委員会は、第1回委員会を2020（令和2）年7月28日（会場及びZoomによるオンライン併用会議）、第2回委員会を同年11月10日（会場及びZoomによるオンライン併用会議）に開催した。

委員から出た意見をもとに、「重点的にモニタリングを行う例」と、「モニタリングを行う環境整備と視点」を整理した。

重点的にモニタリングを行う例として、7つの対象【モニタリング頻度増が必要な者】、【社会生活不適応】、【パーソナリティの傾向】、【生活環境要因】、【家庭環境要因】、【介護保険への移行】、【学校/保育所との連携】が抽出された。

【モニタリング実施頻度増が必要な者】では、仮に対象となる者の比率が全体の5割以上となるなら、もはやそれは重点的といえるのか。また、それを実行する相談支援専門員は現実的に着実に実行できる実現可能性があるのか精査が必要である。

そこで本研究では、重点的にモニタリングを行う例に関する対象や状況を整理しつつ、委員会の委員の経験知をもとに、およそそれが全体の何割程度なのかを話し合い、あくまで参考として割合を記述した。実際に政策として適用する際には、実行可能性と優先度を鑑み、相談支援専門員の担う機能全体において最適化するような配慮が必要である。

表 77 重点的にモニタリングを行う例

対象	視点
モニタリング頻度増が必要な利用者	①[福祉サービスを安定して利用できない[休みがち・支援拒否等]] ※該当は約1割
	②[客観的判断が可能な項目]福祉サービスと医療等との連携/調整 ・優先度が高く、多職種連携の必要性について該当 ※該当約6割 ・ICUから退院した児童、医療的ケアは必要でも福祉サービス未利用者。モニタリングが重要となる。
	③[客観的判断が可能] 福祉サービス2か所以上利用（インフォーマル含む） ・サービス担当者会議が必要 ※優先度は高い。 ※多職種連携に該当する比率は約1~2割 ・放課後DSの複数利用児童に多い。但しそれだけで判断すると、モニタリング頻度が高くなる。
	④[福祉サービスを利用するも家族・地域との関係は不安定] (①と連動:家庭基盤が弱い場合、福祉サービスの利用契約はしていても来ない。 ※該当は約1割
特徴(社会生活不適応)	情緒不安定、自傷他害、粗暴行為、放浪、盗み、ホームレス、借金、閉鎖的、良好な対人関係が築けない、医療がサービスの利用が安定しない(通院・服薬拒否)
パーソナリティの傾向	情緒未熟、対人緊張、傷つきやすく被害的、自尊心が低い、自信のなさ、依存的、愛情欲求等
生活環境要因	いじめ、虐待、社会経験が未熟、発達段階(課題)の未達成、意思が尊重されにくい。 注意叱責、障害理解が乏しい等
家庭環境要因	単身、家庭内養育・障害受容困難、家庭不和、放任、精神的疲労感等
介護保険への移行	65歳を迎え制度移行する
学校/保育所との連携	・学校との連携。個別の教育支援計画が作成されていない、作成する場合の個別支援計画との連動性をもつ。 ・保育所と保護者の意識のずれ、保育所と事業所のずれを調整することをモニタリングで。
	・個別サポート加算1、加算2(虐待・養護児童)相談支援の連携必要。 保護者に説明のうえ加算を算定する。保護者の理解を得たうえで保護者も支援をうけてもらう。 加算ではハードルが高いので、相談支援のアプローチの中で行えることが理想。

表 25 モニタリングを行う環境整備と視点

- 介護保険と障害福祉に違いはあっても、福祉サービスを必要とする対象者への支援である点については同じである。
- 先行して行われている介護支援専門員の業務と相談支援専門員の業務においても、制度の違いから、求められる役割は異なるが、ケアマネジメントを用いて相談支援を行う点については同じである。
- しかしながら、制度上モニタリング実施頻度の高い介護支援専門員がモニタリング実施を通じて積み重ねてきた医療介護連携等の多職種連携の知見を相談支援専門員に生かすことは十分にできているとはいえないところもある。
- 障害福祉領域においても身体上の予測をする視点も必要である。
- そのため、介護支援専門員と同じような環境のもと、相談支援専門員の業務が行えるよう基盤強化を図る必要がある。

C3. 研究3の結果：実施すべきモニタリング項目

研究1で明らかになった傾向をもとに、本研究に設置している委員会において、各委員の立場における経験も踏まえつつ、実施すべきモニタリングについて検討し、整理した（第2回委員会を同年11月10日開催（会場及びZoomによるオンライン併用会議））。実施すべきモニタリング項目の検討には、日本相談支援専門員協会編 サービス等利用計画書の様式を参考に行った。その結果、5つの領域に整理された。【意思決定支援】、【適格なニーズ把握】、【面談による意図的介入の記録】、【個別支援計画との連動】、【様式活用の標準化】、【実践知の共有】である。それぞれの領域ごとの施設又は変更の提案と、その理由は下記のとおりである（表79）。

表 79 実施すべきモニタリングすべき項目案

領域	サービス等利用計画に関する変更の提案	モニタリングに関する変更の提案	理由／ねらい
意思決定支援	本人の希望欄を新設	本人の意思表示に関する記載欄を新設	「障害福祉サービス等の利用等にあたっての意思決定支援ガイドライン」ではサービス等利用計画や個別支援計画との連動の必要性が示唆されている。 計画書と重複するが、モニタリングは本来ニーズが充足されたかを確認する行為であるため、ニーズを確認しながらモニタリングを行えるよう様式にすることでモニタリングの質の向上を期待できる。
		ニーズ欄の新設	本人の事業所の希望等を相談支援専門員が第三者として伝え、事業所に伝えることは、本人の代弁、事業所のサービスの質の向上、本人の意思実現への支援となる。
的確なニーズ把握		本人のニーズ、家族のニーズの異なりを捉える項目新設	本人と家族（子どもと親）の意向やニーズが異なることは珍しくなく、それを的確にとらえ調整することが真のニーズ把握と意向調整である。加えてその調整をするには虐待の未然防止に繋がることもあるため。
		虐待など特別な状況や支援の必要性の観点をモニタリングで標準化する	虐待やその他の特別に目をかけべき支援の有無の問題が発生する問題の小さい観点から定期的に捉える観点が標準化されることで、虐待の未然防止等に繋がる。
面談による意図的介入の記録		相談支援専門員が捉えた本人・家族のストレス等への面談等による意図的介入の状況の記載欄	モニタリングでは意図的にストレス軽減のための面談が行われている可能性は高いが、その面談での介入は記録されていない。
個別支援計画との連動		児童発達支援・放課後デイ；本人支援/家族支援/地域支援の観点から捉える	子どもの児童発達支援とか放課後デイサービスの個別支援計画には、本人支援と家族支援と地域支援という三つの柱で作成するよう指導されている。サービス等利用計画とモニタリングがこの三本柱で整理されれば、個別支援計画との連動、日頃の連携の促進へと繋がる。
様式活用の標準化	サービス等利用計画の1.2は「サービス」、3.4はサービス「等」の記載に分けると明解		記載方法を明瞭化することで、様式の活用方法の標準化を図ることが可能となる。
実践知の共有	項目指定なし	項目指定なし	自治体ごとに積み重ねてきた実践様式の長所は全体に共有化することで最適化を効率化できる

D. 考察

2018（平成30）年報酬改定によるモニタリング実施頻度の高まりによって、行政の支給決定、相談支援専門員が行うモニタリング実施回数、理想と思うモニタリングの回数について、いずれも有意に増加したことが明らかになった。このデータから、報酬改定によってモニタリングの実施頻度が高まり、利用者や連携先とのかかわりが増えるなかで、以前より利用者の実態がリアルタイムに近い形で把握されるようになったであろう。だからこそ、理想と考えるモニタリング実施頻度も増加する。とはいえ、すべての利用者に対して一律にモニタリング実施頻度を高めることは果たして適切なのか、またモニタリング実施月以外のタイミングでモニタリングを実施すべきことが発生した場合にはどのように対応するのか、定期的に行うモニタリングの回数の議論だけで答えを出すことは難しい。

2019（令和1）年度の研究結果で浮き堀りになったのは、モニタリング実施頻度の高まりによって、サービス担当者会議での医師との連携や、サービス事業所からの相談が増えたこと等である。この結果から、相談支援専門員は、状況に応じたモニタリングの実施を求められているとの仮説がたてられた。ここでは、定期的に行う、最適のモニタリング実施頻度ではなく、利用者や連携先が求める状況について明らかにし、相談支援専門員がそれらに応じて機動的かつ柔軟に対応できる環境とはどのようなものかについて考察する。

D1. 研究1の考察

質問紙法による横断的調査に関する考察

（1） 利用者が求めるモニタリング

① 支援初期段階において求められるモニタリング機能：

相談支援専門員が利用者に関わった期間は、1年から3年が5割で最も多かった。この時期の特徴は、利用者と相談支援専門員が初めて出会い、計画相談支援を作成する前段階の、お互いを知り、信頼を深める相談支援の土台に当たる時期である。そして、相談支援専門員にとってこの時期は、計画相談支援とはどのようなものか、相談支援専門員の役割や機能とはどのようなものかを利用者に理解してもらうことも支援の目的の一つである。利用者情報票の結果から、改定の影響として有意な結果が得られたのは、

「本人が相談支援専門員の顔を覚えてくれた」、「本人から親近感をもってもらえるようになった」という肯定的な回答であった。つまりこれは、支援の初期段階における重要で必須となる支援が、モニタリングによって保障されていたことを表す。

これらから、支援の初期段階におけるモニタリングでは、前回の訪問から長く間隔を置かずに利用者とは直接接して面談を行うことの意義と有効性が示唆された。本研究2019年では、相談支援専門員が【利用者への支援で書くとしていること】は『利用者の目標・希望の重視』から生成されていた[2]。利用者から目標や希望が語られる関係の基盤は、支援の初期段階における信頼関係の構築は不可欠である。

② 利用者のサービスの満足度の確認：

モニタリング実施頻度が高まった影響において「そう思う」が選択された項目に「相談支援専門員が利用者の今使っているサービスへの満足度がわかった」があった。計画相談支援では、サービス等利用計画の作成を行う。利用者は、自立した生活を送るための手段の一つとして、サービス等を利用している。もしサービスへの満足度が十分でないなら、そこには利用者の自立した生活を阻害する何らかの要因が潜んでいるかもしれない。したがって、計画相談支援における利用者のサービスに対する満足度は、日頃の生活状況、生活上の不安や不自由さや危険を知る手がかり、病状の悪化等の因子を発見し、先回りしてトラブルを回避する機能もある。本研究の2019年度研究結果におけるインタビューでは、随時モニタリングの状況として「利用者から連絡が来るときは絶対状態の悪いとき、それに合わせるのがベース」との語りがあった [2]。

植戸は、地域で生活する知的障害者の相談事例にみられる生活課題には、①本人の要因、②家族関係の問題、③家庭外の人間関係、④危機的状況を挙げており [3]、いずれも利用者の個別の対応が必要な要因である。利用者の生活は、サービスの利用により支えられているところは少なくない。相談支援専門員がサービス利用の満足度に着目し、生活課題とのミスマッチや、新たなニーズの出現等を機敏に察知し、機動的かつ柔軟に対応できる環境が保障されることで、同時に利用者のアドボカシーの機能も必要に応じて発動できる可能性も高まる。

③ 相談支援専門員に求められる調整力

もし、利用者のサービス利用に関する満足度が低い場合や、不安を持っている場合には、利用者と関係者の間にたって、利用者が感じる不満や不安を具体化したうえで、サービス事業所が提供するサービスとの調整を行う。横山は、計画相談支援の実施に向け、障害者の自立した生活の実現には、ケアマネジメント技術や関係機関との連絡調整の力等に課題があることを指摘している [3]。つまり利用者が不満を求める際には、その出口に向かために相談支援専門員の連絡調整力を期待していることも含まれる。つまり計画相談支援におけるモニタリングでは、相談支援専門員は、連絡調整の機能を十分に発揮することが問われている。

(2) 連携先が求めるモニタリング

① サービス利用時の状況確認：

報酬改定以降、相談支援専門員が「サービス提供時にモニタリングを実施したことがあるか」について、「ある」は約6割を超え、その所要時間は60分以下が75.1%であった。サービス利用時のサービス提供の状況、利用者がそれを受けている状況や表情を現に確認し得ることのできる情報は、ただ聴いて知ることとは一線を画す。利用者や事業所の担当者から語られる情報は一層多く、同時に状況を共有するために、鮮明に理解できる。それを相談支援専門員の目を通じて客観的かつ中立的にその観察することができる。

また具体的なサービス提供の状況を知り、利用者の努力やサービス事業所の工夫等を理解することで、見ないときよりも、両者の深い相談に応じることも可能になる。

調査結果においても、改定における影響の上位に「相談支援専門員がサービス事業所に問い合わせる機会が増えた」があった。この結果は、相談支援専門員自身から発信することもあれば、サービス事業所からの求めに応じる場合も想定される。本研究の2019年度研究において、相談支援専門員は、「事業者からの提案が増えたため、事業所や利用者宅の訪問をする。その状況を見て判断し、担当者会議も招集している。」と語り [2]、児童発達支援管理責任者は「（相談支援専門員が）モニタリングとかに頻繁に来てくれるってことは、興味をメンバーに対して、支援をするっていう意識が高いというか。そういう方には、こっちも何か、ちょっとの変化でもお伝えしないといけないなってやっぱり思います。」と語っていた [2]。

吉澤は、サービス等利用計画を作成することは、「つなぐ支援」、個別支援計画を作成するサービス管理責任者との支援チームは「深める支援」としている {吉澤} [4]連携実践。つまり、サービス事業所と実際に会い、利用者がサービス利用する状況も見るモニタリングは、繋いだ支援をサービス管理責任者とともに、一層「深める支援」を共同するプロセスといえる。

上記から、連携先からの要請に応えることに意義がある、とするならそれはモニタリングであるか、会議であるかといった外形上のことはさして問題ではない。相談支援専門員をはじめ関係者が、そのときに置かれた状況下において、実施可能な合理的方法をとることが肝要であり、そのような制度上の環境整備が求められる。

他方、もしモニタリングの趣旨の理解不足や、感染症の拡大に乗じた不十分なモニタリングとして、相談支援専門員からサービス事業所に対し、安易にモニタリングの実質的な代行を求めるようなサービス事業所に対する問い合わせがあるとするなら、それは相談支援専門員が行うモニタリングの機能とその責任について、あらためて適切に理解するための学習の機会を設ける必要がある。

② 児童の発達と成長を確認し、機を活かしたモニタリング実施の必要性：年齢階級別にみた報酬改定の影響では、10代、20代の若年層に影響がみられた。例えば「利用者の成長が見えるようになった」等である。丁寧なモニタリング実施は、特に若年層には効果がありそうだと見える。本研究の2019年度報告書において児童発達支援管理責任者の語りから、[児童のライフステージの移行期（卒業等）に応じた柔軟なモニタリング期間の改定]の必要性が示唆されている [2]。

本研究結果では、障害児支援利用計画の件数をみると、一事業所あたり契約者数の平均は、2018年（34.4人）から2019年（37.9人）へと増加していた。相談件数の増加に加え、将来を見据え、その人の持つ可能性を伸ばしていくことのできるような関わりは、利用者の将来と家族の生活にも影響する。

上記から、特に児童や若年層のモニタリングの効果に着目したモニタリング実施環境や、関係機関との連携をサポートする施策の必要性が示唆された。

(3) 相談支援専門員が必要性を感じるモニタリング

① 基本は自宅でのモニタリング：

相談支援専門員が行った直近のモニタリングでは、自宅訪問が最も多く、片道の移動時間は30分未満(82.3%)、所要時間は1時間未満(87.2%)であった。誰しも生活の基盤は、今暮らしている自宅にあり、自宅を訪問することで利用者から語られることがら以外の暮らしぶりを知り、そこに身を置くことで五感も使って感じながら、利用者の生活状況を理解することができる。ともすれば自宅は、日常で当たり前の環境であるがゆえに、そこに住む本人には気づきにくい問題が存在していることもある。本研究の2019の相談支援専門員の語りには、「6月に1回では季節の変化を捉えられない。夏は夏用の生活があって、最近の夏は暑い。エアコンを使ってるのか扇風機なのかとか。特に障害特性で感覚のレベルによって確認しなければならない。」があった。障害によっては、暑さや寒さを適切に感じられず、熱中症等に至るおそれもある。だからこそ第三者であり、専門職である相談支援専門員による評価が有効である。ゆえに8割を超える相談支援専門員は、自宅でのモニタリング訪問を実施していたものと推定される。

相談支援専門員が行うモニタリングの基本は自宅訪問である、とするなら、その実施比率8割は決して高いとはいえない。介護保険制度と単純に比較できるものではないが、介護支援専門員はすべての利用者につき、少なくとも月1回以上の居宅への訪問が省令第38号第13条に義務付けられている。

これらから、相談支援専門員自らが利用者の自宅を訪問する、基本的モニタリングの実施については、定期的に確保される必要がある。

(4) 計画相談支援に対する行政や関係者の理解の促進：

①行政や関係者の理解の促進：

本研究では報酬改定におけるモニタリングの実態を明らかにしたが、それを通じ計画相談支援における相談支援専門員の活動や業務実態、連携先との関連が浮き彫りになってきた。しかし、あくまでケアマネジメント・プロセスのうち、モニタリングに焦点をあてたものであり、その業務の全体はこの研究から知ることはできない。計画相談支援は、サービス等を利用する利用者にとっての重要な相談機能であり、利用者が望む生活の基盤を支えるものである。であるならば、相談支援専門員の行う日々の活動の目的と状況、連携上の課題等を市町村の関係部署、サービス事業所や関係機関と共有することは、結果として利用者を支える関係者の構造的な問題解決につながる可能性がある。

今後、相談支援専門員が地域において、積極的に自らの活動について発信する場の発展と、機会の一層の確保が必要である。

(5) 継続的な研究の必要性

①計画相談支援におけるモニタリング実施の効果検証に関する指標の開発

[指標の項目]：

研究1. 設問6は、報酬改定に伴うモニタリング実施の効果について確認する設問として、合計28項目から構成される。これらの項目は、2019年度の質的研究から構造化して作成されたものであり、これら選択肢の項目そのものが、モニタリングの効果測定の物差しとして活用できる可能性がある。この設問項目

は、2年にわたる研究の成果物の一つととらえることもできる。

② 計画相談支援におけるモニタリング実施の効果検証に関する指標の開発

〔個々の利用者に応じた頻度の適切さの判断基準〕

モニタリング実施に関する手間やコストを除外して考えれば、頻度は高い方がコミュニケーションの機会や利用者の生活状況や心身状態を確認する機会を確保することはできる。とはいえ、その頻度を無限に増やすことはできない。したがって、どの程度の効果がみえてきたときに良しとするのか、個々に見合った頻度を見極める基準も必要となる。

例えば、「そう思う」とした項目が最初は「顔を覚えてくれた」、「親近感を感じてもらえるようになった」が上がってくるが、さらに回数が増加していくと、かえって「モニタリング回数が増え、ストレスを感じるようになった」が選択されるなら、確かに過剰な領域に入った、と回答の傾向から判断することができるだろう

モニタリング実施の効果指標の項目の開発と、頻度の適切さを計る両方の機能を持つ評価指標の開発が必要であり、今後の継続研究が行われなければならない。

③ 収集したデータの偏りの可能性について：

本研究で行った質問紙票による全国調査は、系統抽出に基づき、調査対象を代表する母集団となるようサンプル抽出を行った。

また、研究の行程は、2021（令和3）年度障害福祉等報酬改定の議論に活かされるよう、2020年9月頃には厚生労働省

に速報を報告する必要性があり、その行程は2019年度より計画されていた。

しかし、はからずしも新型コロナの感染症拡大に伴い、調査の実施を計画していた2020年4月～5月は、全国で初めての緊急事態宣言が発令された期間と重複した。新型コロナ対応にまだ不慣れで混乱していた時期である。回収率は当初予定を上回ったものの、そうした厳しい状況のなかにあっても調査への回答に協力的な事業所のサンプルに偏った可能性は否定できないと考えた。

そこで回答者の属性を厚生労働省が行った全国調査と比較したが、大きな差は見られなかった。

D2. 研究2の考察

重点的にモニタリングを行う例に関する考察

① 【生活環境要因】【家庭環境要因】の発見機能の重要性

重点的にモニタリングを行う例では、7つの対象が挙げられた。うち【介護保険への移行】以外は、児童に関連する項目である。【家庭環境要因】を確認する視点には、家庭内養育の困難さ、障害受容の困難さ、家庭内の不和、放任、精神的な疲労感がある。2019年度研究では、「緊急度があるとか切迫した状況のときは、（サービスの）利用頻度も上げていく。週に1回やったやつを2回、3回だったり、すぐに駆けつけるみたいな動き方をする。そういう緊迫した状況のときは相談員と毎日連絡をとる。どんな子が多くなっていうと、不登校傾向の子。

[2]」との児童発達支援管理責任者の語りがあった。

また、委員会の委員は、児童期に家庭環境要因がある場合は、大人になってからの頻繁に手間暇をかけた支援が必要で、支援を強化しなければいけない人が多くなる、と述べている。児童の場合には、特に家庭環境要因を確認するために、家庭訪問等をして実際の状況をよく確認する必要がある。

また、委員の語りからは、【生活環境要因】は、いじめ、虐待、社会的経験が未熟、発達段階（課題）の未達成、意思が尊重されにくい等があげられるが、これまでに生活をしてきた中で、このような状況があった場合には、最終的にパーソナリティや社会生活不適応等に影響しやすい。また、児童においては現在、生活環境要因に該当する厳しい状況に置かれている場合には、大人になったときに、さまざまな影響が生じる可能性があるため、生活環境要因は注視する必要がある、ことについて言及された。

つまりこうした状況は児童のうちに早期にモニタリングにより発見して支援することが重要であるとともに、成人の場合にはパーソナリティの傾向や、社会生活不適応が、これまでの家庭環境要因や生活環境要因に重なったと推察される。その結果として現在の社会生活にも影響している可能性に配慮しながら支援する必要がある。こうした視点をもちながらモニタリングを行う技術が必要であるとともに、このようなケースは重点的にモニタリングを行う例に該当する。

② 他機関との連携に必要な視点

重点的にモニタリングを行う例では、介護保険制度への移行、学校/保育所との連携、2か所以上の福祉サービス利

用、サービス利用が安定しない場合等、相談支援専門員と他サービスや他機関との連携が必要とされる。特に学校や保育所との連携や介護保険制度への移行は、制度の枠を超えた連携である。ときに制度を超えた連携では、法の目的に基づく専門職の活動の意義も異なるため、専門職同士の軋轢も生じやすい。本研究2019年の結果では、【相談支援専門員とともに行っている工夫】は、『家庭や学校との連携について』、『柔軟なモニタリング期間の設定について』から生成されていた一方で、「学校側の連携意識の温度差」[2]についても語られており、障害福祉サービスからだけのアプローチだけでなく、他法に基づく連携先との調整が構造的に進むような制度の整備は欠かせない。同時に、モニタリング機能の発揮には、連携相手の立場を理解し慮る能力も必要である。このよう他法の関係機関・職種との連携に関する知識や技術の修得も並行して進められなければ効果は期待できない。つまり、必要なことは、構造的な制度の整備と、そこで働く多機関の職員に対する知識・技術習得の機会の確保である。

D3. 研究3の考察

実施すべきモニタリング項目に関する考察

(1) 意思決定支援の一環としてのモニタリング

① 意思決定の結果を反映したサービス等利用計画である必要性

2017（平成29）年に厚生労働省から「障害福祉サービスの利用障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン（以下「ガイドライン」という。）」が発出された。そこには、意思決定の結果を反映したサービス等利用計画の作成や支援結果等の記録について記述されている。

計画相談支援を行うに際し、いったん開始されたサービスの利用状況や利用者のサービス利用に関する満足度、生活状況の変化等に目を配り、必要な情報提供を行いながら、利用者の望む生活を支援する。その根幹となるのは、本人の希望である。小澤は、本人と相談支援専門員の支援関係に関し、意思決定支援の観点から、ケアマネジメント・プロセスにおける二者間のやりとりを記録することの必要性について言及している [5]。

意思決定支援に関して、モニタリングシート内に記入する欄を設け、意図的に確認するとともに、記録を重ねることが推奨される。これは、多くの対象者に共通する。ゆえに、標準的に行うモニタリング項目として位置付けるべきである。

② 個別支援計画との連動

ガイドラインには、個別支援計画との連動が示されている。利用者が相談支援専門員との相談のなかだけでなく、日常生活における支援場面の中で、関わる多

くの者から継続的に意思決定支援を受け、本人の意向にそったサービス利用に基づく生活が実現されるよう、意思決定支援に関する多職種や他機関とのモニタリング上の連携は欠かせない。子どもの児童発達支援や放課後デイサービスの個別支援計画には、本人支援と家族支援と地域支援という三つの柱で作成するよう指導されている。サービス等利用計画とモニタリングがこの三本柱で整理されれば、個別支援計画との連動、日頃の連携の促進へと繋がる。

③ 的確なニーズ把握

本人と家族の意向が異なることは珍しいことではない。その調整が意思決定のプロセスであり、異なる価値の調整として相談援助の専門性が要求される場所である。しかしこれについて現時点ではモニタリング項目に位置づけられ様式化されていない。本人の意思決定支援の一環としても重要な支援である。したがって、モニタリング項目に本人のニーズ、家族のニーズの異なりを捉える項目の新設が推奨される。

このような相談支援専門員の活動は、【面談による意図的介入】に該当し、その記録を残すことで、経過が明瞭になり、相談支援専門員が過去の支援を振り返りつつ、今後の支援について客観的に検討することができる。また相談支援専門員が意図的に行う面談の効果が社会に理解される一助となる。

④ 様式の活用に関する標準化と、実践知の共有

サービス等利用計画の様式ごとの位置づけを明確にすることで、活用のしやす

が進む。例えば、サービス等利用計画1及び2は、「サービス」、様式3.4は「サービス等」とする工夫である。

加えて、記載方法や内容を明瞭化することは、様式の活用方法の標準化を図る可能性がある。現在、自治体ごとに蓄積されたノウハウはあるものの、共有化が行えているとはいえない。それぞれの長所について共有することで実践知を共有化することが可能となり、このような場の設定は、自治体の地域性を生かした運営と、共有し標準化を進める部分の整理にも役立つ。

5. 結論

計画相談支援における相談支援専門員のモニタリングには、2018（平成30）年報酬改定の定期的、標準的に行うものと、利用者や連携先の求めに応じて重点的に行うモニタリングがあり、利用者や連携先は、それを求めている。計画相談支援におけるモニタリングの質の向上には、両方のモニタリングに対応することと、高度な連絡調整力の必要性が示唆された。

6. 総合考察

2019年度及び2020年度の2年間の研究を考察する。モニタリングに関する従来の課題には、その期間が6か月や1年に集中していたが、2016年（平成30）年報酬改定において、モニタリング期間を「実施標準期間」として頻度を高めたことが、きっかけとなり、相談支援専門員と利用者、サービス事業所等関係機関の間に変化を生じさせていた。2018（平成30）年報酬改定について大平は、相談支援の質向上と効率化に関する効果につい

て述べている [1]。本研究2019年度において相談支援専門員の語りに、「年に1回で1年分の話は聞けない。本人も直近1~2月の事しか覚えていない。」があり、2020年度、利用者情報票の結果から、改定の影響として有意な結果が得られたのは、「本人が相談支援専門員の顔を覚えてくれた」、「本人から親近感をもってもらえるようになった」という肯定的な回答であった。つまり、1年ぶりであっても利用者は相手が誰であったかの認識が必要なこともあれば、相談支援専門員を覚えていても親近感を抱く間柄にはなっていない。さらに、モニタリングするにも利用者自身が自分の生活の数か月前のことは覚えていない、というその状況自体が効率的ではない、ということだ。

つまり、2018（平成30）年報酬改定において、モニタリングが実施標準期間として頻度を高められたことによって、これまで行うことが難しかった利用者との関係性の構築や情報収集可能な環境等、相談支援の基盤が形成されたことをきっかけに、利用者からの相談、サービス事業所や他機関との相互の情報共有が増え、相談支援専門員はサービス事業所に頼りにされる存在になっていった。そのためモニタリング実施標準期間以外に対応する随時モニタリングは増えたが、それこそが利用者やサービス事業所等がモニタリングに求めるタイミングである、ということ、そしてその具体的な対象やタイミングが明らかになった。

本研究は、2018年（平成30年）報酬改定の翌年から、その次の報酬改定が施行される直前までの2年間に行われたものである。まさにモニタリング実施標準

期間が改定され、計画相談支援におけるモニタリング機能が変化し続ける様相を負ったような研究となった。計画相談支援におけるケアマネジメント・プロセスの一過程であるモニタリングであるが、2018（平成30）年報酬改定をきっかけに、相談支援専門員や関係者が内に込めていたものに息吹を吹き込み、開花するさまを感じられるものであった。

本研究を通じ、計画相談支援におけるモニタリングをめぐり以下のことが課題となった。

- ・本研究において整理した相談支援専門員がモニタリングにおいて共通して行うべき事項の共有化
- ・上記のうち、特に意思決定支援に関する記録の整理の共有化
- ・研究という観点から、2021（令和3）年報酬改定でより機動的かつ柔軟に幅広い関係機関とのモニタリングや連携が対応可能となったことに関する評価、
- ・計画相談支援におけるモニタリング実施の効果検証に関する指標となる項目の開発、併せて、それを用いた、個々の利用者に応じた頻度の適切さの判断基準頻度を計る評価の開発、等である。

結論.

計画相談支援における相談支援専門員のモニタリングには、2018（平成30）年報酬改定の実施頻度のたかまりをきっかけに、利用者や連携先の多職種や他機関からの求めに応じて行う、柔軟かつ機動的な対応である、重点的に行うモニタリング実践となっていた。また、そのような相談支援専門員の対応を利用者や連携先は、求めている。計画相談支援におけるモニタリングの質の向上にはモニタタ

リング実施標準期間による定期的なモニタリングと併せて、必要に応じて行う柔軟かつ機動的な対応の両方が求められていることが示唆された。相談支援専門員には、それに対応する高度な連絡調整力を備える必要性もある。

■研究1. 引用文献：

- [1]大平眞太郎, 計画相談支援・障害児相談支援の報酬改定と相談支援体制の整備について, 知的障害福祉研究（さぼーと）第65巻第9号, 2918, pp11-14
- [2]石山麗子他, 計画相談支援等におけるモニタリング実施標準期間の改定に伴う効果検証についての研究, 厚生労働科学研究費補助金研究成果報告書, 2019, pp17-20
- [3] 植戸貴子, 知的障害者の地域生活のための支援と仕組みづくり-障害者相談支援専門員等を対象とした聞き取り調査から-
- [4]横山順一. 障害者相談支援についての事例的考察. 社会福祉学部紀要, 山口県立大学第22巻. p103-112, 2017.
- [5]吉澤浩一, 「サービス等利用計画（計画相談支援）」と「個別支援計画障害福祉サービス」との有機的な連携実践, 精神保健福祉第46巻第2号. 2015, p100-102

■研究2. 引用文献

- [2]石山麗子他, 計画相談支援等におけるモニタリング実施標準期間の改定に伴う効果検証についての研究, 厚生労働科学研究費補助金研究成果報告書, 2019, pp17-20

■研究3. 引用文献

- [5]小澤温. 相談支援従事者研修のプログ

ラム開発と評価に関する研究. 厚生労働
科学研究費補助金研究成果報告書. 2017

F. 健康危険情報

本研究における健康危険情報はない.

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む.)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

謝辞.

本研究を進めるにあたり, お世話にな
った研究協力者, 共同研究者, 関係事務
ご担当者等, 皆さまに心より感謝し, 御
礼を申し上げます.

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出 版 地	出 版 年	ページ
なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
なし					